

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次）健康科学部 理学療法学科，作業療法学科

1. 補正申請書で示された専門職大学として養成する人材像は、実現可能性に疑義がある。ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえて、目標設定について審査意見【2】、【3】、【8】、【9】及び【10】の意見対応を踏まえ、改めて実現可能性のある教育課程を説明すること。（是正意見）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

2. 理学療法学科、作業療法学科ともに育成する人材像が一定程度説明されたが、下記の点を改めて明らかにすること。（是正意見）
 - （1）カリキュラム・ポリシーに理学療法分野・作業療法分野の諸課題を解決するとしているが、両分野の諸課題の具体例を明らかにすること。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
 - （2）理学療法学科と作業療法学科の独自性が曖昧になっているため、審査意見【1】を踏まえ両学科の違いを再度明らかにすること。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

3. カリキュラム・ポリシーが見直されたが、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの関係が不明確であり、ディプロマ・ポリシーを実現するための教育課程を明らかとすること、また以下の点を是正すること。（是正意見）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
 - （1）職業現場において外国人患者を受け入れる姿勢をもち患者の訴えが理解できるレベルの英語力を備えるというポリシーから、4つの科目を配置したと説明されているが、外国人患者の訴えが理解できるレベルの英語力は相当程度高いと考えられ、配置された科目のみでこれらが達成できるか疑義がある。審査意見【8】、【9】の対応も含め、必要に応じてカリキュラム・ポリシーを改めるか、ポリシーを達成するための科目を追加すること。
 - （2）多職種との連携について1年次に「多職種連携論」にて保健・医療・福祉にかかわる職種の専門性と連携を学ぶことは一定の説明がなされているが、医療分野以外の一般企業との連携が医療分野における多職種連携とどのようにつながるのか不明瞭なため、考え方を明らかとすること。

4. 一般入学試験では学力試験が課されるが、アドミッション・オフィス入試、自己推薦入学試験、指定校推薦入学試験、推薦入学試験の4つの試験区分ではどのように学生の学力をはかり質を担保するのか、明らかとすること。（是正意見）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44

5. 社会人は学則第34条第3項により社会人（実務経験）として単位認定を行うとしており、実務経験による単位認定は、病院並びに施設等における実務経験が本学の理学療法・作業療法実習に相当すると判定できる場合には、臨地実務実習の当該単位とみなして認定すると説明されているが、実務経験として単位認定がされる具体例を挙げて明らかとすること。その際、既に理学療法士、作業療法士の資格を有している社会人を想定しているのであれば、その旨を記載するとともに、仮にそうした学生を編入生として受け入れる場合、学生の臨地実務実習はどのような扱いとなるのか明らかにすること。（是正意見）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62

6. 一定程度の定員充足の見通しが示されたが、定員充足の根拠の一つとしている客観的データのクロス集計方法に疑義がある。例えば、本学のオープンキャンパス参加者を対象としたアンケート調査の分析は、4年制大学への進学希望学生と、短期大学や専門学校への進学希望学生を区分せず、専門職大学への進学希望者と想定した分析がされており、不適切であるため改めること。

(改善意見) 65

7. 基礎科目の内容について、以下の点を是正すること。(是正意見) 76

(1) 新たに示された基盤ゼミⅠ・Ⅱの内容は、各講義回で学ぶ内容が抽象的であり大学教育として適切な内容か判断できないため、具体的な学習内容を記載すること。例えば、議論のテーマの一例として、延命が図られにくい人工呼吸器の装着の是非などが考えられるが、扱うテーマの具体例を挙げ、大学教育として適切な内容であることを明らかとすること。また、ゼミメンバーを2グループに分け、グループごとに課題を煮詰める作業を行うとされているが、運営方法についても具体的に説明すること。

(2) 基礎科目に配置された基礎物理や基礎生物は既修者が相当程度いるため必修科目から選択科目に変更したと説明されているが、教育課程の特色で、基礎物理、基礎生物に関する知識を修得することで、専門職業人として、生涯にわたり自らの基盤的資質を高めていくための素養を涵養すると説明していることを踏まえると、リハビリテーション人材として両科目の履修は重要であるため、既修者でない学生が両科目を修得する仕組みを明らかとすること。

8. メディカル英語は必修科目から選択科目に改められているが、養成する人材像とディプロマ・ポリシーを踏まえると選択ではなく必修にすべき科目であるため、改めること。(是正意見) 83

9. ディプロマ・ポリシーに対応する教育内容として、以下の点を是正すること。(是正意見)

(1) ディプロマ・ポリシーで、「医療現場に必要な国際的視野を備える」としていることを踏まえ、「職業現場で外国人患者を受け入れる姿勢をもち患者の訴えが理解できるレベルの英語力を備える」と明確化されたが、開講されている英語科目を確認すると、コミュニケーション英語とメディカル英語のみである。外国人患者の訴えが理解できるレベルの英語力は相当程度高いと考えられるが、患者とコミュニケーションがとれる英語力の到達試験はどの程度の水準を求めるのかが不明である。例えば、医療面接ができるのか、痛みについて多様な英語の言葉で理解できるのか、TOEFL等のスコアが何点以上なのか、具体例を挙げて明らかとすること。

(2) 研究スキルを身に付けさせる科目について一定の説明がなされたが、研究倫理に関する内容が不明確となっているため、明らかとするか、必要に応じて追加すること。 88

10. 理学療法学科、作業療法学科にそれぞれ異なる7科目の展開科目が配置されたが、養成する人材像と、これらの科目が配置された関係性が不明瞭となっている。特に、地域活性化に貢献できる展開力を掲げているが、養成する人材像との関係も不明確であり、意見対応として記載された内容が科目を羅列しているように見えるため再度説明すること。(是正意見)

見) 91

11. 臨地実務実習の以下の点を是正すること。(是正意見)

(1) 臨地実務実習前に、能力到達度確認としてOSCE(客観的臨床能力試験)を行うことが説明されたが、臨地実務実習の各シラバスでは実習の前後でOSCEを行うと思われる記載がされているが、実現可能性に疑義があるため、OSCEの実施方法や時期について具体的に明らかにすること。 104

(2) 臨地実務実習はOSCEに合格しなければ参加できないことを踏まえると、履修登録後にOSCEに不合格だった者は科目を履修することができないため、臨地実務実習の履修条件にOSCEの合格を含めること。

(3) 臨地実務実習指導要項に記載されている臨地実務実習の成績評価の割合が、シラバス上の成績評価の割合と不一致となっているため改めること。また、臨地実務実習指導要項で成績評価体制及び単位認定方法として実技試験、筆記試験、実習実施報告会等が挙げられているが、その具体的な評価内容と基準を明らかにすること。

12. 専任教員数について、専門職大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。

(是正意見) 115

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（是正意見）健康科学部 理学療法学科，作業療法学科

1. 補正申請書で示された専門職大学として養成する人材像は、実現可能性に疑義がある。ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえて、目標設定について審査意見【2】、【3】、【8】、【9】及び【10】の意見対応を踏まえ、改めて実現可能性のある教育課程を説明すること。

（対応）是正意見1において、専門職大学として養成する人材像は、実現可能性に疑義があるため、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえて人材像の実現可能性について説明するようご指摘をいただいた。さらに先の面接審査において、本学が提示したカリキュラム・ポリシーは、カリキュラム・ポリシーとして不適切であるとのことご指摘をいただいたことを受けて、カリキュラム・ポリシーを全面的に改めた。また、「外国人患者の訴えが理解できるレベルの英語力」の問題については、審査意見【3】、【8】、【9】および面接審査で多くのご指摘を受けたため、これに関するディプロマ・ポリシーも一部変更した。このような経緯を踏まえて、最初に、一部変更したディプロマ・ポリシーと、新しく策定したカリキュラム・ポリシーを提示します。

理学療法学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

理学療法学科が育成する人材像を踏まえて以下のディプロマ・ポリシーを策定する。

ディプロマ・ポリシー

- 1) 高い倫理観とコミュニケーション力を身につけ、自ら学び続ける姿勢を備える。
- 2) 職業現場で外国人患者を受け入れる基礎的な姿勢を備える。
- 3) 理学療法の最新の知識と専門技能を身につけ、高い応用力を備える。
- 4) 対象者の思いを受け止め共有して、身体機能の維持・改善および予防に寄与する力を高め健康寿命の延伸のために尽力し、地域のニーズに多職種と協働して貢献する力を備える。
- 5) 理学療法の課題について分析し、論理的に探究する力を備える。

カリキュラム・ポリシー

理学療法学科では、本学が育成する人材像および人材像を踏まえたディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成し実施する。

教育課程の編成

- ①大学での学修の基礎となる学力とスキルを身につけ、主体的に学ぶ姿勢を涵養するため、「初年次教育」を配置する。
- ②高い倫理観とコミュニケーション力や基礎的な知識を身につけるため、「基礎科目」を編成する。
- ③高度で専門的な理学療法の知識と技能を身につけるために、「専門基礎科目」と「専門科目」からなる「職業専門科目」を編成する。
- ④臨床現場での実践的な職業教育として、「臨地実務実習」を学年進行に沿って段階的に編成する。

- ⑤外国人患者の受け入れに必要な基礎的な姿勢を身につけるために、橋渡しの教養科目と英語科目を編成する。
- ⑥健康寿命の延伸等地域のニーズに対応できる幅広い視野を涵養するために「展開科目」を編成する。
- ⑦教育成果の集大成として「総合科目」を配置し、卒業論文の執筆のために必要な科目を体系的に編成する。
- ⑧教育課程連携協議会を通じて、地域のニーズに沿った授業であるために絶えず教育課程の見直しを行う。

教育内容・方法

- ⑨発信力・コミュニケーション力・プレゼンテーション力を高めるために、少人数編成によるアクティブラーニングを活用する。
- ⑩科目に応じて、講義やゼミ、あるいはそれらの組み合わせ等により、効果的な授業を実施する。
- ⑪完成度の高い臨床実務実習にするために、理論系科目と臨床実務実習とを連動させた教育を実施する。
- ⑫最新の理学療法専門知識と高度な実践技能を身につけるため独自の「専門技能錬成プログラム」を実施する。
- ⑬地域のニーズに応えることができる幅広い視野をもつ理学療法士になるために、独自の「展開力育成プログラム」を実施する。

学修成果の評価

全ての授業において、成績判定基準に則り厳正に評価する。

- ⑭科目授業では、筆記試験、レポート、小テスト等で評価する。
- ⑮評価は、S、A、B、C、D、Eの6段階評価で行い、C判定以上を合格とする。
- ⑯臨地実務実習授業では、評価は、S、A、B、C、D、Eの6段階評価で行い、C判定以上を合格とする。
- ⑰卒業論文は「合」「否」で判定され、目的・方法・結果・考察・引用論文が適切に配置され、研究テーマに沿って論理的な展開がなされているものを「合」とする。

作業療法学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

作業療法学科が育成する人材像を踏まえて以下のディプロマ・ポリシーを策定する。

ディプロマ・ポリシー

- 1) 高い倫理観とコミュニケーション力を身につけ、自ら学び続ける姿勢を備える。
- 2) 職業現場で外国人患者を受け入れる基礎的な姿勢を備える。
- 3) 作業療法の最新の知識と専門技能を身につけ、高い応用力を備える。

- 4) 対象者の思いを受け止め共有して、幅広い世代が住み慣れたところでいきいきと生活するために必要なサービスを提供し、多職種と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する力を備える。
- 5) 作業療法の課題について分析し、論理的に探究する力を備える。

カリキュラム・ポリシー

作業療法学科では、本学が育成する人材像および人材像を踏まえたディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成し実施する。

教育課程の編成

- ①大学での学修の基礎となる学力とスキルを身につけ、主体的に学ぶ姿勢を涵養するため、「初年次教育」を配置する。
- ②高い倫理観とコミュニケーション力や基礎的な知識を身につけるため、「基礎科目」を編成する。
- ③高度で専門的な作業療法の知識と技能を身につけるために、「専門基礎科目」と「専門科目」からなる「職業専門科目」を編成する。
- ④臨床現場での実践的な職業教育として、「臨地実務実習」を学年進行に沿って段階的に編成する。
- ⑤外国人患者の受け入れに必要な基礎的な姿勢を身につけるために、橋渡しの教養科目と英語科目を編成する。
- ⑥地域コミュニティづくりなどの地域のニーズに対応できる幅広い視野を涵養するために「展開科目」を編成する。
- ⑦教育成果の集大成として「総合科目」を配置し、卒業論文の執筆のために必要な科目を体系的に編成する。
- ⑧教育課程連携協議会を通じて、地域のニーズに沿った授業であるために絶えず教育課程の見直しを行う。

教育内容・方法

- ⑨発信力・コミュニケーション力・プレゼンテーション力を高めるために、少人数編成によるアクティブラーニングを取り入れる。
- ⑩科目に応じて、講義やゼミ、あるいはそれらの組み合わせ等により、効果的な授業を実施する。
- ⑪完成度の高い臨地実務実習にするために、理論系科目と臨床実務実習とを連動させた教育を実施する。
- ⑫最新の理学療法専門知識と高度な実践技能を身につけるため独自の「専門技能錬成プログラム」を実施する。
- ⑬地域のニーズに応えることができる幅広い視野をもつ作業療法士になるために、独自の「展開力育成プログラム」を実施する。

学修成果の評価

全ての授業において、成績判定基準に則り厳正に評価する。

- ⑭科目授業では、筆記試験、レポート、小テスト等で評価する。
- ⑮評価は、S、A、B、C、D、Eの6段階評価で行い、C判定以上を合格とする。
- ⑯臨地実務実習授業では、評価は、S、A、B、C、D、Eの6段階評価で行い、C判定以上を合格とする。
- ⑰卒業論文は「合」「否」で判定され、目的・方法・結果・考察・引用論文が適切に配置され、研究テーマに沿って論理的な展開がなされているものを「合」とする。

(2) 専門職大学として養成する人材像の実現可能性について疑義があり、その対応には、審査意見【2】、【3】、【8】、【9】及び【10】の意見対応を踏まえ、改めて実現可能性のある教育課程を説明するようにとのご指摘をいただいたので、改めて説明いたします。

1) 今回、審査意見【3】【8】【9】で、「外国人患者の訴えが理解できるレベルの英語力」の修得の実現可能性への疑義をいただいたことから、まずこの疑義に対して、本学が意図した英語力、その達成に向けての科目配置、科目から修得する能力および目標の実現可能性について以下に説明いたします。

「外国人患者の訴えが理解できるレベルの英語力」という表現について、本学がディプロマ・ポリシー2) で意図している内容と求める英語力のレベルについては以下のとおりである。

ディプロマ・ポリシー2) で、外国人患者の受け入れに対する本学の意図は、岡山市で増え続ける在留外国人（岡山県の在留外国人数は、2017年時点で25,994人であり、最近ではアジア圏を中心に1年に約1,700人超のペースで増加を続けている。そしてこの在留外国人のうち47.1%は岡山市に在住している）が、病気や怪我でリハビリテーションを必要とする状況になった時に、職業現場で、外国人患者の受け入れに違和感や抵抗感をもったり躊躇したりすることのないように基礎的な知識と基礎的英語力を身につけておくことであり、必ずしも相当程度高い英語力を意図したものではなかった。この意図を明確にするため、ディプロマ・ポリシー2) については、「職業現場で外国人患者を受け入れる姿勢をもち患者の訴えが理解できるレベルの英語力を備える。」としていたものを、「職業現場で、外国人患者を受け入れることができる基礎的な姿勢を備える。」に改めた。

この基礎的な姿勢を備えるという目標の実現のために以下のような科目を配置した。まず、外国人と接する時に必要な基礎的な知識として、日本人として改めて日本の文化や歴史を知ることが肝要であることから「日本の歴史と文化」を、同時に外国の政治や経済の動きを知ることにも必要であることから「国際政治経済論」を配置した。この2科目は、基礎的な姿勢の大切な要素と位置づけられ、また後述の英語力の習得のための科目との橋渡しの役割を担うものである。これらの科目では、いずれも英語教材を使用することにより、英語により日本の文化や歴史を理解する力を養い、英語により外国の政治や経済の動きを知ることによって外国への親近感をもたせることができる。このような基礎的な知識と合わせて、基礎的英語力については、入学前にリメディアル教育（教育課程外）を行い、基礎的英語力の確認と補完を行う。そして基礎的英語力を鍛錬するために「コミュニケーション英語」と「メディカル英語」を配置した。これらの科目では、日本語

を交えて主に英語により授業が行われる。前者では、自主的に英語によるコミュニケーションを行う姿勢を育み、英語を話すことに対する抵抗感や躊躇する気持ちを薄め、外国人への基礎的な対応ができるようになることを目指す。「メディカル英語」（【8】でご指摘をいただいた選択科目になっている「メディカル英語」については、必修科目に変更する。）では、実際に患者を想定して初診から治療に至るまでの基礎的な対応、訓練時に必要なコミュニケーション力等、臨床現場に関連した様々な内容について実践的な授業を主に英語により行い、リハビリの臨床現場に必要な医療英語の理解力と英会話力を身につける。このような科目配置と、リメディアル教育の導入、「メディカル英語」の必修化等により、外国人患者に対し、違和感や抵抗感をもったり躊躇したりすることなく受け入れる姿勢を身につけるための基礎的な知識と基礎的英語力を備える、という本学の意図を実現することができる。なお英語力の評価については、この目的で配置する4科目の単位を取得できるレベルを考えているが、中でも臨床現場を想定して行われる「メディカル英語」のシラバスの到達目標に達することで対応可能と考えている。

2) 人材育成の実現に疑義があるところのご指摘を、審査意見【10】において、両学科の展開科目に新しく設置した7科目と人材育成像との関係が不明確であるところのご指摘をいただいたことに基づき、審査意見【10】への対応と一部に【2】への対応も踏まえて、以下に説明いたします。

理学療法学科が育成する人材像は、「最新の理学療法専門知識と高度な実践技能を保持し、自己研鑽を怠らず、対象者の思いを受け止め共有し、身体機能の維持・改善および予防に寄与する力を高め健康寿命の延伸のために尽力し、地域のニーズに対応する新しいサービス事業を展開し、地域の創生に多職種と協働して貢献する人材。」である。そして作業療法学科が育成する人材像は、「最新の作業療法専門知識と高度な実践技能を保持し、自己研鑽を怠らず、対象者の思いを受け止め、子供から高齢者に至る幅広い世代が住み慣れたところでいきいきと生活するために必要なサービスを提供し、地域の多様な主体と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する人材。」である。

いずれも理学療法士あるいは作業療法士として、まず各々の領域の最新の専門知識と高度な実践技能をもち、自己研鑽を怠らない姿勢をもつことを掲げ、それに加えて、様々な地域のニーズに対して、各々の学科の独自性を活かしたサービスが展開できる理学療法士あるいは作業療法士を育成することを主眼としている。即ち、【2】において示したように、理学療法学科の独自性は、身体機能の向上に寄与するサービスを展開することで地域に居住する人々の健康寿命の延伸に貢献し、さらにそれを通じて地域の活性化に寄与する視点をもった理学療法士を育成するところにあり、作業療法学科の独自性は、作業活動を活用した自立生活支援に寄与するサービスを展開することで障害者等の地域生活移行の促進に貢献し、さらに健常者・障害者を問わず幅広い世代の人々が住み慣れた地域で共生するために、生活に密着した地域コミュニティづくりの視点を持った作業療法士を養成するところにある。

この両学科の独自性を踏まえた人材像の実現には、展開科目が大きな役割を担うことになる。そこで、各々の学科の独自性を踏まえて、各々の学科に独自の展開科目としてそれぞれ7科目を配置した。これらの7科目を配置した理由と7科目から修得される能力および人材像の実現可能

性について学科別に以下のとおり説明する。

理学療法学科

地域のニーズに対して、本学科で育成する理学療法士の役割として、まず健康寿命の延伸を挙げた。この健康寿命の延伸についての知識を修得するための教育内容は多岐にわたるが、中でも、健康な体の維持のための食生活、日常生活やスポーツの中での身体運動、生体からの様々な情報を知るための三つの要素が重要であると考え、この三つの要素を修得するために、「食生活マネジメント論」「スポーツ科学」「生体情報科学」を配置した。

「食生活マネジメント論」では、健康における食生活の重要性と食生活における老化予防、生活習慣病予防についての見識を深め、在宅生活を支える食生活の重要性の理解も深める。「スポーツ科学」では、身体運動を科学するためのアプローチの仕方を学び、対象者の課題やニーズやライフステージに適したサービスのあり方を探求する。「生体情報科学」では、医療・ヘルスケア分野、健診データ、スポーツ分野、在宅・家庭などのウェアラブル端末やIoT等を活用した健康に関する情報を収集する基本的な技能について学び、日常生活（生活習慣）に寄与できる効果的な医療・ヘルスケア・健康サービスを提供するために情報を活用する力を修得する。

これらの科目から、健康寿命の延伸の基本となる健全な食生活や身体運動のあり方、日常生活（生活習慣）に寄与できる効果的な生体情報の収集方法を学修することによって、対象者の身体機能の維持・改善と予防に寄与し、健康寿命の延伸およびそのためのサービスを提供する上で必須の能力を修得することができる。

そして、健康寿命の延伸の主要素に関する知識を修得した後には、これらを地域のニーズに合わせて、多職種と協働して新たなサービスへと発展させる能力を身につけることが必要である。そのためには、多職種と協働して組織をマネジメントでき、組織の人材を有効活用し、さらに組織の運営の実際を知り、非営利組織を含めて地域のニーズに沿った起業活動のノウハウを知ることが必要である。このような考え方から「マネジメント論」「コーチング論」「起業入門」「NPO論」を配置した。

「マネジメント論」では、組織に所属する個人や集団、外部環境、組織の動的プロセスを総合的にマネジメントするために必要な基礎的知識と技能を修得し、対象者や地域のニーズを新たなサービスの形にして目標を達成するための能力を修得する。「コーチング論」では、人の能力や可能性を伸ばし、他者との協働や人的資源を最大限に活用する考え方とスキルを修得する。「起業入門」では、自らが起業することを想定して思考することを通じて起業に関わる基礎的知識を修得し、地域で生活する人々に真に必要なサービスモデルを創造し構築する方法を身につける。

「NPO論」では、非営利組織であるNPOの理念を知り組織の運営のあり方を学び、市民や行政や企業等多職種と協働し、社会や地域課題の解決に向けたサービス提供の選択肢の一つとしてNPOを活用する能力を育成する。

これらの科目から、他者との協力や人的資源を有効に活用する方法やスキル、起業にかかわる基本的なノウハウ、対象者や地域のニーズに対応する新しいサービスの創造等について学び、新しいサービス事業を展開し、多職種と協働して地域のニーズに対応できる能力を修得することができる。

このように、理学療法学科に配置した7科目は、人材像に掲げた「身体機能の維持・改善および予防に寄与する力を高め健康寿命の延伸のために尽力し、地域のニーズに対応する新しいサービス事業を展開し、地域の創生に多職種と協働して貢献する」という目的に合致した科目配置であり、これらを学修しそれぞれの能力を身につけることにより、掲げた人材像の実現は可能と考
える。

作業療法学科

本学で育成する作業療法士が地域のニーズに対して担う役割として、地域を理解し地域生活を支援するためのサービスを展開し地域コミュニティづくりにつなげていく能力を身につける必要がある。そのためには、社会の基本構成単位である家族の理解、地域および地域生活のあり方、そして地域コミュニティへの関わり方の三つの要素を理解することが欠かせない。それらを学修するために、「家族関係論」「地域社会論」「コミュニティ形成論」を配置した。

「家族関係論」では、社会を構成する基本単位としての家族関係を中心とした人間相互の関わり合いの成り立ちやその意義を読み解き、家族と家庭生活に生じる様々な問題を分析的にとらえる基本的な能力を修得する。「地域社会論」では、地域づくりの基本を学び、地域社会の歴史および地域自治のあり方、住民の生活原理について理解を深め、地域社会の課題と可能性を分析する能力を修得し、地域活性化に向けての新規事業の創造の重要性を学ぶ。

「コミュニティ形成論」では、地域コミュニティの機能形成に焦点をあて、コミュニティ形成の基本知識を修得し、地域のコミュニティを活性化させ対象者と地域社会を結びつけるために必要な知識を修得する。

これらの科目から、社会を構成する最小単位である家族についてその課題を分析し解決する能力、地域づくりや地域の活性化に向けた新しいサービスの創造や地域コミュニティを活性化させるコーディネート力やマネジメント力を学修し、地域生活を支援する能力を修得することができ
る。

そして、修得した家族や地域に関する理解や地域生活を支える能力を基にして、次は子供から高齢者に至る幅広い世代がそれぞれのライフサイクルに合わせて、いきいきと生活できる環境づくりに発展させていく能力の修得が必要になる。具体的には、対象者のライフサイクルに沿った生活課題を知り、子供から大人までの各世代の健康課題を知り、対象者を取り巻く環境因子について知ることが肝要であり、それらを知った上で対象者や地域への新たなサービスを提供していくことになる。またライフステージを考える時に、障害をもつ子供への教育環境づくりは欠かせない課題である。これらを学ぶために、「ライフサイクル論」「地域生活と健康」「人間工学」「特別支援教育」を配置した。

「ライフサイクル論」では、ライフサイクルのなかで時系列的に生じる様々な生活課題の全体像を系統的に把握し、最適な支援を行うために必須の知見を修得する。「地域生活と健康」では、様々な対象者やライフステージに合わせた健康の維持・増進および健康的なライフスタイルの形成のために必要な基本的知識と技能を身につけ、健やかな地域コミュニティの構築に貢献できる力を修得する。「人間工学」では、人と人を取り囲む様々なものや環境との整合性を図り、地域コミュニティで多様な主体が快適に生活するために必要な工学的視点を学ぶ。教育現場で期待され

ている作業療法士の役割を広く知り、特別なニーズを持つ子どもを支援する方法について学修し、学校内外の機関および専門家と連携して、障害を持つ子供が地域で共生できるようなコミュニティを形成していくための基礎的な力を修得するために「特別支援教育」を配置した。

これらの科目から、弱体化したコミュニティの機能を再構築し、個人と家族と子供を含め障害を持つ人が共にいきいきと活躍できる地域環境づくりに、作業療法士として積極的に参加する上で必須のライフステージに適した新たなサービスを提供する知識と能力が修得できる。

このように、作業療法学科に独自に配置した7科目は、人材像に掲げた「子供から高齢者に至る幅広い世代が住み慣れたところでいきいきと生活するために必要なサービスを提供し、地域の多様な主体と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する人材」を育成するという目的に合致した科目配置であり、これらを学修しそれぞれの能力を身につけることにより掲げた人材像の実現は可能であると考える。

今回ご指摘をいただいた専門職大学として養成する人材像の実現可能性に対する疑義について、その疑義の主たる対象となった「外国人患者の受け入れにおける英語力の問題」および「各学科で設置した展開科目の7科目と人材像との関係」について、科目を配置した理由、配置した科目の学習内容、科目により修得される能力および修得した能力と人材像の実現可能性について、前者では、審査意見【3】、【8】、【9】を踏まえて、後者では、審査意見【2】、【10】を踏まえて、改めて実現可能性のある教育課程を配置していることを説明した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (P6)、ディプロマ・ポリシー

新	旧
<p>① 設置の趣旨及び必要性 (中略)</p> <p>3) 本学の人材育成教育 各学科のディプロマポリシーは、次の通りである。 (理学療法学科)</p> <p>1) 高い倫理観とコミュニケーション力を身につけ、自ら学び続ける姿勢を備える。</p> <p>2) <u>職業現場で外国人患者を受け入れる基礎的な姿勢を備える。</u></p> <p>3) 理学療法の最新の知識と専門技能を身につけ、高い応用力を備える。</p> <p>4) 対象者の思いを受け止め共有して、身体機能の維持・改善および予防に寄与する力を高め健康寿命の延伸のために尽力し、地域のニーズに多職種と協働して貢献する力を備える。</p>	<p>① 設置の趣旨及び必要性 (中略)</p> <p>3) 本学の人材育成教育 各学科のディプロマポリシーは、次の通りである。 (理学療法学科)</p> <p>1) 高い倫理観とコミュニケーション力を身につけ、自ら学び続ける姿勢を備える。</p> <p>2) <u>職業現場で外国人患者を受け入れる姿勢をもち患者の訴えが理解できるレベルの英語力を備える。</u></p> <p>3) 理学療法の最新の知識と専門技能を身につけ、高い応用力を備える。</p> <p>4) 対象者の思いを受け止め共有して、身体機能の維持・改善および予防に寄与する力を高め健康寿命の延伸のために尽力し、地域のニ</p>

<p>5) 理学療法の課題について分析し、論理的に探求する力を備える。</p> <p>(作業療法学科)</p> <p>1) 高い倫理観とコミュニケーション力を身につけ、自ら学び続ける姿勢を備える。</p> <p><u>2) 職業現場で外国人患者を受け入れる基礎的な姿勢を備える。</u></p> <p>3) 作業療法の最新の知識と専門技能を身につけ、高い応用力を備える。</p> <p>4) 対象者の思いを受け止め共有して、幅広い世代が住み慣れたところでいきいきと生活するために必要なサービスを提供し、多職種と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する力を備える。</p> <p>5) 作業療法の課題について分析し、論理的に探究する力を備える。</p>	<p>ーズに多職種と協働して貢献する力を備える。</p> <p>5) 理学療法の課題について分析し、論理的に探求する力を備える。</p> <p>(作業療法学科)</p> <p>1) 高い倫理観とコミュニケーション力を身につけ、自ら学び続ける姿勢を備える。</p> <p><u>2) 職業現場で外国人患者を受け入れる姿勢をもち患者の訴えが理解できるレベルの英語力を備える。</u></p> <p>3) 作業療法の最新の知識と専門技能を身につけ、高い応用力を備える。</p> <p>4) 対象者の思いを受け止め共有して、幅広い世代が住み慣れたところでいきいきと生活するために必要なサービスを提供し、多職種と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する力を備える。</p> <p>5) 作業療法の課題について分析し、論理的に探究する力を備える。</p>
---	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (P38)

新	旧
<p>3. 卒業要件</p> <p>(1) 卒業認定及び学位授与の方針(ディプロマポリシー)</p> <p>本学の人材育成目的に沿って設定した科目を履修し、所定の単位を取得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定し、学士(専門職)の学位を授与する。</p> <p>(理学療法学科)</p> <p>1) 高い倫理観とコミュニケーション力を身につけ、自ら学び続ける姿勢を備える。</p> <p><u>2) 職業現場で外国人患者を受け入れる基礎的な姿勢を備える。</u></p>	<p>3. 卒業要件</p> <p>(1) 卒業認定及び学位授与の方針(ディプロマポリシー)</p> <p>本学の人材育成目的に沿って設定した科目を履修し、所定の単位を取得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定し、学士(専門職)の学位を授与する。</p> <p>(理学療法学科)</p> <p>1) 高い倫理観とコミュニケーション力を身につけ、自ら学び続ける姿勢を備える。</p> <p>2) 職業現場で外国人患者を受け入れる姿勢をもち患者の訴えが理解できるレベルの英語力を備える。</p>

<p>3) 理学療法の最新の知識と専門技能を身につけ、高い応用力を備える。</p> <p>4) 対象者の思いを受け止め共有して、身体機能の維持・改善および予防に寄与する力を高め健康寿命の延伸のために尽力し、地域のニーズに多職種と協働して貢献する力を備える。</p> <p>5) 理学療法の課題について分析し、論理的に探究する力を備える。</p> <p>(作業療法学科)</p> <p>1) 高い倫理観とコミュニケーション力を身につけ、自ら学び続ける姿勢を備える。</p> <p>2) <u>職業現場で外国人患者を受け入れる基礎的な姿勢を備える。</u></p> <p>3) 作業療法の最新の知識と専門技能を身につけ、高い応用力を備える。</p> <p>4) 対象者の思いを受け止め共有して、幅広い世代が住み慣れたところでいきいきと生活するために必要なサービスを提供し、多職種と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する力を備える。</p> <p>5) 作業療法の課題について分析し、論理的に探究する力を備える。</p>	<p>3) 理学療法の最新の知識と専門技能を身につけ、高い応用力を備える。</p> <p>4) 対象者の思いを受け止め共有して、身体機能の維持・改善および予防に寄与する力を高め健康寿命の延伸のために尽力し、地域のニーズに多職種と協働して貢献する力を備える。</p> <p>5) 理学療法の課題について分析し、論理的に探究する力を備える。</p> <p>(作業療法学科)</p> <p>1) 高い倫理観とコミュニケーション力を身につけ、自ら学び続ける姿勢を備える。</p> <p>2) 職業現場で外国人患者を受け入れる姿勢をもち患者の訴えが理解できるレベルの英語力を備える。</p> <p>3) 作業療法の最新の知識と専門技能を身につけ、高い応用力を備える。</p> <p>4) 対象者の思いを受け止め共有して、幅広い世代が住み慣れたところでいきいきと生活するために必要なサービスを提供し、多職種と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する力を備える。</p> <p>5) 作業療法の課題について分析し、論理的に探究する力を備える。</p>
--	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (P11)

新	旧
<p>④教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>1. カリキュラム編成の考え方</p> <p>各学科のカリキュラム・ポリシーは、次の通りである。</p> <p>(理学療法学科)</p> <p><u>教育課程の編成</u></p>	<p>④教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>1. カリキュラム編成の考え方</p> <p>各学科のカリキュラムポリシーは、次の通りである。</p> <p>(理学療法学科)</p> <p><u>1) 社会人としての倫理性を育み、発信力と対話力を磨き、自己研鑽の姿勢を涵養する。</u></p> <p><u>2) 職業現場において外国人患者を受け入れる姿</u></p>

<p>①大学での学修の基礎となる学力とスキルを身につけ、主体的に学ぶ姿勢を涵養するため、「初年次教育」を配置する。</p> <p>②高い倫理観とコミュニケーション力や基礎的な知識を身につけるため、「基礎科目」を編成する。</p> <p>③高度で専門的な理学療法の知識と技能を身につけるために、「専門基礎科目」と「専門科目」からなる「職業専門科目」を編成する。</p> <p>④臨床現場での実践的な職業教育として、「臨地実務実習」を学年進行に沿って段階的に編成する。</p> <p>⑤外国人患者の受け入れに必要な基礎的な姿勢を身につけるために、橋渡しの教養科目と英語科目を編成する。</p> <p>⑥健康寿命の延伸等地域のニーズに対応できる幅広い視野を涵養するために「展開科目」を編成する。</p> <p>⑦教育成果の集大成として「総合科目」を配置し、卒業論文の執筆のために必要な科目を体系的に編成する。</p> <p>⑧教育課程連携協議会を通じて、地域のニーズに沿った授業であるために絶えず教育課程の見直しを行う。</p>	<p>勢をもち患者の訴えが理解できるレベルの英語力を備える。</p> <p>3) 理論と実習を架橋し、理学療法士に求められる最新の知識と高度な専門技術を修得し、専門性・実践性を錬磨して応用力を涵養し、一段高い実践力を育成する。</p> <p>4) 対象者を深く理解し、対象者の健康寿命を延伸する力と、多職種と連携して組織を運営する力を身につけ、地域を活性化する力を育成する。</p> <p>5) 理学療法分野の諸課題を解決するための論理的思考力と基礎的研究力を培う。</p> <p>(作業療法学科)</p> <p>1) 社会人としての倫理性を育み、発信力と対話力を磨き、自己研鑽の姿勢を涵養する。</p> <p>2) 職業現場において外国人患者を受け入れる姿勢をもち患者の訴えが理解できるレベルの英語力を備える。</p> <p>3) 理論と実習を架橋し、作業療法士に求められる最新の知識と高度な専門技術を修得し、専門性・実践性を錬磨して応用力を涵養し、一段高い実践力を育成する。</p> <p>4) 対象者を深く理解し、対象者を取り巻く地域の課題を解決し、対象者が自立した生活を送れるよう支援し、多職種と連携して地域コミュニティづくりに貢献できる力を育成する。</p> <p>5) 作業療法分野の諸課題を解決するための論理的思考能力と基礎的研究力を培う。</p>
<p>教育内容・方法</p> <p>⑨発信力・コミュニケーション力・プレゼンテーション力を高めるために、少人数編成によるアクティブラーニングを活用する。</p> <p>⑩科目に応じて、講義やゼミ、あるいはそれらの組み合わせ等により、効果的な授業を実施する。</p> <p>⑪完成度の高い臨床実務実習にするために、理論系科目と臨床実務実習とを連動させた教育を実施する。</p> <p>⑫最新の理学療法専門知識と高度な実践技能を身につけるため独自の「専門技能錬成プログラム」を実施する。</p>	

⑬地域のニーズに応えることができる幅広い視野をもつ理学療法士になるために、独自の「展開力育成プログラム」を実施する。

学修成果の評価

全ての授業において、成績判定基準に則り厳正に評価する。

⑭科目授業では、筆記試験、レポート、小テスト等で評価する。

⑮評価は、S、A、B、C、D、Eの6段階評価で行い、C判定以上を合格とする。

⑯臨地実務実習授業では、評価は、S、A、B、C、D、Eの6段階評価で行い、C判定以上を合格とする。

⑰卒業論文は「合」「否」で判定され、目的・方法・結果・考察・引用論文が適切に配置され、研究テーマに沿って論理的な展開がなされているものを「合」とする。

(作業療法学科)

教育課程の編成

①大学での学修の基礎となる学力とスキルを身につけ、主体的に学ぶ姿勢を涵養するため、「初年次教育」を配置する。

②高い倫理観とコミュニケーション力や基礎的な知識を身につけるため、「基礎科目」を編成する。

③高度で専門的な作業療法の知識と技能を身につけるために、「専門基礎科目」と「専門科目」からなる「職業専門科目」を編成する。

④臨床現場での実践的な職業教育として、「臨地実務実習」を学年進行に沿って段階的に編成する。

⑤外国人患者の受け入れに必要な基礎的な姿勢を身につけるために、橋渡しの教養科目と英語科目を編成する。

⑥地域コミュニティづくりなどの地域のニーズに対応できる幅広い視野を涵養するために「展開科目」を編成する。

⑦教育成果の集大成として「総合科目」を配置し、卒業論文の執筆のために必要な科目を体系的に編成する。

⑧教育課程連携協議会を通じて、地域のニーズに沿った授業であるために絶えず教育課程の見直しを行う。

教育内容・方法

⑨発信力・コミュニケーション力・プレゼンテーション力を高めるために、少人数編成によるアクティブラーニングを取り入れる。

⑩科目に応じて、講義やゼミ、あるいはそれらの組み合わせ等により、効果的な授業を実施する。

⑪完成度の高い臨地実務実習にするために、理論系科目と臨床実務実習とを連動させた教育を実施する。

⑫最新の理学療法専門知識と高度な実践技能を身につけるため独自の「専門技能錬成プログラム」を実施する。

⑬地域のニーズに応えることができる幅広い視野をもつ作業療法士になるために、独自の「展開力育成プログラム」を実施する。

学修成果の評価

全ての授業において、成績判定基準に則り厳正に評価する。

⑭科目授業では、筆記試験、レポート、小テスト等で評価する。

⑮評価は、S、A、B、C、D、Eの6段階評価で行い、C判定以上を合格とする。

⑯臨地実務実習授業では、評価は、S、A、B、C、D、Eの6段階評価で行い、C判定以上を合格とする。

⑰卒業論文は「合」「否」で判定され、目的・方法・結果・考察・引用論文が適切に配置さ

れ、研究テーマに沿って論理的な展開がなされているものを「合」とする。	
------------------------------------	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (P26-30)

新	旧
<p>(3) 展開科目 (前略)</p> <p>1. 理学療法学科</p> <p><u>理学療法学科が育成する人材像は、「最新の理学療法専門知識と高度な実践技能を保持し、自己研鑽を怠らず、対象者の思いを受け止め共有し、身体機能の維持・改善および予防に寄与する力を高め健康寿命の延伸のために尽力し、地域のニーズに対応する新しいサービス事業を展開し、地域の創生に多職種と協働して貢献する人材。」である。この人材像の実現に向けて、ディプロマ・ポリシー4)に「対象者の思いを受け止め共有して、身体機能の維持・改善および予防に寄与する力を高め健康寿命の延伸のために尽力し、地域のニーズに多職種と協働して貢献する力を備える。」を掲げている。このディプロマ・ポリシー4)に掲げた内容を達成するために10科目の展開科目を配置し、配置された科目を踏まえて、科目が配置された理由、配置された科目の学修内容、科目により修得される能力およびその能力と人材像との関係等について以下に説明する。</u></p> <p><u>理学療法士として対象者や地域との連携を深め新たなサービスを展開していくためには、まず、基本的資質として人の尊厳を遵守し豊かな感性をもって対応していくことが肝要である。その基本的資質を涵養するために、人を深く知り人の尊厳を知り豊かな感性をもつ必要がある。また社会の中で人間形成について知る必要がある。これが以下の科目を配置する理由である。前者の修得のために、「ヒューマンサービス論」を置き、</u></p>	<p>(3) 展開科目 (前略)</p> <p>1) <u>理学療法学科における展開科目を通じて育成する力</u></p> <p><u>理学療法学科では対象者を尊重する人間味あふれる姿勢と最新の知識・専門技術を駆使して、身体機能を改善し、健康寿命を延伸するサービスを提供し、サービスを組織化する力を身につけて、地域活性化に貢献できる展開力を育成する。</u></p> <p><u>人々が幸せに暮らし社会で活躍するためには、健やかな心身は欠かせない。急速に進む高齢化社会では、人々が病を抱えて生きることも当たり前となり、それを公的負担で支えるには限界がある。そこで人々の健康にかかわる新たな枠組みを創出し、多様な主体と連携して人々が健康で社会に参画し続けるために必要なサービスを提供する力を養う。</u></p> <p><u>具体的には、2年後期「ヒューマンサービス論」で、ヒューマンサービスとは何かを掘り下げ、人の痛みや悲しみを受け止める感性と豊かな人間性を鍛え、人間の尊厳と多様性を踏まえたサービス創造の基盤を育成する。3年後期「人間形成論」では、人のライフサイクルの全体と異なる世代間の相互性という観点から、ライフステージを考慮したサービスのあり方を修得する。</u></p> <p><u>さらに3年後期「生体情報科学」で、医療・ヘルスケア分野、健診データ、スポーツ分野、在宅・家庭などからウェアラブル端末やIoTなどを活用した健康に関する情報を収集する基本的技能について学び、効果的な医療・ヘルスケア・健康サービスを提供するために生体情報を活用する</u></p>

この科目で、人の痛みや悲しみを受け止める感性と豊かな人間性を鍛え、深い人間理解を基盤としてヒューマンサービスとは何かを掘り下げ、人間の尊厳と多様性を踏まえたサービスを創造する基盤を修得する。後者の修得のために「人間形成論」を配置し、社会生活における人間形成に理解を深め、人のライフスタイルの全体と異なる世代間の相互性という観点から、ライフステージを考慮したサービスのあり方を修得する。

これらの科目から、深い人間理解を基盤として対象者に対してその思いを深く受け止め共有し、対象者が置かれた状況を的確に把握し、それぞれの対象者に適したサービスを創造する力を修得する。

このような資質を基盤として、次は、対象者および地域のニーズである健康寿命の延伸を図るサービスの展開へとつなげていく。

この健康寿命の延伸のために必要な要素は多様であるが、中でも、健康な体の維持のための食生活、日常生活やスポーツの中での身体運動、生体からの様々な情報を知ることの三つの要素が重要であると考えた。そこで、健康寿命を延伸する能力を修得するために、この三つの要素を組み入れて、「食生活マネジメント論」「スポーツ科学」「生体情報科学」を配置した。

「食生活マネジメント論」では、健康における食生活の重要性と食生活における老化予防、生活習慣病予防についての見識を深め、在宅生活を支える食生活の重要性の理解も深める。「スポーツ科学」では、身体運動を科学するためのアプローチの仕方を学び、対象者の課題やニーズやライフステージに適したサービスのあり方を探究する。

「生体情報科学」では、医療・ヘルスケア分野、健診データ、スポーツ分野、在宅・家庭などからウェアラブル端末や IoT 等を活用した健康に関する情報を収集する基本的な技能について学び、日常生活（生活習慣）に寄与できる効果的な医療・ヘルスケア・健康サービスを提供するため

力を育成する。

4 年前期「スポーツ科学」で、身体運動を科学するためのアプローチ方法を学び、対象者のニーズやライフステージに適したサービスのあり方を探究する。また 3 年前期「食生活マネジメント論」で、健康における食生活の重要性と、食生活における老化予防、生活習慣病予防についての見識を深める。

このようにして、対象者の置かれた状況を的確に把握し、心と体を深く理解し尊重する姿勢と、健全な運動と食生活のあり方を修得することによって、対象者の身体機能を改善し、健康寿命を延伸するサービスを提供するうえで必須の能力を育成する。

また 4 年前期「マネジメント論」において、組織の目標を効率的に達成するためのスキルを、さらに 4 年前期「コーチング論」で、人の能力や可能性を伸ばし、人的資源を最大限に活用する考え方とスキルを修得する。さらに 4 年前期「起業入門」では、起業に関わる基礎的知識と技能を修得し、地域で生活する人々に真に必要なサービスモデルを創造し構築する方法を身につける。加えて 4 年前期「NPO 論」によって、NPO の理念を知り組織の運営の在り方を学び、サービス提供の選択肢の一つとして NPO を活用する力を育成する。最後に 4 年前期「岡山経営者論」で、岡山を代表する様々な分野の経営者ならびにイノベーターを招き、新サービス・起業・新規事業展開・海外事業展開・地域創生（地域活性化）をテーマに、企業・経営者の観点からサービスの創造に欠かせない思考と創造力を学び、他分野の視点やアイデアを形にする方法やサービスの革新と新たなサービスを創出する力を育成する。

こうして展開科目を修めた学生は、これまで活動の主舞台であった医療機関や福祉施設にとどまらず、在宅系介護サービス事業・特定非営利活動法人（NPO）・スポーツ関連事業・福祉機器関連事業など新たな職業現場において、対象者が真に

に情報を活用する力を修得する。

これらの科目から、健康寿命の延伸の基本となる健全な食生活や身体運動のあり方、日常生活（生活習慣）に寄与できる効果的な生体情報の収集方法を学ぶことによって、対象者の身体機能の維持・改善と予防に寄与し、健康寿命の延伸およびそのためのサービスを提供する上で必須の能力を修得する。

そして、前記の科目で修得した健康寿命の延伸に関する知識を基にして、これらを地域のニーズに合わせて、多職種と協働して新たなサービスへと発展させる能力が必要となる。そのためには、多職種と協働して組織のマネジメントができ、組織の人材を有効活用し、さらに組織の運営の実際を知り、地域のニーズに沿った起業活動のノウハウを修得することが必要である。この目的で「マネジメント論」「コーチング論」「起業入門」「NPO論」を配置した。

「マネジメント論」では、組織に所属する個人や集団、外部環境、組織の動的プロセスを総合的にマネジメントするために必要な基礎的知識と技能を修得し、対象者や地域のニーズを新たなサービスの形にして目標を達成するための能力を修得する。「コーチング論」では、人の能力や可能性を伸ばし、他者との協働や人的資源を最大限に活用する考え方とスキルを修得する。「起業入門」では、自らが起業することを想定して思考することを通じて起業に関わる基礎的知識を修得し、地域で生活する人々に真に必要なサービスモデルを創造し構築する方法を身につける。「NPO論」では、非営利組織であるNPOの理念を知り組織の運営のあり方を学び、市民や行政や企業等多職種と協働し、社会や地域課題の解決に向けたサービス提供の選択肢の一つとしてNPOを活用する能力を育成する。

これらの科目から、他者との協力や人的資源を有効に活用する方法やスキル、起業にかかわる基本的なノウハウ、対象者や地域のニーズに対応す

必要とするサービスを提案し活躍の場を広げることができる。また、新たな視点から人々の健康を支える創造的サービスを提案することで、地域を活性化する動力として活躍することが期待される。

2) 作業療法学科における展開科目を通じて育成する力

作業療法学科では、対象者を尊重する人間味あふれる姿勢と最新の知識と専門技術を駆使して、対象者が住み慣れた地域で自立した生活を実現するために、人の健康と生活にかかわる諸問題を解決する力とライフステージに適した新たなサービスを提供する力を身につけ、地域で住民が共に支えあいながら生き生きと生活できる環境づくりを支援する力を育成する。

一人ひとりの日々の生活は地域で営まれ、その生活は各々のライフステージに応じて変化し交錯する。その中で人々が安心して暮し活躍しつづけるためには、人と地域をつなぐコミュニティを活性化させ、それぞれが地域で役割を担えるように支援する必要がある。

そのためには、地域社会の成り立ちを知り地域の特性や課題についての理解を深め、地域を分析し実情を把握する力を育成する必要がある。また、近年、人口減少や高齢化による地域コミュニティの弱体化が進んでいる。地域の支えあいの基盤となる地域コミュニティの特性を深く把握し、人々の地域生活を支えるコミュニティの形成に貢献できる力を育成する必要がある。そして、家族の重要機能について理解を深め、一人ひとりの生活と家族と地域を有機的・相関的にとらえる視点を養い、新たなサービスを提供できる力を養う必要がある。

2年後期「ヒューマンサービス論」で、ヒューマンサービスとは何かを掘り下げ、人の痛みや悲しみを受け止める感性と豊かな人間性を鍛え、人間の尊厳と多様性を踏まえたサービスを創造す

る新しいサービスの創造等について学び、新しいサービス事業を展開し、多職種と協働して地域のニーズに対応できる能力を修得する。

そして、展開科目の集大成として「岡山経営者論」を配置する。この「岡山経営者論」においては、岡山を代表する様々な分野の経営者並びにイノベーターにより、新サービス・起業・新規事業展開・海外事業展開・地域創生（地域活性化）等をテーマに、企業・経営者の観点からサービスの創造に欠かせない思考と創造力を学び、他分野の視点やアイデアを形にする方法やサービスの革新と新たなサービスを創造する能力を修得する。

この「岡山経営者論」により、岡山という地域の中で、理学療法士として「サービス」をどのように展開すれば地域創生のための「創造（イノベーション）」が起こせるかを学び、地域の活性化に寄与することができる能力を修得する。さらに「岡山経営者論」でのつながりを契機として、医療関連分野以外の一般企業との連携も視野に入ってくることを期待される。

このように、理学療法学科に配置された展開科目を学修し、それぞれの能力を身につけることにより、掲げた人材像の実現は可能である。

そして本学を卒業した理学療法士が活動する場は、これまで主舞台であった医療機関や福祉施設にとどまらず、在宅系介護サービス事業・特定非営利活動法人（NPO）・スポーツ関係事業・福祉機器関連事業・地方自治体等の様々な領域に拡がり、それぞれの職業現場では、対象者が真に必要なとするサービスを提案し展開していくことができる。また、新たな視点から人々の健康を支える創造的サービスを提案することで、人々の新しい交流の場と雇用を生み出し、理学療法士として地域を活性化する動力として活躍することが期待される。

2. 作業療法学科

作業療法学科が育成する人材像は、「最新の作

る基盤を育成する。そして、3年後期「人間形成論」で、人のライフサイクルの全体と異なる世代間の相互性という観点から、ライフステージを考慮したサービスを創造する力を涵養する。3年前期「家族関係論」は、社会を構成する基本単位としての家族の変動を読み解き、家族と家庭生活に生じる様々な問題を分析的にとらえる基本的な能力を育成する。3年後期「地域社会論」は、地域づくりの基本を学び、地域社会の歴史および地域自治のあり方、住民の生活原理について理解を深め、地域社会の課題と可能性を分析する力を育成する。3年後期「コミュニティ形成論」は、地域コミュニティの機能に焦点をあて、コミュニティ形成の基礎知識を修得し、地域のコミュニティを活性化させ対象者と地域社会を結びつけるために必要な知識を修得する。4年前期「ライフサイクル論」では、ライフサイクルのなかで時系列的に生じる様々な生活課題の全体像を系統的に把握し、最適な支援を行うために必須の知見を修得する。4年前期「地域生活と健康」は、健康的なライフスタイルの形成のために必要な基本的知識と技能を身につけ、健やかな地域コミュニティの構築に貢献できる力を育成する。4年前期「人間工学」は、人と人を取り囲むさまざまな物や環境との整合性を図り、地域コミュニティで多様な主体が快適に生活するために必要な工学的視点を学ぶ。4年前期「特別支援教育」は、教育現場で期待されている作業療法士の役割を広く知り、特別なニーズを持つ子どもを支援する方法について学び、学校内外の機関および専門家と連携して、障害を持つ子供が地域で共生できるようなコミュニティを形成してくための基礎的な力を育成する。

こうして弱体化したコミュニティの機能を再構築し、個人と家族と障害を持つ人が共に生き生きと活躍できる地域環境づくりに、作業療法士として積極的に参加する上で必須の知識と力を育成する。

業療法専門知識と高度な実践技能を保持し、自己研鑽を怠らず、対象者の思いを受け止め、子供から高齢者に至る幅広い世代が住み慣れたところでいきいきと生活するために必要なサービスを提供し、地域の多様な主体と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する人材。」である。この人材像の実現に向けて、ディプロマ・ポリシー4) に「対象者の思いを受け止め共有して、幅広い世代が住み慣れたところでいきいきと生活するために必要なサービスを提供し、多職種と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する力を備える。」を掲げている。

このディプロマ・ポリシー4) に掲げた内容を達成するために10科目の展開科目を配置し、配置された科目を踏まえて、科目が配置された理由、配置された科目の学修内容、科目により修得される能力およびその能力と人材像との関係等について以下に説明する。

まず、作業療法士の基本的資質として、対象者や地域との連携を深め新たなサービスを展開していくためには、人の尊厳を遵守し豊かな感性をもって対応していくことが肝要である。その基本的資質を涵養するために、人を深く知り人の尊厳を知り豊かな感性をもつ必要があり、また社会の中での人間形成について知る必要がある。これが以下の科目を配置する根拠である。前者の修得のために、「ヒューマンサービス論」を置き、この科目で、人の痛みや悲しみを受け止める感性と豊かな人間性を鍛え、深い人間理解を基盤としてヒューマンサービスとは何かを掘り下げ、人間の尊厳と多様性を踏まえたサービスを創造する基盤を修得する。後者の修得のために「人間形成論」を配置し、社会生活における人間形成に理解を深め、人のライフスタイルの全体と異なる世代間の相互性という観点から、ライフステージを考慮したサービスのあり方を修得する。

最後に4年前期「岡山経営者論」で、岡山を代表する様々な分野の経営者ならびにイノベーターを招き、新サービス・起業・新規事業展開・海外事業展開・地域創生(地域活性化)をテーマに、企業・経営者の観点からサービスの創造に欠かさない思考と創造力を学び、他分野の視点やアイデアを形にする方法やサービスの革新と新たなサービスを創出する力を育成する。

展開科目を修めた学生は、これまで活動の主舞台であった医療機関や福祉施設にとどまらず、在宅系介護サービス事業、地方自治体、福祉機器関連事業、住宅関連企業、教育機関、就労支援事業など新たな職業現場において、対象者が真に必要なとするサービスへの革新を提案し活躍の場を広げることができる。そして、新たな視点から人々の健康と生活を支える創造的サービスを提案することで、地域コミュニティの形成に参加し、地域を活性化する動力として活躍することが期待される。

これらの科目から、深い人間理解を基盤として対象者に対してその思いを深く受け止め共有し、対象者が置かれた状況を的確に把握し、それぞれの対象者に適したサービスを創造する能力を修得する。

このような資質を基盤として、地域を理解し地域生活を支援するためのサービスを展開し地域コミュニティづくりへとつなげていく。そのためには、社会の基本構成単位である家族の理解、地域および地域生活のあり方、そして地域コミュニティへの関わり方の三つの要素を知ることが欠かせない。それらを学ぶために、「家族関係論」「地域社会論」「コミュニティ形成論」を配置した。

「家族関係論」では、社会を構成する基本単位としての家族関係を中心とした人間相互の関わり
の成り立ちやその意義を読み解き、家族と家庭生活に生じる様々な問題を分析的にとらえる基本的な能力を修得する。「地域社会論」では、地域づくりの基本を学び、地域社会の歴史および地域自治のあり方、住民の生活原理について理解を深め、地域社会の課題と可能性を分析する能力を修得し、地域活性化に向けての新規事業の創造の重要性を学ぶ。

「コミュニティ形成論」では、地域コミュニティの機能形成に焦点をあて、コミュニティ形成の基本知識を修得し、地域のコミュニティを活性化させ対象者と地域社会を結びつけるために必要な知識を修得する。

これらの科目から、社会を構成する最小単位である家族についてその課題を分析し解決する能力、地域づくりや地域の活性化に向けた新しいサービスの創造や地域コミュニティを活性化させるコーディネート力やマネジメント力を学び、地域生活を支援する能力を修得することができる。

そして、家族や地域に関する理解を広げ、地域生活を支える能力を修得して、次は子供から高齢者に至る幅広い世代がそれぞれのライフサイク

ルに合わせて、いきいきと生活できる環境づくりに発展させていく能力の修得が必要である。具体的には、対象者のライフサイクルに沿った生活課題を知り、子供から大人までの各世代の健康課題を知り、対象者を取り巻く環境因子について知ることが肝要であり、それらを知った上で対象者や地域への新たなサービスを提供していくことになる。またライフステージを考える時に、障害をもつ子供への教育環境づくりは欠かせない課題である。これらを学ぶために、「ライフサイクル論」「地域生活と健康」「人間工学」「特別支援教育」を配置した。

「ライフサイクル論」では、ライフサイクルのなかで時系列的に生じる様々な生活課題の全体像を系統的に把握し、最適な支援を行うために必須の知見を修得する。「地域生活と健康」では、様々な対象者やライフステージに合わせた健康の維持・増進および健康的なライフスタイルの形成のために必要な基本的知識と技能を身につけ、健やかな地域コミュニティの構築に貢献できる力を修得する。「人間工学」では、人と人を取り囲む様々なものや環境との整合性を図り、地域コミュニティで多様な主体が快適に生活するために必要な工学的視点を学ぶ。このような観点から本科目を作業療法学科の展開科目に配置したが、理学療法学科の学生も選択することは可能である。教育現場で期待されている作業療法士の役割を広く知り、特別なニーズを持つ子どもを支援する方法について学び、学校内外の機関および専門家と連携して、障害を持つ子供が地域で共生できるようなコミュニティを形成していくための基礎的な力を修得するために「特別支援教育」を配置した。

これらの科目から、弱体化したコミュニティの機能を再構築し、個人と家族と子供を含め障害を持つ人が共にいきいきと活躍できる地域環境づくりに、作業療法士として積極的に参加する上で必須のライフステージに適した新たなサービス

を提供する知識と能力を修得する。

そして、「岡山経営者論」においては、岡山を代表する様々な分野の経営者並びにイノベーターにより、新サービス・起業・新規事業展開・海外事業展開・地域創生（地域活性化）等をテーマに、企業・経営者の観点からサービスの創造に欠かせない思考と創造力を学び、他分野の視点やアイデアを形にする方法やサービスの革新と新たなサービスを創造する能力を修得する。

この「岡山経営者論」は、展開科目の集大成として位置づけられ、この科目により、岡山という地域の中で、理学療法士として「サービス」をどのように展開すれば地域創生のための「創造（イノベーション）」が起こせるかを学び、地域の活性化に寄与することができる能力を修得する。さらに「岡山経営者論」でのつながりを契機として、医療関連分野以外の一般企業との連携も視野に入ってくることを期待される。

このように、作業療法学科に配置された展開科目を学修し、それぞれの能力を身につけることにより、掲げた人材像の実現は可能である。

そして本学を卒業した作業療法士は、これまで活動の主舞台であった医療機関や福祉施設にとどまらず、在宅系介護サービス事業・地方自治体・住宅関連企業・福祉機器関連企業・教育機関・就労支援事業等の新たな職業現場に活躍の場が広がり、対象者が真に必要なサービスの革新を提案し活躍の場を広げることができ、地域に根付いた新たな視点から人々の生活を支える創造的サービスを提案することで、地域に人々の交流の場が提供され新たな雇用も生み出され、作業療法士として地域を活性化する動力としての役割を担うことができる。

なおここで、医療関連分野とそれ以外の一般企業等との連携について補足しておく。

「多職種連携」とは、医療界では、通常、保健・医療・福祉にかかわる様々な職種（医師・看護師・介護福祉士・各療法士・薬剤師・管理栄養士・医

<p>療行政職等)の間、即ち、各種医療職種間および医療関連機関の間での連携を意味する。しかし今後、前記の展開科目により育成された本学の卒業生の就職先として、スポーツ関連事業や住宅関連企業等の一般企業の分野への進出が見込まれるため、また一般企業の職員の健康の維持・向上への取り組みが進む中での企業の産業医や保健師との連携等を含めて、医療関連分野のみならず一般企業との連携を進めていく必要があると認識している。また、現在岡山市が進めている「地域包括ケアシステム」の構築の中で、システムの中核を担う行政職、さらにはこのシステムにかかわる一般企業との連携も必要になってくる。カリキュラムでは、前記の「岡山経営者論」で実際に様々な種類の一般企業のリーダーを招聘するため、この科目を通して医療関連分野と一般企業との連携を考え、場合によっては実践する機会になることが期待される。さらに、行政との連携については、「教育課程連携協議会」の構成員として行政職にも参加をいただいているので、この協議会を通じて行政との連携について協議できるものと思われる。</p>	
--	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (P37)

新	旧
<p>2. 履修指導方法</p> <p>本学に入学する学生に対して、リハビリテーション人材として必要な科目の未履修者や学力について課題を有する学生に対しては、入学前に教育課程外授業として、e-learning によるリメディアル教育を行う。リメディアル教育で補完する科目に関しては、調査書により判断する。学習状況はシステムやレポートで確認し指導を行う。また到達度をはかるために、到達度テストを行い、大学教員が到達度を確認し指導を行う。</p> <p>また、1年前期において、大学で自立的に学ぶ</p>	<p>2. 履修指導方法 (追加)</p>

<p><u>ために、必要な基本的事項を系統的に配置し、高校から大学教育にスムーズに移行できるように初年次教育として「大学入門」を設置する。</u></p> <p>(1) 履修に関するガイダンス</p>	<p>(1) 履修に関するガイダンス</p>
--	------------------------

(是正意見) 健康科学部 理学療法学科, 作業療法学科

2. 理学療法学科、作業療法学科ともに育成する人材像が一定程度説明されたが、下記の点を改めて明らかにすること。

(1) カリキュラム・ポリシーに理学療法分野・作業療法分野の諸課題を解決するとしているが、両分野の諸課題の具体例を明らかにすること。

(2) 理学療法学科と作業療法学科の独自性が曖昧になっているため、審査意見【1】を踏まえ両学科の違いを再度明らかにすること。

(対応) 当初、カリキュラム・ポリシーの5)に、「理学療法分野の諸課題を解決するための論理的思考力と基礎的研究力を養う」および「作業療法分野の諸課題を解決するための論理的思考力と基礎的研究力を養う」と記載していたため、カリキュラム・ポリシーに書かれた各々の分野の諸課題の具体例を明らかにすること、とのご指摘をいただいた。今回、面接審査でカリキュラム・ポリシーが不適切であるとのこと指摘をいただいたことを踏まえて、カリキュラム・ポリシーを全面的に改めたのに合わせて、当初は、諸課題を、卒業研究に向けての様々な課題として位置づけていたことを改めて、本学部の両分野がもつ課題を抽出し、各々の課題を解決する能力を身につけるための科目を編成していることを以下に説明する。

(1) 本学部の両分野がもつ諸課題の具体例を抽出し、各々の課題を解決する能力を修得するための科目を編成していることを説明する。

理学療法分野の諸課題

- ① 運動療法、物理療法を活用した身体機能向上に寄与すること。
- ② 身体機能向上に寄与するサービスを展開し地域に居住する人々の健康寿命の延伸に貢献すること。
- ③ 理学療法をもとにした新たなサービス形態を提案し実行することで地域の健康寿命の延伸を中心に地域活性化に貢献すること。

これらの課題を解決するための能力を身につけるために配置された科目は以下のとおりである。

①については、職業専門科目で対応するが、中でも、「運動学」・「運動学実習」、「運動療法」・「運動療法実習Ⅰ・Ⅱ」、「物理療法」・「物理療法実習Ⅰ・Ⅱ」、「理学療法治療学Ⅰ～Ⅳ」・「理学療法治療学実習Ⅰ～Ⅲ」、および「臨地実務実習」や「応用治療実習Ⅰ～Ⅲ」、さらには理論と実習を連動させて展開する「専門技能錬成プログラム」等により対応する。

②と③については、展開科目の中の健康寿命の延伸とそれを地域へのサービスとして生かす力を修得するために配置された科目、即ち、「食生活マネジメント論」「生体情報科学」「スポーツ科学」および「マネジメント論」「コーチング論」「起業入門」「NPO論」と「岡山経営者論」等により対応する。

作業療法分野の諸課題

- ① 作業活動を活用した自立生活支援に寄与する。
- ② 自立生活支援に寄与するサービスを展開し障害者等の地域生活移行の促進に貢献すること。

③ 健常者・障害者を問わず幅広い世代の人々が住み慣れた地域で共生するために地域コミュニティを活性化し地域の実情に適した生活基盤の構築に貢献すること。

これらの課題を解決するための能力を身につけるために配置された科目は以下のとおりである。

①については、職業専門科目で対応するが、中でも、「運動学」・「運動学実習」、「基礎作業学」・「基礎作業学実習Ⅰ・Ⅱ」、「身体障害作業療法学Ⅰ～Ⅳ」・「身体障害作業療法実習Ⅰ～Ⅲ」、「日常生活活動学」・「日常生活活動学実習」および「臨地実務実習」や「応用治療実習Ⅰ～Ⅲ」、さらには理論と実習を連動させて展開する「専門技能錬成プログラム」等により対応する。

②と③については、展開科目の中の、家族や地域に関する理解を広げ、地域生活を支える能力を修得して地域コミュニティの活性化に寄与する能力を修得するために配置された科目、即ち、「家族関係論」「地域社会学」「コミュニティ形成論」および「地域生活と健康」「特別支援教育」「人間工学」「ライフサイクル論」と「岡山経営者論」等により対応する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (P31)

新	旧
<p>イ. 卒業論文</p> <p>卒業論文の執筆にあたっては、4年間の総括として学生が学習や臨地実務実習による様々な経験から興味・関心をもった医療・保健・福祉分野のテーマや臨床現場で遭遇した事例、さらには、<u>現在各々の分野がもつ諸課題を取りあげ、テーマを選択し、関連する書籍・論文・症例等を幅広く検索し、その意味や論点を明確化するとともに、関連するデータを収集、分析し、論文にまとめる。</u>卒業論文の執筆を通じて、自ら課題を見だし、自分で考え抜き、討論して問題を深め、結論を出し、推敲を重ねて論文にまとめる。この経験を通じて、大学や職業現場で学んだ知識や技術が有機的に統合され活性化されて医療と地域の問題についての創造的、論理的な思考力を鍛え、テーマや症例研究から新たな知見を見いだす作業によって創造的な役割を果たす応用的な能力を育む。同時に、物事に挑戦し探求する楽しさを実感し、研究スキルを身につけ、自ら学び生涯にわたって学習し続ける積極的な姿勢を錬磨する。</p> <p><u>各々の分野がもつ諸課題は以下の通りである。</u></p> <p><u>理学療法分野の諸課題</u></p> <p>① <u>運動療法、物理療法を活用した身体機能向上に寄与すること。</u></p>	<p>イ. 卒業論文</p> <p>卒業論文では、4年間の総括として学生が学習や臨地実務実習による様々な経験から興味・関心をもった医療・保健・福祉分野のテーマや臨床現場で遭遇した事例を取りあげ、<u>関連する書籍・論文・症例等を幅広く検索し、その意味や論点を明確化するとともに、関連するデータを収集、分析し、論文にまとめる。</u>卒業論文の執筆を通じて、自ら課題を見だし、自分で考え抜き、討論して問題を深め、結論を出し、推敲を重ねて論文にまとめる。この経験を通じて、大学や職業現場で学んだ知識や技術が有機的に統合され活性化されて医療と地域の問題についての創造的、論理的な思考力を鍛え、テーマや症例研究から新たな知見を見いだす作業によって創造的な役割を果たす応用的な能力を育む。同時に、物事に挑戦し探求する楽しさを実感し、研究スキルを身につけ、自ら学び生涯にわたって学習し続ける積極的な姿勢を錬磨する。</p> <p>(追加)</p>

<p>② <u>身体機能向上に寄与するサービスを展開し地域に居住する人々の健康寿命の延伸に貢献すること。</u></p>	
<p>③ <u>理学療法をもとにした新たなサービス形態を提案し実行することで地域の健康寿命の延伸を中心に地域活性化に貢献すること。</u></p>	
<p><u>作業療法分野の諸課題</u></p>	
<p>① <u>作業活動を活用した自立生活支援に寄与する。</u></p>	
<p>② <u>自立生活支援に寄与するサービスを展開し障害者等の地域生活移行の促進に貢献すること。</u></p>	
<p>③ <u>健常者・障害者を問わず幅広い世代の人々が住み慣れた地域で共生するために地域コミュニティを活性化し地域の実情に適した生活基盤の構築に貢献すること。</u></p>	

(2) 理学療法学科と作業療法学科の独自性が曖昧になっているため、審査意見【1】を踏まえ両学科の違いを再度明らかにすること、とのご指摘をいただいたので、両学科の違いについて以下に説明いたします。

理学療法学科の独自性

人材像を踏まえ理学療法学科の独自性を簡潔に表現すれば、本学の理学療法学科は、「失われた身体の機能を回復させ、健康寿命の延伸を図り、地域へ貢献できる理学療法士を育成する学科」であると言える。

理学療法学科の使命は、基本的には「身体に障害のある人に対し、主としてその基本的動作能力の回復を図るため、治療体操その他の運動を行わせ、電気刺激、マッサージ、温熱その他の物理的手段を加えて回復を図る理学療法士を養成する」ことであるが、本学科ではこれに加えて、「身体機能の向上に寄与するサービスを展開することで、地域に居住する人々の健康寿命の延伸に貢献し、さらに健康寿命の延伸を通じて地域活性化に寄与する視点を持った理学療法士を養成する」点に独自性がある。

本学科の独自性である後者の目的を実現するための科目配置としては、展開科目の中の健康寿命の延伸とそれを地域へのサービスとして生かす力を修得するために配置された科目、即ち、「食生活マネジメント論」「スポーツ科学」「生体情報科学」および「マネジメント論」「コーチング論」「起業入門」「NPO論」が挙げられる。

作業療法学科の独自性

人材像を踏まえ作業療法学科の独自性を簡潔に表現すれば、「作業活動を活用して自立生活を支援し、暮らしやすさを取り戻し、住み慣れた地域で共生できる生活に密着した地域コミュニティづくりに貢献できる作業療法士を育成する学科」であると言える。

作業療法の使命は、基本的には「人々の生活に関わる活動を通して、こころと身体のリハビリテーションを行う専門家として、各個人のニーズに合わせた福祉用具や生活環境を整備し、その人らしい暮らしに導くため、対象者に寄り添い、社会の中で生きがいをもって生活できるように支援する作業療法士を養成する」ことであるが、本学科ではこれに加えて、「作業活動を活用した自立生活支援に寄与するサービスを展開することで障害者等の地域生活移行の促進に貢献し、さらに健常者・障害者を問わず幅広い世代の人々が住み慣れた地域で共生するために、生活に密着した地域コミュニティづくりの視点を持った作業療法士を養成する」点に独自性がある。

本学科の独自性である後者の目的を実現するための科目配置としては、展開科目の中の、家族や地域に関する理解を広げ、地域生活を支える能力を修得して地域コミュニティづくりに寄与する能力を修得するために配置された科目、即ち、「家族関係論」「地域社会学」「コミュニティ形成論」および「地域生活と健康」「特別支援教育」「人間工学」「ライフサイクル論」が挙げられる。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (P7-8)

新	旧
<p>② 学科・専攻の特徴 (前略)</p> <p><u>理学療法学科の使命は、基本的には「身体に障害のある人に対し、主としてその基本的動作能力の回復を図るため、治療体操その他の運動を行わせ、電気刺激、マッサージ、温熱その他の物理的手段を加えて回復を図る理学療法士を養成する」ことであるが、本学科ではこれに加えて、「身体機能の向上に寄与するサービスを展開することで、地域に居住する人々の健康寿命の延伸に貢献し、さらに健康寿命の延伸を通じて地域活性化に寄与する視点を持った理学療法士を養成する」点に独自性がある。簡潔に表現すれば「失われた身体機能を回復させ、健康寿命の延伸を図り、地域へ貢献できる理学療法士を育成する学科」である。</u></p> <p>また作業療法学科は、最新の作業療法専門知識と高度な実践技能を保持し、自己研鑽を怠らず、対象者の思いを受け止め、子供から高齢者に至る幅広い世代が住み慣れたところでいきいきと生</p>	<p>③ 学科・専攻の特徴 (前略) (追加)</p> <p>また作業療法学科は、最新の作業療法専門知識と高度な実践技能を保持し、自己研鑽を怠らず、対象者の思いを受け止め、子供から高齢者に至る幅広い世代が住み慣れたところでいきいきと生</p>

活するために必要なサービスを提供し、地域の多様な主体と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する人材を育成することを目標としている。

作業療法の使命は、基本的には「人々の生活に関わる活動を通して、こころと身体のリハビリテーションを行う専門家として、各個人のニーズに合わせた福祉用具や生活環境を整備し、その人らしい暮らしに導くため、対象者に寄り添い、社会の中で生きがいをもって生活できるように支援する作業療法士を養成する」ことであるが、本学科ではこれに加えて、「作業活動を活用した自立生活支援に寄与するサービスを展開することで障害者等の地域生活移行の促進に貢献し、さらに健常者・障害者を問わず幅広い世代の人々が住み慣れた地域で共生するために、生活に密着した地域コミュニティづくりの視点を持った作業療法士を養成する」点に独自性がある。簡潔に表現すれば、「作業活動を活用して自立生活を支援し、暮らしやすさを取り戻し、住み慣れた地域で共生できる生活に密着した地域コミュニティづくりに貢献できる作業療法士を育成する学科」である。

活するために必要なサービスを提供し、地域の多様な主体と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する人材を育成することを目標としている。

3. カリキュラム・ポリシーが見直されたが、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの関係が不明確であり、ディプロマ・ポリシーを実現するための教育課程を明らかとすること、また以下の点を是正すること。

(1) 職業現場において外国人患者を受け入れる姿勢をもち患者の訴えが理解できるレベルの英語力を備えるというポリシーから、4つの科目を配置したと説明されているが、外国人患者の訴えが理解できるレベルの英語力は相当程度高いと考えられ、配置された科目のみでこれらが達成できるか疑義がある。審査意見【8】、【9】の対応も含め、必要に応じてカリキュラム・ポリシーを改めるか、ポリシーを達成するための科目を追加すること。

(2) 多職種との連携について1年次に「多職種連携論」にて保健・医療・福祉にかかわる職種の専門性と連携を学ぶことは一定の説明がなされているが、医療分野以外の一般企業との連携が医療分野における多職種連携とどのようにつながるのか不明瞭なため、考え方を明らかとすること。

(対応) カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの関係が不明確であり、ディプロマ・ポリシーを実現するための教育課程を明らかとすること、とのご指摘をいただいたので、今回ディプロマ・ポリシー2) (一部を変更) と整合性をもたせたカリキュラム・ポリシーに全面的に改めたので、まず改めたカリキュラム・ポリシーを示し、それも踏まえて最初にディプロマ・ポリシーを実現するための教育課程について説明し、次いで(1)と(2)について説明する。

1. 理学療法学科

まず、理学療法学科が育成する人材像を踏まえて策定したディプロマ・ポリシーを示し、次いで改めたカリキュラム・ポリシーを提示し、さらにディプロマ・ポリシーを実現するための教育課程について説明する。

理学療法学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

理学療法学科が育成する人材像を踏まえて以下のディプロマ・ポリシーを策定する。

ディプロマ・ポリシー

- 1) 高い倫理観とコミュニケーション力を身につけ、自ら学び続ける姿勢を備える。
- 2) 職業現場で外国人患者を受け入れる基礎的な姿勢を備える。
- 3) 理学療法の最新の知識と専門技能を身につけ、高い応用力を備える。
- 4) 対象者の思いを受け止め共有して、身体機能の維持・改善および予防に寄与する力を高め健康寿命の延伸のために尽力し、地域のニーズに多職種と協働して貢献する力を備える。
- 5) 理学療法の課題について分析し、論理的に探究する力を備える。

カリキュラム・ポリシー

理学療法学科では、本学が育成する人材像および人材像を踏まえたディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成し実施する。

教育課程の編成

- ①大学での学修の基礎となる学力とスキルを身につけ、主体的に学ぶ姿勢を涵養するため、「初年次教育」を配置する。
- ②高い倫理観とコミュニケーション力や基礎的な知識を身につけるため、「基礎科目」を編成する。
- ③高度で専門的な理学療法の知識と技能を身につけるために、「専門基礎科目」と「専門科目」からなる「職業専門科目」を編成する。
- ④臨床現場での実践的な職業教育として、「臨地実務実習」を学年進行に沿って段階的に編成する。
- ⑤外国人患者の受け入れに必要な基礎的な姿勢を身につけるために、橋渡しの教養科目と英語科目を編成する。
- ⑥健康寿命の延伸等地域のニーズに対応できる幅広い視野を涵養するために「展開科目」を編成する。
- ⑦教育成果の集大成として「総合科目」を配置し、卒業論文の執筆のために必要な科目を体系的に編成する。
- ⑧教育課程連携協議会を通じて、地域のニーズに沿った授業であるために絶えず教育課程の見直しを行う。

教育内容・方法

- ⑨発信力・コミュニケーション力・プレゼンテーション力を高めるために、少人数編成によるアクティブラーニングを活用する。
- ⑩科目に応じて、講義やゼミ、あるいはそれらの組み合わせ等により、効果的な授業を実施する。
- ⑪完成度の高い臨床実務実習にするために、理論系科目と臨床実務実習とを連動させた教育を実施する。
- ⑫最新の理学療法専門知識と高度な実践技能を身につけるため独自の「専門技能錬成プログラム」を実施する。
- ⑬地域のニーズに応えることができる幅広い視野をもつ理学療法士になるために、独自の「展開力育成プログラム」を実施する。

学修成果の評価

全ての授業において、成績判定基準に則り厳正に評価する。

- ⑭科目授業では、筆記試験、レポート、小テスト等で評価する。
- ⑮評価は、S、A、B、C、D、Eの6段階評価で行い、C判定以上を合格とする。
- ⑯臨地実務実習授業では、評価は、S、A、B、C、D、Eの6段階評価で行い、C判定以上を合格とする。
- ⑰卒業論文は「合」「否」で判定され、目的・方法・結果・考察・引用論文が適切に配置され、研究テーマに沿って論理的な展開がなされているものを「合」とする。

学修成果の評価

全ての授業において、成績判定基準に則り厳正に評価する。

⑭科目授業では、筆記試験、レポート、小テスト等で評価する。

⑮評価は、S、A、B、C、D、Eの6段階評価で行い、C判定以上を合格とする。

⑯臨地実務実習授業では、評価は、S、A、B、C、D、Eの6段階評価で行い、C判定以上を合格とする。

⑰卒業論文は「合」「否」で判定され、目的・方法・結果・考察・引用論文が適切に配置され、研究テーマに沿って論理的な展開がなされているものを「合」とする。

ディプロマ・ポリシーを実現するための教育課程

1) 高い倫理観とコミュニケーション力を身につけるために、基礎科目に「職業人の倫理と道徳論」「哲学概論」「心理学」「人間関係論」「コミュニケーション論」、および初年次教育として「大学入門」を置き、続いて「基盤ゼミⅠ」「基盤ゼミⅡ」を配置する。

「職業人の倫理と道徳論」「哲学概論」により、社会人としての深い倫理観を育み、「心理学」「人間関係論」により、人の思いを受け止める共有する心を養い、「コミュニケーション論」では、日常生活における円滑な対人コミュニケーション力を身につける。これらの授業は主に講義形式と一部ではグループワークで行われる。論理的思考に基づく発信力とプレゼンテーション力を段階的に磨き、自己研鑽の姿勢を修得するために、まず「大学入門」で、大学教育に必要な基本的知識とスキルを修得し、それを基に、「基盤ゼミⅠ」「基盤ゼミⅡ」に進む。いずれも10人以下の小グループでのプロコン形式を援用して行われる。「基盤ゼミⅠ」では、テーマは担当教員が提示した中から学生が選択するが、「基盤ゼミⅡ」では、学生自らが興味を示したテーマを採り上げる。

2) 職業現場で外国人患者を受け入れるための基礎的な知識と基礎的な英語力を備えるために、以下の科目を配置する。まず、基礎的英語力の確認と補完を行うため、入学前にリメディアル授業（教育課程外）を行う。そして、外国人に接する時に必要な要素である日本の歴史と文化を知り、外国の動向を知っておくために「日本の歴史と文化」と「国際政治経済論」を、英語力育成の橋渡しの教養科目として配置する。いずれも英語教材を使用し、英語により日本の文化や歴史を理解する力を養い、英語により外国の政治や経済の動きを知ることで外国への理解を深めることができる。基礎的英語力を鍛錬するために「コミュニケーション英語」と「メディカル英語」を配置する。これらの科目では、日本語を交えて主に英語により授業が行われる。「コミュニケーション英語」では、自主的に英語によるコミュニケーションを行うことにより、英語に対する抵抗感を薄める。「メディカル英語」では、実際に患者を想定して、初診から治療までの基本的な対応や、治療や訓練時のコミュニケーション技法を主に英語で学び、グループ討議や臨場感を体験するためにロールプレイを中心とした実践的学習を行う。この科目で、臨床現場に必要な医療英語の理解力と基礎的英会話力を身につける。

3) 理学療法士に必要な基礎から最新の知識と技術を修得するために、「職業専門科目」を配置し、

さらに「応用治療技術実習Ⅰ～Ⅲ」を活用する「専門技能錬成プログラム」を展開する。「職業専門科目」の「専門基礎分野」では、「専門分野」の基礎的科目として、「解剖学」・「解剖学実習」、「生理学」・「生理学実習」、「運動学」・「運動学実習」、「病理学」等の基礎医学系科目、および「精神医学」「内科学」「整形外科学」「神経内科学」「小児科学」等の臨床医学系科目を配置して、理学療法士に必要な基礎的医学知識を修得する。実習以外の科目は主に講義形式で行われる。解剖学実習については、岡山大学人体解剖学実習に見学参加する。これらの知識を基礎として、「リハビリテーション医学」および「リハビリテーション概論」によりリハビリテーションの全体像を理解する。「専門分野」では、「理学療法概論」で理学療法の全体像を理解した上で、理学療法に関する療法学や評価学、運動療法、物理療法について、講義・実習・セミナー等の形式で配置し、専門知識と技術を修得する。臨地実務実習として、「見学実習」「評価実習」「総合実習Ⅰ」および「総合実習Ⅱ」を学年進行に伴い段階的に配置する。また「職業専門科目」の理論科目と実習科目を組み合わせることを基本とし、これにより「理論」と「実践」を架橋することができ、さらに「総合実習Ⅱ」と新たに設ける「応用治療技術実習Ⅰ～Ⅲ」を連動させることにより、一層高度な専門技術を修得することができる。このような一連の理論と実践を連動させた教育課程の編成を「専門技能錬成プログラム」として展開する。この「専門技能錬成プログラム」により、専門性・実践性を錬磨した応用力が涵養され、一段高い実践力と応用力を育成することができる。

4) 対象者の思いを受け止め共有して、身体機能の維持・改善および予防に寄与する力を高め健康寿命の延伸のために尽力し、地域のニーズに多職種と協働して貢献する力を備える力を身につけるために、展開科目として10科目を配置する。まず、深い人間理解と対象者の思いを共有し、対象者が置かれた状況を的確に把握し、それぞれの対象者に適したサービスを創造する力を修得するために「ヒューマンサービス論」「人間形成論」を配置する。次いで、「食生活マネジメント論」「スポーツ科学」で健全な食生活と身体運動のあり方を修得して心と体を深く理解し、対象者の身体機能を改善し、「生体情報科学」で対象者の置かれた状況を的確に把握するスキルを身につけ、健康寿命を延伸する能力を育成する。次に、これらを地域のニーズに合わせて、多職種と協働して新たなサービスへと発展させる能力を涵養するために、「マネジメント論」「コーチング論」「起業入門」「NPO論」を配置する。「マネジメント論」で組織の目標を効率的に達成するためのスキルを、「コーチング論」で人の能力や人的資源を最大限に活用する考え方とスキルを修得する。「起業入門」で起業に関わる基礎的知識とサービスモデルを構築する方法を身につけ、「NPO論」では、非営利組織であるNPOの理念と運営のあり方を学びサービス提供の選択肢としてNPOを活用する力を育成する。これらは主に講義形式で行われるが、一部ではグループワークや演習として行われる。そして「岡山経営者論」では、地域で活躍する様々な分野のリーダーから直接、新サービスの創造、新規事業の起業や展開、地域活性化等、他の分野の視点やアイデアの実践を学び、かつ展開力を育成し、地域を活性化する能力を育成する。「岡山経営者論」は、オムニバス形式で作業療法学科と合同で行う。

5) 理学療法の課題について分析し、論理的に探求する力を備えるために、「総合科目」を配置す

る。「総合科目」では、それまでの学修の成果を統括的に活用し、職業現場や地域が抱える課題やニーズについての「気づき」を育て、「アイデア」へ具体化していき卒業論文へとつなげていく。臨地実務実習の中で気づく理学療法分野の課題を卒業論文として完成する過程において、対象を論理的に分析し思考する力を養う。「総合研究Ⅰ」では、課題の背景や関連する先行研究を把握し、課題の問題点を抽出する力を身につけ、研究の目的を設定し仮説を立て論理的な組み立てができる力を身につける。「総合研究Ⅱ」では、具体的な論文執筆に向けて、論文の骨格を明確にし、科学的根拠に基づいた思考過程を涵養する。「総合演習Ⅰ」では、これまでの様々な経験を振り返りながら、職業現場や地域生活が持つ課題やニーズについて課題を特定化し具体化していく。「総合演習Ⅱ」は「総合演習Ⅰ」の発展形と位置付けられ、職業現場や地域生活がもつ課題やニーズを具体的にサービスの形にしていくアプローチを段階的に学習する。「卒業論文」では、「総合研究Ⅰ」「総合研究Ⅱ」および「総合演習Ⅰ」「総合演習Ⅱ」で培った課題の分析力や探究力を基盤として、さらに対象とする課題について、課題の背景、仮設の設定、期待される効果等について文献的考察を行い、課題の分析力や思考力を高める。

また、基礎的な研究スキルを身につけるために、1年次後期から「情報収集と処理」「統計分析の基礎」「テーマ設定と研究方法」「研究デザイン」を段階的に配置し、3年次前期までに研究に対する基本的知識と論理的思考力を体系的に身につけることができる。従って、「評価実習」、「総合実習Ⅰ」、「総合実習Ⅱ」の臨床実習では、研究に関する基礎的な知識を身につけた上で臨地実務実習へ臨むことができるため、研究と実習が連動され、臨床現場での「気づき」をさらに深めることができ、より深い現場での課題探求力を修得することができる。なお研究倫理については、「テーマ設定と研究方法」の中で学ぶ。

1. 作業療法学科

まず、作業療法学科が育成する人材像を踏まえて策定したディプロマ・ポリシーを示し、次いで改めたカリキュラム・ポリシーを提示し、さらにディプロマ・ポリシーを実現するための教育課程について説明する。

作業療法学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

作業療法学科が育成する人材像を踏まえて以下のディプロマ・ポリシーを策定する。

ディプロマ・ポリシー

- 1) 高い倫理観とコミュニケーション力を身につけ、自ら学び続ける姿勢を備える。
- 2) 職業現場で外国人患者を受け入れる基礎的な姿勢を備える。
- 3) 作業療法の最新の知識と専門技能を身につけ、高い応用力を備える。
- 4) 対象者の思いを受け止め共有して、幅広い世代が住み慣れたところでいきいきと生活するために必要なサービスを提供し、多職種と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する力を備える。
- 5) 作業療法の課題について分析し、論理的に探究する力を備える。

カリキュラム・ポリシー

作業療法学科では、本学が育成する人材像および人材像を踏まえたディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成し実施する。

教育課程の編成

- ①大学での学修の基礎となる学力とスキルを身につけ、主体的に学ぶ姿勢を涵養するため、「初年次教育」を配置する。
- ②高い倫理観とコミュニケーション力や基礎的な知識を身につけるため、「基礎科目」を編成する。
- ③高度で専門的な作業療法の知識と技能を身につけるために、「専門基礎科目」と「専門科目」からなる「職業専門科目」を編成する。
- ④臨床現場での実践的な職業教育として、「臨地実務実習」を学年進行に沿って段階的に編成する。
- ⑤外国人患者の受け入れに必要な基礎的な姿勢を身につけるために、橋渡しの教養科目と英語科目を編成する。
- ⑥地域コミュニティづくりなどの地域のニーズに対応できる幅広い視野を涵養するために「展開科目」を編成する。
- ⑦教育成果の集大成として「総合科目」を配置し、卒業論文の執筆のために必要な科目を体系的に編成する。
- ⑧教育課程連携協議会を通じて、地域のニーズに沿った授業であるために絶えず教育課程の見直しを行う。

教育内容・方法

- ⑨発信力・コミュニケーション力・プレゼンテーション力を高めるために、少人数編成によるアクティブラーニングを取り入れる。
- ⑩科目に応じて、講義やゼミ、あるいはそれらの組み合わせ等により、効果的な授業を実施する。
- ⑪完成度の高い臨地実務実習にするために、理論系科目と臨床実務実習とを連動させた教育を実施する。
- ⑫最新の理学療法専門知識と高度な実践技能を身につけるため独自の「専門技能錬成プログラム」を実施する。
- ⑬地域のニーズに応えることができる幅広い視野をもつ作業療法士になるために、独自の「展開力育成プログラム」を実施する。

学修成果の評価

全ての授業において、成績判定基準に則り厳正に評価する。

- ⑭科目授業では、筆記試験、レポート、小テスト等で評価する。
- ⑮評価は、S、A、B、C、D、Eの6段階評価で行い、C判定以上を合格とする。
- ⑯臨地実務実習授業では、評価は、S、A、B、C、D、Eの6段階評価で行い、C判定以上を合格とする。

⑰卒業論文は「合」「否」で判定され、目的・方法・結果・考察・引用論文が適切に配置され、研究テーマに沿って論理的な展開がなされているものを「合」とする。

ディプロマ・ポリシーを実現するための教育課程

1) 高い倫理観とコミュニケーション力を身につけるために、基礎科目に「職業人の倫理と道德論」「哲学概論」「心理学」「人間関係論」「コミュニケーション論」および初年次教育として「大学入門」を置き、「基盤ゼミⅠ」「基盤ゼミⅡ」を配置する。

「職業人の倫理と道德論」「哲学概論」により、社会人としての深い倫理観を育み、「心理学」「人間関係論」により、人の思いを受け止める共有する心を養い、「コミュニケーション論」では、日常生活における円滑な対人コミュニケーション力を身につける。これらの授業は主に講義形式で行われ、一部ではグループワークで行われ、論理的思考に基づく発信力とプレゼンテーション力を段階的に磨き、自己研鑽の姿勢を修得するために、「基盤ゼミⅠ」「基盤ゼミⅡ」を置く。まず「大学入門」で身につけた基礎的な知識とスキルを基に、「基盤ゼミⅠ」では、担当教員が提示したテーマの中から学生が選択したテーマについて、「基盤ゼミⅡ」では、学生自らが興味あるテーマを選択して、いずれもプロコン形式を援用して進められる。10人以下の小グループで行われる。

2) 職業現場で外国人患者を受け入れるための基礎的な知識と基礎的英語力を備えるために以下の科目を配置する。まず、基礎的英語力の確認と補完を行うため、入学前にリメディアル授業（教育課程外）を行う。そして、英語力育成への橋渡しの教養科目として、外国人に接する時に必要な要素である日本の歴史と文化を知り、外国の政治や経済の動向を知るために「日本の歴史と文化」と「国際政治経済論」を配置する。いずれも英語教材を使用し、英語により日本の文化や歴史を理解する力を養い、英語により外国の政治や経済の動きを知ることで外国への理解を深めることができる。これらは主に講義として行われ、評価は筆記試験およびレポート提出による。基礎的英語力を鍛錬するために「コミュニケーション英語」と「メディカル英語」を配置する。これらの科目では、日本語を交えて主に英語により授業が行われる。「コミュニケーション英語」では、自主的に英語によるコミュニケーションを行うことにより、英語に対する抵抗感を薄める。「メディカル英語」では、実際に患者を想定して、初診から治療までの基本的な対応や、治療や訓練時のコミュニケーション技法を主に英語で学び、グループ討議や臨場感を体験するためにロールプレイを中心とした実践的学習を行う。この科目で、臨床現場に必要な医療英語の理解力と基礎的英会話力を身につける。

3) 作業療法士に必要な基礎から最新の知識と技術を修得するために「職業専門科目」を配置し、その上に「応用治療技術実習Ⅰ～Ⅲ」を活用する「専門技能錬成プログラム」を展開する。「職業専門科目」の「専門基礎分野」では、「専門分野」の基礎的科目として、「解剖学」・「解剖学実習」、「生理学」・「生理学実習」、「運動学」・「運動学実習」、「病理学」等の基礎医学系科目を配置し、さらに「精神医学」「内科学」「整形外科学」「神経内科学」「小児科学」等の臨床医学系科目を配置して、作業療法士に必要な基礎的医学知識を修得する。実習を除く科目は主に

講義形式で行われるが、解剖学実習については、岡山大学人体解剖学実習に見学参加する。これらの知識を基礎として、「リハビリテーション医学」および「リハビリテーション概論」によりリハビリテーションの全体像を理解する。専門分野では、「作業療法概論」で作業療法の全体像を理解した上で、作業療法に関する療法学や評価学、また身体障害や精神障害の作業療法について、講義・実習・セミナー等の形式で学び、専門知識と技術を修得する。臨地実務実習として、「見学実習」「評価実習」「総合実習Ⅰ」および「総合実習Ⅱ」を学年進行に伴い段階的に配置する。また「職業専門科目」の理論科目と実習科目を組み合わせることを基本とし、これにより「理論」と「実践」を架橋することができ、さらに「総合実習Ⅱ」と新たに設ける「応用治療技術実習Ⅰ～Ⅲ」を連動させることにより、一層高度な専門技術を修得することができる。このような一連の理論と実践を連動させた教育課程の編成を「専門技能錬成プログラム」として展開する。この「専門技能錬成プログラム」により、専門性・実践性を錬磨した応用力が涵養され、一段高い実践力と応用力を育成することができる。

4) 対象者の思いを受け止め共有して、幅広い世代が住み慣れたところでいきいきと生活するために必要なサービスを提供し、多職種と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する力を身につけるために、展開科目として10科目を配置する。まず、基盤的科目として、深い人間理解を基に、対象者の思いを受け止め共有し、対象者が置かれた状況を的確に把握し、それぞれの対象者に適したサービスを創造する力を修得するために「ヒューマンサービス論」「人間形成論」を配置する。次いで、社会を構成する基本単位である家族と家庭生活に生じる様々な問題を分析的にとらえるために「家族関係論」を、地域の課題や地域自治のあり方と住民の生活原理について理解を深めるために「地域社会論」を配置し、これらの科目から家族と地域について理解することができる。さらに、地域のコミュニティを活性化させ対象者と地域社会を結びつけるために必要な知識を修得する「コミュニティ形成論」を配置する。「ライフサイクル論」では、ライフサイクルのなかで時系列的に生じる様々な課題に対して最適な支援を行うために必須の知見を修得する。健康的なライフスタイルを形成することによって健やかな地域コミュニティの構築に貢献できる力を育成するために「地域社会と健康」を配置する。「人間工学」では、地域コミュニティで多様な主体が快適に生活するために必要な工学的視点を修得する。「特別支援教育」では、特別なニーズを持つ子どもを支援する方法について学び、障害を持つ子供が地域で共生できるようなコミュニティを形成してくための基礎的な力を育成する。これらは主に講義形式で行われるが、一部ではグループワークや演習として行われる。そして「岡山経営者論」では、地域で活躍する様々な分野のリーダーから直接、新サービスの創造、新規事業の起業や展開、地域活性化等、他の分野の視点やアイデアの実践を学び、かつ展開力を育成し、地域を活性化する能力を修得することができる。「岡山経営者論」は、オムニバス形式で理学療法学科と合同で行う。

5) 作業療法の課題について分析し、論理的に探求する力を備えるために、「総合科目」を配置する。「総合科目」では、それまでの学修の成果を統括的に活用し、職業現場や地域が抱える課題やニーズについての「気づき」を育て、「アイデア」へ具体化していき卒業論文へとつなげていく。臨地実務実習の中で気づく作業療法分野の課題を卒業論文として完成する過程において、

対象を論理的に分析し思考する力を養う。「総合研究Ⅰ」では、課題の背景や関連する先行研究を把握し、課題の問題点を抽出する力を身につけ、研究の目的を設定し仮説を立て論理的な組み立てができる力を身につける。「総合研究Ⅱ」では、具体的な論文執筆に向けて、論文の骨格を明確にし、科学的根拠に基づいた思考過程を涵養する。「総合演習Ⅰ」では、これまでの様々な経験を振り返りながら、職業現場や地域生活が持つ課題やニーズについて課題を特定化し具体化していく。「総合演習Ⅱ」は「総合演習Ⅰ」の発展形と位置付けられ、職業現場や地域生活がもつ課題やニーズを具体的にサービスの形にしていくアプローチを段階的に学習する。「卒業論文」では、「総合研究Ⅰ」「総合研究Ⅱ」および「総合演習Ⅰ」「総合演習Ⅱ」で培った課題の分析力や探究力を基盤として、さらに対象とする課題について、課題の背景、仮設の設定、期待される効果等について文献的考察を行い、課題の分析力や思考力を高める。

また、基礎的な研究スキルを身につけるために、1年次後期から「情報収集と処理」「統計分析の基礎」「テーマ設定と研究方法」「研究デザイン」を配置し、3年次前期までに研究に対する基本的知識と論理的思考力を体系的に身につける。従って、「評価実習」「総合実習Ⅰ」「総合実習Ⅱ」の臨地実務実習では、研究に関する基礎的知識を身につけた上で臨地実務実習へ臨むことができるため、研究と実習が連動され、臨床現場での「気づき」をさらに深めることができ、より深い現場での課題探求力を身につけることができる。なお研究倫理については、「テーマ設定と研究方法」の中で学ぶ。

(1) 外国人患者の訴えが理解できるレベルの英語力は相当程度高いと考えられるのに対して、対応する科目が4科目しかなく、配置された科目でカリキュラム・ポリシーに掲げる内容が達成できるかに疑義があり、カリキュラム・ポリシーを改めるか、ポリシーを達成するための科目を追加すること、とのご指摘をいただいたことに対して、以下のように改めます。

今回、「外国人患者の訴えが理解できるレベルの英語力」という表現について、本学が意図した英語力のレベルが伝わるように、以下に説明する。

外国人患者の受け入れに対して本学が意図するところは、岡山市で増え続ける在留外国人が、病気や怪我でリハビリテーションを必要とする状況になった時に、職業現場で、外国人患者の受け入れに違和感や抵抗感をもったり躊躇したりすることのない基礎的姿勢を身につけておくことである。なお、基礎的姿勢には、基礎的な知識と基礎的な英語力が含まれる。

この意図から、ディプロマ・ポリシー2)については、「職業現場で外国人患者を受け入れる姿勢をもち患者の訴えが理解できるレベルの英語力を備える。」となっているのを、「職業現場で、外国人患者を受け入れることができる基礎的な姿勢を備える。」と改めた。基礎的な姿勢の中には、基礎的な知識と基礎的英語力が含まれる。

なお、先の面接審査で、カリキュラム・ポリシーが不適切とのご指摘をいただいたことを踏まえて、カリキュラム・ポリシー全体を改めたことにより、当初のカリキュラム・ポリシー2) への対応から、今回ディプロマ・ポリシー2) に掲げた「職業現場で、外国人患者を受け入れることができる基礎的な姿勢を備える。」の実現性について説明する。

この基礎的な姿勢を備えるという目標の実現のために以下のような科目を配置した。まず、外国

人と接する時に必要な基礎的な知識として、日本人として改めて日本の文化や歴史を知ることが肝要であることから「日本の歴史と文化」を、同時に外国の政治や経済の動向を知るために「国際政治経済論」を配置した。いずれも英語教材を使用し、英語により日本の文化や歴史を理解する力を養い、英語により外国の政治や経済の動きを知ることで外国への親近感をもつことができる。このような基礎的な知識と合わせて、基礎的英語力については、入学前にリメディアル教育（教育課程外）を行い、基礎的英語力の確認と補完を行う。そして、基礎的英語力を鍛錬するために「コミュニケーション英語」と「メディカル英語」を配置した。これらの科目では、日本語を交えて主に英語により授業が行われる。「コミュニケーション英語」では、自主的に英語によるコミュニケーションを行うことにより、英語に対する抵抗感を薄める。「メディカル英語」では、実際に患者を想定して、初診から治療までの基本的な対応や、治療や訓練時のコミュニケーション技法を主に英語で学び、グループ討議や臨場感を体験するためにロールプレイを中心とした実践的学習を行う。この科目で、臨床現場に必要な医療英語の理解力と基礎的英会話力を身につける。英語力の評価については、対象となる4科目の単位取得を基準とするが、中でも臨床現場に即した内容を教授する「メディカル英語」のシラバスの到達目標に達していることで対応可能と考えている。

新たに追加するリメディアル教育や「メディカル英語」の必修化を含めた科目配置および教育内容により、本学が意図する、外国人患者を違和感や抵抗感をもったり躊躇したりすることなく受け入れる基礎的な姿勢をもつための基礎的な知識と基礎的英語力を備える、というレベルに到達し得ると考える。

なお、本学が外国人患者への対応をディプロマ・ポリシーに掲げた理由について、以下に説明する。

岡山県の在留外国人数は、2017年時点で25,994人であり、最近ではアジア圏を中心に1年に約1,700人超のペースで増加を続けている。そしてこの在留外国人のうち47.1%は岡山市に在住している。このような状況を鑑みると、岡山市でも、臨床現場において、今後、多様な国籍の外国人が病気や怪我でリハビリテーションを必要とする機会が発生することは容易に予想され、外国人患者が安心してリハビリテーションを受けることができる環境づくりが必要であり、その対応が地域のニーズとして高まってきている。

ディプロマ・ポリシー2)は、このような地域のニーズに対応するため、外国人患者であるという理由で受け入れに違和感や抵抗感をもったり躊躇したりすることなく、国籍に関係なく患者を受け入れることができるようになるために、基礎的な知識と基礎的英語力を備えておくことが必要である、と考えたことにより掲げられたものである。

(新旧対照表) 教育課程の概要、学則(案)

新	旧
大学入門 1前 必修1単位	なし
基礎科目 18科目 必修単位 17単位	基礎科目 17科目 必修単位 15単位
合計 95科目	合計 94科目

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (P6)

新	旧
<p>3) 本学の人材育成教育 (中略)</p> <p>5) 作業療法の課題について分析し、論理的に探究する力を備える。</p> <p>このような能力を備えた理学療法士および作業療法士は、地域が進める「地域包括ケアシステム」の深化・推進に中心的な役割を担うことができ、地域から「地域包括ケアシステム」に参画できる人材の育成を求められていること(資料 1-5)にもマッチする。</p> <p>また、プレゼンテーション能力の涵養を重視している。</p>	<p>3) 本学の人材育成教育 (中略)</p> <p>5) 作業療法の課題について分析し、論理的に探究する力を備える。</p> <p>このような能力を備えた理学療法士および作業療法士は、地域が進める「地域包括ケアシステム」の深化・推進に中心的な役割を担うことができ、地域から「地域包括ケアシステム」に参画できる人材の育成を求められていること(資料 1-5)にもマッチする。</p> <p>また、<u>知識と技術の提供に重点が置かれた既存の医療系の専門学校や大学では必ずしも十分な取り組みとは言えなかったプレゼンテーション能力の涵養を重視している。</u></p>

(新旧対照表) シラバス

新	旧
<p>総合演習 I、総合演習 II 別紙 4</p>	<p>総合演習 I、総合演習 II 別紙 4</p>

(2) 医療分野以外の一般企業との連携が医療分野における多職種連携とどのようにつながるのか不明瞭なため考え方を明らかとすること、とのご指摘をいただいたため以下にその考え方を説明する。

「多職種連携」とは、医療界では、通常、保健・医療・福祉にかかわる様々な職種(医師・看護師・介護福祉士・各療法士・薬剤師・管理栄養士・医療行政職等)の間、即ち、各種医療職種間および医療関連機関の間での連携を意味する。しかし今後、本学では、卒業生の就職先として、スポーツ関連事業や住宅関連企業等の一般企業分野への進出が見込まれるため、また一般企業の職員の健康の維持・向上への取り組みが進む中での企業の産業医や保健師との連携等を含めて、医療関連分野のみならず一般企業との連携を進めていく必要があると認識している。また、現在岡山市が進めている「地域包括ケアシステム」の構築の中で、システムの中核を担う行政職、さらにはこのシステムにかかわる一般企業との連携も必要になってくる。カリキュラムでは、展開科目の「岡山経営者論」で実際に様々な種類の一般企業のリーダーを招聘するため、この科目を通して医療関連分野と一般企業との連携を考え、場合によっては実践する機会になることが期待

される。さらに、行政との連携については、「教育課程連携協議会」の構成員として行政職にも参加をいただいているので、この協議会を通じて行政との連携について協議できるものと思われる。

なお今回、「審査意見への対応を記載した書類（3月）」の48ページの「岡山経営者論」の説明の中で、「・・・地域で活躍する多職種のリーダーから直接・・・」という表現があったが、この表現を「様々な職種のリーダー」に改める。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（P18）

新	旧
ウ. 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 （前略） <u>「多職種連携論」では、関連職種の役割について理解し、チーム医療を主導するための基本的知識と多職種における連携のあり方および課題について学ぶ。</u>	ウ. 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 （前略） <u>「多職種連携論」は、関連職種の役割について理解し、チーム医療を主導するための基本的知識と多職種における連携のあり方および課題について学ぶ。「地域包括マネジメント論」は、超高齢社会における地域のケアマネジメントの実際を学ぶ。</u>

(是正意見) 健康科学部 理学療法学科, 作業療法学科

4. 一般入学試験では学力試験が課されるが、アドミッション・オフィス入試、自己推薦入学試験、指定校推薦入学試験、推薦入学試験の4つの試験区分ではどのように学生の学力をはかり質を担保するのか、明らかとすること。

(対応) アドミッション・オフィス入試、自己推薦入学試験、指定校推薦入学試験、推薦入学試験の4つの試験区分ではどのように学生の学力をはかり質を担保するのかというご意見をいただいたため、次の通り明確にする。

岡山医療専門職大学では、基礎科目・職業専門科目・展開科目および総合科目を体系化したカリキュラムで提供することにより、ディプロマ・ポリシーに掲げる学士力を備え、変化の激しい時代とニーズに対応できる人材を養成する。

本学の教育を受けるのに必要な資質と基礎学力を有し、本学のディプロマ・ポリシーに掲げる学士力を身につけたいという強い意欲をもつ者で、変化の激しい時代の地域社会に貢献しようという意志を有する者を、多様な入学試験方法により受け入れる。

選抜の基本方針(アドミッション・ポリシー)は、次のとおりとする。

アドミッション・ポリシー

(理学療法学科)

- (1) 理学療法を修得するという強い意欲を有する人
- (2) 高等学校卒業程度の基礎学力と英語力を備えている人
- (3) 倫理観と他者への思いやりと誠実な心を持ち、コミュニケーション力を備えている人
- (4) 自らの考えを的確に表現でき、問題解決に取り組む姿勢と論理的思考力を持ち、主体的に学べる人
- (5) 変化の激しい時代の地域社会に貢献したいと考える人

(作業療法学科)

- (1) 作業療法を修得するという強い意欲を有する人
- (2) 高等学校卒業程度の基礎学力と英語力を備えている人
- (3) 倫理観と他者への思いやりと誠実な心を持ち、コミュニケーション力を備えている人
- (4) 自らの考えを的確に表現でき、問題解決に取り組む姿勢と論理的思考力を持ち、主体的に学べる人
- (5) 変化の激しい時代の地域社会に貢献したいと考える人

審査意見【1】 および面接審査でのご意見を踏まえてディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを改めたことにもない、DP, CP との整合性を確保し、学力の3要素をはかる視点から、現行のアドミッション・ポリシーを再整理し、さらに明確化した。

入試区分別の学力のはかり方、質の担保の方法は次のとおりである。

A0 (アドミッション・オフィス) 入学試験

- ・岡山医療専門職大学での勉学を強く希望し、合格した場合必ず入学することを確約できる者。

1 次試験

書類審査（本学指定様式のエントリーシート、調査書）を行い、募集人員の2倍以内に絞る。

2 次試験

1 学習試験

1) 講義の受講

受験者は、リハビリテーションに関連する講義（60分）を受講する。

2) レポート作成（30分）

講義受講後、大学規定のレポート用紙に、講義中の筆記ノートを参照しつつ、講義内容をまとめ、その中で自分が最も関心・興味をもった点について併せて記述し、提出する。

3) 筆記試験（30分）

講義の内容の理解度を確認する。

2 発表とディスカッション（45分）

5人程度のグループに分けて、自分が最も興味をもったこと、関連した発展的なテーマ等について全員発表（1人2分程度）を行う。全員の発表に基づき、ディスカッションをする。

面談試験の評価ポイント

学校側2人、受験生1人で面談試験を行う。

評価のポイント

1 学習試験

- ・講義の内容を正確に理解できる基礎学力をもっているか。
- ・講義の内容を踏まえて、論理的に思考し、より発展的な考えが述べられるか。

2 ディスカッション

- ・問題を理解して、自分の考えや意見をまとめる論理的思考力をもっているか。
- ・その考えや意見を適切な言葉で表現し、相手に分かりやすく伝えるコミュニケーション力をもっているか。

面談試験の評価ポイント

- ・旺盛な好奇心、探求心、目的意識、自主的に取り組む姿勢をもっているか。
- ・多様な価値観を尊重し、協調性、思いやり、誠実に対応する心構えがあるか。
- ・質問の意図や意味を正確に理解し、自分の考えをきちんと相手に伝えられるコミュニケーション力があるか。
- ・変化の激しい時代の地域社会に貢献したいという思いがあるか。

1次試験、2次試験、面談試験により、学習の3要素を多角的・総合的にはかり、本学のDP, CPに合致すると考えられる多様な入学者を選抜する。

アドミッション・ポリシーへの対応

APとA0入学試験との関係性

(理学療法学科)

選抜方法	AP (1)	AP (2)	AP (3)	AP (4)	AP (5)
調査書	○				
エントリーシート	○			○	○
学習試験 (筆記)		○		○	
学習試験 (グループディスカッション)	○		○	○	
面談	○		○	○	○

(作業療法学科)

選抜方法	AP (1)	AP (2)	AP (3)	AP (4)	AP (5)
調査書	○				
エントリーシート	○			○	○
学習試験 (筆記)		○		○	
学習試験 (グループディスカッション)	○		○	○	
面談	○		○	○	○

自己推薦入学試験

岡山医療専門職大学での勉学を強く希望し、資格や検定取得実績等を有し、合格した場合必ず入学することを確約できる者。

1 次試験

書類審査 (資格や検定取得実績等に基づく任意の様式の自己推薦書、調査書)
募集人員の2倍以内に絞る。

2 次試験

1 学習試験

1) 講義の受講

志願者は、リハビリテーションに関する講義 (60 分) を受講する。

2) レポート作成 (30 分)

講義受講後、大学規定のレポート用紙に、講義中の筆記ノートを参照しつつ、講義内容をまとめ、その中で自分が最も関心・興味をもった点について併せて記述し、提出する。

3) 筆記試験 (30 分)

講義の内容の理解度を確認する。

2 発表とディスカッション (45 分)

5 人程度のグループに分けて、自分が最も興味をもったこと、関連した発展的なテーマ等について全員発表 (一人2分程度) する。全員の発表に基づき、ディスカッションする。

面談試験

学校側 2 人、志願者 1 人で面談試験を行う。

評価のポイント

1 学習試験

- ・講義の内容を正確に理解できる基礎学力をもっているか。
- ・講義の内容を踏まえて、論理的に思考し、より発展的な考えが述べられるか。

2 ディスカッション

- ・問題を理解して、自分の考えや意見をまとめる論理的思考力をもっているか。
- ・その考えや意見を適切な言葉で表現し、相手に分かりやすく伝えるコミュニケーション力をもっているか。

面談試験の評価ポイント

- ・理学療法士・作業療法士として、地域社会に貢献しようとする明確な目的意識をもち、勉学に対する意欲を十分に備えているか。
- ・活動実績やそれを踏まえた自分の意見を他人に的確に伝えられるような論理的思考力と表現力を身につけているか。
- ・十分なコミュニケーション力をもっているか。
- ・多様な価値観を受け入れ、旺盛な好奇心、探求心、目的意識や実践力をもっているか。

1 次試験、2 次試験、面談試験により、学習の 3 要素を多角的・総合的にはかり、本学の DP, CP に合致すると考えられる多様な入学者を選抜する。

アドミッション・ポリシーへの対応

AP と自己推薦入学試験との関係性

(理学療法学科)

選抜方法	AP (1)	AP (2)	AP (3)	AP (4)	AP (5)
自己推薦書	○			○	○
調査書		○		○	
学習試験 (筆記)		○		○	
学習試験 (グループディスカッション)	○		○	○	
面談	○		○	○	○

(作業療法学科)

選抜方法	AP (1)	AP (2)	AP (3)	AP (4)	AP (5)
自己推薦書	○			○	○
調査書		○		○	
学習試験 (筆記)		○		○	
学習試験 (グループディスカッション)	○		○	○	
面談	○		○	○	○

指定校推薦入学試験

- ・岡山医療専門職大学での勉学を強く希望し、合格した場合必ず入学することが確約できる者で、本校が指定する高等学校長が人物・能力・資質・適性等に責任をもって推薦できる者
- ・調査書の評定平均値が5段階評価において3.5以上の者
- ・卒業後、理学療法士・作業療法士として岡山地域社会に貢献しようという強い意志を有する者

面接試験の評価ポイント

- ・本学への志望動機、理学療法士・作業療法士として岡山地域社会へ貢献しようとする姿勢をもっているか。
- ・旺盛な好奇心、探究心、目的意識、自主的に取り組む姿勢をもっているか。
- ・多様な価値観を尊重し、協調性、思いやり、誠実に対応する心構えがあるか。
- ・質問の意図や意味を正確に理解し、自分の考えをきちんと相手に伝えられるコミュニケーション力があるか。

書類審査 (調査書・推薦書・入学願書志望理由)、面接において学力の3要素を総合的に判定する。

AP と指定校推薦入学試験との関係性

(理学療法学科)

選抜方法	AP (1)	AP (2)	AP (3)	AP (4)	AP (5)
調査書		○			
推薦書	○		○	○	
面接	○		○	○	○

(作業療法学科)

選抜方法	AP (1)	AP (2)	AP (3)	AP (4)	AP (5)
調査書		○			
推薦書	○		○	○	
面接	○		○	○	○

推薦入学試験

- ・岡山医療専門職大学での勉学を強く希望し、出身学校長が、人物・能力・資質・適性等に責任をもって推薦できる者
- ・調査書の評定平均値が5段階評価において3.2以上の者
- ・卒業後、理学療法士・作業療法士として岡山地域社会に貢献しようという強い意志を有する者

小論文試験（60分、800字以内）

志願者がリハビリテーション分野に関連するテーマについて小論文を800字以内で書く。

評価のポイント

- ・的確な問題提起がなされているか。
- ・論文構成が適切か。
- ・自分の考えが論理的に述べられているか。
- ・正確な文章表現ができていないか。

面接試験の評価ポイント

- ・本学への志望動機、理学療法士・作業療法士として岡山地域社会に貢献しようとする姿勢をもっているか。
- ・旺盛な好奇心、探究心、目的意識、自主的に取り組む姿勢をもっているか。
- ・多様な価値観を尊重し、協調性、思いやり、誠実に対応する心構えがあるか。
- ・質問の意図や意味を正確に理解し、自分の考えをきちんと相手に伝えられるコミュニケーション力があるか。

書類審査（調査書・推薦書・入学願書志望理由）、小論文、面接において学力の3要素を総合的に判定する。

APと推薦入学試験との関係性

（理学療法学科）

選抜方法	AP (1)	AP (2)	AP (3)	AP (4)	AP (5)
調査書		○			
推薦書	○		○		
小論文		○	○	○	○
面接	○		○	○	○

（作業療法学科）

選抜方法	AP (1)	AP (2)	AP (3)	AP (4)	AP (5)
調査書		○			
推薦書	○		○		
小論文		○	○	○	○
面接	○		○	○	○

以上のとおり AO 入学試験、自己推薦入学試験、指定校推薦入学試験、推薦入学試験で学力の 3 要素をはかり、本学の DP, CP に合致すると考えられる多様な入学者を選抜し、学生の質が担保することができる。

面接審査において、アドミッション・ポリシーで求める人材が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを達成するための人材としてギャップがあるとのこと指摘をいただいたが、本学では上記で説明した入学試験によって DP, CP を十分に達成できる水準の学生を選抜できると考えている。また、AO 入学試験・指定校推薦入学試験・自己推薦入学試験・推薦入学試験合格者を対象に、入学前に学力レベルのさらなる充実をはかるためのリメディアル教育として、国語、数学、英語、理科、社会の全分野において e-learning による補完教育を実施する。

入学後には、全学生に少人数編成で双方向の授業を行う初年次教育を導入し、大学での学びに円滑に移行し自立的に学ぶために必要な、文献や資料の要約スキルやレポートの書き方、ディスカッションスキル等の修得をはかり、DP や CP を確実に達成できる能力を身につける。

(新旧対照表) アドミッション・ポリシー、設置の趣旨等を記載した書類 (P46-47)

新	旧
アドミッション・ポリシー (理学療法学科) (1) 理学療法を修得するという強い意欲を有する人 (2) <u>高等学校卒業程度の基礎学力と英語力を備えている人</u> (3) <u>倫理観と他者への思いやりと誠実な心を持ち、コミュニケーション力を備えている人</u> (4) <u>自らの考えを的確に表現でき、問題解決に取り組む姿勢と論理的思考力を持ち、主体的に学べる人</u> (5) <u>変化の激しい時代の地域社会に貢献したいと考える人</u> (作業療法学科)	アドミッション・ポリシー (理学療法学科) (1) 理学療法を修得するという強い意欲を有し、 <u>高等学校卒業程度の基礎学力と英語力を備えている人</u> (2) <u>倫理観と他者への思いやりと誠実な心を持ち、コミュニケーション力を高めたい人</u> (3) <u>自らの考えを持ち、問題解決に取り組む姿勢とチャレンジ精神のある人</u> (4) <u>地域に貢献したいと考える人</u> (作業療法学科)

<p>(1) <u>作業療法を修得するという強い意欲を有する人</u></p> <p>(2) <u>高等学校卒業程度の基礎学力と英語力を備えている人</u></p> <p>(3) <u>倫理観と他者への思いやりと誠実な心を持ち、コミュニケーション力を備えている人</u></p> <p>(4) <u>自らの考えを的確に表現でき、問題解決に取り組む姿勢と論理的思考力を持ち、主体的に学べる人</u></p> <p>(5) <u>変化の激しい時代の地域社会に貢献したいと考える人</u></p>	<p>(1) <u>作業療法を修得するという強い意欲を有し、高等学校卒業程度の基礎学力と英語力を備えている人</u></p> <p>(2) <u>倫理観と他者への思いやりと誠実な心を持ち、コミュニケーション力を高めたい人</u></p> <p>(3) <u>自らの考えを持ち、問題解決に取り組む姿勢とチャレンジ精神のある人</u></p> <p>(4) <u>地域に貢献したいと考える人</u></p>
---	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (P47-54)

新	旧
<p>2. 入学者の選抜方法</p> <p>(1) 選抜区分と募集人員</p> <p>入学者選抜は、文部科学省「大学入学者選抜実施要項」に基づき実施する。</p> <p><u>本学の教育を受けるのに必要な資質と基礎学力を有し、本学のディプロマ・ポリシーに掲げる学士力を身につけたいという強い意欲をもつ者で、変化の激しい時代の地域社会に貢献しようという意志を有する者を、多様な入学試験方法により受け入れる。</u></p> <p>(中略)</p> <p>(3) 選抜方法</p> <p>1) A0 (アドミッション・オフィス) 入学試験</p> <p><u>岡山医療専門職大学での勉学を強く希望し、合格した場合必ず入学することを確約できる者。</u>エントリー資格は、入学資格があり、入学前に本学のオープンキャンパスもしくは学校見学のいずれかに参加した者とする。</p> <p>実施期間：8月、9月、10月の期間で4回実施</p>	<p>2. 入学者の選抜方法</p> <p>(1) 選抜区分と募集人員</p> <p>入学者選抜は、文部科学省「大学入学者選抜実施要項」に基づき実施する。<u>本学部において、意欲が高く多様な資質・能力・適性等を備える学生を選抜するため、次のとおり入学試験を実施する。</u></p> <p>(中略)</p> <p>(3) 選抜方法</p> <p>1) A0 (アドミッション・オフィス) 入学試験</p> <p>エントリー資格は、入学資格があり、入学前に本学のオープンキャンパスもしくは学校見学のいずれかに参加した者とする。</p> <p>実施期間：8月、9月、10月の期間で4回実施</p> <p>選考方法：書類審査、学習試験※1、面談</p> <p>※1 学習試験は30分の講義を行</p>

選考方法：書類審査、学修試験、面談

1次試験

書類審査（本学指定様式のエントリーシート、調査書）を行い、募集人員の2倍以内に絞る。

2次試験

1 学習試験

1) 講義の受講

受験者は、リハビリテーションに関連する講義（60分）を受講する。

2) レポート作成（30分）

講義受講後、大学規定のレポート用紙に、講義中の筆記ノートを参照しつつ、講義内容をまとめ、その中で自分が最も関心・興味をもった点について併せて記述し、提出する。

3) 筆記試験（30分）

講義の内容の理解度を確認する。

2 発表とディスカッション（45分）

5人程度のグループに分けて、自分が最も興味をもったこと、関連した発展的なテーマ等について全員発表（1人2分程度）を行う。全員の発表に基づき、ディスカッションをする。

面談試験

学校側2人、受験生1人で面談試験を行う。

評価のポイント

1 学習試験

・講義の内容を正確に理解できる基礎学力をもっているか。

・講義の内容を踏まえて、論理的に思考し、より発展的な考えが述べられるか。

2 ディスカッション

・問題を理解して、自分の考えや意見をまとめる論理的思考力をもっているか。

・その考えや意見を適切な言葉で表現し、相手に分かりやすく伝えるコミュニケー

い、講義に対する理解度を見る。思考力、理解力、問題整理能力、問題解決能力を測るために、筆記試験とする。また学習試験の内容をテーマにグループディスカッションを行い、ディスカッションする姿勢・意見の内容・他者の意見を取り入れる姿勢を含め、審査を行う。

募集人員：理学療法学科 40名、作業療法学科 20名

	理学療法学科	作業療法学科
A日程	10名	5名
B日程	15名	7名
C日程	10名	5名
D日程	5名	3名
合計	40名	20名

シヨン力をもっているか。

面談試験の評価ポイント

・旺盛な好奇心、探求心、目的意識、自主的に取り組む姿勢をもっているか。

・多様な価値観を尊重し、協調性、思いやり、誠実に対応する心構えがあるか。

・質問の意図や意味を正確に理解し、自分の考えをきちんと相手に伝えられるコミュニケーション力があるか。

・変化の激しい時代の地域社会に貢献したいという思いがあるか。

1次試験、2次試験、面談試験により、学習の3要素を多角的・総合的にはかり、本学のDP, CPに合致すると考えられる多様な入学者を選抜する。

アドミッション・ポリシーへの対応

APとA0入学試験との関係性

(理学療法学科)

選抜方法	AP (1)	AP (2)	AP (3)	AP (4)	AP (5)
調査書	○				
エントリート	○			○	○
学習試験(筆記)		○		○	
学習試験(グループディスカッション)	○		○	○	
面談	○		○	○	○

(作業療法学科)					
選抜方法	AP (1)	AP (2)	AP (3)	AP (4)	AP (5)
調査書	○				
エントリーシート	○			○	○
学習試験(筆記)		○		○	
学習試験(グループディスカッション)	○		○	○	
面談	○		○	○	○

募集人員：理学療法学科 40 名、作業療法学科 20 名

	理学療法学科	作業療法学科
A 日程	10 名	5 名
B 日程	15 名	7 名
C 日程	10 名	5 名
D 日程	5 名	3 名
合計	40 名	20 名

2) 自己推薦入学試験

出願資格は、入学資格がある者で、岡山医療専門職大学での勉学を強く希望し、資格や検定取得実績等を有し、合格した場合必ず入学することを確約できる者。

実施時期：10 月下旬
選考方法：書類審査・学修試験・面談

2) 自己推薦入学試験

出願資格は、入学資格がある者とする。

実施時期：10 月下旬
選考方法：書類審査、学習試験※1、面談

※1 学習試験は 30 分の講義を行い、講義に対する理解度を見る。思考力、理解力、問題整理能力、問題解決能力を測るために、筆記試験とする。また学習試験の

<p>1 次試験 書類審査（資格や検定取得実績等に基づく任意の様式の自己推薦書、調査書） 募集人員の2倍以内に絞る。</p> <p>2 次試験 1 学習試験 1) 講義の受講 志願者は、リハビリテーションに関する講義（60分）を受講する。 2) レポート作成（30分） 講義受講後、大学規定のレポート用紙に、講義中の筆記ノートを参照しつつ、講義内容をまとめ、その中で自分が最も関心・興味をもった点について併せて記述し、提出する。 3) 筆記試験（30分） 講義の内容の理解度を確認する。 2 発表とディスカッション（45分） 5人程度のグループに分けて、自分が最も興味をもったこと、関連した発展的なテーマ等について全員発表（一人2分程度）する。全員の発表に基づき、ディスカッションする。</p> <p>面談試験 学校側2人、志願者1人で面談試験を行う。</p> <p>評価のポイント 1 学習試験 ・講義の内容を正確に理解できる基礎学力をもっているか。 ・講義の内容を踏まえて、論理的に思考し、より発展的な考えが述べられるか。 2 ディスカッション ・問題を理解して、自分の考えや意見をまとめる論理的思考力をもっているか。 ・その考えや意見を適切な言葉で表現し、相手に分かりやすく伝えるコミュニケー</p>	<p>内容をテーマにグループディスカッションを行い、ディスカッションする姿勢・意見の内容・他者の意見を取り入れる姿勢を含め、審査を行う。</p> <p>募集人員：理学療法学科：8名、作業療法学科5名</p>
---	---

ション力をもっているか。

面談試験の評価ポイント

・理学療法士・作業療法士として、地域社会に貢献しようとする明確な目的意識を持ち、勉学に対する意欲を十分に備えているか。

・活動実績やそれを踏まえた自分の意見を他人に的確に伝えられるような論理的思考力と表現力を身につけているか。

・十分なコミュニケーション力をもっているか。

・多様な価値観を受け入れ、旺盛な好奇心、探求心、目的意識や実践力をもっているか。

1次試験、2次試験、面談試験により、学習の3要素を多角的・総合的にはかり、本学のDP, CP に合致すると考えられる多様な入学者を選抜する。

アドミッション・ポリシーへの対応

APと自己推薦入学試験との関係性

(理学療法学科)

選抜方法	AP (1)	AP (2)	AP (3)	AP (4)	AP (5)
自己推薦書	○			○	○
調査書		○		○	
学習試験(筆記)		○		○	
学習試験(グループディスカッション)	○		○	○	
面談	○		○	○	○

(作業療法学科)

選抜方法	AP (1)	AP (2)	AP (3)	AP (4)	AP (5)
自己推薦書	○			○	○
調査書		○		○	
学習試験(筆記)		○		○	
学習試験(グループディスカッション)	○		○	○	
面談	○		○	○	○

募集人員：理学療法学科：8名、作業療法学科
5名

3) 指定校推薦入学試験

- ・岡山医療専門職大学での勉学を強く希望し、合格した場合必ず入学することが確約できる者で、本校が指定する高等学校長が人物・能力・資質・適性等に責任をもって推薦できる者
- ・調査書の評定平均値が5段階評価において3.5以上の者
- ・卒業後、理学療法士・作業療法士として岡山地域社会に貢献しようという強い意志を有する者

実施時期：10月下旬

選考方法：書類審査、面接

面接試験の評価ポイント

- ・本学への志望動機、理学療法士・作業療法

3) 指定校推薦入学試験

出願資格は、入学年の3月までに高等学校等を卒業見込みで、調査書の評定平均値が5段階評価において3.5以上であり、本学が指定校とする学校長の推薦を受けた者とする。

実施時期：10月下旬

選考方法：書類審査、面接

募集人員：理学療法学科10名、作業療法学科
5名

士として岡山地域社会へ貢献しようとする姿勢をもっているか。

・旺盛な好奇心、探究心、目的意識、自主的に取り組む姿勢をもっているか。

・多様な価値観を尊重し、協調性、思いやり、誠実に対応する心構えがあるか。

・質問の意図や意味を正確に理解し、自分の考えをきちんと相手に伝えられるコミュニケーション力があるか。

書類審査（調査書・推薦書・入学願書志望理由）、面接において学力の3要素を総合的に判定する。

APと指定校推薦入学試験との関係性

（理学療法学科）

選抜方法	AP (1)	AP (2)	AP (3)	AP (4)	AP(5)
調査書		○			
推薦書	○		○	○	
面接	○		○	○	○

（作業療法学科）

選抜方法	AP (1)	AP (2)	AP (3)	AP (4)	AP(5)
調査書		○			
推薦書	○		○	○	
面接	○		○	○	○

募集人員：理学療法学科 10名、作業療法学科 5名

4) 推薦入学試験

4) 推薦入学試験

出願資格は、入学年の3月までに高等学校

<p><u>出願資格は、入学年の3月までに高等学校等を卒業見込みで、調査書の評定平均値が5段階評価において3.2以上であり、学校長の推薦を受けた者とする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>岡山医療専門職大学での勉学を強く希望し、出身学校長が、人物・能力・資質・適性等に責任をもって推薦できる者</u> ・<u>調査書の評定平均値が5段階評価において3.2以上の者</u> ・<u>卒業後、理学療法士・作業療法士として岡山地域社会に貢献しようという強い意志を有する者</u> <p><u>実施時期：11月下旬</u> <u>選考方法：書類審査、学力試験：小論文、面接</u></p> <p><u>小論文試験（60分、800字以内）</u> <u>志願者がリハビリテーション分野に関連するテーマについて小論文を800字以内で書く。</u></p> <p><u>小論文の評価ポイント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>的確な問題提起がなされているか。</u> ・<u>論文構成が適切か。</u> ・<u>自分の考えが論理的に述べられているか。</u> ・<u>正確な文章表現ができているか。</u> <p><u>面接試験の評価ポイント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>本学への志望動機、理学療法士・作業療法士として岡山地域社会に貢献しようとする姿勢をもっているか。</u> ・<u>旺盛な好奇心、探究心、目的意識、自主的に取り組む姿勢をもっているか。</u> ・<u>多様な価値観を尊重し、協調性、思いやり、誠実に対応する心構えがあるか。</u> ・<u>質問の意図や意味を正確に理解し、自分の考えをきちんと相手に伝えられるコミュニケーション力があるか。</u> 	<p>等を卒業見込みで、調査書の評定平均値が5段階評価において3.2以上であり、学校長の推薦を受けた者とする。</p> <p>実施時期：11月下旬</p> <p>選考方法：書類審査、学力試験：小論文、面接 募集人員：理学療法学科5名、作業療法学科3名</p>
---	---

書類審査（調査書・推薦書・入学願書志望理由）、小論文、面接において学力の3要素を総合的に判定する。

APと推薦入学試験との関係性

（理学療法学科）

選抜方法	AP (1)	AP (2)	AP (3)	AP (4)	AP(5)
調査書		○			
推薦書	○		○		
小論文		○	○	○	○
面接	○		○	○	○

（作業療法学科）

選抜方法	AP (1)	AP (2)	AP (3)	AP (4)	AP(5)
調査書		○			
推薦書	○		○		
小論文		○	○	○	○
面接	○		○	○	○

募集人員：理学療法学科 5名、作業療法学科 3名

5) 一般入学試験

出願資格は、入学資格がある者とする。

実施時期：2月、3月で3回実施

選考方法：書類審査、学力試験：国語（現代文）、コミュニケーション英語、面接

5) 一般入学試験

出願資格は、入学資格がある者とする。

実施時期：2月、3月で3回実施

選考方法：書類審査、学力試験：国語（現代文）、コミュニケーション英語、面接

募集人員：理学療法学科 17名、作業療法学科 6名

募集人員：理学療法学科 17 名、作業療法学科
6 名

	理学療法学 科	作業療法学科
1 次	6 名	2 名
2 次	7 名	2 名
3 次	4 名	2 名
合計	17 名	6 名

	理学療法学 科	作業療法学科
1 次	6 名	2 名
2 次	7 名	2 名
3 次	4 名	2 名
合計	17 名	6 名

書類審査（調査書・入学願書志望理由）、
学力試験：国語（現代文）、コミュニケーション英語、面接において学力の 3 要素を総合的に判定する。

AP と一般入学試験との関係性

（理学療法学科）

選抜 方法	AP (1)	AP (2)	AP (3)	AP (4)	AP(5)
調査 書		○			
学力 試験		○			
面接	○		○	○	○

（作業療法学科）

選抜 方法	AP (1)	AP (2)	AP (3)	AP (4)	AP(5)
調査 書		○			
学力 試験		○			
面接	○		○	○	○

5. 社会人は学則第 34 条第 3 項により社会人（実務経験）として単位認定を行うとしており、実務経験による単位認定は、病院並びに施設等における実務経験が本学の理学療法・作業療法実習に相当すると判定できる場合には、臨地実務実習の当該単位とみなして認定すると説明されているが、実務経験として単位認定がされる具体例を挙げて明らかとすること。その際、既に理学療法士、作業療法士の資格を有している社会人を想定しているのであれば、その旨を記載するとともに、仮にそうした学生を編入生として受け入れる場合、学生の臨地実務実習はどのような扱いとなるのか明らかにすること。

(対応) 社会人の実務経験を単位認定する際、既に理学療法士、作業療法士の資格を有している社会人を想定しているのであれば、その旨を記載するとともに、仮にそうした学生を編入生として受け入れる場合、学生の臨地実務実習はどのような扱いとなるのか明らかにすることとご意見をいただいたため、明確にする。

本学では、実務経験を単位認定する社会人とは既に理学療法士、作業療法士の資格を有している社会人を想定している。そのため仮に編入生として受け入れる場合、理学療法士・作業療法士としての病院ならびに施設等における実務経験が本学の理学療法・作業療法実習に相当すると判定できる場合に、臨地実務実習（見学実習、評価実習、総合実習Ⅰ・Ⅱ）の当該単位とみなし、理学療法学科では 20 単位、作業療法学科では 22 単位を限度として単位認定をする。また学則第 33 条第 1 項、第 3 項により既修単位の認定を行い、実務経験と併せて 60 単位を限度として認め、単位履修状況に応じて、編入年次を決定する。

面接審査において実務経験を有する者の編入学年次についてのご質問に対し、専門職大学設置基準第 29 条第 1 項「専門職大学に四年以上在学すること。」から在学期間が 4 年以上必要であると考え、1 年次編入を受け入れると回答させていただきました。しかしながら、文部科学省高等教育局専門教育課に確認した所、専門職大学においても大学と同様、学校教育法施行規則第 186 条第 2 項を準用し編入学が可能であるとの回答をいただいたことから、理学療法士・作業療法士を養成する専門学校卒業者ならびに大学卒業者については、単位履修状況に応じて、編入年次を決定する。

また、他大学・他学部等における授業科目の履修に係る単位認定は学則第 33 条第 1 項から第 3 項を適用し、60 単位を限度として所属学科において単位認定する。

ただし、編入学に関しては定員に欠員が出た場合のみとする。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (P41)

新	旧
⑥ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 4. 単位互換制度 他大学等での取得単位は 60 単位を限度として所属学科において取得した単位とみなすことができる。単位の認定については、教授会で審議し	⑥ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 4. 単位互換制度 他大学等での取得単位は 60 単位を限度として所属学科において取得した単位とみなすことができる。単位の認定については、教授会で審議し

<p>た上で決定する。</p> <p>実務経験による単位認定は、その都度個別に教授会で審査した上で決定する。なお、実務経験による単位認定は、<u>理学療法士・作業療法士として病院ならびに施設等における実務経験が本学の理学療法・作業療法実習に相当すると判定できる場合には、臨地実務実習（見学実習、評価実習、総合実習Ⅰ・総合実習Ⅱ）の当該単位とみなし、理学療法学科では20単位、作業療法学科では22単位を限度として所属学科において取得した単位認定をする。なお、編入受け入れに際しては、単位履修状況に応じて、編入年次を決定する。</u></p>	<p>た上で決定する。</p> <p>実務経験による単位認定は、その都度個別に教授会で審査した上で決定する。なお、実務経験による単位認定は、病院ならびに施設等における実務経験が本学の理学療法・作業療法実習に相当すると判定できる場合には、臨地実務実習（見学実習、評価実習、総合実習Ⅰ・総合実習Ⅱ）の当該単位とみなし、理学療法学科では20単位、作業療法学科では22単位を限度として所属学科において取得した単位とみなすことができる。</p>
---	---

(新旧対照表) 学則第34条

新	旧
<p>(大学以外の教育施設等における学修)</p> <p>第34条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が行なう短期大学または、高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。</p> <p>2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項から第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。</p> <p>3 実務経験による単位認定は、その都度個別に教授会で審査した上で決定する。なお、実務経験による単位認定は、<u>理学療法士・作業療法士としての病院ならびに施設等における実務経験が本学の理学療法・作業療法実習に相当すると判定できる場合には、臨地実務実習（見学実習、評価実習、総合実習Ⅰ・Ⅱ）の当該単位とみなし、理学療法学科では20単位、作業療法学科では22単位を限度として所属学科において修得した単位とみなすことができる。</u></p>	<p>(大学以外の教育施設等における学修)</p> <p>第34条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が行なう短期大学または、高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。</p> <p>2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項から第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。</p> <p>3 実務経験による単位認定は、その都度個別に教授会で審査した上で決定する。なお、実務経験による単位認定は、病院ならびに施設等における実務経験が本学の理学療法・作業療法実習に相当すると判定できる場合には、臨地実務実習（見学実習、評価実習、総合実習Ⅰ・Ⅱ）の当該単位とみなし、理学療法学科では20単位、作業療法学科では22単位を限度として所属学科において修得した単位とみなすことができる。</p> <p>4 前1項の実施に関して必要な事項は別に定め</p>

4 前1項の実施に関して必要な事項は別に定める。	る。
--------------------------	----

6. 一定程度の定員充足の見通しが示されたが、定員充足の根拠の一つとしている客観的データのクロス集計方法に疑義がある。例えば、本学のオープンキャンパス参加者を対象としたアンケート調査の分析は、4年制大学への進学希望学生と、短期大学や専門学校への進学希望学生を区分せず、専門職大学への進学希望者と想定した分析がされており、不適切であるため改めること。

(対応) 4年制大学進学希望者と短期大学や専門学校進学希望者とを区分せずに専門職大学への進学希望者と想定した分析がなされており不適切である、とのご意見を頂きましたので、アンケート調査の分析について改めて説明いたします。

ご指摘の通り、本アンケートでは、学生がオープンキャンパス(OC)に参加した時点での、4年制大学へ進学希望者(164名)、短大へ進学希望者(50名)、専門学校へ進学希望者(87名)、就職希望者(26名)、その他(7名)合計334名からの回答を集計して、岡山専門職大学への入学希望の有無を調査し分析したものである。

結果は、岡山専門職大学(定員120名)に、「入学を希望する」者152名、「受験先の一つとして考える」者146名、「入学を希望しない」者36名であった。

この結果は、OCに参加した高校生の岡山専門職大学への入学希望・受験希望の有無の状況を適切に反映していると考えられますので、その理由を以下に説明いたします。

アンケートに回答した時点(平成30年7月25日から平成30年10月2日の間に開催されたOC)で、大学進学希望としていた生徒だけでなく、専門学校進学希望や短期大学進学希望と答えた生徒も、岡山専門職大学に非常に高い関心を示しており、171名が本専門職大学に「とても興味がある」と答え、104名が「興味がある」と答えている。このことは、高校生の進路選択希望がかなり流動的であるという状況を示しているといえる。

岡山地域では、専門学校進学希望者や短期大学進学希望者が大学進学希望へと進路変更することは珍しくなく、大学を併願することも少なくない。特に夏休み前後に、最終的に進路先を決定する生徒が多いため、高校生の進路希望が最終的に固まっていくプロセスを反映した回答になっているとみられる。

このような高校生の進路決定状況を全国的に調査し分析した結果が、(株)リクルートマーケティングパートナーズ「志望校種変更時期(進学センサス2016)」として公表されている。それによると、高校生の進路変更で最も多いのは「専門学校から大学」であり、変更の時期は「高2の夏休み後から高3の4月」が3割、「高2の4月から夏休み後」が2割、「高3の4月から夏休み」が2割を占めている。そして短大から大学への希望進路変更についても同じような傾向がみられることが示されている(資料1)。

このような高校生の進路決定事情を考慮すれば、大学進学希望者のみならず専門学校進学希望者・短大進学希望者を特に区分せずに、すべての参加者を対象としたアンケートを行い、高校生の進路変更意志も踏まえて入学希望を確認することで、岡山専門職大学への入学希望・受験希望の状況を的確に把握することができると考えられる。したがって、そのデータを基にして定員充足の程度を判断することは自然であり適切な方法であると考えられる。そのため、このアンケート結果は、本学の定員充足に必要な十分な志願者があることを示していると考えられる。

補足資料

上記のアンケート結果は、本学が平成30年7月に専門職大学設置申請を一旦取り下げ新たな内容の専門職大学として10月に再申請した関係で、平成30年7月25日から平成30年10月2日までの期間のOC参加者のデータに基づいたものであるが、令和元年6月末現在、その後に開催されたOC参加者のアンケート結果を含めた11カ月間（平成30年7月25日から平成31（令和元）年6月22日まで）のデータが存在し、岡山（医療）専門職大学への入学希望動向をより明確に説明することができる（資料2）。

アンケート有効回答数は495名であり、内訳は、大学進学希望299名、短大進学希望50名、専門学校進学希望112名、就職26名、その他8名である。

そのうち、岡山（医療）専門職大学に「入学を希望する」者268名、「受験先の候補の一つとして考える」者188名、「希望しない」者39名であった。入学を希望する者は、入学定員の2.23倍、「入学を希望するあるいは受験先の候補の一つと考える」者は入学定員の3.8倍となる。

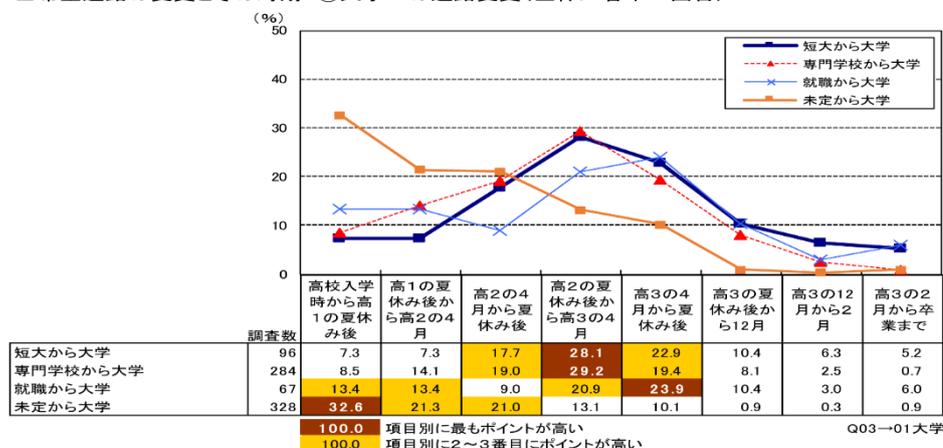
（資料1）大学希望者の希望進路変更とその時期

①大学への変更

（未定からの変更以外で）

▶ 専門学校→大学に変更する人数(N数)が最も多く、最も変更が多い時期は、高2の夏休み後から高3の4月が3割。
 続いて、高2の4月から夏休み後と高3の4月から夏休みが2割ずつ

■希望進路の変更とその時期 ①大学への進路変更(全体/各単一回答)

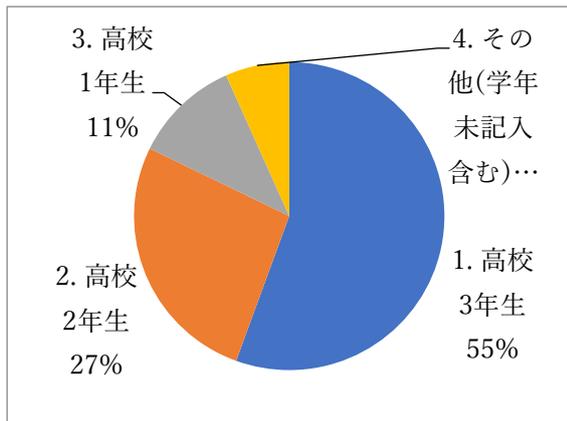


（出典）株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 高校生の進路選択に関する調査 2016より

（資料2）OC アンケート（有効回答数495名）の結果（平成30年7月から平成31（令和元）年6月実施分）

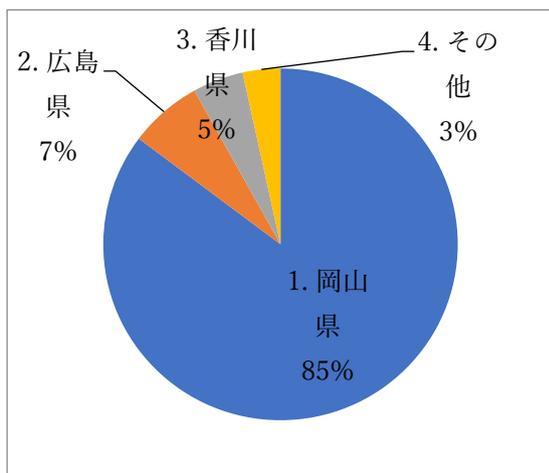
Q1 あなたの学年を教えてください。

	回答	比率(%)
1. 高校3年生	275	55.6%
2. 高校2年生	132	26.7%
3. 高校1年生	55	11.1%
4. その他(学年未記入含む)	33	6.7%
合計	495	100.0%



Q2 高校の所在地を教えてください。

	回答	比率 (%)
1. 岡山県	422	85.3%
2. 広島県	33	6.7%
3. 香川県	23	4.6%
4. その他	17	3.4%
合計	495	100.0%



Q3 高校名を記入してください。

高校名	人数	比率 (%)
岡山県立倉敷中央高等学校	32	6.5%
岡山県立勝山高等学校	28	5.7%
岡山県立倉敷天城高等学校	22	4.4%
岡山県立玉野高等学校	21	4.2%
岡山県立岡山東商業高等学校	14	2.8%
岡山県立新見高等学校	13	2.6%
岡山県立西大寺高等学校	12	2.4%
玉野市立玉野商工高等学校	12	2.4%

岡山県美作高等学校	11	2.2%
英明高等学校	10	2.0%
岡山学芸館高等学校	9	1.8%
岡山県立岡山南高等学校	9	1.8%
岡山県立矢掛高等学校	9	1.8%
岡山高等学校	9	1.8%
関西高等学校	9	1.8%
就実高等学校	9	1.8%
創志学園高等学校	9	1.8%
明誠学院高等学校	8	1.6%
岡山県立岡山工業高等学校	7	1.4%
岡山理科大学附属高等学校	7	1.4%
おかやま山陽高等学校	6	1.2%
岡山県立岡山操山高等学校	6	1.2%
岡山県立玉野光南高等学校	6	1.2%
岡山県立水島工業高等学校	6	1.2%
岡山県立倉敷古城池高等学校	6	1.2%
岡山県立総社高等学校	6	1.2%
倉敷高等学校	6	1.2%
岡山県立備前緑陽高等学校	5	1.0%
岡山県作陽高等学校	5	1.0%
岡山県立備前緑陽高等学校	5	1.0%
岡山県立津山商業高等学校	5	1.0%
岡山県立東岡山工業高等学校	5	1.0%
岡山龍谷高等学校	5	1.0%
岡山県立岡山城東高等学校	4	0.8%
岡山県立岡山芳泉高等学校	4	0.8%
岡山県立倉敷鷺羽高等学校	4	0.8%
岡山県立津山東高等学校	4	0.8%
玉野市立玉野商工高等学校	4	0.8%
広島大学附属高等学校	4	0.8%
香川県立琴平高等学校	4	0.8%
山陽女子高等学校	4	0.8%
岡山県立真庭高等学校	3	0.6%
岡山県立瀬戸高等学校	3	0.6%
岡山県立瀬戸南高等学校	3	0.6%
岡山県立倉敷商業高等学校	3	0.6%

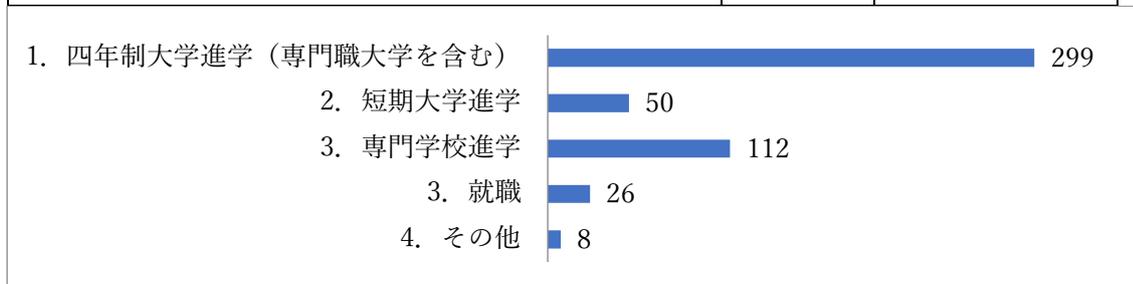
岡山県立倉敷青陵高等学校	3	0.6%
岡山県立総社南高等学校	3	0.6%
岡山県立津山工業高等学校	3	0.6%
清心女子高等学校	3	0.6%
倉敷翠松高等学校	3	0.6%
岡山県共生高等学校	2	0.4%
岡山県立井原高等学校	2	0.4%
岡山県立岡山御津高等学校	2	0.4%
岡山県立岡山朝日高等学校	2	0.4%
岡山県立玉島高等学校	2	0.4%
岡山県立倉敷工業高等学校	2	0.4%
岡山県立倉敷南高等学校	2	0.4%
岡山県立林野高等学校	2	0.4%
岡山白陵高等学校	2	0.4%
吉備高原学園高等学校	2	0.4%
興讓館高等学校	2	0.4%
広島県立福山明王台高等学校	2	0.4%
広島県立油木高等学校	2	0.4%
香川県立小豆島中央高等学校	2	0.4%
津山工業高等専門学校	2	0.4%
尾道高等学校	2	0.4%
福山市立福山高等学校	2	0.4%
高知県立高知商業高等学校	2	0.4%
広島県立庄原格致高等学校	2	0.4%
岡山県立岡山一宮高等学校	1	0.2%
岡山県立笠岡工業高等学校	1	0.2%
岡山県立笠岡高等学校	1	0.2%
岡山県立笠岡商業高等学校	1	0.2%
岡山県立鴨方高等学校	1	0.2%
岡山県立興陽高等学校	1	0.2%
岡山県立勝間田高等学校	1	0.2%
岡山県立勝間田高等学校	1	0.2%
岡山県立邑久高等学校	1	0.2%
岡山商科大学付属高等学校	1	0.2%
岡山商科大学附属高等学校	1	0.2%
開星高等学校	1	0.2%
金光学園高等学校	1	0.2%

呉工業高等専門学校	1	0.2%
広島県立戸手高等学校	1	0.2%
広島県立神辺高等学校	1	0.2%
広島県立福山葦陽高等学校	1	0.2%
広島大学附属福山高等学校	1	0.2%
香川県藤井高等学校	1	0.2%
香川高等専門学校	1	0.2%
高水高等学校	1	0.2%
坂出第一高等学校	1	0.2%
崇徳高等学校	1	0.2%
倉敷外語学院	1	0.2%
倉敷市立倉敷翔南高等学校	1	0.2%
島根県立島根中央高等学校	1	0.2%
徳島県立つるぎ高等学校	1	0.2%
徳島県立川島高等学校	1	0.2%
徳島県立徳島商業高等学校	1	0.2%
日本航空高等学校	1	0.2%
並木学院高等学校	1	0.2%
明誠高等学校	1	0.2%
香川県立高松西高等学校	1	0.2%
香川県立坂出商業高等学校	1	0.2%
香川県立志度高等学校	1	0.2%
高知県立幡多農業高等学校	1	0.2%
島根県立三刀屋高等学校	1	0.2%
島根県立飯南高等学校	1	0.2%
ヒューマンキャンパス高等学校	1	0.2%
広島県立油木高等学校	1	0.2%
広島県立庄原実業高等学校	1	0.2%
広島県立尾道高等学校	1	0.2%
愛媛県立今治北高等学校	1	0.2%
愛媛県立三島高等学校	1	0.2%
英数学館高等学校	1	0.2%
その他(未回答、不明含む)	21	4.2%
合計	495	100.0%

Q4 あなたは高校卒業後にどのような進路を希望しますか。

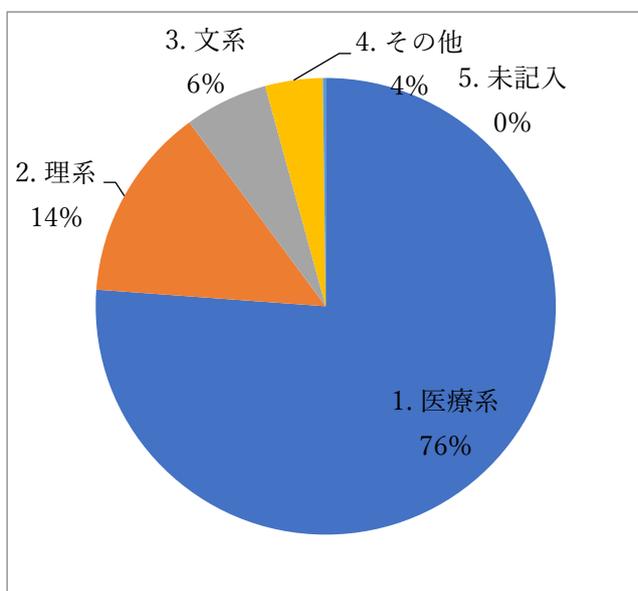
	回答	比率 (%)
--	----	--------

1. 四年制大学進学（専門職大学を含む）	299	60.4%
2. 短期大学進学	50	10.1%
3. 専門学校進学	112	22.6%
3. 就職	26	5.3%
4. その他	8	1.6%
合計	495	100.0%



Q5 あなたが進学したいと考えている学問分野は次のうちどれですか。次の中から選んでください。

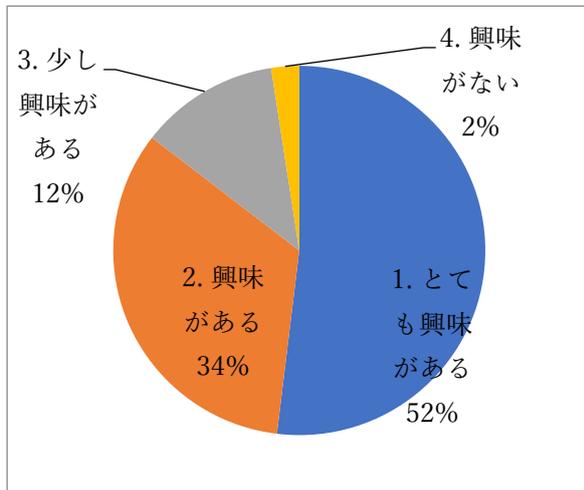
	回答	比率 (%)
1. 医療系	377	76.2%
2. 理系	68	13.7%
3. 文系	29	5.9%
4. その他	20	4.0%
5. 未記入	1	0.2%
合計	495	100.0%



Q6 あなたは岡山医療専門職大学（仮称）に興味がありますか。

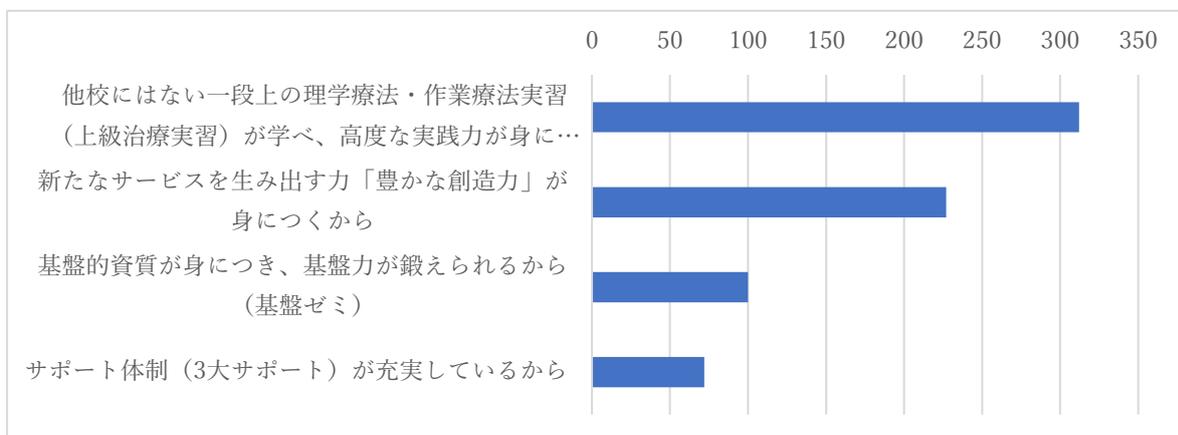
	回答	比率 (%)

1. とても興味がある	257	51.9%
2. 興味がある	166	33.5%
3. 少し興味がある	60	12.1%
4. 興味がない	12	2.4%
合計	495	100.0%



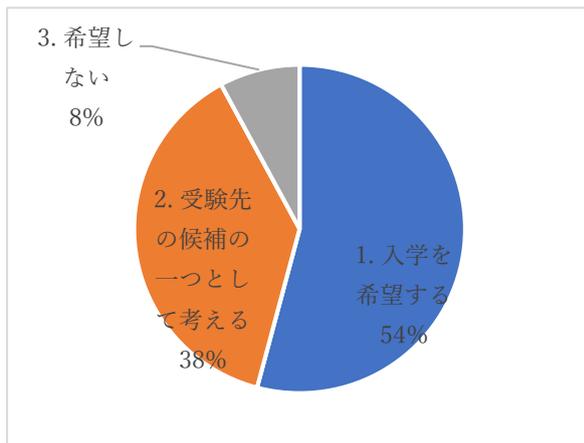
Q7 Q6で「①とても興味がある、②興味がある、③少し興味がある」のいずれかを選んだ方にお聞きします。興味を持った理由を教えてください。（複数回答可）

	回答	比率 (%)
他校にはない一段上の理学療法・作業療法実習（上級治療実習）が学べ、高度な実践力が身につくから	312	63.0%
新たなサービスを生み出す力「豊かな創造力」が身につくから	227	45.9%
基盤的資質が身につき、基盤力が鍛えられるから（基盤ゼミ）	100	20.2%
サポート体制（3大サポート）が充実しているから	72	14.5%



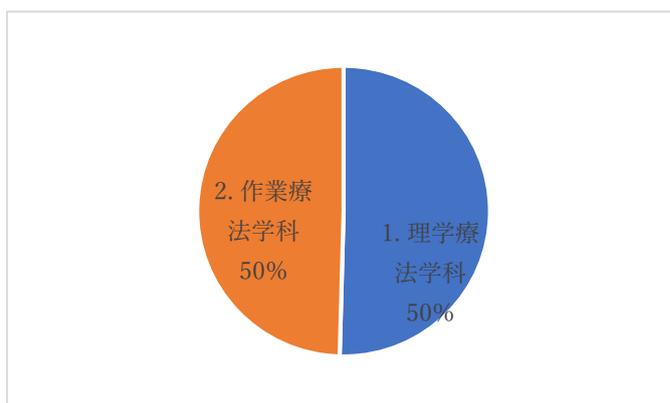
Q8 あなたは「岡山医療専門職大学（仮称）」に入学したいと思いますか。（1つに○をつけてください）

	回答	比率 (%)
1. 入学を希望する	268	54.1%
2. 受験先の候補の一つとして考える	188	38.0%
3. 希望しない	39	7.9%
合計	495	100.0%



Q9 Q8 で「①、②」のいずれかを選んだ方にお聞きします。次のどの学科への入学を希望しますか。

	回答	比率 (%)
1. 理学療法学科	234	50.4%
2. 作業療法学科	230	49.6%
合計	464	100.0%



(新旧対照表) 学生確保の見通し (P1-2)

新	旧
1. 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況	1. 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

<p>①学生の確保の見通し</p> <p>ア 定員充足の見込み</p> <p>(1) 岡山医療専門職大学健康科学部の定員充足の見込み(資料1)</p> <p>(中略)</p> <p>334名の内、「本学へ入学を希望する」と回答した者は152名、「受験先の候補の一つとして考える」と回答した者は146名であった。入学を希望すると回答した者の割合は入学定員120名の1.3倍であり、「入学を希望するあるいは受験先の候補の一つとする」と回答した者298名の入学定員に対する倍率は2.5倍となっている(資料2)。</p> <p><u>岡山地域(全国的にも同様な傾向が確認されている資料2-1)では、専門学校や短期大学進学希望者が大学進学希望へと進路を変更し、また大学を併願することも少なくなく、夏休み前後に最終的に進路先を決定する生徒が多い。このような事情を考慮して、オープンキャンパス参加時点で大学進学希望者のみならず専門学校・短大進学希望者を特に区分せずに、すべての参加者を対象としたアンケートを行い、高校生の進路変更意志も踏まえた進学希望を確認し、岡山専門職大学への入学希望・受験希望の状況を的確に把握している。</u></p> <p>補足資料</p> <p><u>上記のアンケートは、本学が平成30年7月に専門職大学設置申請を一旦取り下げ新たな内容の専門職大学として10月に再申請した関係で、平成30年7月25日から平成30年10月2日までの期間のOC参加者のデータに基づいたものであるが、令和元年6月末現在、その後に開催されたOC参加者のアンケート結果を含めた11カ月間(平成30年7月25日から平成31(令和元)年6月22日まで)のデータが存在し、岡山(医療)専門職大学への入学希望・受験希望動向をより明確に説明することができる(資料2-2)。</u></p> <p><u>アンケート有効回答数は495名であり、内訳は、大学進学希望299名、短大進学希望50名、専門学校進学希望112名、就職26名、その他8名である。</u></p> <p><u>そのうち、岡山(医療)専門職大学に「入学を希望</u></p>	<p>①学生の確保の見通し</p> <p>ア 定員充足の見込み</p> <p>(1) 岡山医療専門職大学健康科学部の定員充足の見込み(資料1)</p> <p>(中略)</p> <p>334名の内、「本学へ入学を希望する」と回答した者は152名、「受験先の候補の一つとして考える」と回答した者は146名であった。入学を希望すると回答した者の割合は入学定員120名の1.3倍であり、「入学を希望するあるいは受験先の候補の一つとする」と回答した者298名の入学定員に対する倍率は2.5倍となっている(資料2)。</p> <p>(追加)</p>
--	--

<p>する」者 268 名、「受験先の候補の一つとして考える」者 188 名、「希望しない」者 39 名であった。入学を希望する者は、入学定員の 2.23 倍、「入学を希望するあるいは受験先の候補の 1 つと考える」者は入学定員の 3.8 倍となる。</p>	
---	--

(新旧対照表) (資料)

新	旧
<p>(資料 2-1) 高校生の進路選択に関する調査 資料 1 参照 (審査意見 6 対応内)</p>	<p>(追加)</p>
<p>(資料 2-2) 【オープンキャンパス参加者対象】岡山 専門職大学健康科学部理学療法学科・作業療法学科 (仮称) 設置についての高校生志向調査 (調査期間： 平成 30 年 7 月 25 日から平成 31 (令和元) 年 6 月 22 日まで) 資料 2 参照 (審査意見 6 対応内)</p>	<p>(追加)</p>

7. 基礎科目の内容について、以下の点を是正すること。

(1) 新たに示された基盤ゼミ I・II の内容は、各講義回で学ぶ内容が抽象的であり大学教育として適切な内容か判断できないため、具体的な学習内容を記載すること。例えば、議論のテーマの一例として、延命が図られにくい人工呼吸器の装着の是非などが考えられるが、扱うテーマの具体例を挙げ、大学教育として適切な内容であることを明らかとすること。また、ゼミメンバーを2グループに分け、グループごとに課題を煮詰める作業を行うとされているが、運営方法についても具体的に説明すること。

(2) 基礎科目に配置された基礎物理や基礎生物は既修者が相当程度いるため必修科目から選択科目に変更したと説明されているが、教育課程の特色で、基礎物理、基礎生物に関する知識を修得することで、専門職業人として、生涯にわたり自らの基盤的資質を高めていくための素養を涵養すると説明していることを踏まえると、リハビリテーション人材として両科目の履修は重要であるため、既修者でない学生が両科目を修得する仕組みを明らかとすること。

(対応)

(1) 基盤ゼミ I・II の内容に関して具体的な学習内容を記載すること、および基盤ゼミの運用方法を具体的に説明するようにとのご指摘をいただいたので、以下に、想定される議論のテーマを明らかにし、また運営方法についても具体的に説明する。

想定される議論のテーマ例

脳死は人の死か

脳死からの臓器移植

安楽死と尊厳死

延命治療

人工妊娠中絶・体外受精・出生前診断・代理出産

定年制と終身雇用

AI の進歩と失われる職業

外国人労働者の受け入れと移民問題

議論の対象としては、このようなテーマ例を想定している。いずれのテーマも医療界と一般社会において、なお大きな課題として残る重要な内容を含んでおり、いずれも大学生として認識していなければいけない課題であり、大学教育のレベルで考えるべき課題である。

なお、「基盤ゼミ II」では、討議するテーマは学生自らが考え出すことになるので、前記のテーマ例は「基盤ゼミ I」で担当教師が学生に提示するものである。

運営方法

基盤ゼミを受けるにあたっては、まず1年次前期に設置する初年次教育「大学入門」(必修)を受けることによって、基盤ゼミに必要な基本的事項を系統的に学ぶことができ、「大学入門」において基礎的知識とスキルを修得した上で基盤ゼミに参加する。

基盤ゼミの運営方法については次の通りである。

「基盤ゼミ」では、10人以下の少人数編成で行い、それぞれに担当教員を配置する。理学療法学科では11人の、作業療法学科では5人の担当教員を配置する予定である。

「基盤ゼミⅠ」では、教員が提示する前記のテーマ例の中から、学生がテーマを選択し、シラバスの内容に沿ってプロコン形式を援用して議論を進めていく。「基盤ゼミⅡ」では、「基盤ゼミⅠ」で獲得した課題の核心を特定して最善の課題解決選択肢に到達するスキルを活用して、学生が自ら選択したテーマに基づいて、必要なデータや資料を収集し、効果的な図表にまとめ、解決方法を本格的なプレゼンテーション形式で発表し、その発表についてプロコン形式で討論していく。

担当教員は、討議を進めていく過程で、学生の主体性を重んじることを基本とする。

以下にゼミの進行の具体例を示す。

基盤ゼミでは、ストーリーの明確な説得性の高いプレゼンテーションを行う力を涵養するために、選択した課題について、プレゼンテーションの主要構成要素ごとに、順を追って問題を深める作業を繰り返し行う。ゼミは、議論を活発化させ深めるために、ゼミメンバーをA.Bの2グループに分けて、Aは選択された課題について賛成する立場、Bは反対する立場に立たせ、必ずメンバー全員に意見を述べさせるように運営する。

各グループのメンバーは、個人的な考え方や価値観等からは中立的な姿勢で、グループの立場にたつて、あくまで論理と論拠のみで議論するよう指導する。

Aグループは、課題について「賛成」の立場に立ち、グループ内で議論して立論をまとめ、Bは「反対」の立場で立論をまとめる。この過程で学生は必ず何らかの意見あるいはコメントを述べることを義務化する。

担当教員を司会として、Aグループが肯定的見解を述べ、Bグループが否定的見解を述べ、ディスカッションを行う。A.Bに所属する学生は、全員相手の見解に対して反対の意見あるいはコメントを述べる。ここでは出来るだけ多くの観点からの賛成意見、反対意見を引き出すことを主要目標とし、議論や意見の優劣を競うことは目的としない。

担当教員は議論を整理し、双方の見解の「最も良い点・メリット」と「最も悪い点・デメリット」を明らかにする。

A.B双方のグループで、このような作業をストーリー・プレゼンの主要構成要素ごとに繰り返し、プレゼンの骨格を形成する作業を行い、有力な選択肢となり得るいくつかの案を検討し、それを踏まえて、「メリットを最大化」し、「デメリットを最小化」する作業を行い、グループのプレゼン原案を作成する。

担当教員を司会として、A.B双方の原案のプレゼンを行い、質疑応答を行い、A.B双方で相手の選択肢に否定的意見を表明し、担当教員はその結果をまとめる。

各グループは、これらの否定的意見やコメントを参考にしながら、ストロング・ポイントとウィーク・ポイントを整理し、グループとしての最善の選択肢に煮詰め、プレゼン形式の最終案にまとめる。

再度、各グループは、最終案に基づきプレゼンと議論を行い、双方の反対意見の結果を集約し、同様のプロセスを踏まえてA.Bグループのプレゼンテーションをまとめ完成させる。

各グループは、完成したプレゼンテーションを行い、ゼミ学生全員がA.Bの立場を離れて、ス

トリー（組み立てと論拠となるデータの優劣と論理の一貫性）に注目して、「非常に説得的、説得力あり、平凡、説得力に欠ける」等に分けて、評価シートを提出させ、集計結果を発表する。

この結果を踏まえて、最後に、担当教員が全体を講評し、効果的なストーリー・プレゼンを行なうための要点について総括する。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（P37）

新	旧
<p>⑥ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件</p> <p>2. 履修指導方法</p> <p><u>本学に入学する学生に対して、本学のディプロマ・ポリシーを踏まえて、またリハビリテーション人材として必要な科目の未履修者や学力について課題を有する学生に対しては、入学前に教育課程外授業として、e-learning によるリメディアル教育を行う。リメディアル教育で補完する科目に関しては、調査書により判断する。学習状況はシステムやレポートで確認し指導を行う。また到達度をはかるために、到達度テストを行い、大学教員が到達度を確認し指導を行う。</u></p> <p><u>また、1年前期において、大学で自立的に学ぶために、必要な基本的事項を系統的に配置し、高校から大学教育にスムーズに移行できるように初年次教育として「大学入門」を設置する。</u></p> <p>(1) 履修に関するガイダンス</p>	<p>⑥ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件</p> <p>2. 履修指導方法</p> <p>(追加)</p> <p>(1) 履修に関するガイダンス</p>

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（P15-17）

新	旧
<p>2. 教育課程の特色</p> <p>(中略)</p> <p>(1) 基礎科目（両学科共通）</p> <p><u>大学で自立的に学ぶために必要な基本的事項を系統的に配置し、高校から大学教育にスムーズに移行できるように初年次教育として1年前期に「大学入門」を配置する。</u></p> <p>1) 発信力・対話力と自己研鑽の姿勢</p> <p>少人数編成の2年前期「基盤ゼミⅠ」、3年前</p>	<p>2. 教育課程の特色</p> <p>(中略)</p> <p>(1) 基礎科目（両学科共通）</p> <p>(追加)</p> <p>1) 発信力・対話力と自己研鑽の姿勢</p> <p>少人数編成の2年前期「基盤ゼミⅠ」、3年前</p>

期「基盤ゼミⅡ」により、プレゼンテーション力を磨き、論理的思考に基づく発信力と問題解決力を身につけ、自己研鑽の姿勢を涵養する。

「基盤ゼミⅠ」および「基盤ゼミⅡ」のテーマ例と運営方法は、次の通りである。

想定される議論のテーマ例

脳死は人の死か

脳死からの臓器移植

安楽死と尊厳死

延命治療

人工妊娠中絶・体外受精・出生前診断・代理出産

定年制と終身雇用

AIの進歩と失われる職業

外国人労働者の受け入れと移民問題

なお、「基盤ゼミⅡ」では、討議するテーマは学生自らが考え出すことになるので、前記のテーマ例は「基盤ゼミⅠ」で担当教師が学生に提示するものである。

運営方法

基盤ゼミを受けるにあたっては、まず1年次前期に設置する初年次教育「大学入門」（必修）を受けることによって、基盤ゼミに必要な基本的事項を系統的に学ぶことができ、「大学入門」において基礎的知識とスキルを修得した上で基盤ゼミに参加する。

基盤ゼミの運営方法については次の通りである。

「基盤ゼミ」では、10人以下の少人数編成で行い、それぞれのグループに担当教員を配置する。理学療法学科では11人の、作業療法学科では5人の担当教員を配置する予定である。

「基盤ゼミⅠ」では、教員が提示する前記のテーマ例の中から、学生がテーマを選択し、シラバスの内容に沿ってプロコン形式を援用して議論を進めていく。「基盤ゼミⅡ」では、「基盤ゼミⅠ」で獲得した課題の核心を特定して最善の課題

期「基盤ゼミⅡ」により、プレゼンテーション力を磨き、論理的思考に基づく発信力と問題解決力を身につけ、自己研鑽の姿勢を涵養する。

(追加)

解決選択肢に到達するスキルを活用して、学生が自ら選択したテーマに基づいて、必要なデータや資料を収集し、効果的な図表にまとめ、解決方法を本格的なプレゼンテーション形式で発表し、その発表についてプロコン形式で討論していく。

担当教員は、討議を進めていく過程で、学生の主体性を重んじることを基本とする。

以下にゼミの進行の具体例を示す。

基盤ゼミでは、ストーリーの明確な説得性の高いプレゼンテーションを行う力を涵養するために、選択した課題について、プレゼンテーションの主要構成要素ごとに、順を追って問題を深める作業を繰り返し行う。ゼミは、議論を活発化させ深めるために、ゼミメンバーをA、Bの2グループに分けて、Aは選択された課題について賛成する立場、Bは反対する立場に立たせ、必ずメンバー全員に意見を述べさせるように運営する。

各グループのメンバーは、個人的な考え方や価値観等からは中立的な姿勢で、グループの立場にたって、あくまで論理と論拠のみで議論するよう指導する。

Aグループは、課題について「賛成」の立場に立ち、グループ内で議論して立論をまとめ、Bは「反対」の立場で立論をまとめる。この過程で学生は必ず何らかの意見あるいはコメントを述べることを義務化する。

担当教員を司会として、Aグループが肯定的見解を述べ、Bグループが否定的見解を述べ、ディスカッションを行う。A、Bに所属する学生は、全員相手の見解に対して反対の意見あるいはコメントを述べる。ここでは出来るだけ多くの観点からの賛成意見、反対意見を引き出すことを主要目標とし、議論や意見の優劣を競うことは目的としない。

担当教員は議論を整理し、双方の見解の「最も良い点・メリット」と「最も悪い点・デメリット」を明らかにする。

A、B双方のグループで、このような作業をスト

<p><u>ストーリー・プレゼンの主要構成要素ごとに繰り返し、プレゼンの骨格を形成する作業を行い、有力な選択肢となり得るいくつかの案を検討し、それを踏まえて、「メリットを最大化」、「デメリットを最小化」する作業を行い、グループのプレゼン原案を作成する。</u></p> <p><u>担当教員を司会として、A.B双方の原案のプレゼンを行い、質疑応答を行い、A.B双方で相手の選択肢に否定的意見を表明し、担当教員はその結果をまとめる。</u></p> <p><u>各グループは、これらの否定的意見やコメントを参考にしながら、ストロング・ポイントとウィーク・ポイントを整理し、グループとしての最善の選択肢に煮詰め、プレゼン形式の最終案にまとめる。</u></p> <p><u>再度、各グループは、最終案に基づきプレゼンと議論を行い、双方の反対意見の結果を集約し、同様のプロセスを踏まえて A.B グループのプレゼンテーションをまとめ完成させる。</u></p> <p><u>各グループは、完成したプレゼンテーションを行い、ゼミ学生全員が A.B の立場を離れて、ストーリー（組み立てと論拠となるデータの優劣と論理の一貫性）に注目して、「非常に説得的、説得力あり、平凡、説得力に欠ける」等に分けて、評価シートを提出させ、集計結果を発表する。</u></p> <p><u>この結果を踏まえて、最後に、担当教員が全体を講評し、効果的なストーリー・プレゼンを行なうための要点について総括する。</u></p>	
---	--

(2) 基礎科目に配置された基礎物理や基礎生物は既修者が相当程度いるため必修科目から選択科目に変更したと説明されているが、教育課程の特色で、基礎物理、基礎生物に関する知識を修得することで、専門職業人として、生涯にわたり自らの基盤的資質を高めていくための素養を涵養すると説明していることを踏まえると、リハビリテーション人材として両科目の履修は重要であるため、既修者でない学生が両科目を修得する仕組みを明らかとすることのご意見をいただいたため、以下のように対応する。

基礎物理に関しては運動学、基礎生物に関しては解剖学や生理学の分野のより深い学修や研究

を志す者に専門的知識を提供するための科目として重要であると判断したため再考し、選択科目から必修科目に改めた。

リハビリテーション人材として重要な知識である物理や生物の未履修者に対しては、リメディアル教育（教育課程外）として e-learning で補完学修を行い、修得するように指導する。リメディアル教育で補完する科目に関しては、調査書により判断する。学習状況はシステムやレポートで確認し指導を行う。また到達度をはかるために、到達度テストを一度行い、大学教員が到達度を確認し指導を行う。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（P17）

新	旧
<p>2. 教育課程の特色 （中略）</p> <p>5) 科学的思考の基盤とツール</p> <p>1年前期に、保健・医療・福祉分野において、科学的基盤となる「基礎生物」と「基礎物理」を必修科目として配置する。</p>	<p>2. 教育課程の特色 （中略）</p> <p>5) 科学的思考の基盤とツール</p> <p>1年前期に、保健・医療・福祉分野において、科学的基盤となる「基礎生物」(選択科目)「基礎物理」(選択科目)を配置する。</p>

(是正意見) 健康科学部 理学療法学科, 作業療法学科

8. メディカル英語は必修科目から選択科目に改められているが、養成する人材像とディプロマ・ポリシーを踏まえると選択ではなく必修にすべき科目であるため、改めること。

(対応) メディカル英語について選択ではなく必修にすべき科目であるのご意見をいただいたので、養成する人材像とディプロマ・ポリシーを踏まえて、メディカル英語を選択科目から必修科目に改める。

(新旧対照表) 教育課程の概要、学則別表 1、設置の趣旨等を記載した書類 (資料 13、28)

新	旧
職業専門科目 専門基礎分野：メディカル英語 3 後 <u>必修</u> 2 単位	職業専門科目 専門基礎分野：メディカル英語 3 後 <u>選択</u> 2 単位
単位数合計 理学療法学科 職業専門科目単位数合計 必修 <u>89</u> 単位、選択 <u>9</u> 単位 合計 必修 <u>131</u> 単位、選択 <u>17</u> 単位 作業療法学科 職業専門科目単位数合計 必修 <u>89</u> 単位、選択 <u>8</u> 単位 合計 必修 <u>131</u> 単位、選択 <u>16</u> 単位	単位数合計 理学療法学科 職業専門科目単位数合計 必修 <u>87</u> 単位、選択 <u>11</u> 単位 合計 必修 <u>126</u> 単位、選択 <u>21</u> 単位 作業療法学科 職業専門科目単位数合計 必修 <u>87</u> 単位、選択 <u>10</u> 単位 合計 必修 <u>126</u> 単位、選択 <u>20</u> 単位
卒業要件及び履修方法 理学療法学科 【卒業要件】 本学科の卒業要件は、以下の通りとする。 1) 本学に 4 年以上在学すること。 2) 次により、必修科目 <u>131</u> 単位、選択科目 <u>4</u> 単位以上を履修すること。 基礎科目 <u>22</u> 単位以上 必修科目 <u>18</u> 単位以上 選択科目 <u>4</u> 単位以上 職業専門科目 <u>89</u> 単位以上 専門基礎分野科目から必修科目 <u>32</u> 単位以上 専門分野科目から必修科目 57 単位以上 展開科目必修科目 20 単位以上	卒業要件及び履修方法 理学療法学科 【卒業要件】 本学科の卒業要件は、以下の通りとする。 1) 本学に 4 年以上在学すること。 2) 次により、必修科目 <u>126</u> 単位、選択科目 <u>3</u> 単位以上を履修すること。 基礎科目 20 単位以上 必修科目 <u>15</u> 単位以上 選択科目 <u>5</u> 単位以上 職業専門科目 <u>87</u> 単位以上 専門基礎分野科目から必修科目 30 単位以上 専門分野科目から必修科目 57 単位以上 展開科目必修科目 20 単位以上 総合科目必修科目 4 単位以上

<p>総合科目必修科目 4 単位以上</p> <p>実習・実験科目から 40 単位以上 うち、臨地実務実習 20 単位以上</p> <p>履修登録上限は、1 年間に於いて 39 単位とする。 ただし、成績優秀者は 41 単位まで履修登録することができる。</p> <p>作業療法学科 【卒業要件】 本学科の卒業要件は、以下の通りとする。</p> <p>1) 本学に 4 年以上在学すること。 2) 次に於いて、必修科目 <u>131</u> 単位、選択科目 <u>4</u> 単位以上を履修すること。</p> <p>基礎科目 22 単位以上 必修科目 <u>18</u> 単位以上 選択科目 <u>4</u> 単位以上 職業専門科目 <u>89</u> 単位以上 専門基礎分野科目から必修科目 <u>32</u> 単位以上</p> <p>専門分野科目から必修科目 57 単位以上 展開科目必修科目 20 単位以上 総合科目必修科目 4 単位以上</p> <p>実習・実験科目から 40 単位以上 うち、臨地実務実習 22 単位以上</p> <p>履修登録上限は、1 年間に於いて 39 単位とする。 ただし、成績優秀者は 41 単位まで履修登録することができる。</p>	<p>実習・実験科目から 40 単位以上 うち、臨地実務実習 20 単位以上</p> <p>履修登録上限は、1 年間に於いて 39 単位とする。 ただし、成績優秀者は 41 単位まで履修登録することができる。</p> <p>作業療法学科 【卒業要件】 本学科の卒業要件は、以下の通りとする。</p> <p>1) 本学に 4 年以上在学すること。 2) 次に於いて、必修科目 <u>126</u> 単位、選択科目 <u>5</u> 単位以上を履修すること。</p> <p>基礎科目 20 単位以上 必修科目 <u>15</u> 単位以上 選択科目 <u>5</u> 単位以上 職業専門科目 <u>87</u> 単位以上 専門基礎分野科目から必修科目 <u>30</u> 単位以上 専門分野科目から必修科目 57 単位以上 展開科目必修科目 20 単位以上 総合科目必修科目 4 単位以上</p> <p>実習・実験科目から 40 単位以上 うち、臨地実務実習 22 単位以上</p> <p>履修登録上限は、1 年間に於いて 39 単位とする。 ただし、成績優秀者は 41 単位まで履修登録することができる。</p>
---	---

(新旧対照表) 学則 (P7-8)

新	旧
(卒業単位)	(卒業単位)

第 35 条 本学を卒業するためには、次の各号に定める所定の単位を修得しなければならない。

健康科学部

理学療法学科

基礎科目 22 単位以上
必修科目 18 単位以上
選択科目 4 単位以上
職業専門科目 89 単位以上
基礎分野科目から必修科目 32 単位以上
専門分野科目から必修科目 57 単位以上
展開科目 20 単位以上
総合科目 4 単位以上
基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目をあわせて 135 単位以上（必修科目 131 単位、選択科目 4 単位以上）修得しなければならない。なお、実習・実験科目を 40 単位以上（臨地実務実習 20 単位以上を含む）修得しなければならない。

作業療法学科

基礎科目 22 単位以上
必修科目 18 単位以上
選択科目 4 単位以上
職業専門科目 89 単位以上
基礎分野科目から必修科目 32 単位以上
専門分野科目から必修科目 57 単位以上
展開科目 20 単位以上
総合科目 4 単位以上
基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目をあわせて 135 単位以上（必修科目 131 単位、選択科目 4 単位以上）修得しなければならない。なお、実習・実験科目を 40 単位以上（臨地実務実習 20 単位以上を含む）修得しなければならない。

第 35 条 本学を卒業するためには、次の各号に定める所定の単位を修得しなければならない。

健康科学部

理学療法学科

基礎科目 20 単位以上
必修科目 15 単位以上
選択科目 5 単位以上
職業専門科目 87 単位以上
基礎分野科目から必修科目 30 単位以上
専門分野科目から必修科目 57 単位以上
展開科目 20 単位以上
総合科目 4 単位以上
基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目をあわせて 131 単位以上（必修科目 126 単位、選択科目 5 単位以上）修得しなければならない。なお、実習・実験科目を 40 単位以上（臨地実務実習 20 単位以上を含む）修得しなければならない。

作業療法学科

基礎科目 20 単位以上
必修科目 15 単位以上
選択科目 5 単位以上
職業専門科目 87 単位以上
基礎分野科目から必修科目 30 単位以上
専門分野科目から必修科目 57 単位以上
展開科目 20 単位以上
総合科目 4 単位以上
基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目をあわせて 133 単位以上（必修科目 126 単位、選択科目 5 単位以上）修得しなければならない。なお、実習・実験科目を 40 単位以上（臨地実務実習 20 単位以上を含む）修得しなければならない。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (P40)、(図5) 卒業要件 対比表

新	旧																																																												
<p>(3) 卒業要件を<u>135</u>単位以上とした理由 (中略)</p> <p>卒業時に、専門職大学設置基準で定められた要件と国家試験受験資格の要件を満たすためには、基礎科目20単位、職業専門科目87単位、展開科目20単位、総合科目4単位、合計131単位の取得が最低限必要となる。<u>これを踏まえると本学の教育目的を達成するために必要な単位は135単位以上となる。</u></p>	<p>(3) 卒業要件を<u>131</u>単位以上とした理由 (中略)</p> <p>卒業時に、専門職大学設置基準で定められた要件と国家試験受験資格の要件を満たすためには、基礎科目20単位、職業専門科目87単位、展開科目20単位、総合科目4単位、合計131単位の取得が最低限必要となる。<u>したがって卒業要件は131単位以上となる。</u></p>																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>基礎分野</th> <th>職業専門科目</th> <th>展開科目</th> <th>総合科目</th> <th>卒業要件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門職大学 設置基準 第29条第2項</td> <td>20単位以上</td> <td>60単位以上</td> <td>20単位以上</td> <td>4単位以上</td> <td>124単位</td> </tr> <tr> <td>指定規則 第2条第1項関係</td> <td>14単位以上</td> <td>87単位以上 ・専門基礎分野30単位以上 ・専門分野57単位以上</td> <td></td> <td></td> <td>101単位</td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">岡山医療専門職大学</td> </tr> <tr> <td>指定規則 第2条第1項関係 + 専門職大学 設置基準 第29条第2項</td> <td>22単位以上</td> <td>87単位以上 ・専門基礎分野30単位以上 ・専門分野57単位以上</td> <td>20単位以上</td> <td>20単位以上</td> <td>135単位</td> </tr> </tbody> </table>		基礎分野	職業専門科目	展開科目	総合科目	卒業要件	専門職大学 設置基準 第29条第2項	20単位以上	60単位以上	20単位以上	4単位以上	124単位	指定規則 第2条第1項関係	14単位以上	87単位以上 ・専門基礎分野30単位以上 ・専門分野57単位以上			101単位	岡山医療専門職大学						指定規則 第2条第1項関係 + 専門職大学 設置基準 第29条第2項	22単位以上	87単位以上 ・専門基礎分野30単位以上 ・専門分野57単位以上	20単位以上	20単位以上	135単位	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>基礎分野</th> <th>職業専門科目</th> <th>展開科目</th> <th>総合科目</th> <th>卒業要件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門職大学 設置基準 第29条第2項</td> <td>20単位以上</td> <td>60単位以上</td> <td>20単位以上</td> <td>4単位以上</td> <td>124単位</td> </tr> <tr> <td>指定規則 第2条第1項関係</td> <td>14単位以上</td> <td>87単位以上 ・専門基礎分野30単位以上 ・専門分野57単位以上</td> <td></td> <td></td> <td>101単位</td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">岡山医療専門職大学</td> </tr> <tr> <td>指定規則 第2条第1項関係 + 専門職大学 設置基準 第29条第2項</td> <td>20単位以上</td> <td>87単位以上 ・専門基礎分野30単位以上 ・専門分野57単位以上</td> <td>20単位以上</td> <td>4単位以上</td> <td>131単位</td> </tr> </tbody> </table>		基礎分野	職業専門科目	展開科目	総合科目	卒業要件	専門職大学 設置基準 第29条第2項	20単位以上	60単位以上	20単位以上	4単位以上	124単位	指定規則 第2条第1項関係	14単位以上	87単位以上 ・専門基礎分野30単位以上 ・専門分野57単位以上			101単位	岡山医療専門職大学						指定規則 第2条第1項関係 + 専門職大学 設置基準 第29条第2項	20単位以上	87単位以上 ・専門基礎分野30単位以上 ・専門分野57単位以上	20単位以上	4単位以上	131単位
	基礎分野	職業専門科目	展開科目	総合科目	卒業要件																																																								
専門職大学 設置基準 第29条第2項	20単位以上	60単位以上	20単位以上	4単位以上	124単位																																																								
指定規則 第2条第1項関係	14単位以上	87単位以上 ・専門基礎分野30単位以上 ・専門分野57単位以上			101単位																																																								
岡山医療専門職大学																																																													
指定規則 第2条第1項関係 + 専門職大学 設置基準 第29条第2項	22単位以上	87単位以上 ・専門基礎分野30単位以上 ・専門分野57単位以上	20単位以上	20単位以上	135単位																																																								
	基礎分野	職業専門科目	展開科目	総合科目	卒業要件																																																								
専門職大学 設置基準 第29条第2項	20単位以上	60単位以上	20単位以上	4単位以上	124単位																																																								
指定規則 第2条第1項関係	14単位以上	87単位以上 ・専門基礎分野30単位以上 ・専門分野57単位以上			101単位																																																								
岡山医療専門職大学																																																													
指定規則 第2条第1項関係 + 専門職大学 設置基準 第29条第2項	20単位以上	87単位以上 ・専門基礎分野30単位以上 ・専門分野57単位以上	20単位以上	4単位以上	131単位																																																								

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (P17)

新	旧
<p>4) 国際理解と日本社会の歴史と文化</p> <p>1年前期「コミュニケーション英語」「日本の歴史と文化」、2年後期「国際政治経済論」、3年後期「<u>メディカル英語</u>」(必修とし、<u>職業専門科目に配置</u>)では、<u>社会人として最低限必要な国際性を養うことを目的とする。グローバル化した現代社会に対応するため、自ら思考し行動できる開かれた態度と実践力を育む。職業現場で外国人患者を受け入れる基礎的英語力を涵養するとともに、国際政治経済と日本の歴史や文化をわかりやすい英語教材を用いて教授する。職業人として国際通用性を高め社会的および職業的自立を図るとともに、国籍の異なるさまざまな文化の対象者を受け入れるオープンマインドな姿勢を育む。なお、基礎的英語力については、前記4科目の単位</u></p>	<p>4) 国際理解と日本社会の歴史と文化</p> <p>1年前期「コミュニケーション英語」「日本の歴史と文化」、2年前後期「国際政治経済論」、3年後期「<u>メディカル英語</u>」では、<u>社会人として最低限必要な国際性を養うことを目的とする。グローバル化した現代社会に対応するため、自ら思考し行動できる開かれた態度と実践力を育む。患者の訴えを理解できる英語力を涵養するとともに、国際政治経済と日本の歴史や文化をわかりやすい英語教材を用いて教授する。職業人として国際通用性を高め社会的および職業的自立を図るとともに、国籍の異なるさまざまな文化の対象者を受け入れるオープンマインドな姿勢を育む。</u></p>

を取得できるレベルを考えているが、中でもリハビリの臨床現場を想定して行われる「メディカル英語」のシラバスの到達目標に達することで評価する。	
---	--

9. ディプロマ・ポリシーに対応する教育内容として、以下の点を是正すること。

(1) ディプロマ・ポリシーで、「医療現場に必要な国際的視野を備える」としていることを踏まえ、「職業現場で外国人患者を受け入れる姿勢をもち患者の訴えが理解できるレベルの英語力を備える」と明確化されたが、開講されている英語科目を確認すると、コミュニケーション英語とメディカル英語のみである。外国人患者の訴えが理解できるレベルの英語力は相当程度高いと考えられるが、患者とコミュニケーションがとれる英語力の到達試験はどの程度の水準を求めるのかが不明である。例えば、医療面接ができるのか、痛みについて多様な英語の言葉で理解できるのか、TOEFL等のスコアが何点以上なのか、具体例を挙げて明らかとすること。

(2) 研究スキルを身に付けさせる科目について一定の説明がなされたが、研究倫理に関する内容が不明確となっているため、明らかとするか、必要に応じて追加すること。

(対応)

(1) ディプロマ・ポリシーで、「医療現場に必要な国際的視野を備える」としていることを踏まえ、「職業現場で外国人患者を受け入れる姿勢をもち患者の訴えが理解できるレベルの英語力を備える」とのディプロマ・ポリシーと、開講されている英語科目が少ないこと、そして患者とコミュニケーションがとれる英語力の到達試験はどの程度の水準を求めるのかが不明である、とのご指摘をいただいたため、以下のように説明する。

「医療現場に必要な国際的視野を備える」というディプロマ・ポリシーは、前に掲げていたものであり、現在は変更しているためこの表現は使用していない。

今回、「外国人患者の訴えが理解できるレベルの英語力」という表現について、本学が意図した内容(英語力のレベル)が伝わるように、改めて以下に説明する。

外国人患者の受け入れに対して本学が意図したところは、以下に示すように岡山市で増え続ける在留外国人が病気や怪我でリハビリテーションを必要とする状況になった時に、職業現場で、外国人患者の受け入れに抵抗感や違和感をもったり躊躇したりすることのない基礎的な知識と基礎的英語力を身につけておくことである。

この意図から、ディプロマ・ポリシー2)については、「職業現場で外国人患者を受け入れる姿勢をもち患者の訴えが理解できるレベルの英語力を備える。」となっていたのを、「職業現場で、外国人患者を受け入れることができる基礎的な姿勢を備える。」と改めた。

岡山県の在留外国人数は、2017年時点で25,994人であり、最近ではアジア圏を中心に1年に約1,700人超のペースで増加を続けている。そしてこの在留外国人のうち47.1%は岡山市に在住している。このような状況を鑑みると、岡山市でも、職業現場において、今後、多様な国籍の外国人が病気や怪我でリハビリテーションを必要とする機会が発生することは容易に予想され、外国人患者が安心してリハビリテーションを受けることができる環境づくりが必要であり、その対応が地域のニーズとして高まってきている。

このような環境の変化に対応するため、外国人患者であるという理由で受け入れに違和感や抵抗感をもったり躊躇したりすることなく、外国人患者を受け入れることができる基礎的な姿勢を

もっておくために、基礎的な知識と基礎的英語力を備えておくことが必要であり、ディプロマ・ポリシー2) にこの内容を掲げた。この基礎的な姿勢を備えるという目標の実現のために以下のよ
うな科目を配置した。まず、外国人と接する時に必要な基礎的な知識として、日本人として改め
て日本の文化や歴史を知ることが肝要であることから「日本の歴史と文化」を、同時に外国の政
治や経済の動きを知ること必要であることから「国際政治経済論」を配置した。この2科目は、
基礎的な姿勢の大切な要素と位置づけられ、また後述の英語力の習得のための科目との橋渡しの
役割を担うものである。これらの科目では、いずれも英語教材を使用することにより、英語によ
り日本の文化や歴史を理解する力を養い、英語により外国の政治や経済の動きを知ること外国
への親近感をもたせることができる。このような基礎的な知識と合わせて、基礎的英語力につい
ては、入学前にリメディアル教育（教育課程外）を行い、基礎的英語力の確認と補完を行う。そ
して基礎的英語力を鍛錬するために「コミュニケーション英語」と「メディカル英語」を配置す
る（「メディカル英語」は選択科目から必修科目に変更した）。これらの科目では、日本語を交え
て主に英語により授業が行われる。前者では、自主的に英語によるコミュニケーションを行う姿
勢を育み、英語を話すことに対する抵抗感や躊躇する気持ちを薄め、外国人への基本的な対応が
できるようになることを目指す。後者では、実際に患者を想定して、初診から治療までの基本
的な対応や、治療や訓練時のコミュニケーション技法を主に英語で学び、グループディスカッ
ションや臨場感をもたせるためにロールプレイを実施する。このようにして臨床現場に必要な医療英
語の理解力と英会話力を身につける。

新たに追加するリメディアル教育と「メディカル英語」の必修化を含めた科目配置により、外国人患者に対し、違和感や抵抗感をもったり躊躇したりすることなく受け入れる基礎的な姿勢をもつために必要な基礎的な知識と基礎的英語力を備える、という本学の意図を実現することができると考える。

英語力の評価については、本学の意図が、外国人患者であるという理由で、受け入れに違和感や抵抗感を持ったり躊躇したりすることのない基礎的な姿勢と基礎的英語力を備えておくことにあることから、英語力の評価については、この目的で配置する4科目の単位を取得できるレベルを考えているが、中でもリハビリの臨床現場を想定して行われる「メディカル英語」のシラバスの到達目標に達することで対応可能と考える。

(2) 研究倫理に関する内容が不明確となっているため、明らかとするか、必要に応じて追加すること、とのご指摘をいただいたので、以下のように説明する。

研究倫理については、「テーマ設定と研究方法」（3年前期、必修）において、「研究倫理の意義」として、研究者に求められる様々な倫理観とその姿勢について学ぶことになっている。また、「研究デザイン」（3年前期、必修）および「総合研究Ⅰ」（3年後期、必修）においても、同意書の取得方法等について学ぶことになっている。学生の卒業研究に向けての研究倫理については、これらの科目により対応可能と考えている。詳細な研究倫理に関する内容が必要な場合には、開学時に設置予定の「研究倫理委員会」の規定（書面およびホームページで公開予定）を参照することで対応する。

なお、卒業研究を始めるに当たっては、前述の「研究倫理委員会」が定める研究倫理に関する所定の書類に必要事項を記入して、指導教員の校閲を受け、さらに「研究倫理委員会」に提出し、委員会の審査を経た上で卒業研究に着手することとする。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (P17)

新	旧
<p>2. 教育課程の特色</p> <p>5) 科学的思考の基盤とツール (中略)</p> <p>さらに3年前期に、卒業論文をデザインし研究スキルを育む「テーマ設定と研究方法」「研究デザイン」を配置する。<u>なお研究倫理については、「テーマ設定と研究方法」において、「研究倫理の意義」の項で研究者に求められる様々な倫理観とその姿勢について学ぶ。</u></p>	<p>2. 教育課程の特色</p> <p>5) 科学的思考の基盤とツール (中略)</p> <p>さらに3年前期に、卒業論文をデザインし研究スキルを育む「テーマ設定と研究方法」「研究デザイン」を配置する。 (追加)</p>

(是正意見) 健康科学部 理学療法学科, 作業療法学科

10. 理学療法学科、作業療法学科にそれぞれ異なる7科目の展開科目が配置されたが、養成する人材像と、これらの科目が配置された関係性が不明瞭となっている。特に、地域活性化に貢献できる展開力を掲げているが、養成する人材像との関係も不明確であり、意見対応として記載された内容が科目を羅列しているように見えるため再度説明すること。

(対応) 理学療法学科および作業療法学科にそれぞれ異なる7科目の展開科目が配置されたが、養成する人材像と配置されたこれらの科目との関係性、特に地域活性化に貢献できる展開力の育成との関係を明確にするようご指摘をいただいたため、また意見対応として記載された内容が科目を羅列しているように見えるとのご指摘をいただいたため、改めて以下のように説明する。

1. 理学療法学科

理学療法学科が育成する人材像は、「最新の理学療法専門知識と高度な実践技能を保持し、自己研鑽を怠らず、対象者の思いを受け止め共有し、身体機能の維持・改善および予防に寄与する力を高め健康寿命の延伸のために尽力し、地域のニーズに対応する新しいサービス事業を展開し、地域の創生に多職種と協働して貢献する人材。」である。この人材像の実現に向けて、ディプロマ・ポリシー4)に「対象者の思いを受け止め共有して、身体機能の維持・改善および予防に寄与する力を高め健康寿命の延伸のために尽力し、地域のニーズに多職種と協働して貢献する力を備える。」を掲げている。このディプロマ・ポリシー4)に掲げた内容を達成するために配置された科目を踏まえて、科目が配置された理由、配置された科目の学習内容と科目により修得される能力およびその能力と人材像との関係について以下に説明いたします。

なお、ご指摘では展開科目10科目のうち学科共通科目を除いた7科目での説明を求められておりますので、7科目について説明いたします。

地域のニーズに対して、本学で育成する理学療法士としての主な役割として、健康寿命の延伸を図るサービスの展開を挙げた。健康寿命の延伸は、対象者のみならず地域においても、理学療法士が担う重要な役割として位置づけられる。この健康寿命の延伸のために必要な要素は多様であるが、中でも、健康な体の維持のための食生活、日常生活やスポーツの中での身体運動、生体からの様々な情報を知ることの三つの要素が重要であると考えた。そこで、健康寿命を延伸する能力を修得するために、この三つの要素を組み入れて、「食生活マネジメント論」「スポーツ科学」「生体情報科学」を配置した。

「食生活マネジメント論」では、健康における食生活の重要性と食生活における老化予防、生活習慣病予防についての見識を深め、在宅生活を支える食生活の重要性の理解も深める。「スポーツ科学」では、身体運動を科学するためのアプローチの仕方を学び、対象者の課題やニーズやライフステージに適したサービスのあり方を探究する。「生体情報科学」では、医療・ヘルスケア分野、健診データ、スポーツ分野、在宅・家庭などのからウェアラブル端末やIoT等を活用した健康に関する情報を収集する基本的な技能について学び、日常生活(生活習慣)に寄与できる効果的な医療・ヘルスケア・健康サービスを提供するために情報を活用する力を修得する。これらの科目は、大学ではじめて接する科学的内容であるので、学生には理解しやすいように丁寧に

講義を進める。

これらの科目から、健康寿命の延伸の基本となる健全な食生活や身体運動のあり方、日常生活（生活習慣）に寄与できる効果的な生体情報の収集方法を学ぶことによって、対象者の身体機能の維持・改善と予防に寄与し、健康寿命の延伸およびそのためのサービスを提供する上で必須の能力を修得する。

そして、前記の科目で修得した健康寿命の延伸に関する知識を基にして、これらを地域のニーズに合わせて、多職種と協働して新たなサービスへと発展させる能力が必要となる。そのためには、多職種と協働して組織のマネジメントができ、組織の人材を有効活用し、さらに組織の運営の実際を知り、さらに地域のニーズに沿った起業活動のノウハウを修得することが必要である。この目的で「マネジメント論」「コーチング論」「起業入門」「NPO論」を配置した。

「マネジメント論」では、組織に所属する個人や集団、外部環境、組織の動的プロセスを総合的にマネジメントするために必要な基礎的知識と技能を修得し、対象者や地域のニーズを新たなサービスの形にして目標を達成するための能力を修得する。「コーチング論」では、人の能力や可能性を伸ばし、他者との協働や人的資源を最大限に活用する考え方やスキルを修得する。「起業入門」では、自らが起業することを想定して思考することを通じて起業に関わる基礎的知識を修得し、地域で生活する人々に真に必要なサービスモデルを創造し構築する方法を身につける。

「NPO論」では、非営利組織であるNPOの理念を知り組織の運営のあり方を学び、市民や行政や企業等多職種と協働し、社会や地域課題の解決に向けたサービス提供の選択肢の一つとしてNPOを活用する能力を育成する。

これらの科目から、他者との協力や人的資源を有効に活用する方法やスキル、起業にかかわる基本的なノウハウ、対象者や地域のニーズに対応する新しいサービスの創造等について学び、新しいサービス事業を展開し、多職種と協働して地域のニーズに対応できる能力を修得する。

このように、理学療法学科の展開科目に配置した7科目は、人材像に掲げた「身体機能の維持・改善および予防に寄与する力を高め健康寿命の延伸のために尽力し、地域のニーズに対応する新しいサービス事業を展開し、地域の創生に多職種と協働して貢献する」という目的に合致した科目配置であり、これらを学修しそれぞれの能力を身につけることにより、掲げた人材像の実現は可能と考える。

そして本学を卒業した理学療法士が活動する場は、これまで主舞台であった医療機関や福祉施設にとどまらず、在宅系介護サービス事業・特定非営利活動法人（NPO）・スポーツ関係事業・福祉機器関連事業・地方自治体等の様々な領域に拡がり、それぞれの職業現場では、対象者が真に必要なサービスを提案し展開していくことができる。また、新たな視点から人々の健康を支える創造的サービスを提案することで、人々の新しい交流の場と雇用を生み出し、理学療法士として地域を活性化する動力として活躍することが期待される。

2. 作業療法学科

作業療法学科が育成する人材像は、「最新の作業療法専門知識と高度な実践技能を保持し、自己研鑽を怠らず、対象者の思いを受け止め、子供から高齢者に至る幅広い世代が住み慣れたところでいきいきと生活するために必要なサービスを提供し、地域の多様な主体と協働して安心して

暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する人材。」である。この人材像の実現に向けて、ディプロマ・ポリシー4)に「対象者の思いを受け止め共有して、幅広い世代が住み慣れたところできいきと生活するために必要なサービスを提供し、多職種と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する力を備える。」を掲げている。このディプロマ・ポリシー4)に掲げた内容を達成するために配置された科目を踏まえて、科目が配置された理由、配置された科目の学習内容と科目により修得される能力およびその能力と人材像との関係について以下に説明いたします。

なお、ご指摘では展開科目 10 科目のうち学科共通科目を除いた 7 科目での説明を求められておりますので、7 科目について説明いたします。

地域のニーズに対して、本学で育成する作業療法士としての主な役割は、地域を理解し地域生活を支援するためのサービスを展開し地域コミュニティづくりにつなげていくことである。そのためには、社会の基本構成単位である家族の理解、地域および地域生活のあり方、そして地域コミュニティへの関わり方の三つの要素を知ることが欠かせない。それらを学ぶために、「家族関係論」「地域社会論」「コミュニティ形成論」を配置した。

「家族関係論」では、社会を構成する基本単位としての家族関係を中心とした人間相互の関わり合いの成り立ちやその意義を読み解き、家族と家庭生活に生じる様々な問題を分析的にとらえる基本的な能力を修得する。「地域社会論」では、地域づくりの基本を学び、地域社会の歴史および地域自治のあり方、住民の生活原理について理解を深め、地域社会の課題と可能性を分析する能力を修得し、地域活性化に向けての新規事業の創造の重要性を学ぶ。

「コミュニティ形成論」では、地域コミュニティの機能形成に焦点をあて、コミュニティ形成の基本知識を修得し、地域のコミュニティを活性化させ対象者と地域社会を結びつけるために必要な知識を修得する。

これらの科目から、社会を構成する最小単位である家族についてその課題を分析し解決する能力、地域づくりや地域の活性化に向けた新しいサービスの創造や地域コミュニティを活性化させるコーディネート力やマネジメント力を学び、地域生活を支援する能力を修得することができる。

そして、家族や地域に関する理解を広げ、地域生活を支える能力を修得して、次は子供から高齢者に至る幅広い世代がそれぞれのライフサイクルに合わせて、いきいきと生活できる環境づくりに発展させていく能力の修得が必要である。具体的には、対象者のライフサイクルに沿った生活課題を知り、子供から大人までの各世代の健康課題を知り、対象者を取り巻く環境因子について知ることが肝要であり、それらを知った上で対象者や地域への新たなサービスを提供していくことになる。またライフステージを考える時に、障害をもつ子供への教育環境づくりは欠かせない課題である。これらを学ぶために、「ライフサイクル論」「地域生活と健康」「人間工学」「特別支援教育」を配置した。

「ライフサイクル論」では、ライフサイクルのなかで時系列的に生じる様々な生活課題の全体像を系統的に把握し、最適な支援を行うために必須の知見を修得する。「地域生活と健康」では、様々な対象者やライフステージに合わせた健康の維持・増進および健康的なライフスタイルの形成のために必要な基本的知識と技能を身につけ、健やかな地域コミュニティの構築に貢献できる

力を修得する。「人間工学」では、人と人を取り囲む様々なものや環境との整合性を図り、地域コミュニティで多様な主体が快適に生活するために必要な工学的視点を学ぶ。このような観点から本科目を作業療法学科の展開科目に配置したが、理学療法学科の学生も選択することは可能である。教育現場で期待されている作業療法士の役割を広く知り、特別なニーズを持つ子どもを支援する方法について学び、学校内外の機関および専門家と連携して、障害を持つ子供が地域で共生できるようなコミュニティを形成していくための基礎的な力を修得するためには「特別支援教育」を配置した。

これらの科目から、弱体化したコミュニティの機能を再構築し、個人と家族と子供を含め障害を持つ人が共にいきいきと活躍できる地域環境づくりに、作業療法士として積極的に参加する上で必須のライフステージに適した新たなサービスを提供する知識と能力を修得する。

このように、作業療法学科に独自に配置した展開科目の7科目は、人材像に掲げた「子供から高齢者に至る幅広い世代が住み慣れたところでいきいきと生活するために必要なサービスを提供し、地域の多様な主体と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する人材」を育成するという目的に合致した科目配置であり、これらを学修することでそれぞれの能力を身につけることにより、掲げた人材像の実現は可能と考える。

そして本学を卒業した作業療法士は、これまで活動の主舞台であった医療機関や福祉施設にとどまらず、在宅系介護サービス事業・地方自治体・住宅関連企業・福祉機器関連企業・教育機関・就労支援事業等の新たな職業現場に活躍の場が広がり、対象者が真に必要とするサービスの革新を提案し活躍の場を広げることができ、地域に根付いた新たな視点から人々の生活を支える創造的サービスを提案することで、地域に人々の交流の場が提供され新たな雇用も生み出され、作業療法士として地域を活性化する動力としての役割を担うことができる。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (P26-30)

新	旧
<p>(3) 展開科目 (前略)</p> <p>1. 理学療法学科</p> <p><u>理学療法学科が育成する人材像は、「最新の理学療法専門知識と高度な実践技能を保持し、自己研鑽を怠らず、対象者の思いを受け止め共有し、身体機能の維持・改善および予防に寄与する力を高め健康寿命の延伸のために尽力し、地域のニーズに対応する新しいサービス事業を展開し、地域の創生に多職種と協働して貢献する人材。」である。この人材像の実現に向けて、ディプロマ・ポリシー4)に「対象者の思いを受け止め共有して、身体機能の維持・改善および予防に寄与する力を高め健康寿命の延伸のために尽力し、地域のニ</u></p>	<p>(3) 展開科目 (前略)</p> <p>2) <u>理学療法学科における展開科目を通じて育成する力</u></p> <p><u>理学療法学科では対象者を尊重する人間味あふれる姿勢と最新の知識・専門技術を駆使して、身体機能を改善し、健康寿命を延伸するサービスを提供し、サービスを組織化する力を身につけて、地域活性化に貢献できる展開力を育成する。</u></p> <p><u>人々が幸せに暮らし社会で活躍するためには、健やかな心身は欠かせない。急速に進む高齢化社会では、人々が病を抱えて生きることも当たり前となり、それを公的負担で支えるには限界がある。そこで人々の健康にかかわる新たな枠組みを</u></p>

ズに多職種と協働して貢献する力を備える。」を掲げている。このディプロマ・ポリシー4)に掲げた内容を達成するために10科目の展開科目を配置し、配置された科目を踏まえて、科目が配置された理由、配置された科目の学修内容、科目により修得される能力およびその能力と人材像との関係等について以下に説明する。

理学療法士として対象者や地域との連携を深め新たなサービスを展開していくためには、まず、基本的資質として人の尊厳を遵守し豊かな感性をもって対応していくことが肝要である。その基本的資質を涵養するために、人を深く知り人の尊厳を知り豊かな感性をもつ必要がある。また社会の中での人間形成について知る必要がある。これが以下の科目を配置する理由である。前者の修得のために、「ヒューマンサービス論」を置き、この科目で、人の痛みや悲しみを受け止める感性と豊かな人間性を鍛え、深い人間理解を基盤としてヒューマンサービスとは何かを掘り下げ、人間の尊厳と多様性を踏まえたサービスを創造する基盤を修得する。後者の修得のために「人間形成論」を配置し、社会生活における人間形成に理解を深め、人のライフスタイルの全体と異なる世代間の相互性という観点から、ライフステージを考慮したサービスのあり方を修得する。

これらの科目から、深い人間理解を基盤として対象者に対してその思いを深く受け止め共有し、対象者が置かれた状況を的確に把握し、それぞれの対象者に適したサービスを創造する力を修得する。

このような資質を基盤として、次は、対象者および地域のニーズである健康寿命の延伸を図るサービスの展開へとつなげていく。

この健康寿命の延伸のために必要な要素は多様であるが、中でも、健康な体の維持のための食生活、日常生活やスポーツの中での身体運動、生体からの様々な情報を知ることの三つの要素が

創出し、多様な主体と連携して人々が健康で社会に参画し続けるために必要なサービスを提供する力を養う。

具体的には、2年後期「ヒューマンサービス論」で、ヒューマンサービスとは何かを掘り下げ、人の痛みや悲しみを受け止める感性と豊かな人間性を鍛え、人間の尊厳と多様性を踏まえたサービス創造の基盤を育成する。3年後期「人間形成論」では、人のライフサイクルの全体と異なる世代間の相互性という観点から、ライフステージを考慮したサービスのあり方を修得する。

さらに3年後期「生体情報科学」で、医療・ヘルスケア分野、健診データ、スポーツ分野、在宅・家庭などからウェアラブル端末やIoTなどを活用した健康に関する情報を収集する基本的技能について学び、効果的な医療・ヘルスケア・健康サービスを提供するために生体情報を活用する力を育成する。

4年前期「スポーツ科学」で、身体運動を科学するためのアプローチ方法を学び、対象者のニーズやライフステージに適したサービスのあり方を探究する。また3年前期「食生活マネジメント論」で、健康における食生活の重要性と、食生活における老化予防、生活習慣病予防についての見識を深める。

このようにして、対象者の置かれた状況を的確に把握し、心と体を深く理解し尊重する姿勢と、健全な運動と食生活のあり方を修得することによって、対象者の身体機能を改善し、健康寿命を延伸するサービスを提供するうえで必須の能力を育成する。

また4年前期「マネジメント論」において、組織の目標を効率的に達成するためのスキルを、さらに4年前期「コーチング論」で、人の能力や可能性を伸ばし、人的資源を最大限に活用する考え方とスキルを修得する。さらに4年前期「起業入門」では、起業に関わる基礎的知識と技能を修得し、地域で生活する人々に真に必要なサービスモ

重要であると考えた。そこで、健康寿命を延伸する能力を修得するために、この三つの要素を組み入れて、「食生活マネジメント論」「スポーツ科学」「生体情報科学」を配置した。

「食生活マネジメント論」では、健康における食生活の重要性と食生活における老化予防、生活習慣病予防についての見識を深め、在宅生活を支える食生活の重要性の理解も深める。「スポーツ科学」では、身体運動を科学するためのアプローチの仕方を学び、対象者の課題やニーズやライフステージに適したサービスのあり方を探究する。

「生体情報科学」では、医療・ヘルスケア分野、健診データ、スポーツ分野、在宅・家庭などからウェアラブル端末や IoT 等を活用した健康に関する情報を収集する基本的な技能について学び、日常生活（生活習慣）に寄与できる効果的な医療・ヘルスケア・健康サービスを提供するために情報を活用する力を修得する。

これらの科目から、健康寿命の延伸の基本となる健全な食生活や身体運動のあり方、日常生活（生活習慣）に寄与できる効果的な生体情報の収集方法を学ぶことによって、対象者の身体機能の維持・改善と予防に寄与し、健康寿命の延伸およびそのためのサービスを提供する上で必須の能力を修得する。

そして、前記の科目で修得した健康寿命の延伸に関する知識を基にして、これらを地域のニーズに合わせて、多職種と協働して新たなサービスへと発展させる能力が必要となる。そのためには、多職種と協働して組織のマネジメントができ、組織の人材を有効活用し、さらに組織の運営の実際を知り、地域のニーズに沿った起業活動のノウハウを修得することが必要である。この目的で「マネジメント論」「コーチング論」「起業入門」「NPO 論」を配置した。

「マネジメント論」では、組織に所属する個人や集団、外部環境、組織の動的プロセスを総合的にマネジメントするために必要な基礎的知識

を創造し構築する方法を身につける。加えて4 年前期「NPO 論」によって、NPO の理念を知り組織の運営の在り方を学び、サービス提供の選択肢の一つとして NPO を活用する力を育成する。最後に4 年前期「岡山経営者論」で、岡山を代表する様々な分野の経営者ならびにイノベーターを招き、新サービス・起業・新規事業展開・海外事業展開・地域創生（地域活性化）をテーマに、企業・経営者の観点からサービスの創造に欠かせない思考と創造力を学び、他分野の視点やアイデアを形にする方法やサービスの革新と新たなサービスを創出する力を育成する。

こうして展開科目を修めた学生は、これまで活動の主舞台であった医療機関や福祉施設にとどまらず、在宅系介護サービス事業・特定非営利活動法人（NPO）・スポーツ関連事業・福祉機器関連事業など新たな職業現場において、対象者が真に必要なとするサービスを提案し活躍の場を広げることができる。また、新たな視点から人々の健康を支える創造的サービスを提案することで、地域を活性化する動力として活躍することが期待される。

2) 作業療法学科における展開科目を通じて育成する力

作業療法学科では、対象者を尊重する人間味あふれる姿勢と最新の知識と専門技術を駆使して、対象者が住み慣れた地域で自立した生活を実現するために、人の健康と生活にかかわる諸問題を解決する力とライフステージに適した新たなサービスを提供する力を身につけ、地域で住民が共に支えあいながら生き生きと生活できる環境づくりを支援する力を育成する。

一人ひとりの日々の生活は地域で営まれ、その生活は各々のライフステージに応じて変化し交錯する。その中で人々が安心して暮し活躍しつづけるためには、人と地域をつなぐコミュニティを活性化させ、それぞれが地域で役割を担えるよう

と技能を修得し、対象者や地域のニーズを新たなサービスの形にして目標を達成するための能力を修得する。「コーチング論」では、人の能力や可能性を伸ばし、他者との協働や人的資源を最大限に活用する考え方とスキルを修得する。「起業入門」では、自らが起業することを想定して思考することを通じて起業に関わる基礎的知識を修得し、地域で生活する人々に真に必要なサービスモデルを創造し構築する方法を身につける。「NPO論」では、非営利組織であるNPOの理念を知り組織の運営のあり方を学び、市民や行政や企業等多職種と協働し、社会や地域課題の解決に向けたサービス提供の選択肢の一つとしてNPOを活用する能力を育成する。

これらの科目から、他者との協力や人的資源を有効に活用する方法やスキル、起業にかかわる基本的なノウハウ、対象者や地域のニーズに対応する新しいサービスの創造等について学び、新しいサービス事業を展開し、多職種と協働して地域のニーズに対応できる能力を修得する。

そして、展開科目の集大成として「岡山経営者論」を配置する。この「岡山経営者論」においては、岡山を代表する様々な分野の経営者並びにイノベーターにより、新サービス・起業・新規事業展開・海外事業展開・地域創生（地域活性化）等をテーマに、企業・経営者の観点からサービスの創造に欠かせない思考と創造力を学び、他分野の視点やアイデアを形にする方法やサービスの革新と新たなサービスを創造する能力を修得する。

この「岡山経営者論」により、岡山という地域の中で、理学療法士として「サービス」をどのように展開すれば地域創生のための「創造（イノベーション）」が起こせるかを学び、地域の活性化に寄与することができる能力を修得する。さらに「岡山経営者論」でのつながりを契機として、医療関連分野以外の一般企業との連携も視野に入ってくる事が期待される。

このように、理学療法学科に配置された展開科

に支援する必要がある。

そのためには、地域社会の成り立ちを知り地域の特性や課題についての理解を深め、地域を分析し実情を把握する力を育成する必要がある。また、近年、人口減少や高齢化による地域コミュニティの弱体化が進んでいる。地域の支えあいの基盤となる地域コミュニティの特性を深く把握し、人々の地域生活を支えるコミュニティの形成に貢献できる力を育成する必要がある。そして、家族の重要機能について理解を深め、一人ひとりの生活と家族と地域を有機的・相関的にとらえる視点を養い、新たなサービスを提供できる力を養う必要がある。

2年後期「ヒューマンサービス論」で、ヒューマンサービスとは何かを掘り下げ、人の痛みや悲しみを受け止める感性と豊かな人間性を鍛え、人間の尊厳と多様性を踏まえたサービスを創造する基盤を育成する。そして、3年後期「人間形成論」で、人のライフサイクルの全体と異なる世代間の相互性という観点から、ライフステージを考慮したサービスを創造する力を涵養する。3年前期「家族関係論」は、社会を構成する基本単位としての家族の変動を読み解き、家族と家庭生活に生じる様々な問題を分析的にとらえる基本的な能力を育成する。3年後期「地域社会論」は、地域づくりの基本を学び、地域社会の歴史および地域自治のあり方、住民の生活原理について理解を深め、地域社会の課題と可能性を分析する力を育成する。3年後期「コミュニティ形成論」は、地域コミュニティの機能に焦点をあて、コミュニティ形成の基礎知識を修得し、地域のコミュニティを活性化させ対象者と地域社会を結びつけるために必要な知識を修得する。4年前期「ライフサイクル論」では、ライフサイクルのなかで時系列的に生じる様々な生活課題の全体像を系統的に把握し、最適な支援を行うために必須の知見を修得する。4年前期「地域生活と健康」は、健康的なライフスタイルの形成のために必要な基本的

目を学修し、それぞれの能力を身につけることにより、掲げた人材像の実現は可能である。

そして本学を卒業した理学療法士が活動する場は、これまで主舞台であった医療機関や福祉施設にとどまらず、在宅系介護サービス事業・特定非営利活動法人（NPO）・スポーツ関係事業・福祉機器関連事業・地方自治体等の様々な領域に拡がり、それぞれの職業現場では、対象者が真に必要なとするサービスを提案し展開していくことができる。また、新たな視点から人々の健康を支える創造的サービスを提案することで、人々の新しい交流の場と雇用を生み出し、理学療法士として地域を活性化する動力として活躍することが期待される。

2. 作業療法学科

作業療法学科が育成する人材像は、「最新の作業療法専門知識と高度な実践技能を保持し、自己研鑽を怠らず、対象者の思いを受け止め、子供から高齢者に至る幅広い世代が住み慣れたところでいきいきと生活するために必要なサービスを提供し、地域の多様な主体と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する人材。」である。この人材像の実現に向けて、ディプロマ・ポリシー4) に「対象者の思いを受け止め共有して、幅広い世代が住み慣れたところでいきいきと生活するために必要なサービスを提供し、多職種と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する力を備える。」を掲げている。

このディプロマ・ポリシー4) に掲げた内容を達成するために10科目の展開科目を配置し、配置された科目を踏まえて、科目が配置された理由、配置された科目の学修内容、科目により修得される能力およびその能力と人材像との関係等について以下に説明する。

まず、作業療法士の基本的資質として、対象者

知識と技能を身につけ、健やかな地域コミュニティの構築に貢献できる力を育成する。4年前期「人間工学」は、人と人を取り囲むさまざまな物や環境との整合性を図り、地域コミュニティで多様な主体が快適に生活するために必要な工学的視点を学ぶ。4年前期「特別支援教育」は、教育現場で期待されている作業療法士の役割を広く知り、特別なニーズを持つ子どもを支援する方法について学び、学校内外の機関および専門家と連携して、障害を持つ子供が地域で共生できるようなコミュニティを形成していくための基礎的な力を育成する。

こうして弱体化したコミュニティの機能を再構築し、個人と家族と障害を持つ人が共に生き生きと活躍できる地域環境づくりに、作業療法士として積極的に参加する上で必須の知識と力を育成する。

最後に4年前期「岡山経営者論」で、岡山を代表する様々な分野の経営者ならびにイノベーターを招き、新サービス・起業・新規事業展開・海外事業展開・地域創生（地域活性化）をテーマに、企業・経営者の観点からサービスの創造に欠かさない思考と創造力を学び、他分野の視点やアイデアを形にする方法やサービスの革新と新たなサービスを創出する力を育成する。

展開科目を修めた学生は、これまで活動の主舞台であった医療機関や福祉施設にとどまらず、在宅系介護サービス事業、地方自治体、福祉機器関連事業、住宅関連企業、教育機関、就労支援事業など新たな職業現場において、対象者が真に必要なとするサービスへの革新を提案し活躍の場を広げることができる。そして、新たな視点から人々の健康と生活を支える創造的サービスを提案することで、地域コミュニティの形成に参加し、地域を活性化する動力として活躍することが期待される。

や地域との連携を深め新たなサービスを展開していくためには、人の尊厳を遵守し豊かな感性をもって対応していくことが肝要である。その基本的資質を涵養するために、人を深く知り人の尊厳を知り豊かな感性をもつ必要があり、また社会の中での人間形成について知る必要がある。これが以下の科目を配置する根拠である。前者の修得のために、「ヒューマンサービス論」を置き、この科目で、人の痛みや悲しみを受け止める感性と豊かな人間性を鍛え、深い人間理解を基盤としてヒューマンサービスとは何かを掘り下げ、人間の尊厳と多様性を踏まえたサービスを創造する基盤を修得する。後者の修得のために「人間形成論」を配置し、社会生活における人間形成に理解を深め、人のライフスタイルの全体と異なる世代間の相互性という観点から、ライフステージを考慮したサービスのあり方を修得する。

これらの科目から、深い人間理解を基盤として対象者に対してその思いを深く受け止め共有し、対象者が置かれた状況を的確に把握し、それぞれの対象者に適したサービスを創造する能力を修得する。

このような資質を基盤として、地域を理解し地域生活を支援するためのサービスを展開し地域コミュニティづくりへとつなげていく。そのためには、社会の基本構成単位である家族の理解、地域および地域生活のあり方、そして地域コミュニティへの関わり方の三つの要素を知ることが欠かせない。それらを学ぶために、「家族関係論」「地域社会論」「コミュニティ形成論」を配置した。

「家族関係論」では、社会を構成する基本単位としての家族関係を中心とした人間相互の関わり
の成り立ちやその意義を読み解き、家族と家庭生活に生じる様々な問題を分析的にとらえる基本的な能力を修得する。「地域社会論」では、地域づくりの基本を学び、地域社会の歴史および地域自治のあり方、住民の生活原理について理解を

深め、地域社会の課題と可能性を分析する能力を修得し、地域活性化に向けての新規事業の創造の重要性を学ぶ。

「コミュニティ形成論」では、地域コミュニティの機能形成に焦点をあて、コミュニティ形成の基本知識を修得し、地域のコミュニティを活性化させ対象者と地域社会を結びつけるために必要な知識を修得する。

これらの科目から、社会を構成する最小単位である家族についてその課題を分析し解決する能力、地域づくりや地域の活性化に向けた新しいサービスの創造や地域コミュニティを活性化させるコーディネート力やマネジメント力を学び、地域生活を支援する能力を修得することができる。

そして、家族や地域に関する理解を広げ、地域生活を支える能力を修得して、次は子供から高齢者に至る幅広い世代がそれぞれのライフサイクルに合わせて、いきいきと生活できる環境づくりに発展させていく能力の修得が必要である。具体的には、対象者のライフサイクルに沿った生活課題を知り、子供から大人までの各世代の健康課題を知り、対象者を取り巻く環境因子について知ることが肝要であり、それらを知った上で対象者や地域への新たなサービスを提供していくことになる。またライフステージを考える時に、障害をもつ子供への教育環境づくりは欠かせない課題である。これらを学ぶために、「ライフサイクル論」「地域生活と健康」「人間工学」「特別支援教育」を配置した。

「ライフサイクル論」では、ライフサイクルのなかで時系列的に生じる様々な生活課題の全体像を系統的に把握し、最適な支援を行うために必須の知見を修得する。「地域生活と健康」では、様々な対象者やライフステージに合わせた健康の維持・増進および健康的なライフスタイルの形成のために必要な基本的知識と技能を身につけ、健やかな地域コミュニティの構築に貢献できる力を修得する。「人間工学」では、人と人を取り

囲む様々なものや環境との整合性を図り、地域コミュニティで多様な主体が快適に生活するために必要な工学的視点を学ぶ。このような観点から本科目を作業療法学科の展開科目に配置したが、理学療法学科の学生も選択することは可能である。教育現場で期待されている作業療法士の役割を広く知り、特別なニーズを持つ子どもを支援する方法について学び、学校内外の機関および専門家と連携して、障害を持つ子供が地域で共生できるようなコミュニティを形成していくための基礎的な力を修得するために「特別支援教育」を配置した。

これらの科目から、弱体化したコミュニティの機能を再構築し、個人と家族と子供を含め障害を持つ人が共にいきいきと活躍できる地域環境づくりに、作業療法士として積極的に参加する上で必須のライフステージに適した新たなサービスを提供する知識と能力を修得する。

そして、「岡山経営者論」においては、岡山を代表する様々な分野の経営者並びにイノベーターにより、新サービス・起業・新規事業展開・海外事業展開・地域創生（地域活性化）等をテーマに、企業・経営者の観点からサービスの創造に欠かせない思考と創造力を学び、他分野の視点やアイデアを形にする方法やサービスの革新と新たなサービスを創造する能力を修得する。

この「岡山経営者論」は、展開科目の集大成として位置づけられ、この科目により、岡山という地域の中で、理学療法士として「サービス」をどのように展開すれば地域創生のための「創造（イノベーション）」が起こせるかを学び、地域の活性化に寄与することができる能力を修得する。さらに「岡山経営者論」でのつながりを契機として、医療関連分野以外の一般企業との連携も視野に入ってくることが期待される。

このように、作業療法学科に配置された展開科目を学修し、それぞれの能力を身につけることにより、掲げた人材像の実現は可能である。

そして本学を卒業した作業療法士は、これまで活動の主舞台であった医療機関や福祉施設にとどまらず、在宅系介護サービス事業・地方自治体・住宅関連企業・福祉機器関連企業・教育機関・就労支援事業等の新たな職業現場に活躍の場が広がり、対象者が真に必要とするサービスの革新を提案し活躍の場を広げることができ、地域に根付いた新たな視点から人々の生活を支える創造的サービスを提案することで、地域に人々の交流の場が提供され新たな雇用も生み出され、作業療法士として地域を活性化する動力としての役割を担うことができる。

なおここで、医療関連分野とそれ以外の一般企業等との連携について補足しておく。

「多職種連携」とは、医療界では、通常、保健・医療・福祉にかかわる様々な職種（医師・看護師・介護福祉士・各療法士・薬剤師・管理栄養士・医療行政職等）の間、即ち、各種医療職種間および医療関連機関の間での連携を意味する。しかし今後、前記の展開科目により育成された本学の卒業生の就職先として、スポーツ関連事業や住宅関連企業等の一般企業の分野への進出が見込まれるため、また一般企業の職員の健康の維持・向上への取り組みが進む中での企業の産業医や保健師との連携等を含めて、医療関連分野のみならず一般企業との連携を進めていく必要があると認識している。また、現在岡山市が進めている「地域包括ケアシステム」の構築の中で、システムの中核を担う行政職、さらにはこのシステムにかかわる一般企業との連携も必要になってくる。カリキュラムでは、前記の「岡山経営者論」で実際に様々な種類の一般企業のリーダーを招聘するため、この科目を通して医療関連分野と一般企業との連携を考え、場合によっては実践する機会になることが期待される。さらに、行政との連携については、「教育課程連携協議会」の構成員として行政職にも参加をいただいているので、この協議会を通じて行政との連携について協議できるものと

思われる。	
-------	--

11. 臨地実務実習の以下の点を是正すること。

(1) 臨地実務実習前に、能力到達度確認として OSCE (客観的臨床能力試験) を行うことが説明されたが、臨地実務実習の各シラバスでは実習の前後で OSCE を行うと思われる記載がされているが、実現可能性に疑義があるため、OSCE の実施方法や時期について具体的に明らかにすること。

(2) 臨地実務実習は OSCE に合格しなければ参加できないことを踏まえると、履修登録後に OSCE に不合格だった者は科目を履修することができないため、臨地実務実習の履修条件に OSCE の合格を含めること。

(3) 臨地実務実習指導要項に記載されている臨地実務実習の成績評価の割合が、シラバス上の成績評価の割合と不一致となっているため改めること。また、臨地実務実習指導要項で成績評価体制及び単位認定方法として実技試験、筆記試験、実習実施報告会等が挙げられているが、その具体的な評価内容と基準を明らかにすること。

(対応)

(1) 臨地実務実習の各シラバスでは実習の前後で OSCE を行うと思われる記載がされているが、実現可能性に疑義があるため、OSCE の実施方法や時期について具体的に明らかにするようご意見をいただき、各臨地実務実習 (評価実習・総合実習 I・総合実習 II) の前後で実技試験を実施するとしていたのを実習前だけに OSCE を実施するよう改める。

理学療法学科では 2 年生 (80 名) および 3 年生 (80 名) を対象に 3 月期に OSCE の試験を実施する。

< OSCE の方法について >

I. OSCE の開催回数と時期

【理学療法学科】

評価実習に対する OSCE (2 年生 3 月の 4 日間)

総合実習 I に対する OSCE (2 年生 3 月の 2 日間)

総合実習 II に対する OSCE (3 年生 3 月の 2 日間)

【作業療法学科】

評価実習に対する OSCE (2 年生 3 月の 2 日間)

総合実習 I に対する OSCE (2 年生 3 月の 1 日間)

総合実習 II に対する OSCE (3 年生 3 月の 1 日間)

II. OSCE の実施に関する事項

1. 対象は理学療法学科 80 名、作業療法学科 40 名の 2 年生および 3 年生である。

2. 試験官の構成は、試験内容によって異なるものの理学療法学科作業療法学科ともに教職員 (最大 14 名) と外部評価者 (最大 10 名) と事務職員 (最大 8 名) で運営する。患者役は基本的に教職員 (PT もしくは OT 学科の専任教員) が勤め評価者は外部評価者と教職員が 1 組になって学生を評価する。

3. 試験を実施

4. 学生への OSCE 課題と採点項目については、事前に説明し必要な資料を配布する。
5. 学生は実習時に求められる態度、身だしなみで試験を受験する。
6. 試験で使用する基本的な検査器具および訓練用具については学生が準備する。
7. 試験時間は最大で 20 分とし、後日、全体にむけて総評をおこない必要に応じて個別指導を行う。

(*後日、フィードバックを行う理由として、同一の試験を複数日に分けて行う可能性があるため、学生間での公平性を可能な限り担保するため)

8. 合格は 60%以上の得点率とする。

9. 実施手順

- 1) 試験開始時刻になったら、学生を教室に入れる。
- 2) 試験官は開始前に学生氏名を確認する。
- 3) タイムキーパの合図で試験を開始する
- 4) 各試験で設定された試験時間の終了 2 分前に呼び鈴を鳴らし設定時間に終了を告げる。
- 5) 試験官および患者役は評価シートに採点を記入する。
- 6) 各実習に対する OSCE の試験終了時に教員と外部評価者が会議を行い総評コメントを作成する。
- 7) 試験終了後 1 週間以内を目安に総評および個別指導を教職員が実施する。

理学療法学科

評価実習、総合実習 I に対する OSCE

1) 課題

- (1) 医療面接
- (2) バイタルチェック
- (3) 形態測定
- (4) ROMt
- (5) MMT
- (6) DTR's
- (7) BRST
- (8) 感覚検査
- (9) 病的反射
- (10) 筋緊張検査
- (11) 脳神経検査
- (12) トランスファー

総合実習 II に対する OSCE

1) 課題

理学療法治療・訓練

- (1) ROMex
- (2) 筋力増強 ex

作業療法学科

評価実習、総合実習 I に対する OSCE

1) 課題

- (1) 医療面接
- (2) バイタルチェック
- (3) ROMt
- (4) BRST
- (5) 感覚検査
- (6) 認知機能検査
- (7) 感覚検査
- (8) 病的反射
- (9) 筋緊張検査
- (10) 脳神経検査
- (11) トランスファー

総合実習 II に対する OSCE

1) 課題

作業療法治療・訓練

- (1) ROMex
- (2) 作業活動
- (3) 応用的動作訓練

このように試験日を分けて実施することで、学生の学修を促進するとともにその他の大学業務への影響を最小限にすることが可能である。

(新旧対照表) シラバス

新	旧
理学療法学科 評価実習 成績評価の方法・基準 実習時間(実習の規定時間を満たすこと)、 実習課題の実施状況、実習実施報告会での発	理学療法学科 評価実習 【実習後】 <u>実技試験</u> 内容:理学療法評価 (検査・測定)が正確に実施可能かを試験する。 <u>医療面接/バイタルチェック/形態測定</u>

<p><u>表内容、実習に取り組む姿勢、これらを科目担当者が評定し、各実習の臨地実務実習判定会議で総合的に判定する。</u></p>	<p><u>/ROMt/MMT/DTR's/BRST/感覚検査等</u> <u>評価実習課題（レポート）</u> 実習実施報告会</p>
<p>試験の方法 <u>実習時間（各実習の規定時間を満たすこと）、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容</u></p>	<p>総合実習 I 講義計画（テーマと内容等） <u>【実習後】実技試験 内容：①理学療法評価（検査・測定）が正確に実施可能かを試験する。②理学療法治療・訓練（ROMex/筋力増強ex/基本的動作訓練 等）が安全に実施可能かを試験する。</u></p>
<p>総合実習 I 成績評価の方法・基準 <u>実習時間（実習の規定時間を満たすこと）、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容、実習に取り組む姿勢、これらを科目担当者が評定し、各実習の臨地実務実習判定会議で総合的に判定する。</u></p>	<p>実習実施報告会 総合実習 II 講義計画（テーマと内容等） <u>【実習後】 実技試験 内容：理学療法治療・訓練（ROMex/筋力増強 ex/基本的動作訓練 等）が安全に効果的に実施可能かを試験する。</u></p>
<p>試験の方法 <u>実習時間（各実習の規定時間を満たすこと）、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容</u></p>	<p>実習実施報告会 作業療法学科 評価実習</p>
<p>総合実習 II 成績評価の方法・基準 <u>実習時間（実習の規定時間を満たすこと）、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容、実習に取り組む姿勢、これらを科目担当者が評定し、各実習の臨地実務実習判定会議で総合的に判定する。</u></p>	<p><u>【実習後】 実技試験 内容：作業療法評価（検査・測定）が正確に実施可能かを試験する。医療面接/バイタルチェック/形態測定 /ROMt/MMT/DTR's/BRST/感覚検査/認知機能検査等</u> 実習実施報告会</p>
<p>試験の方法 <u>実習時間（各実習の規定時間を満たすこと）、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容</u></p>	<p>総合実習 I 講義計画（テーマと内容等） <u>【実習後】実技試験 内容：①作業療法評価（検査・測定）が正確に実施可能かを試験する。②作業療法治療・訓練（ROMex/作業活動/応用的動作訓練 等）が安全に実施可能かを試験する。</u> 実習実施報告会</p>

<p>作業療法学科</p> <p>評価実習</p> <p>成績評価の方法・基準</p> <p><u>実習時間(実習の規定時間を満たすこと)、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容、実習に取り組む姿勢、これらを科目担当者が評定し、各実習の臨地実務実習判定会議で総合的に判定する。</u></p> <p>試験の方法</p> <p><u>実習時間(各実習の規定時間を満たすこと)、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容、実習に取り組む姿勢</u></p> <p>総合実習 I</p> <p>成績評価の方法・基準</p> <p><u>実習時間(実習の規定時間を満たすこと)、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容、実習に取り組む姿勢、これらを科目担当者が評定し、各実習の臨地実務実習判定会議で総合的に判定する。</u></p> <p>試験の方法</p> <p><u>実習時間(各実習の規定時間を満たすこと)、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容、実習に取り組む姿勢</u></p> <p>総合実習 II</p> <p>成績評価の方法・基準</p> <p><u>実習時間(実習の規定時間を満たすこと)、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容、実習に取り組む姿勢、これらを科目担当者が評定し、各実習の臨地実務実習判定会議で総合的に判定する。</u></p> <p>試験の方法</p>	<p>総合実習 II</p> <p>講義計画(テーマと内容等)</p> <p>【実習後】</p> <p><u>実技試験 内容:作業療法治療・訓練(ROMex/作業活動/応用的動作訓練等)が安全に効果的に実施可能か試験する。</u></p> <p>実習実施報告会</p>
--	--

<u>実習時間（各実習の規定時間を満たすこと）、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容、実習に取り組む姿勢</u>	
---	--

(2) 臨地実務実習の履修登録後にOSCEに不合格だった者は科目を履修することができないため、臨地実務実習の履修条件にOSCEの合格を含めるようにご意見をいただき、臨地実務実習の履修条件をOSCEの合格者と変更する。

(新旧対照表) シラバス

新	旧
理学療法学科 評価実習 履修上の留意事項 <u>OSCEの合格者</u> 総合実習Ⅰ 履修上の留意事項 <u>OSCEの合格者</u> ※総合実習Ⅰ・総合実習Ⅱにおいて訪問リハビリテーション及び通所リハビリテーションに関する実習を45時間(1単位)行うこととする 総合実習Ⅱ 履修上の留意事項 <u>OSCEの合格者</u> ※総合実習Ⅰ・総合実習Ⅱにおいて訪問リハビリテーション及び通所リハビリテーションに関する実習を45時間(1単位)行うこととする 作業療法学科 評価実習 履修上の留意事項 <u>OSCEの合格者</u> 総合実習Ⅰ	理学療法学科 評価実習 履修上の留意事項 <u>実習に関しては実習前に行う実技試験の合格者のみが参加できるものとする。</u> 総合実習Ⅰ 履修上の留意事項 <u>実習に関しては実習前に行う実技試験の合格者のみが参加できるものとする。</u> ※総合実習Ⅰ・総合実習Ⅱにおいて訪問リハビリテーション及び通所リハビリテーションに関する実習を45時間(1単位)行うこととする。 総合実習Ⅱ 履修上の留意事項 <u>実習に関しては実習前に行う実技試験の合格者のみが参加できるものとする。</u> ※総合実習Ⅰ・総合実習Ⅱにおいて訪問リハビリテーション及び通所リハビリテーションに関する実習を45時間(1単位)行うこととする。 作業療法学科 評価実習 履修上の留意事項 <u>実習に関しては実習前に行う実技試験の合格者のみが参加できるものとする。</u>

<p>履修上の留意事項</p> <p><u>OSCE の合格者</u></p> <p>※総合実習Ⅰ・総合実習Ⅱにおいて訪問リハビリテーション及び通所リハビリテーションに関する実習を45時間(1単位)行うこととする</p> <p>総合実習Ⅱ</p> <p>履修上の留意事項</p> <p><u>OSCE の合格者</u></p> <p>※総合実習Ⅰ・総合実習Ⅱにおいて訪問リハビリテーション及び通所リハビリテーションに関する実習を45時間(1単位)行うこととする</p>	<p>総合実習Ⅰ</p> <p>履修上の留意事項</p> <p><u>実習に関しては実習前に行う実技試験の合格者のみが参加できるものとする。</u>※総合実習Ⅰ・総合実習Ⅱにおいて訪問リハビリテーション及び通所リハビリテーションに関する実習を45時間(1単位)行うこととする。</p> <p>総合実習Ⅱ</p> <p>履修上の留意事項</p> <p><u>実習に関しては実習前に行う実技試験の合格者のみが参加できるものとする。</u>※総合実習Ⅰ・総合実習Ⅱにおいて訪問リハビリテーション及び通所リハビリテーションに関する実習を45時間(1単位)行うこととする。</p>
--	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (P71)

新	旧
<p>(2) 実習前・実習中・実習後における指導計画</p> <p>1) 実習前教育</p> <p>(中略)</p> <p>また、臨地実務実習の実施に当たっては、専門性の高い臨床能力の担保のため、実習前における能力の到達度の確認のため <u>OSCE</u> を実施する。</p>	<p>(2) 実習前・実習中・実習後における指導計画</p> <p>1) 実習前教育</p> <p>(中略)</p> <p>また、臨地実務実習の実施に当たっては、専門性の高い臨床能力の担保のため、実習前における能力の到達度の確認のため <u>下記の実技試験</u> を実施する。</p> <p>(理学療法学科)</p> <p>評価実習は、医療面接/バイタルチェック/形態測定/ROMt/MMT/DTR's/BRST/感覚検査等を行い、理学療法評価(検査・測定)が正確に実施出来る能力があるか試験する。</p> <p>総合実習Ⅰでは、医療面接/バイタルチェック/形態測定/ROMt/MMT/DTR's/BRST/感覚検査等、ROMex/筋力増強 ex/基本的動作訓練等を行い、理学療法評価(検査・測定)、理学療法治療・訓練を安全に実施出来る能力があるか試験する。</p>

	<p>総合実習Ⅱでは、ROMex/筋力増強 ex/基本的動作訓練等を行い、理学療法治療・訓練を安全に実施出来る能力があるか試験する。</p> <p>(作業療法学科)</p> <p>評価実習では、医療面接/バイタルチェック/ROMt/BRST/感覚検査/認知機能検査等を行い、作業療法評価(検査・測定)を正確に実施出来る能力があるか試験する。</p> <p>総合実習Ⅰでは、ROMex/作業活動/応用的動作訓練等を行い、作業療法評価(検査・測定)、作業療法治療・訓練を安全に実施出来る能力があるか試験する。</p> <p>総合実習Ⅱでは、ROMex/作業活動/応用的動作訓練等を行い、作業療法治療・訓練を安全に実施出来る能力があるか試験する。試験結果が不十分な場合には再指導を行い、事前準備を万全に行う。</p>
--	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (P71)

新	旧
<p>(削除)</p> <p>また、実習終了後には実習実施報告会を開催し、実習で経験した理学療法内容の発表を行わせ評価する。</p>	<p><u>また、実習後における能力の到達度を確認するため、各学科で次のとおりの試験を行う。</u></p> <p><u>(理学療法学科)</u></p> <p><u>評価実習では、医療面接/バイタルチェック/形態測定/ROMt/MMT/DTR's/BRST/感覚検査等を行い、理学療法評価の水準を試験する。患者役に扮する教員を対象に実技試験を行う。試験の採点については公平性を確保するためルーブリック評価表を使用し、実技の正確性と安全性を採点する。</u></p> <p><u>総合実習Ⅰでは、形態測定/ROMt/MMT/DTR's/BRST/感覚検査等、ROMex/筋力増強 ex/基本的動作訓練等を行い、理学療法評価、理学療法治療・訓練の水準を試験する。患者役に扮する教員を対象に実技試験を行う。試験の採点については公平性を確保するためルーブリ</u></p>

<p>実習終了後には実習実施報告会を開催し、実習で経験した作業療法内容の発表を行わせ評価する。</p>	<p><u>ック評価表を使用し、実技の正確性と安全性を採点する。</u></p> <p><u>総合実習Ⅱでは、ROMex/筋力増強 ex/基本的動作訓練等を行い、理学療法治療・訓練を試験する。患者役に扮する教員を対象に実技試験を行う。試験の採点については公平性を確保するためルーブリック評価表を使用し、実技が安全性かつ効果的に実施できるかを採点する。</u></p> <p><u>併せて実習終了後には実習実施報告会を開催し、実習で経験した理学療法内容の発表を行わせ評価する。</u></p> <p><u>(作業療法学科)</u></p> <p><u>評価実習では、医療面接/バイタルチェック/ROMt/BRST/感覚検査/認知機能検査等を行い、作業療法評価の水準を試験する。患者役に扮する教員を対象に実技試験を行う。試験の採点については公平性を確保するためルーブリック評価表を使用し、実技の正確性と安全性を採点する。</u></p> <p><u>総合実習Ⅰでは、ROMt/BRST/COPM/認知機能検査等、ROMex/作業活動/応用的動作訓練等を行い、作業療法評価、作業療法治療・訓練の水準を試験する。患者役に扮する教員を対象に実技試験を行う。試験の採点については公平性を確保するためルーブリック評価表を使用し、実技の正確性と安全性を採点する。</u></p> <p><u>総合実習Ⅱでは、ROMex/作業活動/応用的動作訓練等を行い、作業療法治療・訓練を試験する。患者役に扮する教員を対象に実技試験を行う。試験の採点については公平性を確保するためルーブリック評価表を使用し、実技の安全性と効果的に実施できるかを採点する。</u></p> <p><u>併せて実習終了後には実習実施報告会を開催し、実習で経験した作業療法内容の発表を行わせ評価する。</u></p>
---	--

(3) 臨地実務実習指導要項に記載されている臨地実務実習の成績評価の割合が、シラバス上の成績評価の割合と不一致となっているため改めるようご意見をいただき、臨地実務実習指導要項に記載されている臨地実務実習の成績評価の割合を次の通り改める。

○理学療法学科の臨地実務実習指導要項

成績評価体制及び単位認定方法として実技試験、筆記試験、実習実施報告会等を挙げているが、筆記試験の実施は記載ミスであり、また審査意見 11 (1) のご意見により OSCE の実施を実習開始前のみと改める。

したがって、成績評価体制及び単位認定方法は、実習指導教員による巡回指導時のルーブリック評価、実習後実習実施報告会での発表、実習指導者による各実習施設における実習状況の科目担当者による評価に基づき、臨地実務実習判定会議で総合的に成績を評価する。

単位認定は、教授会で行う。

【成績評価における評価項目】

- ・実習時間（各実習の規定時間を満たすこと）
- ・実習課題の実施状況
- ・実習実施報告会での発表

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (P72)、(資料 14) 臨地実務実習指導要領 (P9)、(資料 15) 臨地実務実習指導要領 (P8-9)

新	旧
<p>(4) 成績評価体制および単位認定方法</p> <p><u>成績評価体制及び単位認定方法は、実習指導教員による巡回指導時のルーブリック評価、実習後実習実施報告会での発表、実習指導者による各実習施設における実習状況の科目担当者による評価に基づき、臨地実務実習判定会議で総合的に成績を評価する。</u></p> <p>なお、単位認定は、教授会で行う。</p> <p>1) 見学実習の総合成績判定は、S、A、B、C、D、E の 6 段階で行い、評価基準を、100 点満点とする場合、S (100 点から 90 点)、A (89 点から 80 点)、B (79 点から 70 点)、C (69 点から 60 点)、D (59 点以下)、E (未履修) の 6 段階に区分し、C 判定以上を合格とする。</p> <p>成績評価は、以下の 2 項目を総合して判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習実施報告会での発表 (50%) ・レポート (50%) <p>2) 評価実習の総合成績判定は、S、A、B、C、D、</p>	<p>(4) 成績評価体制および単位認定方法</p> <p><u>次の基準に基づいて実習担当教員が実習指導者の意見をもとに評定を行い、臨地実務実習判定会議で判定する。実習判定会議は学部長、各学科長、各学科教員、大学事務局長を以って実施する。</u></p> <p>なお、単位認定は、教授会で行う。</p> <p>1) 見学実習の総合成績判定は、S、A、B、C、D、E の 6 段階で行い、評価基準を、100 点満点とする場合、S (100 点から 90 点)、A (89 点から 80 点)、B (79 点から 70 点)、C (69 点から 60 点)、D (59 点以下)、E (未履修) の 6 段階に区分し、C 判定以上を合格とする。</p> <p>成績評価は、以下の 2 項目を総合して判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習実施報告会での発表 (50%) ・レポート (50%) <p>2) 評価実習の総合成績判定は、S、A、B、C、D、E の 6 段階で行い、評価基準は、100 点満点とする場合、S (100 点から 90 点)、A (89 点から 80</p>

<p>E の 6 段階で行い、評価基準は、100 点満点とする場合、S (100 点から 90 点)、A (89 点から 80 点)、B (79 点から 70 点)、C (69 点から 60 点)、D (59 点以下)、E (未履修) の 6 段階に区分し、C 判定以上を合格とする。</p> <p>成績評価は、以下の <u>3</u> 項目を総合して判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習時間 (各実習の規定時間を満たすこと) ・実習課題の実施状況 ・実習実施報告会での発表 <p>3) 総合実習 I の総合成績判定は、S、A、B、C、D、E の 6 段階で行い、評価基準は、100 点満点とする場合、S (100 点から 90 点)、A (89 点から 80 点)、B (79 点から 70 点)、C (69 点から 60 点)、D (59 点以下)、E (未履修) の 6 段階に区分し、C 判定以上を合格とする。</p> <p>成績評価は、以下の <u>3</u> 項目を総合して判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習時間 (各実習の規定時間を満たすこと) ・実習課題の実施状況 ・実習実施報告会での発表 <p>4) 総合実習 II の総合成績判定は、S、A、B、C、D、E の 6 段階で行い、評価基準は、100 点満点とする場合、S (100 点から 90 点)、A (89 点から 80 点)、B (79 点から 70 点)、C (69 点から 60 点)、D (59 点以下)、E (未履修) の 6 段階に区分し、C 判定以上を合格とする。</p> <p>成績評価は、以下の <u>3</u> 項目を総合して判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習時間 (各実習の規定時間を満たすこと) ・実習課題の実施状況 ・実習実施報告会での発表 	<p>点)、B (79 点から 70 点)、C (69 点から 60 点)、D (59 点以下)、E (未履修) の 6 段階に区分し、C 判定以上を合格とする。</p> <p>成績評価は、以下の <u>2</u> 項目を総合して判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習実施報告会での発表 (30%) ・実技試験 (70%) <p>3) 総合実習 I の総合成績判定は、S、A、B、C、D、E の 6 段階で行い、評価基準は、100 点満点とする場合、S (100 点から 90 点)、A (89 点から 80 点)、B (79 点から 70 点)、C (69 点から 60 点)、D (59 点以下)、E (未履修) の 6 段階に区分し、C 判定以上を合格とする。</p> <p>成績評価は、以下の <u>2</u> 項目を総合して判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習実施報告会での発表 (30%) ・実技試験 (70%) <p>4) 総合実習 II の総合成績判定は、S、A、B、C、D、E の 6 段階で行い、評価基準は、100 点満点とする場合、S (100 点から 90 点)、A (89 点から 80 点)、B (79 点から 70 点)、C (69 点から 60 点)、D (59 点以下)、E (未履修) の 6 段階に区分し、C 判定以上を合格とする。</p> <p>成績評価は、以下の <u>2</u> 項目を総合して判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習実施報告会での発表 (30%) ・実技試験 (70%)
---	---

(是正意見) 健康科学部 理学療法学科, 作業療法学科

12. 専任教員数について、専門職大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。

(対応) 専任教員数について、専門職大学設置基準の規定を満たしていないとのご意見をいただき、以下の通り適切に改める。

【理学療法学科】

教授を1名、実務家研究者(実(研))を新たに2名以上補充し、みなし専任教員を3名から2名に改める。

(新旧対照表)

新	旧
理学療法学科	理学療法学科
専任教授	専任 准教授
中川 法一 専 教授	村西 壽祥 専 准教授
実務家研究者	濱岡 克伺 専 准教授
小野 俊朗 実(研)教授	
山田 英司 実(研)教授	
田中 雅侑 実(研)助教	
実務家	
田村 正樹 実 助教	

(新旧対照表) 別記様式第2号その1 基本計画書

(新)

	学部等の名称	専任教員等						兼任 教員等	
		教授	准教授	講師	助教	計	助手		
教員組織の概要	新設分	健康科学部 理学療法学科	<u>9</u> (7)	<u>1</u> (1)	3 (1)	<u>5</u> (3)	18 (12)	0 (0)	<u>31</u> (4)
		健康科学部 作業療法学科	6 (4)	1 (1)	1 (1)	2 (1)	10 (7)	0 (0)	<u>28</u> (4)
	計	<u>15</u> (11)	<u>2</u> (2)	4 (2)	<u>7</u> (4)	28 (19)	0 (0)	<u>34</u> (4)	
既設分	該当なし	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
	計	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	

	合 計	<u>15</u> (11)	<u>2</u> (2)	4 (2)	<u>7</u> (4)	28 (19)	0 (0)	<u>34</u> (4)
--	-----	-------------------	-----------------	----------	-----------------	------------	----------	------------------

(旧)

	学 部 等 の 名 称	専任教員等						兼任 教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新 設 分	健康科学部 理学療法学科	<u>8人</u> (6)	<u>3人</u> (2)	3人 (1)	<u>4人</u> (0)	18人 (9)	0人 (0)	<u>28人</u> (4)
	健康科学部 作業療法学科	6 (4)	1 (1)	1 (1)	2 (0)	10 (6)	0 (0)	<u>25</u> (4)
	計	<u>14</u> (10)	<u>4</u> (3)	4 (2)	<u>6</u> (0)	28 (15)	0 (0)	<u>31</u> (4)
既 設 分	該当なし	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
	計	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
	合 計	14 (10)	4 (3)	4 (2)	6 (0)	28 (15)	0 (0)	31 (4)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (P45)

新	旧
<p>⑧ 施設、設備等の整備計画</p> <p>2. 校舎等施設の整備計画</p> <p>(中略)</p> <p>研究室は、5階2室、6階に8室、7階に8室、8階に10室、合計28室の個室研究室を設ける。各研究室には、個別の研究机、椅子、書棚、学生指導用机、椅子7脚、保管用ロッカー(鍵付き)を備え、個人情報や個別研究の内容が保持される良好な研究環境を整備する。</p> <p>また5階の予備室(大共同研究室)に、新指定規則に沿って概略図のように3次元動作解析装置、筋電図計測装置、重心動揺分析装置を配置し、教育研究室として活用する。</p> <p>同時に、所属する教員の主要研究分野である運動器系、神経系、内部障害系、物理療法系、基礎系の研究を支援するための機器を整備する。なお</p>	<p>⑧ 施設、設備等の整備計画</p> <p>2. 校舎等施設の整備計画</p> <p>(中略)</p> <p>研究室は、5階2室、6階に8室、7階に8室、8階に10室、合計28室の個室研究室を設ける。各研究室には、個別の研究机、椅子、書棚、学生指導用机、椅子7脚、保管用ロッカー(鍵付き)を備え、個人情報や個別研究の内容が保持される良好な研究環境を整備する。</p> <p>また5階の予備室(大共同研究室)に、新指定規則に沿って概略図のように3次元動作解析装置、筋電図計測装置、重心動揺分析装置を配置し、教育研究室として活用する。</p> <p>同時に、所属する教員の主要研究分野である運動器系、神経系、内部障害系、物理療法系、基礎系の研究を支援するための機器を整備する。なお</p>

学園の研究施設を使用して動物実験を行う教員はいない。	動物実験を行う教員はいない。
----------------------------	----------------

(新旧対照表) 設置の趣旨等が記載された書類 (P32)

新	旧
<p>⑤ 教員組織等の編成の考え方及び特色</p> <p>1. 基準専任教員数と配置専任教員数</p> <p>設置基準により、実務家教員を4割以上配置する。また、設置基準第36条第3項の「専任以外の者であっても、一年につき六単位以上の授業科目を担当し、かつ、教育課程の編成その他の学部の運営について責任を担う者」(以下「みなし専任教員」という。)は、<u>各学科2名以下</u>とする。</p>	<p>⑤ 教員組織等の編成の考え方及び特色</p> <p>1. 基準専任教員数と配置専任教員数</p> <p>設置基準により、実務家教員を4割以上配置する。また、設置基準第36条第3項の「専任以外の者であっても、一年につき六単位以上の授業科目を担当し、かつ、教育課程の編成その他の学部の運営について責任を担う者」(以下「みなし専任教員」という。)は、<u>各学科5名以下</u>とする。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等が記載された書類 (P33)

新	旧
<p>2. 教員組織</p> <p>(1) 教員組織の編成の考え方</p> <p>教員は、理学療法学科に専任教員18名(教授<u>9名</u>、准教授<u>1名</u>、講師3名、助教<u>5名</u>)を配置し、作業療法学科に専任教員10名(教授6名、准教授1名、講師1名、助教2名)を配置する。理学療法学科専任教員には<u>2名</u>、作業療法学科には1名のみなし専任教授が含まれる。</p> <p>また、理学療法学科の教授1名は、現在年次進行中の新設大学の教授として在任しているが、所属する大学学長から本学へ移籍することについての許可を得ている。</p> <p>(中略)</p> <p>(3) 授業担当</p> <p>(前略)</p> <p>専任教員の年齢構成は、70歳以上6名、60歳代の教員<u>3名</u>、50歳代の教員<u>9名</u>、40歳代の教員9名、30歳代の教員1名となっており、教育・研究で最も活躍できる40～50代の教員が多数を占める編成となっている。</p>	<p>2. 教員組織</p> <p>(1) 教員組織の編成の考え方</p> <p>教員は、理学療法学科に専任教員18名(教授<u>8名</u>、准教授<u>3名</u>、講師3名、助教<u>4名</u>)を配置し、作業療法学科に専任教員10名(教授6名、准教授1名、講師1名、助教2名)を配置する。理学療法学科専任教員には<u>3名</u>、作業療法学科には1名のみなし専任教授が含まれる。また、理学療法学科の教授1名は、現在年次進行中の新設大学の教授として在任しているが、所属する大学学長から本学へ移籍することについての許可を得ている。</p> <p>(中略)</p> <p>(3) 授業担当</p> <p>(前略)</p> <p>専任教員の年齢構成は、70歳代6名、60歳代の教員2名、50歳代の教員<u>11名</u>、40歳代の教員<u>8名</u>、30歳代の教員1名となっており、教育・研究で最も活躍できる40～50代の教員が多数を占める編成となっている。</p>

別紙目次

別紙1 カリキュラムマップ

別紙2 履修モデル

別紙3 時間割

別紙4 シラバス

別紙5 教育課程と新指定規則等との対比表

別紙1 カリキュラムマップ

(資料2)健康科学部 理学療法学科
カリキュラムマップ

(新)

岡山医療専門職大学 健康科学部 理学療法学科 カリキュラムマップ

医療・保健・福祉分野を主導する高度な実践力と豊かな創造力を身につけた理学療法士になる。					
ディプロマポリシー	高い倫理観とコミュニケーション力を身につけ、自ら学び続ける姿勢を備える。	理学療法の問題について分析し、論理的に探求する力を備える。	理学療法最新の知識と専門技能を身につけ、高い応用力を備える。	対象者の思いを受け止め共有し、身体機能の維持・改善および予防に寄与する力を高め健康寿命の延伸のために尽力し、地域のニーズに多職種と協働して貢献する力を備える。	職業現場で外国人患者を受け入れる基礎的な姿勢を備える
学びの流れ	4年次	卒業論文 総合研究II	応用治療技術実習I(徒手療法) 応用治療技術実習II(リハビリ工学) 応用治療技術実習III(セルフコンディショニング) 総合実習II 総合演習II 理学療法セミナーI 理学療法セミナーII	スポーツ科学 マネジメント論 起業入門 コーチング論 NPO論 岡山経営者論	
	3年次	基礎ゼミII コミュニケーション論	地域包括マネジメント論 基礎理学療法実習II 理学療法管理論 理学療法評価学実習III 物理療法実習 理学療法治療学実習III 老年期障害理学療法学 理学療法演習II	生涯スポーツ実習 義肢装具学 地域理学療法学 予防理学療法学 評価実習 総合実習I 総合演習I	食生活マネジメント論 生体情報科学 人間形成論 人間関係論
	2年次	基礎ゼミI	解剖学実習II 運動学実習 精神医学 整形外科科学 神経科学 小児科学 基礎理学療法学 基礎理学療法実習I 理学療法評価学II 理学療法評価学実習I 理学療法評価学実習II 運動療法実習I 運動療法実習II	物理療法 理学療法治療学I 理学療法治療学II 理学療法治療学III 理学療法治療学IV 理学療法治療学実習I 理学療法治療学実習II 日常生活活動学 生活環境学 理学療法演習I スポーツ理学療法実習論	ヒューマンサービス論
	1年次	職業人の倫理と道徳論 大学入門	情報収集と処理	基礎生物 基礎物理 解剖学 解剖学実習I 生理学 生理学実習 運動学 人間発達学 臨床医学概論	理学療法概論 病理学 内科学 リハビリテーション概論 理学療法評価学I 見学実習 リハビリテーション医学 運動療法 多職種連携論
					国際政治経済論 コミュニケーション英語 日本の歴史と文化

(資料2)健康科学部 理学療法学科
カリキュラムマップ

(旧)

岡山医療専門職大学 健康科学部 理学療法学科 カリキュラムマップ

医療・保健・福祉分野を主導する高度な実践力と豊かな創造力を身につけた理学療法士になる。					
ディプロマポリシー	高い倫理観とコミュニケーション力を身につけ、自ら学び続ける姿勢を備える。	理学療法の問題について分析し、論理的に探求する力を備える。	理学療法最新の知識と専門技能を身につけ、高い応用力を備える。	対象者の思いを受け止め共有し、身体機能の維持・改善および予防に寄与する力を高め健康寿命の延伸のために尽力し、地域のニーズに多職種と協働して貢献する力を備える。	職業現場で外国人患者を受け入れるレベルの英語力を備える
カリキュラムポリシー	社会人としての倫理性を育み、発力と対話力を磨き、自己研鑽の姿勢を涵養する。	理学療法分野の諸課題を解決するための論理的思考力と基礎的研究力を培う。	理論と実習を架橋し、理学療法士に求められる最新の知識と高度な専門技術を修得し、専門性・実用性を磨き応用力を涵養し、一段高い実践力を育成する。	対象者を深く理解し、対象者の健康寿命を延伸する力と、多職種と連携して組織を運営する力を身につけ、地域を活性化する力を育成する。	職業現場において外国人患者を受け入れるレベルの英語力を備える。
学びの流れ	4年次	卒業論文 総合研究II	応用治療技術実習I(徒手療法) 応用治療技術実習II(リハビリ工学) 応用治療技術実習III(セルフコンディショニング) 総合実習II 総合演習II 理学療法セミナーI 理学療法セミナーII	スポーツ科学 マネジメント論 起業入門 コーチング論 NPO論 岡山経営者論	
	3年次	基礎ゼミII コミュニケーション論	地域包括マネジメント論 基礎理学療法実習II 理学療法管理論 理学療法評価学実習III 物理療法実習 理学療法治療学実習III 老年期障害理学療法学 理学療法演習II	生涯スポーツ実習 義肢装具学 地域理学療法学 予防理学療法学 評価実習 総合実習I 総合演習I	食生活マネジメント論 生体情報科学 人間形成論 人間関係論
	2年次	基礎ゼミI	解剖学実習II 運動学実習 精神医学 整形外科科学 神経科学 小児科学 基礎理学療法学 基礎理学療法実習I 理学療法評価学II 理学療法評価学実習I 理学療法評価学実習II 運動療法実習I 運動療法実習II	物理療法 理学療法治療学I 理学療法治療学II 理学療法治療学III 理学療法治療学IV 理学療法治療学実習I 理学療法治療学実習II 日常生活活動学 生活環境学 理学療法演習I スポーツ理学療法実習論	ヒューマンサービス論
	1年次	職業人の倫理と道徳論	情報収集と処理	基礎生物 基礎物理 解剖学 解剖学実習I 生理学 生理学実習 運動学 人間発達学 臨床医学概論	理学療法概論 病理学 内科学 リハビリテーション概論 理学療法評価学I 見学実習 リハビリテーション医学 運動療法 多職種連携論
					国際政治経済論 コミュニケーション英語 日本の歴史と文化

岡山医療専門職大学 健康科学部 作業療法学科 カリキュラムマップ

医療・保健・福祉分野を主導する高度な実践力と豊かな創造力を身につけた作業療法士になる。

ディプロマポリシー

学びの流れ

高い倫理観とコミュニケーション力を身につけ、自ら学び続ける姿勢を備える。	作業療法の課題について分析し、論理的に探究する力を備える。	作業療法の最新の知識と専門技能を身につけ、高い応用力を備える。	対象者の思いを受け止め共有して、幅広い世代が活躍したところでいきいきと生活するために必要なサービスを設計し、多職種と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する力を備える。	職業現場で外国人患者を受け入れる基礎的な姿勢を備える		
4年次	卒業論文 総合研究II	応用治療技術実習I(徒手療法) 応用治療技術実習II(リハビリ工学) 応用治療技術実習III(セルフコンディショニング) 総合実習II 総合演習II 作業療法セミナーI 作業療法セミナーII	人間工学 地域生活と健康 特別支援教育	ライフサイクル論 岡山経営者論		
3年次	コミュニケーション論 基盤ゼミII	総合研究I 研究デザイン テーマ設定と研究方法	地域包括マネジメント論 作業療法管理学概論 身体障害者作業療法実習III 老年期障害者作業療法実習 義肢装具学 基礎作業療法治療学 基礎作業療法治療学実習I 基礎作業療法治療学実習II	子防作業療法学 地域作業療法学 評価実習 総合実習I 総合演習I 身体障害者作業療法実習III 身体障害者作業療法実習IV 作業療法演習II	地域社会論 コミュニティ形成論 人間形成論 人間関係論 家族関係論	メディカル英語
2年次	基盤ゼミI	統計分析の基礎	解剖学実習II 運動学実習 精神医学 整形外科学 神経科学 小児科学 基礎作業学実習I 基礎作業学実習II 作業療法評価学実習I 作業療法評価学実習II 作業療法評価学実習III	生活環境学 身体障害者作業療法学I 身体障害者作業療法学II 身体障害者作業療法実習I 身体障害者作業療法実習II 老年期障害者作業療法学 作業療法演習I 日常生活活動学 日常生活活動学実習 精神障害者作業療法学	ヒューマンサービス論	国際政治経済論
1年次	職業人の倫理と道徳論 大学入門	情報収集と処理	基礎生物学 基礎物理学 解剖学 解剖学実習I 生理学 生理学実習 運動学 人間発達学 臨床医学概論	作業療法概論 病理学 内科学 リハビリテーション概論 見学実習 リハビリテーション医学 基礎作業学 多職種連携論 作業療法評価学	健康科学概論 心理学 哲学概論	コミュニケーション英語 日本の歴史と文化

岡山医療専門職大学 健康科学部 作業療法学科 カリキュラムマップ

医療・保健・福祉分野を主導する高度な実践力と豊かな創造力を身につけた作業療法士になる。

ディプロマポリシー

カリキュラムポリシー

学びの流れ

高い倫理観とコミュニケーション力を身につけ、自ら学び続ける姿勢を備える。	作業療法の課題について分析し、論理的に探究する力を備える。	作業療法の最新の知識と専門技能を身につけ、高い応用力を備える。	対象者の思いを受け止め共有して、幅広い世代が活躍したところでいきいきと生活するために必要なサービスを設計し、多職種と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する力を備える。	職業現場で外国人患者を受け入れる姿勢をもち患者の訴えが理解できるレベルの英語力を備える。		
社会人としての倫理性を育み、発力力と対話力を磨き、自己研鑽の姿勢を涵養する。	作業療法分野の諸課題を解決するための論理的思考能力と基礎的研究力を培う。	理論と実習を架橋し、最新の知識と高度な専門技術を修得し、医療現場で専門性・実践性を練磨し、問題解決と連携する技能を育成する。	対象者を深く理解し、対象者を取り巻く地域の課題を解決し、対象者が自立した生活を送れるよう支援し、多職種と連携して地域コミュニティづくりに貢献できる力を育成する。	職業現場において外国人患者を受け入れる姿勢をもち患者の訴えが理解できるレベルの英語力を備える。		
4年次	卒業論文 総合研究II	応用治療技術実習I(徒手療法) 応用治療技術実習II(リハビリ工学) 応用治療技術実習III(セルフコンディショニング) 総合実習II 総合演習II 作業療法セミナーI 作業療法セミナーII	人間工学 地域生活と健康 特別支援教育	ライフサイクル論 岡山経営者論		
3年次	コミュニケーション論 基盤ゼミII	総合研究I 研究デザイン テーマ設定と研究方法	地域包括マネジメント論 作業療法管理学概論 身体障害者作業療法実習III 老年期障害者作業療法実習 義肢装具学 基礎作業療法治療学 基礎作業療法治療学実習I 基礎作業療法治療学実習II	子防作業療法学 地域作業療法学 評価実習 総合実習I 総合演習I 身体障害者作業療法実習III 身体障害者作業療法実習IV 作業療法演習II	地域社会論 コミュニティ形成論 人間形成論 人間関係論 家族関係論	メディカル英語
2年次	基盤ゼミI	統計分析の基礎	解剖学実習II 運動学実習 精神医学 整形外科学 神経科学 小児科学 基礎作業学実習I 基礎作業学実習II 作業療法評価学実習I 作業療法評価学実習II 作業療法評価学実習III	生活環境学 身体障害者作業療法学I 身体障害者作業療法学II 身体障害者作業療法実習I 身体障害者作業療法実習II 老年期障害者作業療法学 作業療法演習I 日常生活活動学 日常生活活動学実習 精神障害者作業療法学	ヒューマンサービス論	国際政治経済論
1年次	職業人の倫理と道徳論	情報収集と処理	基礎生物学 基礎物理学 解剖学 解剖学実習I 生理学 生理学実習 運動学 人間発達学 臨床医学概論	作業療法概論 病理学 内科学 リハビリテーション概論 見学実習 リハビリテーション医学 基礎作業学 多職種連携論 作業療法評価学	健康科学概論 心理学 哲学概論	コミュニケーション英語 日本の歴史と文化

履修モデル(作業療法学科)

最新の作業療法専門知識と高度な実践技能を保持し、自己研鑽を怠らず、対象者の思いを受け止め、子供から高齢者に至る幅広い世代が住み慣れたところでいきいきと生活するために必要なサービスを提供し、地域の多様な主体と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する人材を育成する。

科目 区分	1年次					2年次					3年次					4年次					計							
	授業科目の名称	前後 期 (前後)	単位数			授業科目の名称	前後 期 (前後)	単位数			授業科目の名称	前後 期 (前後)	単位数			授業科目の名称	前後 期 (前後)	単位数										
			必 修	選 択	自 由			必 修	選 択	自 由			必 修	選 択	自 由			必 修	選 択	自 由								
① 基礎 科目	大学入門	前	1			基盤ゼミⅠ	前	1			基盤ゼミⅡ	前	1											22				
	職業人の倫理と道徳論	後	2			国際政治経済論	後	1			人間関係論	前		2														
	心理学	前	1		2	統計分析の基礎	後	1			コミュニケーション論	前	1															
	健康科学概論	後	1							テーマ設定と研究方法	前	1																
	コミュニケーション英語	前	2							研究デザイン	前	1																
	日本の歴史と文化	前	2																									
	基礎生物	前	1																									
	基礎物理	前	1																									
	情報収集と処理	後	1																									
② 職業 専門 科目	解剖学	前	2			解剖学実習Ⅱ	前	1			メディカル英語	後	2			地域包括マネジメント論	前	1						90				
	解剖学実習Ⅰ	後	1			運動学実習	前	1																				
	生理学	前	2			精神医学	後	2																				
	生理学実習	後	1			整形外科	前	2																				
	運動学	後	2			神経内科学	前	2																				
	人間発達学	前	2			小児科学	前	2																				
	臨床医学概論	前	2																									
	病理学	後	2																									
	内科学	後	2																									
	リハビリテーション医学	後	1																									
リハビリテーション概論	前	1																										
多職種連携論	後	1																										
③ 展 開 科 目	作業療法概論	前	2			基礎作業学実習Ⅰ	前	1			基礎作業療法治療学実習Ⅰ	前	1			応用治療技術実習Ⅰ(徒手療法)	前	1					20					
	基礎作業学	後	1			基礎作業学実習Ⅱ	後	1			作業療法管理学概論	後	2			応用治療技術実習Ⅱ(リハビリ工学)	前	1										
	作業療法評価学	後	2			作業療法評価学実習Ⅰ	前	1			基礎作業療法治療学	前	1			総合実習Ⅱ	前	9										
	見学実習	通	1			作業療法評価学実習Ⅱ	後	1			基礎作業療法治療学実習Ⅱ	前	1															
						作業療法評価学実習Ⅲ	後	1			身体障害作業療法Ⅲ	前	1															
						身体障害作業療法Ⅰ	前	2			身体障害作業療法Ⅳ	前	1															
						身体障害作業療法Ⅱ	前	2			身体障害作業療法実習Ⅲ	前	1		1													
						身体障害作業療法実習Ⅰ	前	1			老年期障害作業療法実習	前	1															
						身体障害作業療法実習Ⅱ	後	1			義肢装具学	後		1														
						老年期障害作業療法	後	1			地域作業療法	後	1															
④ 総 合 科 目						ヒューマンサービス論	後	2			人間形成論	後	2			地域生活と健康	前	2					4					
										家族関係論	前	2			特別支援教育	前	2											
										地域社会論	後	2			人間工学	前	2											
										コミュニティ形成論	後	2			ライフサイクル論	前	2											
単位数			36	2	0			32	0	0			38	3	0			25	0	0			136					

【卒業要件】

本学科の卒業要件は、以下の通りとする。

- 1) 本学に4年以上在学すること。
- 2) 次に、必修科目131単位、選択科目4単位以上を履修すること。

基礎科目22単位以上

必修科目18単位以上

選択科目4単位以上

職業専門科目89単位以上

専門基礎分野科目から必修科目32単位以上

専門分野科目から必修科目57単位以上

展開科目必修科目20単位以上

総合科目必修科目4単位以上

実習・実験科目から40単位以上

うち、臨地実務実習22単位以上

履修登録上限は、1年間において39単位とする。

ただし、成績優秀者は41単位まで履修登録することができる。

履修モデル(作業療法学科)

最新の作業療法専門知識と高度な実践技能を保持し、自己研鑽を怠らず、対象者の思いを受け止め、子供から高齢者に至る幅広い世代が住み慣れたところでいきいきと生活するために必要なサービスを提供し、地域の多様な主体と協働して安心して暮らせる地域コミュニティづくりに貢献する人材を育成する。

科目区分	1年次					2年次					3年次					4年次					計	
	授業科目の名称	前後期(前後)	単位数			授業科目の名称	前後期(前後)	単位数			授業科目の名称	前後期(前後)	単位数			授業科目の名称	前後期(前後)	単位数				
			必修	選択	自由			必修	選択	自由			必修	選択	自由			必修	選択	自由		
① 基礎科目	職業人の倫理と道徳論	後	2			基礎ゼミⅠ 国際政治経済論 統計分析の基礎	前	1			基礎ゼミⅡ 人間関係論 コミュニケーション論 テーマ設定と研究方法 研究デザイン	前	1							22		
	心理学	前		2			前		1			前		2								
	哲学概論	前		2			後		1			前		1								
	健康科学概論	後	1									前		1								
	コミュニケーション英語	前	2									前		1								
	日本の歴史と文化	前	2									前		1								
	基礎生物 情報収集と処理	前			1																	
② 職業専門科目 専門基礎分野	解剖学	前	2			解剖学実習Ⅱ 運動学実習 精神医学 整形外科学 神経内科学 小児科学	前	1			メディカル英語	後		2		地域包括マネジメント論	前	1				
	解剖学実習Ⅰ	前	1				前	1														
	生理学	前	2				後	2														
	生理学実習	後	1				後	2														
	運動学	後	2				前	2														
	人間発達学	前	2				前	2														
	臨床医学概論	前	2																			
	病理学	後	2																			
	内科学	後	2																			
	リハビリテーション医学	後	1																			
	リハビリテーション概論	後	1																			
	多職種連携論	後	1																			
	② 職業専門科目 専門分野	作業療法概論	前	2				基礎作業学実習Ⅰ 基礎作業学実習Ⅱ 作業療法評価学実習Ⅰ 作業療法評価学実習Ⅱ 作業療法評価学実習Ⅲ 身体障害作業療法Ⅰ 身体障害作業療法Ⅱ 身体障害作業療法実習Ⅰ 身体障害作業療法実習Ⅱ 老年期障害作業療法 精神障害作業療法 日常生活活動学 日常生活活動学実習 生活環境学	前	1				基礎作業療法治療学実習Ⅰ 作業療法管理学概論 基礎作業療法治療学 基礎作業療法治療学実習Ⅱ 身体障害作業療法Ⅲ 身体障害作業療法Ⅳ 身体障害作業療法実習Ⅲ 老年期障害作業療法実習 義肢装具学 地域作業療法 予防作業療法 評価実習 総合実習Ⅰ	前		1			応用治療技術実習Ⅰ(徒手療法) 応用治療技術実習Ⅱ(リハビリ工学) 総合実習Ⅱ	前	1
基礎作業学		後	1			後	1				後	2				前	1					
作業療法評価学		後	2			前	1				前	1				前	9					
見学実習		通	1			後	1				前	1										
						後	1				前	1										
						前	2				前	1										
						前	2				前	1										
						前	1				前	1										
						後	1				後	1										
						後	1				後	1										
						前	1				後	1										
						後	1				後	1										
						前	1				後	1										
						後	1				後	3										
						後	2				後	9										
③ 展開科目					ヒューマンサービス論	後	2			人間形成論 家族関係論 地域社会論 コミュニティ形成論	後	2			地域生活と健康 特別支援教育 人間工学 ライフサイクル論 岡山経営者論	前	2					
						前	2				前	2										
						後	2				前	2										
											後	2										
④ 総合科目										総合研究Ⅰ	後	1			総合研究Ⅱ 卒業論文	前	1					
											後	2				後	2					
単位数			33	5	0			32	0	0			36	5	0			25	0	0	136	

【卒業要件】

本学科の卒業要件は、以下の通りとする。

- 1) 本学に4年以上在学すること。
- 2) 次に、必修科目126単位、選択科目5単位以上を履修すること。

基礎科目20単位以上

必修科目15単位以上

選択科目5単位以上

職業専門科目87単位以上

専門基礎分野科目から必修科目30単位以上

専門分野科目から必修科目57単位以上

展開科目必修科目20単位以上

総合科目必修科目4単位以上

実習・実験科目から40単位以上

うち、臨地実務実習22単位以上

履修登録上限は、1年間において39単位とする。

ただし、成績優秀者は41単位まで履修登録することができる。

PT 専 教授(学科長) 永野

(新)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	総合研究Ⅱ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス			研究デザイン ＜研究室＞
火			理学療法治療学Ⅰ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス	理学療法治療学Ⅰ ＜新館 3-2教室＞ Bクラス
水				
木			理学療法治療学Ⅱ ＜新館 3-2教室＞ Bクラス	
金	理学療法概論 ＜新館 2-1教室＞ Aクラス	理学療法治療学Ⅱ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス	理学療法概論 ＜新館 2-2教室＞ Bクラス	

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	総合研究Ⅰ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス・Bクラス			
火		物理療法 ＜新館 3-1教室＞ Aクラス		
水				
木		物理療法 ＜新館 3-2教室＞ Bクラス		
金			総合演習Ⅰ ＜新館 4-1教室＞ Aクラス・Bクラス	
総合実習Ⅰ＜各実習施設＞＜那須・永野・山下＞				
卒業論文＜研究室＞				

PT 専 教授(学科長) 永野

(旧)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	総合研究Ⅱ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス			研究デザイン ＜研究室＞
火			理学療法治療学Ⅰ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス	理学療法治療学Ⅰ ＜新館 3-2教室＞ Bクラス
水				
木				
金	理学療法概論 ＜新館 2-1教室＞ Aクラス		理学療法概論 ＜新館 2-2教室＞ Bクラス	

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	総合研究Ⅰ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス・Bクラス	基礎理学療法実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ Aクラス		
火		物理療法 ＜新館 3-1教室＞ Aクラス		
水				
木		物理療法 ＜新館 3-2教室＞ Bクラス		基礎理学療法実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ Bクラス
金			総合演習Ⅰ ＜新館 4-1教室＞ Aクラス・Bクラス	
総合実習Ⅰ＜各実習施設＞＜那須・永野・山下＞				
卒業論文＜研究室＞				

PT 専 教授 中川

(新)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅱ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス			
火				
水		研究デザイン ＜研究室＞ Aクラス	リハビリテーション概論 ＜新館 2-1教室＞ Aクラス	リハビリテーション概論 ＜新館 2-2教室＞ Bクラス
木				
金				

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅰ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス・Bクラス			
火				
水	理学療法治療学Ⅲ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス	運動療法 ＜新館 2-1教室＞ Aクラス	運動療法 ＜新館 2-2教室＞ Bクラス	理学療法治療学Ⅲ ＜新館 3-2教室＞ Bクラス
木				
金				
卒業論文＜研究室＞				

(旧)
なし

PT 妻 専 講師 山下

(新)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅱ <研究室> Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅠ <研究室> Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅡ <研究室> Aクラス・Bクラス	研究デザイン <研究室> Aクラス・Bクラス
火				
水	総合演習Ⅱ <新館 3-4教室> Aクラス・Bクラス			
木				基礎理学療法実習Ⅱ <本館 3F治療訓練室> Aクラス
金	上級治療学実習Ⅲ (セルフコンディショニング) <本館 5F 機能訓練室> Aクラス	上級治療学実習Ⅲ (セルフコンディショニング) <本館 5F 機能訓練室> Bクラス	大学入門 <研究室>	生涯スポーツ実習 <校外授業> Bクラス

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅰ <新館 3-1教室> Aクラス・Bクラス	理学療法治療学実習Ⅱ <本館 3F 治療訓練室> Bクラス		
火				
水	スポーツ理学療法特論 <新館 3-2教室> Bクラス	スポーツ理学療法特論 <新館 3-2教室> Aクラス		
木		理学療法演習Ⅰ <新館 3-2教室> Aクラス		理学療法治療学実習Ⅱ <本館 3F 治療訓練室> Aクラス
金				
総合実習Ⅰ<各実習施設><那須・永野・増川・山下>				
卒業論文<研究室>				

PT 専 講師 山下

(旧)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅱ <研究室> Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅠ <研究室> Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅡ <研究室> Aクラス・Bクラス	研究デザイン <研究室> Aクラス・Bクラス
火	物理療法実習 <本館 3F治療訓練室> Aクラス			
水	総合演習Ⅱ <新館 3-4教室> Aクラス・Bクラス			
木				基礎理学療法実習Ⅱ <本館 3F治療訓練室> Aクラス
金	上級治療学実習Ⅲ (セルフコンディショニング) <本館 5F 機能訓練室> Aクラス	上級治療学実習Ⅲ (セルフコンディショニング) <本館 5F 機能訓練室> Bクラス		生涯スポーツ実習 <校外授業> Bクラス

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅰ <新館 3-1教室> Aクラス・Bクラス	理学療法治療学実習Ⅱ <本館 3F 治療訓練室> Bクラス		理学療法演習Ⅰ <新館 3-1教室> Aクラス・Bクラス
火				
水	スポーツ理学療法特論 <新館 3-2教室> Bクラス	スポーツ理学療法特論 <新館 3-2教室> Aクラス		
木				理学療法治療学実習Ⅱ <本館 3F 治療訓練室> Aクラス
金				
総合実習Ⅰ<各実習施設><那須・永野・増川・山下>				
卒業論文<研究室>				

PT 実専 講師 増川

(新)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	総合研究Ⅱ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅠ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅡ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	
火			理学療法セミナーⅠ ＜新館 3-4教室＞ Aクラス・Bクラス	
水	総合演習Ⅱ ＜新館 3-4教室＞ Aクラス・Bクラス	物理療法 ＜本館 7-1教室/本館3F治療訓練室＞ 医専		
木	理学療法治療学実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ Bクラス		理学療法評価学Ⅱ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス	
金	理学療法評価学Ⅱ ＜新館 3-2教室＞ Bクラス	大学入門 ＜研究室＞	生涯スポーツ実習 ＜校外授業＞ Aクラス	
総合実習Ⅱ＜各実習施設＞＜鈴木・小島・増川＞				

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	総合研究Ⅰ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス・Bクラス	基礎理学療法実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ Aクラス		
火				
水	理学療法治療学2(脳障害2) ＜本館 7-1教室＞ 医専			
木		理学療法演習Ⅱ ＜本館 5F 機能訓練室＞ Aクラス・Bクラス	運動療法実習 ＜本館 3F治療訓練室＞ 医専	理学療法治療学実習2(R1まで) /基礎理学療法実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ 医専/Bクラス
金			総合演習Ⅰ ＜新館 4-1教室＞ Aクラス・Bクラス	理学療法治療学13(老年期障害) ＜本館 7-1教室＞ 医専
見学実習＜各実習施設＞＜田中雅・片岡・増川＞				
卒業論文＜研究室＞				

PT 実専 講師 増川

(旧)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	総合研究Ⅱ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅠ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅡ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	研究デザイン ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス
火	物理療法実習 ＜本館 3F治療訓練室＞ Aクラス		理学療法セミナーⅠ ＜新館 3-4教室＞ Aクラス・Bクラス	
水	総合演習Ⅱ ＜新館 3-4教室＞ Aクラス・Bクラス	物理療法 ＜本館 7-1教室/本館3F治療訓練室＞ 医専		
木	生活環境論 ＜本館 7-1教室＞ 医専		理学療法評価学Ⅱ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス	
金	理学療法評価学Ⅱ ＜新館 3-2教室＞ Bクラス		生涯スポーツ実習 ＜校外授業＞ Aクラス	
総合実習Ⅱ＜各実習施設＞＜鈴木・小島・増川＞				

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	総合研究Ⅰ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス・Bクラス	基礎理学療法実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ Aクラス		
火				
水	理学療法治療学2(脳障害2) ＜本館 7-1教室＞ 医専			
木		理学療法演習Ⅱ ＜本館 5F 機能訓練室＞ Aクラス・Bクラス	運動療法実習 ＜本館 3F治療訓練室＞ 医専	理学療法治療学実習2 ＜本館 5F機能訓練室＞ 医専
金			総合演習Ⅰ ＜新館 4-1教室＞ Aクラス・Bクラス	理学療法治療学13(老年期障害) ＜本館 7-1教室＞ 医専
見学実習＜各実習施設＞＜村西・片岡・増川＞				
卒業論文＜研究室＞				

PT 実専 講師 横山

(新)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅱ <研究室> Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅠ <研究室> Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅡ <研究室> Aクラス・Bクラス	
火			基礎理学療法実習Ⅱ <本館 3F治療訓練室> Bクラス	
水			応用治療技術実習Ⅰ (徒手療法) <本館 5F 機能訓練室> Bクラス	理学療法治療学8(内部障害) 医専 <本館 7-1教室>
木	理学療法評価学実習Ⅲ <本館 3F治療訓練室> Bクラス	応用治療技術実習Ⅰ (徒手療法) <本館 5F 機能訓練室> Aクラス	応用治療技術実習Ⅰ (徒手療法) <本館 5F 機能訓練室> OT	基礎理学療法実習Ⅱ <本館 3F治療訓練室> Aクラス
金	理学療法評価学実習Ⅲ <本館 3F治療訓練室> Aクラス	大学入門 <研究室>		生涯スポーツ実習 <校外授業> Bクラス
評価実習<各実習施設>				

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅰ <新館 3-1教室> Aクラス・Bクラス			
火	理学療法評価学Ⅰ <新館 2-2教室> Bクラス	理学療法評価学実習Ⅰ <本館 3F 治療訓練室> Bクラス		
水	理学療法評価学Ⅰ <新館 2-1教室> Aクラス			
木	理学療法評価学実習Ⅰ <本館 3F 治療訓練室> Aクラス		運動療法実習 <本館 3F治療訓練室> 医専	理学療法治療学実習2 <本館 5F機能訓練室> 医専
金	日常生活活動学実習 <本館 5F機能訓練室> Aクラス	日常生活活動学実習 <本館 5F機能訓練室> Bクラス		

PT 実専 講師 横山

(旧)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅱ <研究室> Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅠ <研究室> Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅡ <研究室> Aクラス・Bクラス	
火			基礎理学療法実習Ⅱ <本館 3F治療訓練室> Bクラス	
水			応用治療技術実習Ⅰ (徒手療法) <本館 5F 機能訓練室> Bクラス	理学療法治療学8(内部障害) 医専 <本館 7-1教室>
木	理学療法評価学実習Ⅲ <本館 3F治療訓練室> Bクラス	応用治療技術実習Ⅰ (徒手療法) <本館 5F 機能訓練室> Aクラス	応用治療技術実習Ⅰ (徒手療法) <本館 5F 機能訓練室> OT	基礎理学療法実習Ⅱ <本館 3F治療訓練室> Aクラス
金	理学療法評価学実習Ⅲ <本館 3F治療訓練室> Aクラス			生涯スポーツ実習 <校外授業> Bクラス
評価実習<各実習施設>				

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅰ <新館 3-1教室> Aクラス・Bクラス			
火	理学療法評価学Ⅰ <新館 2-2教室> Bクラス	理学療法評価学実習Ⅰ <本館 3F 治療訓練室> Bクラス		
水	理学療法評価学Ⅰ <新館 2-1教室> Aクラス			
木	理学療法評価学実習Ⅰ <本館 3F 治療訓練室> Aクラス		運動療法実習 <本館 3F治療訓練室> 医専	理学療法治療学実習2 <本館 5F機能訓練室> 医専
金	日常生活活動学実習 <本館 5F機能訓練室> Aクラス	日常生活活動学実習 <本館 5F機能訓練室> Bクラス		

PT 実専 助教 那須

(新)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月		基盤ゼミ I <研究室> Aクラス・Bクラス	基盤ゼミ II <研究室> Aクラス・Bクラス	
火				
水			応用治療技術実習 I (徒手療法) <本館 5F 機能訓練室> Bクラス	
木	理学療法評価学実習 III <本館 3F 治療訓練室> Bクラス	応用治療技術実習 I (徒手療法) <本館 5F 機能訓練室> Aクラス	応用治療技術実習 I (徒手療法) <本館 5F 機能訓練室> OT	
金	理学療法評価学実習 III <本館 3F 治療訓練室> Aクラス	大学入門 <研究室>		生涯スポーツ実習 <校外授業> Bクラス
評価実習<各実習施設>				

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月			理学療法評価学実習 II <本館 3F 治療訓練室> Aクラス	
火	理学療法セミナー II <新館 2-4教室> Aクラス・Bクラス	理学療法評価学実習 I <本館 3F 治療訓練室> Bクラス		
水				
木	理学療法評価学実習 I <本館 3F 治療訓練室> Aクラス		理学療法評価学実習 II <本館 3F 治療訓練室> Bクラス	
金				
総合実習 I <各実習施設>				

PT 実専 助教 那須

(旧)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月		基盤ゼミ I <研究室> Aクラス・Bクラス	基盤ゼミ II <研究室> Aクラス・Bクラス	
火				
水			応用治療技術実習 I (徒手療法) <本館 5F 機能訓練室> Bクラス	
木	理学療法評価学実習 III <本館 3F 治療訓練室> Bクラス	応用治療技術実習 I (徒手療法) <本館 5F 機能訓練室> Aクラス	応用治療技術実習 I (徒手療法) <本館 5F 機能訓練室> OT	
金	理学療法評価学実習 III <本館 3F 治療訓練室> Aクラス			生涯スポーツ実習 <校外授業> Bクラス
評価実習<各実習施設>				

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月			理学療法評価学実習 II <本館 3F 治療訓練室> Aクラス	
火	理学療法セミナー II <新館 2-4教室> Aクラス・Bクラス	理学療法評価学実習 I <本館 3F 治療訓練室> Bクラス		
水				
木	理学療法評価学実習 I <本館 3F 治療訓練室> Aクラス		理学療法評価学実習 II <本館 3F 治療訓練室> Bクラス	
金		日常生活活動学実習 <本館 5F 機能訓練室> Bクラス		
総合実習 I <各実習施設>				

PT 実専 助教 鈴木

(新)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	大学入門 <研究室>	基礎ゼミ I <研究室> Aクラス・Bクラス	基礎ゼミ II <研究室> Aクラス・Bクラス	
火		運動療法実習 I <本館 5F機能訓練室> Bクラス		運動療法実習 I <本館 5F機能訓練室> Aクラス
水	運動学実習 <本館 5F機能訓練室> Bクラス			
木		運動学実習 <本館 5F機能訓練室> Aクラス	理学療法治療学実習 III <本館 5F機能訓練室> Bクラス	
金	上級治療学実習 III (セルフコンディショニング) <本館 5F 機能訓練室> Aクラス	上級治療学実習 III (セルフコンディショニング) <本館 5F 機能訓練室> Bクラス	生涯スポーツ実習 <校外授業> Aクラス	
総合実習 II <各施設>				

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月			理学療法評価学実習 II <本館 3F 治療訓練室> Aクラス	理学療法演習 I <新館 3-1教室> Bクラス
火	運動療法実習 II <本館 3F 治療訓練室> Bクラス			
水	スポーツ理学療法特論 <新館 3-2教室> Bクラス	スポーツ理学療法特論 <新館 3-1教室> Aクラス		
木		理学療法演習 I <新館 3-1教室> Aクラス	理学療法評価学実習 II <本館 3F 治療訓練室> Bクラス	
金				運動療法実習 II <本館 3F 治療訓練室> Aクラス
卒業論文<研究室>				
総合実習 I <各実習施設>				

PT 実専 助教 鈴木

(旧)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月		基礎ゼミ I <研究室> Aクラス・Bクラス	基礎ゼミ II <研究室> Aクラス・Bクラス	
火		運動療法実習 I <本館 5F機能訓練室> Bクラス		運動療法実習 I <本館 5F機能訓練室> Aクラス
水	理学療法治療学実習 III <本館 5F機能訓練室> Aクラス			
木			理学療法治療学実習 III <本館 5F機能訓練室> Bクラス	
金	上級治療学実習 III (セルフコンディショニング) <本館 5F 機能訓練室> Aクラス	上級治療学実習 III (セルフコンディショニング) <本館 5F 機能訓練室> Bクラス	生涯スポーツ実習 <校外授業> Aクラス	
総合実習 II <各施設>				

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	理学療法演習 I <新館 3-1教室> Aクラス・Bクラス		理学療法評価学実習 II <本館 3F 治療訓練室> Aクラス	理学療法演習 I <新館 3-1教室> Aクラス・Bクラス
火	運動療法実習 II <本館 3F 治療訓練室> Bクラス			
水	スポーツ理学療法特論 <新館 3-2教室> Bクラス	スポーツ理学療法特論 <新館 3-1教室> Aクラス		
木			理学療法評価学実習 II <本館 3F 治療訓練室> Bクラス	
金				運動療法実習 II <本館 3F 治療訓練室> Aクラス
卒業論文<研究室>				
総合実習 I <各実習施設>				

PT 実専 助教 田村

(新)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅱ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	基礎ゼミⅠ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	基礎ゼミⅡ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	研究デザイン ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス
火		運動療法実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ Bクラス	基礎理学療法実習Ⅱ ＜本館 3F治療訓練室＞ Bクラス	運動療法実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ Aクラス
水	総合演習Ⅱ ＜新館 3-4教室＞ Aクラス・Bクラス			
木	理学療法治療学実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ Bクラス			理学療法治療学実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ Aクラス
金		物理療法実習 ＜本館 3F治療訓練室＞ Bクラス	大学入門 ＜研究室＞	
評価実習＜各実習施設＞				

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅰ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス・Bクラス	基礎理学療法実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ Aクラス		
火				
水				
木				基礎理学療法実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ Bクラス
金			総合演習Ⅰ ＜新館 4-1教室＞ Aクラス・Bクラス	
卒業論文＜研究室＞				

(旧)
なし

PT 実(研) 教授 小野

(新)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅱ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	基礎ゼミⅠ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	基礎ゼミⅡ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	研究デザイン ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス
火				
水				
木				
金		大学入門 ＜研究室＞		

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅰ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス・Bクラス			
火				
水				
木				
金		病理学 ＜新館 2-2教室＞ Bクラス	病理学 ＜新館 2-1教室＞ Aクラス	病理学 ＜新館 2-1教室＞ OT
卒業論文＜研究室＞				

PT 実み 教授 小野

(旧)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅱ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス			研究デザイン ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス
火				
水				
木				
金				

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅰ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス・Bクラス			
火				
水				
木				
金		病理学 ＜新館 2-2教室＞ Bクラス	病理学 ＜新館 2-1教室＞ Aクラス	病理学 ＜新館 2-1教室＞ OT
卒業論文＜研究室＞				

PT_表(研) 教授 山田

(新)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅱ <研究室> Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅠ <研究室> Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅡ <研究室> Aクラス・Bクラス	研究デザイン <研究室> Aクラス・Bクラス
火	理学療法管理学概論 <新館 4-2教室> Bクラス		理学療法管理学概論 <新館 4-1教室> Aクラス	
水	運動学実習 <本館 5F 機能訓練室> Bクラス			
木		運動学実習 <本館 5F 機能訓練室> Aクラス		理学療法治療学実習Ⅰ <本館 5F機能訓練室> Aクラス
金				

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅰ <新館 3-1教室> Aクラス・Bクラス			
火		情報収集と処理 <本館 8F PC室> Bクラス	情報収集と処理 <本館 8F PC室> Aクラス	
水				
木				
金		運動学 <新館 2-1教室> Aクラス	総合演習Ⅰ <新館 4-1教室> Aクラス・Bクラス	運動学 <新館 2-2教室> Bクラス
卒業論文<研究室>				

PT 辻 教授 山田

(旧)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅱ <研究室> Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅠ <研究室> Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅡ <研究室> Aクラス・Bクラス	研究デザイン <研究室> Aクラス・Bクラス
火	理学療法管理学概論 <新館 4-2教室> Bクラス		理学療法管理学概論 <新館 4-1教室> Aクラス	
水	運動学実習 <本館 5F 機能訓練室> Bクラス			
木		運動学実習 <本館 5F 機能訓練室> Aクラス		理学療法治療学実習Ⅰ <本館 5F機能訓練室> Aクラス
金				

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅰ <新館 3-1教室> Aクラス・Bクラス			
火		情報収集と処理 <本館 8F PC室> Bクラス	情報収集と処理 <本館 8F PC室> Aクラス	
水				
木				
金		運動学 <新館 2-1教室> Aクラス	総合演習Ⅰ <新館 4-1教室> Aクラス・Bクラス	運動学 <新館 2-2教室> Bクラス
卒業論文<研究室>				

PT 実(研) 片岡

(新)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	総合研究Ⅱ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅠ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅡ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	研究デザイン ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス
火				
水	理学療法治療学実習Ⅲ ＜本館 5F機能訓練室＞ Aクラス	基礎理学療法学 ＜新館 3-1教室＞ Aクラス		
木			理学療法治療学実習Ⅲ ＜本館 5F機能訓練室＞ Bクラス	
金		大学入門 ＜研究室＞		基礎理学療法学 ＜新館 3-2教室＞ Bクラス

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	総合研究Ⅰ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス・Bクラス			
火			理学療法治療学Ⅳ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス	理学療法治療学Ⅳ ＜新館 3-2教室＞ Bクラス
水				
木				
金	日常生活活動学実習 ＜本館 5F機能訓練室＞ Aクラス	日常生活活動学実習 ＜本館 5F機能訓練室＞ Bクラス	統計分析の基礎 ＜新館 3-1教室＞ Aクラス	統計分析の基礎 ＜新館 3-2教室＞ Bクラス
見学実習＜各実習施設＞				
卒業論文＜研究室＞				

PT 実(研) 片岡

(旧)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	総合研究Ⅱ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅠ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅡ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	研究デザイン ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス
火				
水	理学療法治療学実習Ⅲ ＜本館 5F機能訓練室＞ Aクラス	基礎理学療法学 ＜新館 3-1教室＞ Aクラス		
木			理学療法治療学実習Ⅲ ＜本館 5F機能訓練室＞ Bクラス	
金				基礎理学療法学 ＜新館 3-2教室＞ Bクラス

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	総合研究Ⅰ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス・Bクラス			
火			理学療法治療学Ⅳ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス	理学療法治療学Ⅳ ＜新館 3-2教室＞ Bクラス
水				
木				
金	日常生活活動学実習 ＜本館 5F機能訓練室＞ Aクラス	日常生活活動学実習 ＜本館 5F機能訓練室＞ Bクラス	統計分析の基礎 ＜新館 3-1教室＞ Aクラス	統計分析の基礎 ＜新館 3-2教室＞ Bクラス
見学実習＜各実習施設＞				
卒業論文＜研究室＞				

PT 実(研) 小島

(新)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅱ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅠ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅡ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	研究デザイン ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス
火	日常生活活動学 ＜新館 3-1教室＞ Aクラス	老年期障害理学療法学 ＜新館 4-2教室＞ Bクラス		老年期障害理学療法学 ＜新館 4-1教室＞ Aクラス
水	地域理学療法学 ＜新館 4-2教室＞ Bクラス	日常生活活動学 ＜新館 3-2教室＞ Bクラス		
木				
金			大学入門 ＜研究室＞	地域理学療法学 ＜新館 4-1教室＞ Aクラス
総合実習Ⅱ＜各実習施設＞				

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅰ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス・Bクラス		生活環境学 ＜新館 3-2教室＞ Bクラス	
火			多職種連携論 ＜新館 2-2教室＞ Bクラス	生活環境学 ＜新館 3-1教室＞ Aクラス
水				
木				
金	多職種連携論 ＜新館 2-1教室＞ Aクラス	予防理学療法学 ＜新館 4-2教室＞		
卒業論文＜研究室＞				

PT 実(研) 小島

(旧)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅱ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅠ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	基盤ゼミⅡ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	研究デザイン ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス
火	日常生活活動学 ＜新館 3-1教室＞ Aクラス			
水	地域理学療法学 ＜新館 4-2教室＞ Bクラス	日常生活活動学 ＜新館 3-2教室＞ Bクラス		
木				
金		物理療法実習 ＜本館 3F治療訓練室＞ Bクラス		地域理学療法学 ＜新館 4-1教室＞ Aクラス
総合実習Ⅱ＜各実習施設＞				

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅰ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス・Bクラス		生活環境学 ＜新館 3-2教室＞ Bクラス	
火			多職種連携論 ＜新館 2-2教室＞ Bクラス	生活環境学 ＜新館 3-1教室＞ Aクラス
水	地域包括マネジメント論 ＜新館 4-1教室＞ Aクラス			
木				地域包括マネジメント論 ＜新館 4-2教室＞ Bクラス
金	多職種連携論 ＜新館 2-1教室＞ Aクラス			
卒業論文＜研究室＞				

PT 実(研) 助教 田中 雅佑

(新)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅱ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	基礎ゼミⅠ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	基礎ゼミⅡ ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス	研究デザイン ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス
火				
水				
木				
金		物理療法実習 ＜本館 3F治療訓練室＞ Bクラス	大学入門 ＜研究室＞	

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅰ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス・Bクラス	理学療法治療学実習Ⅱ ＜本館 3F 治療訓練室＞ Bクラス		
火	運動療法実習Ⅱ ＜本館 3F 治療訓練室＞ Bクラス			理学療法演習Ⅱ ＜本館 5F 機能訓練室＞ Aクラス・Bクラス
水				
木				理学療法治療学実習Ⅱ ＜本館 3F 治療訓練室＞ Aクラス
金				運動療法実習Ⅱ ＜本館 3F 治療訓練室＞ Aクラス
見学実習＜各実習施設＞＜田中雅＞				
卒業論文＜研究室＞				

(旧)
なし

PT 実み 教授 千田

(新)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅱ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス・Bクラス		整形外科学 ＜新館 3-1教室＞ Aクラス	研究デザイン ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス
火				
水				
木				
金	整形外科学 ＜新館 3-2教室＞ OT	整形外科学 ＜新館 3-2教室＞ Bクラス		

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅰ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス・Bクラス			
火				
水	リハビリテーション医学 ＜新館 2-2教室＞ Bクラス		リハビリテーション医学 ＜新館 2-1教室＞ Aクラス	
木				
金				
卒業論文＜研究室＞				

PT 実み 教授 千田

(旧)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅱ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス・Bクラス		整形外科学 ＜新館 3-1教室＞ Aクラス	研究デザイン ＜研究室＞ Aクラス・Bクラス
火				
水				
木				
金	整形外科学 ＜新館 3-2教室＞ OT	整形外科学 ＜新館 3-2教室＞ Bクラス		

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅰ ＜新館 3-1教室＞ Aクラス・Bクラス			
火				
水	リハビリテーション医学 ＜新館 2-2教室＞ Bクラス	リハビリテーション医学 ＜新館 2-1教室＞ Aクラス		
木				
金				
卒業論文＜研究室＞				

PT 実み 教授 山下立次

(新)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月				研究デザイン <研究室> Aクラス・Bクラス
火				
水				
木	コーチング論 <新館 4-4教室> Aクラス	コーチング論 <新館 4-4教室> Bクラス		
金				生涯スポーツ実習 <校外授業> Bクラス

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月				
火				
水				
木				
金				
卒業論文<研究室>				

PT 実み 教授 山下立次

(旧)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅱ <新館 3-1教室> Aクラス・Bクラス			研究デザイン <研究室> Aクラス・Bクラス
火				
水				
木	コーチング論 <新館 4-4教室> Aクラス	コーチング論 <新館 4-4教室> Bクラス		
金				

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究Ⅰ <新館 3-1教室> Aクラス・Bクラス			
火				
水				
木				
金				
卒業論文<研究室>				

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和2年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 令和2年度前期 1年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	大学入門 ＜研究室＞	基礎物理 ＜新館 2-1教室＞ ＜秋山＞	生理学 ＜新館 2-1教室＞ ＜勸使川原＞	
火		コミュニケーション英語 ＜新館 2-1教室＞ ＜植月＞		臨床医学概論 ＜新館 2-1教室＞ ＜窪山＞
水	哲学概論 ＜新館 2-1教室＞ ＜高橋＞	日本の歴史と文化 ＜新館 2-1教室＞ ＜植月＞	リハビリテーション概論 ＜新館 2-1教室＞ ＜中川＞	
木	人間発達学 ＜新館 2-1教室＞ ＜窪山＞	心理学 ＜新館 2-1教室＞ ＜堀内＞		解剖学 ＜新館 2-1教室＞ ＜佐々木＞
金	理学療法概論 ＜新館 2-1教室＞ ＜永野＞	大学入門 ＜研究室＞	大学入門 ＜研究室＞	基礎生物 ＜新館 2-1教室＞ ＜勸使川原＞

令和2年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 令和2年度後期 1年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	内科学 ＜新館 2-1教室＞ ＜窪山＞	健康科学概論 ＜新館 2-1教室＞ ＜安田＞		
火	解剖学実習 I ＜基礎医学実習室＞ ＜佐々木＞		情報収集と処理 ＜本館 8F PC室＞ ＜山田＞	職業人の倫理と道徳論 ＜新館 2-1教室＞ ＜浅利＞
水	理学療法評価学 I ＜新館 2-1教室＞ ＜横山＞	運動療法 ＜新館 2-1教室＞ ＜中川＞	リハビリテーション医学 ＜新館 2-1教室＞ ＜千田＞	
木				生理学実習 ＜生理学実習室＞ ＜勸使川原＞
金	多職種連携論 ＜新館 2-1教室＞ ＜小島＞	運動学 ＜新館 2-1教室＞ ＜山田＞	病理学 ＜新館 2-1教室＞ ＜小野＞	

見学実習＜各実習施設＞＜田中理・片岡・増川＞

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和2年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 令和2年度前期 1年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	大学入門 ＜研究室＞	基礎物理 ＜新館 2-2教室＞ ＜秋山＞		
火	臨床医学概論 ＜新館 2-2教室＞ ＜窪山＞	基礎生物 ＜新館 2-2教室＞ ＜勸使川原＞	コミュニケーション英語 ＜新館 2-2教室＞ ＜植月＞	
水	哲学概論 ＜新館 2-2教室＞ ＜高橋＞	解剖学 ＜新館 2-2教室＞ ＜佐々木＞	日本の歴史と文化 ＜新館 2-2教室＞ ＜植月＞	リハビリテーション概論 ＜新館 2-2教室＞ ＜中川＞
木		心理学 ＜新館 2-2教室＞ ＜堀内＞	人間発達学 ＜新館 2-2教室＞ ＜窪山＞	
金	生理学 ＜新館 2-2教室＞ ＜勸使川原＞	大学入門 ＜研究室＞	理学療法概論 ＜新館 2-2教室＞ ＜永野＞	

令和2年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 令和2年度後期 1年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月			健康科学概論 ＜新館 2-2教室＞ ＜安田＞	職業人の倫理と道徳論 ＜新館 2-2教室＞ ＜浅利＞
火	理学療法評価学 I ＜新館 2-2教室＞ ＜横山＞	情報収集と処理 ＜本館 8F PC室＞ ＜山田＞	多職種連携論 ＜新館 2-2教室＞ ＜小島＞	
水	リハビリテーション医学 ＜新館 2-2教室＞ ＜千田＞		運動療法 ＜新館 2-2教室＞ ＜中川＞	
木	生理学実習 ＜生理学実習室＞ ＜勸使川原＞	解剖学実習 I ＜基礎医学実習室＞ ＜佐々木＞		
金		病理学 ＜新館 2-2教室＞ ＜小野＞	内科学 ＜新館 2-2教室＞ ＜窪山＞	運動学 ＜新館 2-2教室＞ ＜山田＞

見学実習＜各実習施設＞＜田中理・片岡・増川＞

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和2年度 岡山医療技術専門学校 PT

岡山医療技術専門学校 令和2年度前期 2年生 時間割(理学療法学科)

Table with 4 columns (1限目, 2限目, 3限目, 4限目) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金) showing course schedules for the 2nd year first semester.

岡山医療技術専門学校 令和2年度後期 2年生 時間割(理学療法学科)

Table with 4 columns (1限目, 2限目, 3限目, 4限目) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金) showing course schedules for the 2nd year second semester.

令和2年度 岡山医療技術専門学校 PT

岡山医療技術専門学校 令和2年度前期 3年生 時間割(理学療法学科)

Table with 4 columns (1限目, 2限目, 3限目, 4限目) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金) showing clinical practice schedules for the 3rd year first semester.

岡山医療技術専門学校 令和2年度後期 3年生 時間割(理学療法学科)

Table with 4 columns (1限目, 2限目, 3限目, 4限目) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金) showing national exam preparation schedules for the 3rd year second semester.

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和3年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 令和3年度前期 1年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	大学入門 ＜研究室＞	基礎物理 ＜新館 2-1教室＞ ＜秋山＞	生理学 ＜新館 2-1教室＞ ＜勸使川原＞	
火		コミュニケーション英語 ＜新館 2-1教室＞ ＜榎月＞		臨床医学概論 ＜新館 2-1教室＞ ＜窪山＞
水	哲学概論 ＜新館 2-1教室＞ ＜高橋＞	日本の歴史と文化 ＜新館 2-1教室＞ ＜榎月＞	リハビリテーション概論 ＜新館 2-1教室＞ ＜中川＞	
木	人間発達学 ＜新館 2-1教室＞ ＜窪山＞	心理学 ＜新館 2-1教室＞ ＜堀内＞		解剖学 ＜新館 2-1教室＞ ＜佐々木＞
金	理学療法概論 ＜新館 2-1教室＞ ＜永野＞	大学入門 ＜研究室＞	大学入門 ＜研究室＞	基礎生物 ＜新館 2-1教室＞ ＜勸使川原＞

岡山医療専門職大学 令和3年度前期 2年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月		基盤ゼミⅠ ＜研究室＞	整形外科 ＜新館 3-1教室＞ ＜千田＞	
火	日常生活活動学 ＜新館 3-1教室＞ ＜小島＞	解剖学実習Ⅱ ＜基礎医学実習室＞ ＜佐々木＞	理学療法治療学Ⅰ ＜新館 3-1教室＞ ＜永野＞	運動療法実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ ＜田村・鈴木＞
水		基礎理学療法 ＜新館 3-1教室＞ ＜片岡＞	神経内科学 ＜新館 3-1教室＞ ＜太田＞	
木		運動学実習 ＜本館 5F 機能訓練室＞ ＜山田・鈴木＞	理学療法評価学Ⅱ ＜新館 3-1教室＞ ＜増川＞	理学療法治療学実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ ＜田村・山田＞
金		理学療法治療学Ⅱ ＜新館 3-1教室＞ ＜永野＞	小児科学 ＜新館 3-1教室＞ ＜窪山＞	

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和3年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 令和3年度前期 1年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	大学入門 ＜研究室＞	基礎物理 ＜新館 2-2教室＞ ＜秋山＞		
火	臨床医学概論 ＜新館 2-2教室＞ ＜窪山＞	基礎生物 ＜新館 2-2教室＞ ＜勸使川原＞	コミュニケーション英語 ＜新館 2-2教室＞ ＜榎月＞	
水	哲学概論 ＜新館 2-2教室＞ ＜高橋＞	解剖学 ＜新館 2-2教室＞ ＜佐々木＞	日本の歴史と文化 ＜新館 2-2教室＞ ＜榎月＞	リハビリテーション概論 ＜新館 2-2教室＞ ＜中川＞
木		心理学 ＜新館 2-2教室＞ ＜堀内＞	人間発達学 ＜新館 2-2教室＞ ＜窪山＞	
金	生理学 ＜新館 2-2教室＞ ＜勸使川原＞	大学入門 ＜研究室＞	理学療法概論 ＜新館 2-2教室＞ ＜永野＞	

岡山医療専門職大学 令和3年度前期 2年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月		基盤ゼミⅠ ＜研究室＞	解剖学実習Ⅱ ＜基礎医学実習室＞ ＜佐々木＞	
火		運動療法実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ ＜田村・鈴木＞		理学療法治療学Ⅰ ＜新館 3-2教室＞ ＜永野＞
水	運動学実習 ＜本館 5F 機能訓練室＞ ＜山田・鈴木＞	日常生活活動学 ＜新館 3-2教室＞ ＜小島＞	神経内科学 ＜新館 3-2教室＞ ＜菱川＞	
木	理学療法治療学実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ ＜増川・田村＞		理学療法治療学Ⅱ ＜新館 3-2教室＞ ＜永野＞	小児科学 ＜新館 3-2教室＞ ＜窪山＞
金	理学療法評価学Ⅱ ＜新館 3-2教室＞ ＜増川＞	整形外科 ＜新館 3-2教室＞ ＜千田＞		基礎理学療法 ＜新館 3-2教室＞ ＜片岡＞

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和3年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 令和3年度後期 1年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	内科学 ＜新館 2-1教室＞ ＜窪山＞	健康科学概論 ＜新館 2-1教室＞ ＜安田＞		
火	解剖学実習 I ＜基礎医学実習室＞ ＜佐々木＞		情報収集と処理 ＜本館 8F PC室＞ ＜山田＞	職業人の倫理と道徳論 ＜新館 2-1教室＞ ＜浅利＞
水	理学療法評価学 I ＜新館 2-1教室＞ ＜横山＞	運動療法 ＜新館 2-1教室＞ ＜中川＞	リハビリテーション医学 ＜新館 2-1教室＞ ＜千田＞	
木				生理学実習 ＜生理学実習室＞ ＜勸使川原＞
金	多職種連携論 ＜新館 2-1教室＞ ＜小島＞	運動学 ＜新館 2-1教室＞ ＜山田＞	病理学 ＜新館 2-1教室＞ ＜小野＞	
見学実習＜各実習施設＞＜田中雅・片岡・増川＞				

岡山医療専門職大学 令和3年度後期 2年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	精神医学 ＜新館 3-1教室＞ ＜山田士土＞	基礎理学療法実習 I ＜本館 5F機能訓練室＞ ＜田村・増川＞	理学療法評価学実習 II ＜本館 3F 治療訓練室＞ ＜鈴木・那須＞	
火		物理療法 ＜新館 3-1教室＞ ＜永野＞	理学療法治療学IV ＜新館 3-1教室＞ ＜片岡＞	生活環境学 ＜新館 3-1教室＞ ＜小島＞
水	理学療法治療学III ＜新館 3-1教室＞ ＜中川＞	スポーツ理学療法特論 ＜新館 3-1教室＞ ＜山下・鈴木＞	ヒューマンサービス論 ＜新館 3-1教室＞ ＜池本＞	
木	理学療法評価学実習 I ＜本館 3F 治療訓練室＞ ＜横山・那須＞	理学療法演習 I ＜新館 3-1教室＞ ＜山下・鈴木＞		理学療法治療学実習 II ＜本館 3F 治療訓練室＞ ＜田中雅・山下＞
金	日常生活活動学実習 ＜本館 5F機能訓練室＞ ＜片岡・横山＞		統計分析の基礎 ＜新館 3-1教室＞ ＜片岡＞	運動療法実習 II ＜本館 3F 治療訓練室＞ ＜田中雅・鈴木＞

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和3年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 令和3年度後期 1年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月			健康科学概論 ＜新館 2-2教室＞ ＜安田＞	職業人の倫理と道徳論 ＜新館 2-2教室＞ ＜浅利＞
火	理学療法評価学 I ＜新館 2-2教室＞ ＜横山＞	情報収集と処理 ＜本館 8F PC室＞ ＜山田＞	多職種連携論 ＜新館 2-2教室＞ ＜小島＞	
水	リハビリテーション医学 ＜新館 2-2教室＞ ＜千田＞		運動療法 ＜新館 2-2教室＞ ＜中川＞	
木	生理学実習 ＜生理学実習室＞ ＜勸使川原＞	解剖学実習 I ＜基礎医学実習室＞ ＜佐々木＞		
金		病理学 ＜新館 2-2教室＞ ＜小野＞	内科学 ＜新館 2-2教室＞ ＜窪山＞	運動学 ＜新館 2-2教室＞ ＜山田＞
見学実習＜各実習施設＞＜田中雅・片岡・増川＞				

岡山医療専門職大学 令和3年度後期 2年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月		理学療法治療学実習 II ＜本館 3F 治療訓練室＞ ＜田中雅・山下＞	生活環境学 ＜新館 3-2教室＞ ＜小島＞	理学療法演習 I ＜新館 3-2教室＞ ＜鈴木＞
火	運動療法実習 II ＜本館 3F 治療訓練室＞ ＜田中雅・鈴木＞	理学療法評価学実習 I ＜本館 3F 治療訓練室＞ ＜横山・那須＞		理学療法治療学IV ＜新館 3-2教室＞ ＜片岡＞
水	スポーツ理学療法特論 ＜新館 3-2教室＞ ＜山下・鈴木＞	ヒューマンサービス論 ＜新館 3-2教室＞ ＜池本＞	精神医学 ＜新館 3-2教室＞ ＜山田士土＞	理学療法治療学III ＜新館 3-2教室＞ ＜中川＞
木		物理療法 ＜新館 3-2教室＞ ＜永野＞	理学療法評価学実習 II ＜本館 3F 治療訓練室＞ ＜鈴木・那須＞	基礎理学療法実習 I ＜本館 5F機能訓練室＞ ＜田村・増川＞
金		日常生活活動学実習 ＜本館 5F機能訓練室＞ ＜片岡・横山＞		統計分析の基礎 ＜新館 3-2教室＞ ＜片岡＞

令和3年度 岡山医療技術専門学校 PT

岡山医療技術専門学校 令和3年度前期 3年生 時間割(理学療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 <small>(実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)</small>			
火				
水				
木				
金				

岡山医療技術専門学校 令和3年度後期 3年生 時間割(理学療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>
火	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>
水	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>
木	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>
金	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>	国家試験対策 <small>7-1教室<理学療法学科 教員></small>

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和4年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 令和4年度前期 1年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	大学入門 <small><研究室></small>	基礎物理 <small><新館 2-1教室> <秋山></small>	生理学 <small><新館 2-1教室> <勸使川原></small>	
火		コミュニケーション英語 <small><新館 2-1教室> <植月></small>		臨床医学概論 <small><新館 2-1教室> <窪山></small>
水	哲学概論 <small><新館 2-1教室> <高橋></small>	日本の歴史と文化 <small><新館 2-1教室> <植月></small>	リハビリテーション概論 <small><新館 2-1教室> <中川></small>	
木	人間発達学 <small><新館 2-1教室> <窪山></small>	心理学 <small><新館 2-1教室> <堀内></small>		解剖学 <small><新館 2-1教室> <佐々木></small>
金	理学療法概論 <small><新館 2-1教室> <永野></small>	大学入門 <small><研究室></small>	大学入門 <small><研究室></small>	基礎生物 <small><新館 2-1教室> <勸使川原></small>

岡山医療専門職大学 令和4年度前期 2年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月		基礎ゼミⅠ <small><研究室></small>	整形外科学 <small><新館 3-1教室> <千田></small>	
火	日常生活活動学 <small><新館 3-1教室> <小島></small>	解剖学実習Ⅱ <small><基礎医学実習室> <佐々木></small>	理学療法治療学Ⅰ <small><新館 3-1教室> <永野></small>	運動療法実習Ⅰ <small><本館 5F機能訓練室> <田村・鈴木></small>
水		基礎理学療法 <small><新館 3-1教室> <片岡></small>	神経内科学 <small><新館 3-1教室> <太田></small>	
木		運動学実習 <small><本館 5F 機能訓練室> <山田・鈴木></small>	理学療法評価学Ⅱ <small><新館 3-1教室> <増川></small>	理学療法治療学実習Ⅰ <small><本館 5F機能訓練室> <田村・山田></small>
金		理学療法治療学Ⅱ <small><新館 3-1教室> <永野></small>	小児科学 <small><新館 3-1教室> <窪山></small>	

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和4年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 令和4年度前期 3年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

Table with 5 columns (1限目 to 4限目) and 5 rows (月 to 金). Courses include: コミュニケーション論, 国際政治経済論, 基礎ゼミII, 研究デザイン, 物理療法実習, 理学療法管理概論, 老年障害理学療法学, 理学療法治療学実習III, 研究デザイン, 人間関係論, テーマ設定と研究方法, 理学療法評価学実習III, 生涯スポーツ実習, 地域理学療法学.

評価実習<各実習施設><横山・那須・田村>

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和4年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 令和4年度前期 1年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

Table with 5 columns (1限目 to 4限目) and 5 rows (月 to 金). Courses include: 大学入門, 基礎物理, 臨床医学概論, 基礎生物, 哲学概論, 解剖学, 日本の歴史と文化, リハビリテーション概論, 心理学, 人間発達学, 生理学, 大学入門, 理学療法概論.

岡山医療専門職大学 令和4年度前期 2年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

Table with 5 columns (1限目 to 4限目) and 5 rows (月 to 金). Courses include: 基礎ゼミI, 解剖学実習II, 運動療法実習I, 理学療法治療学I, 運動学実習, 日常生活活動学, 神経内科学, 理学療法治療学II, 理学療法評価学II, 整形外科科学, 基礎理学療法学.

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和4年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 令和4年度前期 3年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

Table with 5 columns (1限目 to 4限目) and 5 rows (月 to 金). Courses include: 国際政治経済論, コミュニケーション論, 基礎ゼミII, 研究デザイン, 理学療法管理概論, 老年障害理学療法学, 基礎理学療法実習II, 地域理学療法学, 研究デザイン, 人間関係論, 理学療法評価学実習III, 理学療法実習, 生涯スポーツ実習.

評価実習<各実習施設><横山・那須・田村>

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和4年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 令和4年度後期 1年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	内科学 <新館 2-1教室> <窪山>	健康科学概論 <新館 2-1教室> <安田>		
火	解剖学実習 I <基礎医学実習室> <佐々木>		情報収集と処理 <本館 8F PC室> <山田>	職業人の倫理と道德論 <新館 2-1教室> <茂利>
水	理学療法評価学 I <新館 2-1教室> <横山>	運動療法 <新館 2-1教室> <中川>	リハビリテーション医学 <新館 2-1教室> <千田>	
木				生理学実習 <生理学実習室> <勸使川原>
金	多職種連携論 <新館 2-1教室> <小島>	運動学 <新館 2-1教室> <山田>	病理学 <新館 2-1教室> <小野>	
見学実習<各実習施設><田中種・片岡・増川>				

岡山医療専門職大学 令和4年度後期 2年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	精神医学 <新館 3-1教室> <山田土>	基礎理学療法実習 I <本館 5F機能訓練室> <田村・増川>	理学療法評価学実習 II <本館 3F 治療訓練室> <鈴木・那須>	
火		物理療法 <新館 3-1教室> <永野>	理学療法治療学IV <新館 3-1教室> <片岡>	生活環境学 <新館 3-1教室> <小島>
水	理学療法治療学III <新館 3-1教室> <中川>	スポーツ理学療法特論 <新館 3-1教室> <山下・鈴木>	ヒューマンサービス論 <新館 3-1教室> <池本>	
木	理学療法評価学実習 I <本館 3F 治療訓練室> <横山・那須>	理学療法演習 I <新館 3-1教室> <山下・鈴木>		理学療法治療学実習 II <本館 3F 治療訓練室> <田中種・山下>
金	日常生活活動学実習 <本館 5F機能訓練室> <片岡・横山>		統計分析の基礎 <新館 3-1教室> <片岡>	運動療法実習 II <本館 3F 治療訓練室> <田中種・鈴木>
理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。				

令和4年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 令和4年度後期 3年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究 I <研究室>		人間形成論 <新館 4-1教室> <田中>	
火			メディカル英語 <新館 4-1教室> <安田>	理学療法演習 II <本館 5F 機能訓練室> <田中・藤>
水				地域包括マネジメント小論 <大講義室> <浜田・遠藤・岸川>
木	生体情報科学 <新館 4-1教室> <岡>	理学療法演習 II <本館 5F 機能訓練室> <増川>		
金		予防理学療法学 <新館 4-2教室> <小島>	総合演習 I <新館 4-1教室> <永野・山田・田村・増川>	義肢装具学 <新館 4-1教室> <内田>
総合実習 I <各実習施設><那須・永野・山下>				

令和4年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 令和4年度後期 1年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月			健康科学概論 ＜新館 2-2教室＞ ＜安田＞	職業人の倫理と道徳論 ＜新館 2-2教室＞ ＜浅利＞
火	理学療法評価学Ⅰ ＜新館 2-2教室＞ ＜横山＞	情報収集と処理 ＜本館 8F PC室＞ ＜山田＞	多職種連携論 ＜新館 2-2教室＞ ＜小島＞	
水	リハビリテーション医学 ＜新館 2-2教室＞ ＜千田＞		運動療法 ＜新館 2-2教室＞ ＜中川＞	
木	生理学実習 ＜生理学実習室＞ ＜勅使川原＞	解剖学実習Ⅰ ＜基礎医学実習室＞ ＜佐々木＞		
金		病理学 ＜新館 2-2教室＞ ＜小野＞	内科学 ＜新館 2-2教室＞ ＜窪山＞	運動学 ＜新館 2-2教室＞ ＜山田＞
見学実習＜各実習施設＞＜田中雅・片岡・増川＞				

岡山医療専門職大学 令和4年度後期 2年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月		理学療法治療学実習Ⅱ ＜本館 3F 治療訓練室＞ ＜田中雅・山下＞	生活環境学 ＜新館 3-2教室＞ ＜小島＞	理学療法演習Ⅰ ＜新館 3-2教室＞ ＜鈴木＞
火	運動療法実習Ⅱ ＜本館 3F 治療訓練室＞ ＜田中雅・鈴木＞	理学療法評価学実習Ⅰ ＜本館 3F 治療訓練室＞ ＜横山・那須＞		理学療法治療学Ⅳ ＜新館 3-2教室＞ ＜片岡＞
水	スポーツ理学療法特論 ＜新館 3-2教室＞ ＜山下・鈴木＞	ヒューマンサービス論 ＜新館 3-2教室＞ ＜池本＞	精神医学 ＜新館 3-2教室＞ ＜山田了士＞	理学療法治療学Ⅲ ＜新館 3-2教室＞ ＜中川＞
木		物理療法 ＜新館 3-2教室＞ ＜永野＞	理学療法評価学実習Ⅱ ＜本館 3F 治療訓練室＞ ＜鈴木・那須＞	基礎理学療法実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ ＜田村・増川＞
金		日常生活活動学実習 ＜本館 5F機能訓練室＞ ＜片岡・横山＞		統計分析の基礎 ＜新館 3-2教室＞ ＜片岡＞
理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。				

令和4年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 令和4年度後期 3年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	総合研究Ⅰ ＜研究室＞	人間形成論 ＜新館 4-2教室＞ ＜田中＞		
火			メディカル英語 ＜新館 4-2教室＞ ＜安田＞	理学療法演習Ⅱ ＜本館 5F機能訓練室＞ ＜田中 雅＞
水		生体情報科学 ＜新館 4-2教室＞ ＜岡＞		
木		理学療法演習Ⅱ ＜本館 5F機能訓練室＞ ＜増川＞		地域包括マネジメント論 ＜大講義室＞ ＜浜田・遠藤・崖川＞
金		予防理学療法学 ＜新館 4-2教室＞ ＜小島＞	総合演習Ⅰ ＜新館 4-1教室＞ ＜永野・山田・田村・増川＞	義肢装具学 ＜新館 4-2教室＞ ＜内田＞
総合実習Ⅰ＜各実習施設＞＜那須・永野・山下＞				

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和5年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 令和5年度前期 1年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

Table with 5 columns (Day, 1限目(9:00~10:30), 2限目(10:40~12:10), 3限目(13:00~14:30), 4限目(14:40~16:10)) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金) showing class schedules for 1st year students.

岡山医療専門職大学 令和5年度前期 2年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

Table with 5 columns (Day, 1限目(9:00~10:30), 2限目(10:40~12:10), 3限目(13:00~14:30), 4限目(14:40~16:10)) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金) showing class schedules for 2nd year students.

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和5年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 令和5年度前期 3年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

Table with 5 columns (Day, 1限目(9:00~10:30), 2限目(10:40~12:10), 3限目(13:00~14:30), 4限目(14:40~16:10)) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金) showing class schedules for 3rd year students, including a final evaluation period.

岡山医療専門職大学 令和5年度前期 4年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

Table with 5 columns (Day, 1限目(9:00~10:30), 2限目(10:40~12:10), 3限目(13:00~14:30), 4限目(14:40~16:10)) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金) showing class schedules for 4th year students, including a final evaluation period.

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和5年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 令和5年度後期 1年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	内科学 <新館 2-1教室> <篠山>	健康科学概論 <新館 2-1教室> <安田>		
火	解剖学実習 I <基礎医学実習室> <佐々木>		情報収集と処理 <本館 8F PC室> <山田>	職業人の倫理と道徳論 <新館 2-1教室> <茂利>
水	理学療法評価学 I <新館 2-1教室> <横山>	運動療法 <新館 2-1教室> <中山>	リハビリテーション医学 <新館 2-1教室> <千田>	
木				生理学実習 <生理学実習室> <勸修川原>
金	多職種連携論 <新館 2-1教室> <小島>	運動学 <新館 2-1教室> <山田>	病理学 <新館 2-1教室> <小野>	
見学実習<各実習施設><田中雅・片岡・増川>				

岡山医療専門職大学 令和5年度後期 2年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	精神医学 <新館 3-1教室> <山田士土>	基礎理学療法実習 I <本館 5F機能訓練室> <田村・増川>	理学療法評価学実習 II <本館 3F 治療訓練室> <鈴木・那須>	
火		物理療法 <新館 3-1教室> <永野>	理学療法治療学IV <新館 3-1教室> <片岡>	生活環境学 <新館 3-1教室> <小島>
水	理学療法治療学III <新館 3-1教室> <中山>	スポーツ理学療法特論 <新館 3-1教室> <山下・鈴木>	ヒューマンサービス論 <新館 3-1教室> <池本>	
木	理学療法評価学実習 I <本館 3F 治療訓練室> <横山・那須>	理学療法演習 I <新館 3-1教室> <山下・鈴木>		理学療法治療学実習 II <本館 3F 治療訓練室> <田中雅・山下>
金	日常生活活動学実習 <本館 5F機能訓練室> <片岡・横山>		統計分析の基礎 <新館 3-1教室> <片岡>	運動療法実習 II <本館 3F 治療訓練室> <田中雅・鈴木>

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和5年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 令和5年度後期 3年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究 I <研究室>		人間形成論 <新館 4-1教室> <田中>	
火			メディカル英語 <新館 4-1教室> <安田>	理学療法演習 II <本館 5F 機能訓練室> <田中 雅>
水				地域包括マネジメント論 <大講義室> <浜田・遠藤・原川>
木	生体情報科学 <新館 4-1教室> <岡>	理学療法演習 II <本館 5F 機能訓練室> <増川>		
金		予防理学療法学 <新館 4-2教室> <小島>	総合演習 I <新館 4-1教室> <永野・山田・田村・増川>	義肢装具学 <新館 4-1教室> <内田>
総合実習 I <各実習施設><那須・永野・山下>				

岡山医療専門職大学 令和5年度後期 4年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月				
火	理学療法セミナー II <新館 2-4教室> <那須>			
水				
木				
金				
卒業論文<研究室>				

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和5年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 令和5年度前期 1年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

Table with 4 columns (1限目 to 4限目) and 5 rows (月 to 金). Courses include: 大学入門, 基礎物理, 臨床医学概論, 基礎生物, 哲学概論, 解剖学, 心理学, 生理学, 理学療法概論.

岡山医療専門職大学 令和5年度前期 2年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

Table with 4 columns (1限目 to 4限目) and 5 rows (月 to 金). Courses include: 基礎ゼミ I, 解剖学実習 II, 運動療法実習 I, 理学療法治療学 I, 運動学実習, 日常生活活動学, 神経内科学, 理学療法治療学 II, 理学療法評価学 II, 整形外科学, 小児科学, 基礎理学療法学.

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和5年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 令和5年度前期 3年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

Table with 4 columns (1限目 to 4限目) and 5 rows (月 to 金). Courses include: 国際政治経済論, コミュニケーション論, 基礎ゼミ II, 研究デザイン, 理学療法管理学概論, 老年期障害理学療法学, 基礎理学療法実習 II, 理学療法治療学 II, 地域理学療法学, 研究デザイン, 人間関係論, 理学療法評価学実習 III, テーマ設定と研究方法, 理学療法治療学実習 III, 物理療法実習, 生涯スポーツ実習.

岡山医療専門職大学 令和5年度前期 4年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

Table with 4 columns (1限目 to 4限目) and 5 rows (月 to 金). Courses include: 総合研究 II, 起業入門, スポーツ科学, 理学療法セミナー I, 総合演習 II, 総合演習 II, 応用治療技術実習 I, コーチング論, マネジメント論, 応用治療技術実習 III, 岡山経営者論, 岡山経営者論.

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和5年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 令和5年度後期 1年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月			健康科学概論 <新館 2-2教室> <安田>	職業人の倫理と道徳論 <新館 2-2教室> <浅利>
火	理学療法評価学 I <新館 2-2教室> <横山>	情報収集と処理 <本館 8F PC室> <山田>	多職種連携論 <新館 2-2教室> <小島>	
水	リハビリテーション医学 <新館 2-2教室> <千田>		運動療法 <新館 2-2教室> <中川>	
木	生理学実習 <生理学実習室> <勸使川原>	解剖学実習 I <基礎医学実習室> <佐々木>		
金		病理学 <新館 2-2教室> <小野>	内科学 <新館 2-2教室> <窪山>	運動学 <新館 2-2教室> <山田>
見学実習<各実習施設><田中雅・片岡・増川>				

岡山医療専門職大学 令和5年度後期 2年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月		理学療法治療学実習 II <本館 3F 治療訓練室> <田中雅・山下>	生活環境学 <新館 3-2教室> <小島>	理学療法演習 I <新館 3-2教室> <鈴木>
火	運動療法実習 II <本館 3F 治療訓練室> <田中雅・鈴木>	理学療法評価学実習 I <本館 3F 治療訓練室> <横山・那須>		理学療法治療学IV <新館 3-2教室> <片岡>
水	スポーツ理学療法特論 <新館 3-2教室> <山下・鈴木>	ヒューマンサービス論 <新館 3-2教室> <池本>	精神医学 <新館 3-2教室> <山田了士>	理学療法治療学 III <新館 3-2教室> <中川>
木		物理療法 <新館 3-2教室> <永野>	理学療法評価学実習 II <本館 3F 治療訓練室> <鈴木・那須>	基礎理学療法実習 I <本館 5F機能訓練室> <田村・増川>
金		日常生活活動学実習 <本館 5F機能訓練室> <片岡・横山>		統計分析の基礎 <新館 3-2教室> <片岡>

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

令和5年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 令和5年度後期 3年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究 I <研究室>	人間形成論 <新館 4-2教室> <田中>		
火			メディカル英語 <新館 4-2教室> <安田>	理学療法演習 II <本館 5F 機能訓練室> <田中・雅>
水		生体情報科学 <新館 4-2教室> <岡>		地域包括マネジメント論 <大講義室> <浜田・遠藤・岸川>
木		理学療法演習 II <本館 5F 機能訓練室> <増川>		
金		予防理学療法学 <新館 4-2教室> <小島>	総合演習 I <新館 4-1教室> <永野・山田・田村・増川>	義肢装具学 <新館 4-2教室> <内田>
総合実習 I <各実習施設><那須・永野・山下>				

令和5年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 令和5年度後期 4年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月				
火	理学療法セミナー II <新館 2-4教室> <那須>			
水				
木				
金				
卒業論文<研究室>				

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成32年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 平成32年度前期 1年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月		基礎物理 <新館 2-1教室> <秋山>	生理学 <新館 2-1教室> <勸使川原>	
火	リハビリテーション概論 <新館 2-1教室> <村西>	コミュニケーション英語 <新館 2-1教室> <植月>		臨床医学概論 <新館 2-1教室> <窪山>
水	哲学概論 <新館 2-1教室> <高橋>	日本の歴史と文化 <新館 2-1教室> <植月>		
木	人間発達学 <新館 2-1教室> <窪山>	心理学 <新館 2-1教室> <堀内>		解剖学 <新館 2-1教室> <佐々木>
金	理学療法概論 <新館 2-1教室> <永野>			基礎生物 <新館 2-1教室> <勸使川原>

平成32年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 平成32年度後期 1年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	内科学 <新館 2-1教室> <窪山>	健康科学概論 <新館 2-1教室> <安田>	運動療法 <新館 2-1教室> <濱田>	
火	解剖学実習 I <基礎医学実習室> <佐々木>		情報収集と処理 <本館 8F PC室> <山田>	職業人の倫理と道徳論 <新館 2-1教室> <浅利>
水	理学療法評価学 I <新館 2-1教室> <横山>	リハビリテーション医学 <新館 2-1教室> <千田>		
木				生理学実習 <生理学実習室> <勸使川原>
金	多職種連携論 <新館 2-1教室> <小島>	運動学 <新館 2-1教室> <山田>	病理学 <新館 2-1教室> <小野>	

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成32年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 平成32年度前期 1年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月		基礎物理 <新館 2-2教室> <秋山>		
火	臨床医学概論 <新館 2-2教室> <窪山>		コミュニケーション英語 <新館 2-2教室> <植月>	
水	哲学概論 <新館 2-2教室> <高橋>	解剖学 <新館 2-2教室> <佐々木>	日本の歴史と文化 <新館 2-2教室> <植月>	
木		心理学 <新館 2-2教室> <堀内>	人間発達学 <新館 2-2教室> <窪山>	リハビリテーション概論 <新館 2-2教室> <村西>
金	生理学 <新館 2-2教室> <勸使川原>		理学療法概論 <新館 2-2教室> <永野>	基礎生物 <新館 2-2教室> <勸使川原>

平成32年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 平成32年度後期 1年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月			健康科学概論 <新館 2-2教室> <安田>	職業人の倫理と道徳論 <新館 2-2教室> <浅利>
火	理学療法評価学 I <新館 2-2教室> <横山>	情報収集と処理 <本館 8F PC室> <山田>	多職種連携論 <新館 2-2教室> <小島>	
水	リハビリテーション医学 <新館 2-2教室> <千田>			
木	生理学実習 <生理学実習室> <勸使川原>	解剖学実習 I <基礎医学実習室> <佐々木>	運動療法 <新館 2-2教室> <濱田>	
金		病理学 <新館 2-2教室> <小野>	内科学 <新館 2-2教室> <窪山>	運動学 <新館 2-2教室> <山田>

見学実習<各実習施設><村西・片岡・増川>

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成32年度 岡山医療技術専門学校 PT

岡山医療技術専門学校 平成32年度前期 2年生 時間割(理学療法学科)

Table with 4 columns (1限目, 2限目, 3限目, 4限目) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金). Courses include 精神医学2, 小児科学, 内科学1, 整形外科学1, etc.

岡山医療技術専門学校 平成32年度後期 2年生 時間割(理学療法学科)

Table with 4 columns (1限目, 2限目, 3限目, 4限目) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金). Courses include 臨床実習セミナー2, 理学療法評価法実習3, etc.

平成32年度 岡山医療技術専門学校 PT

岡山医療技術専門学校 平成32年度前期 3年生 時間割(理学療法学科)

Table with 4 columns (1限目, 2限目, 3限目, 4限目) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金). All cells contain '臨床実習 第I期～第III期'.

岡山医療技術専門学校 平成32年度後期 3年生 時間割(理学療法学科)

Table with 4 columns (1限目, 2限目, 3限目, 4限目) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金). All cells contain '国家試験対策'.

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成33年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 平成33年度前期 1年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月		基礎物理 <新館 2-1教室> <秋山>	生理学 <新館 2-1教室> <勸使川原>	
火	リハビリテーション概論 <新館 2-1教室> <村西>	コミュニケーション英語 <新館 2-1教室> <植月>		臨床医学概論 <新館 2-1教室> <窪山>
水	哲学概論 <新館 2-1教室> <高橋>	日本の歴史と文化 <新館 2-1教室> <植月>		
木	人間発達学 <新館 2-1教室> <窪山>	心理学 <新館 2-1教室> <堀内>		解剖学 <新館 2-1教室> <佐々木>
金	理学療法概論 <新館 2-1教室> <永野>			基礎生物 <新館 2-1教室> <勸使川原>

岡山医療専門職大学 平成33年度前期 2年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月		基盤ゼミⅠ <研究室>	整形外科 <新館 3-1教室> <千田>	
火	日常生活活動学 <新館 3-1教室> <小島>	解剖学実習Ⅱ <基礎医学実習室> <佐々木>	理学療法治療学Ⅰ <新館 3-1教室> <永野>	運動療法実習Ⅰ <本館 5F機能訓練室> <渡辺・鈴木>
水		基礎理学療法 <新館 3-1教室> <片岡>	神経内科学 <新館 3-1教室> <太田>	
木		運動学実習 <本館 5F 機能訓練室> <山田・鈴木>	理学療法評価学Ⅱ <新館 3-1教室> <増川>	理学療法治療学実習Ⅰ <本館 5F機能訓練室> <窪山・山田>
金	理学療法治療学Ⅱ <新館 3-1教室> <窪山>		小児科学 <新館 3-1教室> <窪山>	

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成33年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 平成33年度前期 1年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月		基礎物理 <新館 2-2教室> <秋山>		
火	臨床医学概論 <新館 2-2教室> <窪山>		コミュニケーション英語 <新館 2-2教室> <植月>	
水	哲学概論 <新館 2-2教室> <高橋>	解剖学 <新館 2-2教室> <佐々木>	日本の歴史と文化 <新館 2-2教室> <植月>	
木		心理学 <新館 2-2教室> <堀内>	人間発達学 <新館 2-2教室> <窪山>	リハビリテーション概論 <新館 2-2教室> <村西>
金	生理学 <新館 2-2教室> <勸使川原>		理学療法概論 <新館 2-2教室> <永野>	基礎生物 <新館 2-2教室> <勸使川原>

岡山医療専門職大学 平成33年度前期 2年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月		基盤ゼミⅠ <研究室>	解剖学実習Ⅱ <基礎医学実習室> <佐々木>	
火		運動療法実習Ⅰ <本館 5F機能訓練室> <渡辺・鈴木>		理学療法治療学Ⅰ <新館 3-2教室> <永野>
水	運動学実習 <本館 5F 機能訓練室> <山田・鈴木>	日常生活活動学 <新館 3-2教室> <小島>	神経内科学 <新館 3-2教室> <菱川>	
木	理学療法治療学実習Ⅰ <本館 5F機能訓練室> <窪山・渡辺>		理学療法治療学Ⅱ <新館 3-2教室> <窪山>	小児科学 <新館 3-2教室> <窪山>
金	理学療法評価学Ⅱ <新館 3-2教室> <増川>	整形外科 <新館 3-2教室> <千田>		基礎理学療法 <新館 3-2教室> <片岡>

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成33年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 平成33年度後期 1年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	内科学 <新館 2-1教室> <窪山>	健康科学概論 <新館 2-1教室> <安田>	運動療法 <新館 2-1教室> <窪田>	
火	解剖学実習 I <基礎医学実習室> <佐々木>		情報収集と処理 <本館 8F PC室> <山田>	職業人の倫理と道德論 <新館 2-1教室> <浅利>
水	理学療法評価学 I <新館 2-1教室> <横山>	リハビリテーション医学 <新館 2-1教室> <千田>		
木				生理学実習 <生理学実習室> <勅使川原>
金	多職種連携論 <新館 2-1教室> <小島>	運動学 <新館 2-1教室> <山田>	病理学 <新館 2-1教室> <小野>	
見学実習<各実習施設><村西・片岡・増川>				

岡山医療専門職大学 平成33年度後期 2年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	精神医学 <新館 3-1教室> <山田・土>	基礎理学療法実習 I <本館 5F機能訓練室> <永野・増川>	理学療法評価学実習 II <本館 3F 治療訓練室> <鈴木・那須>	
火	理学療法治療学Ⅲ <新館 3-1教室> <村西>	物理療法 <新館 3-1教室> <永野>	理学療法治療学Ⅳ <新館 3-1教室> <片岡>	生活環境学 <新館 3-1教室> <小島>
水		スポーツ理学療法特論 <新館 3-1教室> <山下・鈴木>	ヒューマンサービス論 <新館 3-1教室> <池本>	
木	理学療法評価学実習 I <本館 3F 治療訓練室> <横山・那須>	理学療法演習 I <新館 3-1教室> <山下・鈴木>		理学療法治療学実習 II <本館 3F 治療訓練室> <村西・山下>
金	日常生活活動学実習 <本館 5F機能訓練室> <片岡・横山>		統計分析の基礎 <新館 3-1教室> <片岡>	運動療法実習 II <本館 3F 治療訓練室> <濱岡・鈴木>

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成33年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 平成33年度後期 1年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月			健康科学概論 <新館 2-2教室> <安田>	職業人の倫理と道德論 <新館 2-2教室> <浅利>
火	理学療法評価学 I <新館 2-2教室> <横山>	情報収集と処理 <本館 8F PC室> <山田>	多職種連携論 <新館 2-2教室> <小島>	
水	リハビリテーション医学 <新館 2-2教室> <千田>			
木	生理学実習 <生理学実習室> <勅使川原>	解剖学実習 I <基礎医学実習室> <佐々木>	運動療法 <新館 2-2教室> <窪田>	
金		病理学 <新館 2-2教室> <小野>	内科学 <新館 2-2教室> <窪山>	運動学 <新館 2-2教室> <山田>
見学実習<各実習施設><村西・片岡・増川>				

岡山医療専門職大学 平成33年度後期 2年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月		理学療法治療学実習 II <本館 3F 治療訓練室> <村西・山下>	生活環境学 <新館 3-2教室> <小島>	理学療法演習 I <新館 3-2教室> <山下・鈴木>
火	運動療法実習 II <本館 3F 治療訓練室> <窪田・鈴木>	理学療法評価学実習 I <本館 3F 治療訓練室> <横山・那須>	理学療法治療学Ⅲ <新館 3-2教室> <村西>	理学療法治療学Ⅳ <新館 3-2教室> <片岡>
水	スポーツ理学療法特論 <新館 3-2教室> <山下・鈴木>	ヒューマンサービス論 <新館 3-2教室> <池本>	精神医学 <新館 3-2教室> <山田・土>	
木		物理療法 <新館 3-2教室> <永野>	理学療法評価学実習 II <本館 3F 治療訓練室> <鈴木・那須>	基礎理学療法実習 I <本館 5F機能訓練室> <永野・増川>
金		日常生活活動学実習 <本館 5F機能訓練室> <片岡・横山>		統計分析の基礎 <新館 3-2教室> <片岡>

平成33年度 岡山医療技術専門学校 PT

岡山医療技術専門学校 平成33年度前期 3年生 時間割(理学療法学科)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
火	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
水	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
木	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
金	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			

岡山医療技術専門学校 平成33年度後期 3年生 時間割(理学療法学科)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>
火	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>
水	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>
木	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>
金	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>	国家試験対策 7-1教室<理学療法学科 教員>

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成34年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 平成34年度前期 1年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月		基礎物理 <新館 2-1教室> <秋山>	生理学 <新館 2-1教室> <勸使川原>	
火	リハビリテーション概論 <新館 2-1教室> <村西>	コミュニケーション英語 <新館 2-1教室> <植月>		臨床医学概論 <新館 2-1教室> <窪山>
水	哲学概論 <新館 2-1教室> <高橋>	日本の歴史と文化 <新館 2-1教室> <植月>		
木	人間発達学 <新館 2-1教室> <窪山>	心理学 <新館 2-1教室> <堀内>		解剖学 <新館 2-1教室> <佐々木>
金	理学療法概論 <新館 2-1教室> <永野>			基礎生物 <新館 2-1教室> <勸使川原>

岡山医療専門職大学 平成34年度前期 2年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月		基礎ゼミⅠ <研究室>	整形外科学 <新館 3-1教室> <千田>	
火	日常生活活動学 <新館 3-1教室> <小島>	解剖学実習Ⅱ <基礎医学実習室> <佐々木>	理学療法治療学Ⅰ <新館 3-1教室> <永野>	運動療法実習Ⅰ <本館 5F機能訓練室> <藤辺・鈴木>
水		基礎理学療法 <新館 3-1教室> <片岡>	神経内科学 <新館 3-1教室> <太田>	
木		運動学実習 <本館 5F機能訓練室> <山田・鈴木>	理学療法評価学Ⅱ <新館 3-1教室> <増川>	理学療法治療学実習Ⅰ <本館 5F機能訓練室> <藤岡・山田>
金	理学療法治療学Ⅱ <新館 3-1教室> <濱岡>		小児科学 <新館 3-1教室> <窪山>	

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成34年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 平成34年度前期 3年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	コミュニケーション論 ＜新館 4-1教室＞ ＜佐生＞	国際政治経済論 ＜新館 4-1教室＞ ＜三宅＞	基盤ゼミⅡ ＜研究室＞	研究デザイン ＜研究室＞
火	物理療法実習 ＜本館 3F治療訓練室＞ ＜山下・増川＞		理学療法管理栄養概論 ＜新館 4-1教室＞ ＜山田＞	老年期障害理学療法 ＜新館 4-1教室＞ ＜瀧岡＞
水	理学療法治療学実習Ⅲ ＜本館 5F機能訓練室＞ ＜片岡・鈴木＞	人間関係論 ＜新館 4-1教室＞ ＜兵頭＞		
木	テーマ設定と研究方法 ＜新館 4-1教室＞ ＜佐々木＞			基礎理学療法実習Ⅱ ＜本館 3F治療訓練室＞ ＜山下・横山＞
金	理学療法評価学実習Ⅲ ＜本館 3F治療訓練室＞ ＜横山・那須＞		生涯スポーツ実習 ＜校外授業＞ ＜村西・増川・鈴木＞	地域理学療法 ＜新館 4-1教室＞ ＜小島＞
評価実習＜各実習施設＞＜横山・那須・渡辺＞				

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成34年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 平成34年度前期 1年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月		基礎物理 ＜新館 2-2教室＞ ＜秋山＞		
火	臨床医学概論 ＜新館 2-2教室＞ ＜窪山＞		コミュニケーション英語 ＜新館 2-2教室＞ ＜楳月＞	
水	哲学概論 ＜新館 2-2教室＞ ＜高橋＞	解剖学 ＜新館 2-2教室＞ ＜佐々木＞	日本の歴史と文化 ＜新館 2-2教室＞ ＜楳月＞	
木		心理学 ＜新館 2-2教室＞ ＜堀内＞	人間発達学 ＜新館 2-2教室＞ ＜窪山＞	リハビリテーション概論 ＜新館 2-2教室＞ ＜村西＞
金	生理学 ＜新館 2-2教室＞ ＜勅使川原＞		理学療法概論 ＜新館 2-2教室＞ ＜永野＞	基礎生物 ＜新館 2-2教室＞ ＜勅使川原＞

岡山医療専門職大学 平成34年度前期 2年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月		基盤ゼミⅠ ＜研究室＞	解剖学実習Ⅱ ＜基礎医学実習室＞ ＜佐々木＞	
火		運動療法実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ ＜渡辺・鈴木＞		理学療法治療学Ⅰ ＜新館 3-2教室＞ ＜永野＞
水	運動学実習 ＜本館 5F 機能訓練室＞ ＜山田・鈴木＞	日常生活活動学 ＜新館 3-2教室＞ ＜小島＞	神経内科学 ＜新館 3-2教室＞ ＜菱川＞	
木	理学療法治療学実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ ＜瀧岡・渡辺＞		理学療法治療学Ⅱ ＜新館 3-2教室＞ ＜瀧岡＞	小児科学 ＜新館 3-2教室＞ ＜窪山＞
金	理学療法評価学Ⅱ ＜新館 3-2教室＞ ＜増川＞	整形外科学 ＜新館 3-2教室＞ ＜千田＞		基礎理学療法 ＜新館 3-2教室＞ ＜片岡＞

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成34年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 平成34年度前期 3年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	国際政治経済論 ＜新館 4-2教室＞ ＜三宅＞	コミュニケーション論 ＜新館 4-2教室＞ ＜佐生＞	基盤ゼミⅡ ＜研究室＞	研究デザイン ＜研究室＞
火	理学療法管理栄養概論 ＜新館 4-2教室＞ ＜山田＞	老年期障害理学療法 ＜新館 4-2教室＞ ＜瀧岡＞	基礎理学療法実習Ⅱ ＜本館 3F治療訓練室＞ ＜渡辺・横山＞	
水	地域理学療法 ＜新館 4-2教室＞ ＜小島＞	人間関係論 ＜新館 4-2教室＞ ＜兵頭＞		
木	理学療法評価学実習Ⅲ ＜本館 3F治療訓練室＞ ＜横山・那須＞	テーマ設定と研究方法 ＜新館 4-2教室＞ ＜佐々木＞	理学療法治療学実習Ⅲ ＜本館 5F機能訓練室＞ ＜片岡・鈴木＞	
金		物理療法実習 ＜本館 3F治療訓練室＞ ＜村西・小島＞		生涯スポーツ実習 ＜校外授業＞ ＜山下・横山・那須＞
評価実習＜各実習施設＞＜横山・那須・渡辺＞				

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成34年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 平成34年度後期 1年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	内科学 <新館 2-1教室> <窪山>	健康科学概論 <新館 2-1教室> <安田>	運動療法 <新館 2-1教室> <濱岡>	
火	解剖学実習 I <基礎医学実習室> <佐々木>		情報収集と処理 <本館 8F PC室> <山田>	職業人の倫理と道徳論 <新館 2-1教室> <浅利>
水	理学療法評価学 I <新館 2-1教室> <横山>	リハビリテーション医学 <新館 2-1教室> <千田>		
木				生理学実習 <生理学実習室> <勸使川原>
金	多職種連携論 <新館 2-1教室> <小島>	運動学 <新館 2-1教室> <山田>	病理学 <新館 2-1教室> <小野>	
見学実習<各実習施設><村西・片岡・増川>				

岡山医療専門職大学 平成34年度後期 2年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	精神医学 <新館 3-1教室> <山田上土>	基礎理学療法実習 I <本館 5F機能訓練室> <永野・増川>	理学療法評価学実習 II <本館 3F 治療訓練室> <鈴木・那須>	
火	理学療法治療学III <新館 3-1教室> <村西>	物理療法 <新館 3-1教室> <永野>	理学療法治療学IV <新館 3-1教室> <片岡>	生活環境学 <新館 3-1教室> <小島>
水		スポーツ理学療法特論 <新館 3-1教室> <山下・鈴木>	ヒューマンサービス論 <新館 3-1教室> <池本>	
木	理学療法評価学実習 I <本館 3F 治療訓練室> <横山・那須>	理学療法演習 I <新館 3-1教室> <山下・鈴木>		理学療法治療学実習 II <本館 3F 治療訓練室> <村西・山下>
金	日常生活活動学実習 <本館 5F機能訓練室> <片岡・横山>		統計分析の基礎 <新館 3-1教室> <片岡>	運動療法実習 II <本館 3F 治療訓練室> <遠藤・鈴木>

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成34年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 平成34年度後期 3年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究 I <研究室>		人間形成論 <新館 4-1教室> <田中>	
火			メディカル英語 <新館 4-1教室> <安田>	
水	地域包括マネジメント論 <新館 4-1教室> <小島>			
木	生体情報科学 <新館 4-1教室> <岡>			
金		予防理学療法学 <新館 4-1教室> <濱岡>	総合演習 I <新館 4-1教室> <永野・山田・遠藤・増川>	義肢装具学 <新館 4-1教室> <内田>
総合実習 I <各実習施設><永野・山下・那須>				

平成34年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 平成34年度後期 1年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月			健康科学概論 <新館 2-2教室> <安田>	職業人の倫理と道徳論 <新館 2-2教室> <浅利>
火	理学療法評価学 I <新館 2-2教室> <横山>	情報収集と処理 <本館 8F PC室> <山田>	多職種連携論 <新館 2-2教室> <小島>	
水	リハビリテーション医学 <新館 2-2教室> <千田>			
木	生理学実習 <生理学実習室> <勅使川原>	解剖学実習 I <基礎医学実習室> <佐々木>	運動療法 <新館 2-2教室> <濱岡>	
金		病理学 <新館 2-2教室> <小野>	内科学 <新館 2-2教室> <窪山>	運動学 <新館 2-2教室> <山田>
見学実習<各実習施設><村西・片岡・増川>				

岡山医療専門職大学 平成34年度後期 2年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月		理学療法治療学実習 II <本館 3F 治療訓練室> <村西・山下>	生活環境学 <新館 3-2教室> <小島>	理学療法演習 I <新館 3-2教室> <山下・鈴木>
火	運動療法実習 II <本館 3F 治療訓練室> <濱岡・鈴木>	理学療法評価学実習 I <本館 3F 治療訓練室> <横山・那須>	理学療法治療学 III <新館 3-2教室> <村西>	理学療法治療学 IV <新館 3-2教室> <片岡>
水	スポーツ理学療法特論 <新館 3-2教室> <山下・鈴木>	ヒューマンサービス論 <新館 3-2教室> <池本>	精神医学 <新館 3-2教室> <山田了士>	
木		物理療法 <新館 3-2教室> <永野>	理学療法評価学実習 II <本館 3F 治療訓練室> <鈴木・那須>	基礎理学療法実習 I <本館 5F機能訓練室> <志野・増川>
金		日常生活活動学実習 <本館 5F機能訓練室> <片岡・横山>		統計分析の基礎 <新館 3-2教室> <片岡>
<small>理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。</small>				

平成34年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 平成34年度後期 3年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究 I <研究室>	人間形成論 <新館 4-2教室> <田中>		
火			メディカル英語 <新館 4-2教室> <安田>	
水		生体情報科学 <新館 4-2教室> <岡>		
木				地域包括マネジメント論 <新館 4-2教室> <小島>
金		予防理学療法学 <新館 4-2教室> <濱岡>	総合演習 I <新館 4-1教室> <永野・山田・渡辺・増川>	義肢装具学 <新館 4-1教室> <内田>
総合実習 I <各実習施設><永野・山下・那須>				

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成35年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 平成35年度前期 1年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

Table with 5 columns (1限目 to 4限目) and 5 rows (月 to 金). Courses include: 基礎物理, 生理学, リハビリテーション概論, コミュニケーション英語, 哲学概論, 日本の歴史と文化, 人間発達学, 心理学, 理学療法概論, 基礎生物.

岡山医療専門職大学 平成35年度前期 2年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

Table with 5 columns (1限目 to 4限目) and 5 rows (月 to 金). Courses include: 基礎ゼミ I, 整形外科学, 日常生活活動学, 解剖学実習 II, 基礎理学療法学, 神経内科学, 運動学実習, 理学療法評価学 II, 理学療法治療学 II, 小児科学.

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成35年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 平成35年度前期 3年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

Table with 5 columns (1限目 to 4限目) and 5 rows (月 to 金). Courses include: コミュニケーション論, 国際政治経済論, 基礎ゼミ II, 研究デザイン, 物理療法実習, 理学療法管理概論, 理学療法治療学実習 III, 人間関係論, テーマ設定と研究方法, 基礎理学療法実習 II, 理学療法評価学実習 III, 生涯スポーツ実習, 地域理学療法学.

岡山医療専門職大学 平成35年度前期 4年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

Table with 5 columns (1限目 to 4限目) and 5 rows (月 to 金). Courses include: 総合研究 II, 起業入門, スポーツ科学, 理学療法セミナー I, 総合演習 II, 応用治療技術実習 I, コーチング論, NPO論, 応用治療技術実習 III, マネジメント論, 岡山経営者論, 岡山経営者論.

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成35年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 平成35年度後期 1年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	内科学 <新館 2-1教室> <窪山>	健康科学概論 <新館 2-1教室> <安田>	運動療法 <新館 2-1教室> <窪山>	
火	解剖学実習 I <基礎医学実習室> <佐々木>		情報収集と処理 <本館 8F PC室> <山田>	職業人の倫理と道徳論 <新館 2-1教室> <茂利>
水	理学療法評価学 I <新館 2-1教室> <横山>	リハビリテーション医学 <新館 2-1教室> <千田>		
木				生理学実習 <生理学実習室> <勸修川原>
金	多職種連携論 <新館 2-1教室> <小島>	運動学 <新館 2-1教室> <山田>	病理学 <新館 2-1教室> <小野>	
見学実習<各実習施設><社西・片岡・増川>				

岡山医療専門職大学 平成35年度後期 2年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	精神医学 <新館 3-1教室> <山田土>	基礎理学療法実習 I <本館 5F機能訓練室> <永野・増川>	理学療法評価学実習 II <本館 3F 治療訓練室> <鈴木・那須>	
火	理学療法治療学III <新館 3-1教室> <村西>	物理療法 <新館 3-1教室> <永野>	理学療法治療学IV <新館 3-1教室> <片岡>	生活環境学 <新館 3-1教室> <小島>
水		スポーツ理学療法特論 <新館 3-1教室> <山下・鈴木>	ヒューマンサービス論 <新館 3-1教室> <池本>	
木	理学療法評価学実習 I <本館 3F 治療訓練室> <横山・那須>	理学療法演習 I <新館 3-1教室> <山下・鈴木>		理学療法治療学実習 II <本館 3F 治療訓練室> <社西・山下>
金	日常生活活動学実習 <本館 5F機能訓練室> <片岡・横山>		統計分析の基礎 <新館 3-1教室> <片岡>	運動療法実習 II <本館 3F 治療訓練室> <濱岡・鈴木>

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成35年度 岡山医療専門職大学 PT-A

岡山医療専門職大学 平成35年度後期 3年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	総合研究 I <研究室>		人間形成論 <新館 4-1教室> <田中>	
火			メディカル英語 <新館 4-1教室> <安田>	
水	地域包括マネジメント論 <新館 4-1教室> <小島>			
木	生体情報科学 <新館 4-1教室> <岡>			
金		予防理学療法学 <新館 4-1教室> <窪山>	総合演習 I <新館 4-1教室> <永野・山田・渡辺・増川>	義肢装具学 <新館 4-1教室> <内田>
総合実習 I <各実習施設><永野・山下・那須>				

岡山医療専門職大学 平成35年度後期 4年生 時間割(理学療法学科Aクラス)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月				
火	理学療法セミナー II <新館 2-4教室> <那須>			
水				
木				
金				
卒業論文<研究室>				

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成35年度 岡山医療専門学校 PT-B

岡山医療専門学校 平成35年度前期 1年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月		基礎物理 ＜新館 2-2教室＞ ＜秋山＞		
火	臨床医学概論 ＜新館 2-2教室＞ ＜窪山＞		コミュニケーション英語 ＜新館 2-2教室＞ ＜植月＞	
水	哲学概論 ＜新館 2-2教室＞ ＜高橋＞	解剖学 ＜新館 2-2教室＞ ＜佐々木＞	日本の歴史と文化 ＜新館 2-2教室＞ ＜植月＞	
木		心理学 ＜新館 2-2教室＞ ＜堀内＞	人間発達学 ＜新館 2-2教室＞ ＜窪山＞	リハビリテーション概論 ＜新館 2-2教室＞ ＜村西＞
金	生理学 ＜新館 2-2教室＞ ＜勅使川原＞		理学療法概論 ＜新館 2-2教室＞ ＜永野＞	基礎生物 ＜新館 2-2教室＞ ＜勅使川原＞

岡山医療専門学校 平成35年度前期 2年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月		基礎ゼミⅠ ＜研究室＞	解剖学実習Ⅱ ＜基礎医学実習室＞ ＜佐々木＞	
火		運動療法実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ ＜渡辺・鈴木＞		理学療法治療学Ⅰ ＜新館 3-2教室＞ ＜永野＞
水	運動学実習 ＜本館 5F 機能訓練室＞ ＜山田・鈴木＞	日常生活活動学 ＜新館 3-2教室＞ ＜小島＞	神経内科学 ＜新館 3-2教室＞ ＜菱川＞	
木	理学療法治療学実習Ⅰ ＜本館 5F機能訓練室＞ ＜濱岡・渡辺＞		理学療法治療学Ⅱ ＜新館 3-2教室＞ ＜濱岡＞	小児科学 ＜新館 3-2教室＞ ＜窪山＞
金	理学療法評価学Ⅱ ＜新館 3-2教室＞ ＜増川＞	整形外科学 ＜新館 3-2教室＞ ＜千田＞		基礎理学療法学 ＜新館 3-2教室＞ ＜片岡＞

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成35年度 岡山医療専門学校 PT-B

岡山医療専門学校 平成35年度前期 3年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	国際政治経済論 ＜新館 4-2教室＞ ＜三宅＞	コミュニケーション論 ＜新館 4-2教室＞ ＜佐生＞	基礎ゼミⅡ ＜研究室＞	研究デザイン ＜研究室＞
火	理学療法管理学概論 ＜新館 4-2教室＞ ＜山田＞	老年期障害理学療法学 ＜新館 4-2教室＞ ＜濱岡＞	基礎理学療法実習Ⅱ ＜本館 3F治療訓練室＞ ＜渡辺・横山＞	
水	地域理学療法学 ＜新館 4-2教室＞ ＜小島＞	人間関係論 ＜新館 4-2教室＞ ＜兵頭＞		
木	理学療法評価学実習Ⅲ ＜本館 3F治療訓練室＞ ＜横山・那須＞	テーマ設定と研究方法 ＜新館 4-2教室＞ ＜佐々木＞	理学療法治療学実習Ⅲ ＜本館 5F機能訓練室＞ ＜片岡・鈴木＞	
金		物理療法実習 ＜本館 3F治療訓練室＞ ＜桂西・小島＞		生涯スポーツ実習 ＜校外授業＞ ＜山下・横山・那須＞
評価実習＜各実習施設＞＜横山・那須・渡辺＞				

岡山医療専門学校 平成35年度前期 4年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月		起業入門 ＜新館 4-4教室＞ ＜塩見＞		
火	スポーツ科学 ＜新館 4-4教室＞ ＜安田＞		理学療法セミナーⅠ ＜新館 3-4教室＞ ＜増川＞	応用治療技術実習Ⅱ (リハビリ工学) ＜本館 5F 機能訓練室＞ ＜吉田＞
水	総合演習Ⅱ ＜新館 3-4教室＞ ＜山下・渡辺・増川＞		応用治療技術実習Ⅰ (徒手療法) ＜本館 5F 機能訓練室＞ ＜横山・那須＞	
木		コーチング論 ＜新館 4-4教室＞ ＜山下立次＞	NPO論 ＜新館 4-4教室＞	
金	マネジメント論 ＜新館 4-4教室＞ ＜佐々木＞	応用治療技術実習Ⅲ (セルフコンディショニング) ＜本館 5F 機能訓練室＞ ＜山下・鈴木＞	岡山経営者論 ＜新館 5F大教室＞ ＜オムニバス＞	岡山経営者論 ＜新館 5F大教室＞ ＜オムニバス＞
総合実習Ⅱ＜各実習施設＞＜鈴木・小島・増川＞				

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成35年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 平成35年度後期 1年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月			健康科学概論 <新館 2-2教室> <安田>	職業人の倫理と道徳論 <新館 2-2教室> <茂利>
火	理学療法評価学Ⅰ <新館 2-2教室> <横山>	情報収集と処理 <本館 8F PC室> <山田>	多職種連携論 <新館 2-2教室> <小島>	
水	リハビリテーション医学 <新館 2-2教室> <千田>			
木	生理学実習 <生理学実習室> <勸使川原>	解剖学実習Ⅰ <基礎医学実習室> <佐々木>	運動療法 <新館 2-2教室> <濱田>	
金		病理学 <新館 2-2教室> <小野>	内科学 <新館 2-2教室> <窪山>	運動学 <新館 2-2教室> <山田>
見学実習<各実習施設><村西・片岡・増川>				

岡山医療専門職大学 平成35年度後期 2年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月		理学療法治療学実習Ⅱ <本館 3F 治療訓練室> <村西・山下>	生活環境学 <新館 3-2教室> <小島>	理学療法演習Ⅰ <新館 3-2教室> <山下・鈴木>
火	運動療法実習Ⅱ <本館 3F 治療訓練室> <濱田・鈴木>	理学療法評価学実習Ⅰ <本館 3F 治療訓練室> <横山・那須>	理学療法治療学Ⅲ <新館 3-2教室> <村西>	理学療法治療学Ⅳ <新館 3-2教室> <片岡>
水	スポーツ理学療法特論 <新館 3-2教室> <山下・鈴木>	ヒューマンサービス論 <新館 3-2教室> <池本>	精神医学 <新館 3-2教室> <山田了士>	
木		物理療法 <新館 3-2教室> <永野>	理学療法評価学実習Ⅱ <本館 3F 治療訓練室> <鈴木・那須>	基礎理学療法実習Ⅰ <本館 5F機能訓練室> <北野・増川>
金		日常生活活動学実習 <本館 5F機能訓練室> <片岡・横山>		統計分析の基礎 <新館 3-2教室> <片岡>

理学療法学科をAとBクラスに分けて40名以下で編成している。

平成35年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 平成35年度後期 3年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	総合研究Ⅰ <研究室>	人間形成論 <新館 4-2教室> <田中>		
火			メディカル英語 <新館 4-2教室> <安田>	
水		生体情報科学 <新館 4-2教室> <岡>		
木				地域包括マネジメント論 <新館 4-2教室> <小島>
金		予防理学療法学 <新館 4-2教室> <濱田>	総合演習Ⅰ <新館 4-1教室> <永野・山田・渡辺・増川>	義肢装具学 <新館 4-1教室> <内田>
総合実習Ⅰ<各実習施設><永野・山下・那須>				

平成35年度 岡山医療専門職大学 PT-B

岡山医療専門職大学 平成35年度後期 4年生 時間割(理学療法学科Bクラス)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月				
火	理学療法セミナーⅡ <新館 2-4教室> <那須>			
水				
木				
金				
卒業論文<研究室>				

OT 専 教授 勅使川原

(新)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	基盤ゼミⅠ <研究室>	基盤ゼミⅡ <研究室>	総合研究Ⅱ <研究室>	研究デザイン <新館 4-3教室>
火			生理学 <新館 2-3教室> PT-Aクラス	テーマ設定と研究方法 <新館 4-3教室>
水				
木	基礎生物 <新館 2-3教室>			大学入門 <研究室>
金	生理学 <新館 2-3教室> PT-Bクラス		生理学 <新館 2-3教室>	基礎生物 <新館 2-1教室> PT-A・Bクラス

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月				総合研究Ⅰ <研究室>
火			生理学実習 <生理医学実習室>	
水				
木	生理学実習 <生理医学実習室> PT-Bクラス		統計分析の基礎 <新館 3-3教室>	生理学実習 <生理医学実習室> PT-Aクラス
金				

OT 専 教授 勅使川原

(旧)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	基盤ゼミⅠ <研究室>	基盤ゼミⅡ <研究室>	総合研究Ⅱ <研究室>	研究デザイン <新館 4-3教室>
火			生理学 <新館 2-3教室> PT-Aクラス	テーマ設定と研究方法 <新館 4-3教室>
水				
木	基礎生物 <新館 2-3教室>			
金	生理学 <新館 2-3教室> PT-Bクラス		生理学 <新館 2-3教室>	基礎生物 <新館 2-1教室> PT-A・Bクラス

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月				総合研究Ⅰ <研究室>
火			生理学実習 <生理医学実習室>	
水				
木	生理学実習 <生理医学実習室> PT-Bクラス		統計分析の基礎 <新館 3-3教室>	生理学実習 <生理医学実習室> PT-Aクラス
金				

OT 実専 講師 十河

(新)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	基盤ゼミⅠ <研究室>	基盤ゼミⅡ <研究室>		
火	基礎作業療法治療学実習Ⅱ <3F 治療訓練室>	作業療法評価学実習Ⅰ <3F 治療訓練室>		
水	作業療法評価学実習Ⅲ <3F 治療訓練室>			
木		運動学実習 <5F 機能訓練室>	身体障害作業療法実習Ⅰ <3F 治療訓練室>	
金	住環境支援学2 <本館 7-2 教室> 医専		老年期障害作業療法実習 <3F 治療訓練室>	
評価実習<各実習施設>				
総合実習Ⅱ<各実習施設>				

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	脳のアンチエイジングと作業療法2 <本館 7-2 教室> 医専			
火				
水		日常生活活動学実習 <新館 3-3教室>		
木	作業療法治療学3B <本館 7-2 教室> 医専	地域マネジメント学 <本館 7-2 教室> 医専		総合演習Ⅰ <新館 4-3教室>
金	作業療法評価学実習Ⅱ <3F 治療訓練室>	作業療法評価学実習Ⅲ <3F 治療訓練室>		
見学実習<各実習施設>				
卒業論文<研究室>				

OT 実専 講師 十河

(旧)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	基盤ゼミⅠ <研究室>	基盤ゼミⅡ <研究室>		
火	基礎作業療法治療学実習Ⅱ <3F 治療訓練室>	作業療法評価学実習Ⅰ <3F 治療訓練室>		地域包括マネジメント論 <新館 4-3教室>
水	作業療法評価学実習Ⅲ <3F 治療訓練室>			
木		運動学実習 <5F 機能訓練室>	身体障害作業療法実習Ⅰ <3F 治療訓練室>	
金	住環境支援学2 <本館 7-2 教室> 医専		老年期障害作業療法実習 <3F 治療訓練室>	
評価実習<各実習施設>				
総合実習Ⅱ<各実習施設>				

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	脳のアンチエイジングと作業療法2 <本館 7-2 教室> 医専			総合研究Ⅰ <研究室>
火				
水		日常生活活動学実習 <新館 3-3教室>		
木	作業療法治療学3B <本館 7-2 教室> 医専	地域マネジメント学 <本館 7-2 教室> 医専		総合演習Ⅰ <新館 4-3教室>
金	作業療法評価学実習Ⅱ <3F 治療訓練室>	作業療法評価学実習Ⅲ <3F 治療訓練室>		
見学実習<各実習施設>				
卒業論文<研究室>				

OT 実専 助教 渡部

(新)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	基盤ゼミⅠ <研究室>	基盤ゼミⅡ <研究室>		
火		作業療法評価学実習Ⅰ <3F 治療訓練室>		
水				
木	基礎作業療法治療学実習Ⅰ <3F 治療訓練室>	日常生活活動学1 <本館 7-2 教室> 医専	身体障害作業療法実習Ⅰ <3F 治療訓練室>	身体障害作業療法実習Ⅲ <3F 治療訓練室>
金			老年期障害作業療法実習 <3F 治療訓練室>	大学入門 <研究室>
評価実習<各実習施設>				

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月				
火		作業療法評価法3 <5F 治療訓練室> 医専		
水				
木				
金	作業療法評価学実習Ⅱ <3F 治療訓練室>	作業療法評価学実習Ⅲ <3F 治療訓練室>	身体障害作業療法実習Ⅱ <3F 治療訓練室>	
見学実習<各実習施設>				
総合実習Ⅰ<各実習施設>				
卒業論文<研究室>				

OT 実専 助教 渡部

(旧)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	基盤ゼミⅠ <研究室>	基盤ゼミⅡ <研究室>		
火		作業療法評価学実習Ⅰ <3F 治療訓練室>		
水				
木	基礎作業療法治療学実習Ⅰ <3F 治療訓練室>	日常生活活動学1 <本館 7-2 教室> 医専	身体障害作業療法実習Ⅰ <3F 治療訓練室>	身体障害作業療法実習Ⅲ <3F 治療訓練室>
金			老年期障害作業療法実習 <3F 治療訓練室>	
評価実習<各実習施設>				

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月				
火		作業療法評価法3 <5F 治療訓練室> 医専		
水				
木				
金	作業療法評価学実習Ⅱ <3F 治療訓練室>	作業療法評価学実習Ⅲ <3F 治療訓練室>	身体障害作業療法実習Ⅱ <3F 治療訓練室>	
見学実習<各実習施設>				
総合実習Ⅰ<各実習施設>				
卒業論文<研究室>				

OT 実専 助教 野口

(新)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	基盤ゼミ I <研究室>	基盤ゼミ II <研究室>		
火	基礎作業療法治療学実習 II <3F 治療訓練室>			
水	基礎作業学実習 I <3F 織物絵画室>			
木	基礎作業療法治療学実習 I <3F 治療訓練室>		身体障害作業療法実習 I <3F 治療訓練室>	身体障害作業療法実習 III <3F 治療訓練室>
金			老年期障害作業療法実習 <3F 治療訓練室>	大学入門 <研究室>
総合実習 II <各実習施設>				

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月				
火		作業療法演習 I <新館 3-3教室>		
水	作業療法演習 II <新館 4-3教室>	日常生活活動学実習 <新館 3-3教室>		
木		基礎作業学実習 II <3F 織物絵画室>		
金				

OT 実専 助教 野口

(旧)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	基盤ゼミ I <研究室>	基盤ゼミ II <研究室>		
火	基礎作業療法治療学実習 II <3F 治療訓練室>			
水	基礎作業学実習 I <3F 織物絵画室>			
木	基礎作業療法治療学実習 I <3F 治療訓練室>		身体障害作業療法実習 I <3F 治療訓練室>	身体障害作業療法実習 III <3F 治療訓練室>
金			老年期障害作業療法実習 <3F 治療訓練室>	
総合実習 II <各実習施設>				

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月				
火		作業療法演習 I <新館 3-3教室>		
水	作業療法演習 II <新館 4-3教室>	日常生活活動学実習 <新館 3-3教室>		
木		基礎作業学実習 II <3F 織物絵画室>		
金				

OT 実(研) 准教授 林

(新)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	基盤ゼミ I <研究室>	基盤ゼミ II <研究室>	総合研究 II <研究室>	研究デザイン <新館 4-3教室>
火			作業療法評価法実習2 <3F 治療訓練室> 医専	作業療法治療学6(老年期障害) <本館 7-2教室> 医専
水		大学入門 <研究室>		
木	日常生活活動学 <新館 3-3教室>			作業療法治療学2(神経系疾患2) <本館 7-2教室> 医専
金			老年期障害作業療法実習 <3F 治療訓練室>	身体障害作業療法学 I <新館 3-3教室>
評価実習<各実習施設>				

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	脳のアンチエイジングと作業療法2 <本館 7-2 教室> 医専			総合研究 I <研究室>
火	日常生活活動学2 <本館 7-2 教室> 医専			作業療法評価学 <新館 2-3教室>
水	多職種連携論 <新館 2-3教室>			
木				
金	作業療法治療学3A <本館 7-2 教室> 医専		基礎作業学 <新館 2-3教室>	精神障害作業療法学 <新館 3-3教室>
卒業論文<研究室>				

OT 実(研) 准教授 林

(旧)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	基盤ゼミ I <研究室>	基盤ゼミ II <研究室>	総合研究 II <研究室>	研究デザイン <新館 4-3教室>
火			作業療法評価法実習2 <3F 治療訓練室> 医専	作業療法治療学6(老年期障害) <本館 7-2教室> 医専
水				
木	日常生活活動学 <新館 3-3教室>			作業療法治療学2(神経系疾患2) <本館 7-2教室> 医専
金			老年期障害作業療法実習 <3F 治療訓練室>	身体障害作業療法学 I <新館 3-3教室>
評価実習<各実習施設>				

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	脳のアンチエイジングと作業療法2 <本館 7-2 教室> 医専			総合研究 I <研究室>
火	日常生活活動学2 <本館 7-2 教室> 医専			作業療法評価学 <新館 2-3教室>
水	多職種連携論 <新館 2-3教室>			
木				
金	作業療法治療学3A <本館 7-2 教室> 医専		基礎作業学 <新館 2-3教室>	精神障害作業療法学 <新館 3-3教室>
卒業論文<研究室>				

令和2年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 令和2年度前期 1年生 時間割(作業療法学科)

Table with 4 columns (1限目 to 4限目) and 5 rows (月 to 金). Courses include: 人間発達学, コミュニケーション英語, 哲学概論, 日本の歴史と文化, 基礎生物, 基礎物理, 解剖学, 心理学, 臨床医学概論, 生理学, 作業療法概論, 大学入門, リハビリテーション概論, 大学入門.

岡山医療専門職大学 令和2年度後期 1年生 時間割(作業療法学科)

Table with 4 columns (1限目 to 4限目) and 5 rows (月 to 金). Courses include: 職業人の倫理と道徳論, 解剖学実習1, 健康科学概論, 生理学実習, 多職種連携論, 情報収集と処理, 運動学, 基礎作業学, 病理学.

令和2年度 岡山医療技術専門学校 OT

岡山医療技術専門学校 令和2年度前期 2年生 時間割(作業療法学科)

Table with 4 columns (1限目 to 4限目) and 5 rows (月 to 金). Courses include: 精神医学2, 小児科学, 内科学1, 整形外科1, 作業療法治療学9, 作業療法治療学7, 作業療法評価法実習2, 作業療法治療学6, 作業療法評価法2, 地域作業療法学, 日常生活活動学1, 臨床実習セミナー1, 作業療法治療学2, 住環境支援学2, 作業療法治療学4, 基礎作業学実習1.

岡山医療技術専門学校 令和2年度後期 2年生 時間割(作業療法学科)

Table with 4 columns (1限目 to 4限目) and 5 rows (月 to 金). Courses include: 脳のアンチエイジングと作業療法2, 神経内科学, 日常生活活動学2, 作業療法評価法3, 義肢装具学, 整形外科2, 臨床実習セミナー2, 臨床実習セミナー3, 内科学2, 作業療法治療学5, 作業療法治療学3B, 地域マネジメント学, 脳のアンチエイジングと作業療法1, 作業療法治療学3A, 基礎作業学実習2.

令和2年度 岡山医療技術専門学校 OT

岡山医療技術専門学校 令和2年度前期 3年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
火	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
水	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
木	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
金	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			

岡山医療技術専門学校 令和2年度後期 3年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>
火	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>
水	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>
木	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>
金	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>

令和3年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 令和3年度前期 1年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月			人間発達学 <新館 2-3教室> <窪山>	
火	コミュニケーション英語 <新館 2-3教室> <植月>	哲学概論 <新館 2-3教室> <高橋>	解剖学 <新館 2-3教室> <佐々木>	作業療法概論 <新館 2-3教室> <二本>
水	日本の歴史と文化 <新館 2-3教室> <植月>	大学入門 <研究室> <林>		
木	基礎生物 <新館 2-3教室> <勅使川原>	心理学 <新館 2-3教室> <堀内>	リハビリテーション概論 <新館 2-3教室> <吉田>	大学入門 <研究室> <勅使川原>
金	基礎物理 <新館 2-3教室> <秋山>	臨床医学概論 <新館 2-3教室> <浅利>	生理学 <新館 2-3教室> <勅使川原>	大学入門 <研究室> <渡部・野口>

岡山医療専門職大学 令和3年度前期 2年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	基盤ゼミⅠ <研究室>	神経内科学 <新館 3-3教室> <山下>		
火	解剖学実習Ⅱ <基礎医学実習室> <佐々木>	作業療法評価学実習Ⅰ <3F 治療訓練室> <十河・渡部>	身体障害作業療法学Ⅱ <新館 3-3教室> <二本>	
水	基礎作業学実習Ⅰ <3F 織物絵画室> <野口>			
木	日常生活活動学 <新館 3-3教室> <林>	運動学実習 <5F 機能訓練室> <十河>	身体障害作業療法実習Ⅰ <3F 治療訓練室> <十河・野口・渡部>	
金	整形外科学 <新館 3-3教室> <千田>	小児科学 <新館 3-3教室> <窪山>		身体障害作業療法学Ⅰ <新館 3-3教室> <林>

令和3年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 令和3年度後期 1年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	職業人の倫理と道徳論 <新館 2-3教室> <浅利>	解剖学実習 I <基礎医学実習室> <佐々木>		
火	健康科学概論 <新館 2-3教室> <安田>		生理学実習 <生理医学実習室> <勅使川原>	作業療法評価学 <新館 2-3教室> <林>
水	多職種連携論 <新館 2-3教室> <林>	情報収集と処理 <本館 8F PC教室> <吉田>		
木			内科学 <新館 2-3教室> <窪山>	リハビリテーション医学 <新館 2-3教室> <伊勢>
金	運動学 <新館 2-3教室> <安田>		基礎作業学 <新館 2-3教室> <林>	病理学 <新館 2-3教室> <小野>
見学実習<各実習施設><吉田・十河>				

岡山医療専門職大学 令和3年度後期 2年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	国際政治経済論 <新館 3-3教室> <三宅>	精神医学 <新館 3-3教室> <川田>		
火	老年期障害作業療法 <新館 3-3教室> <二本>	作業療法演習 I <新館 3-3教室> <野口>		
水	生活環境学 <新館 3-3教室> <吉田>	日常生活活動学実習 <新館 3-3教室> <十河・野口>		ヒューマンサービス論 <新館 3-3教室> <池本>
木		基礎作業学実習 II <3F 織物絵画室> <野口>	統計分析の基礎 <新館 3-3教室> <勅使川原>	
金	作業療法評価学実習 II <3F 治療訓練室> <十河・渡部>	作業療法評価学実習 III <3F 治療訓練室> <十河・渡部>	身体障害作業療法実習 II <3F 治療訓練室> <吉田・渡部>	精神障害作業療法 <新館 3-3教室> <林>

岡山医療技術専門学校 令和3年度前期 3年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	臨床実習 第 I 期 ~ 第 III 期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
火	臨床実習 第 I 期 ~ 第 III 期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
水	臨床実習 第 I 期 ~ 第 III 期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
木	臨床実習 第 I 期 ~ 第 III 期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
金	臨床実習 第 I 期 ~ 第 III 期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			

岡山医療技術専門学校 令和3年度後期 3年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>
火	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>
水	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>
木	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>
金	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>

令和4年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 令和4年度前期 1年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月			人間発達学 <新館 2-3教室> <窪山>	
火	コミュニケーション英語 <新館 2-3教室> <植月>	哲学概論 <新館 2-3教室> <高橋>	解剖学 <新館 2-3教室> <佐々木>	作業療法概論 <新館 2-3教室> <二木>
水	日本の歴史と文化 <新館 2-3教室> <植月>	大学入門 <研究室> <林>		
木	基礎生物 <新館 2-3教室> <勅使川原>	心理学 <新館 2-3教室> <堀内>	リハビリテーション概論 <新館 2-3教室> <吉田>	大学入門 <研究室> <勅使川原>
金	基礎物理 <新館 2-3教室> <秋山>	臨床医学概論 <新館 2-3教室> <浅利>	生理学 <新館 2-3教室> <勅使川原>	大学入門 <研究室> <渡部・野口>

岡山医療専門職大学 令和4年度前期 2年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	基盤ゼミ I <研究室>	神経内科学 <新館 3-3教室> <山下>		
火	解剖学実習 II <基礎医学実習室> <佐々木>	作業療法評価学実習 I <3F 治療訓練室> <十河・渡部>	身体障害作業療法学 II <新館 3-3教室> <二木>	
水	基礎作業学実習 I <3F 織物絵画室> <野口>			
木	日常生活活動学 <新館 3-3教室> <林>	運動学実習 <5F 機能訓練室> <十河>	身体障害作業療法実習 I <3F 治療訓練室> <十河・野口・渡部>	
金	整形外科科学 <新館 3-3教室> <千田>	小児科学 <新館 3-3教室> <窪山>		身体障害作業療法学 I <新館 3-3教室> <林>

令和4年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 令和4年度前期 3年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月		基盤ゼミ II <研究室>	コミュニケーション論 <新館 4-3教室> <佐伯>	研究デザイン <新館 4-3教室> <学科専任教員>
火	基礎作業療法治療学実習 II <3F 治療訓練室> <十河・野口>	基礎作業療法治療学 <新館 4-3教室> <小林>	家族関係論 <新館 4-3教室> <小林>	テーマ設定と研究方法 <新館 4-3教室> <勅使川原>
水	作業療法評価学実習 III <3F 治療訓練室> <十河・渡部>			
木	基礎作業療法治療学実習 I <3F 治療訓練室> <野口・渡部>	人間関係論 <新館 4-3教室> <兵頭>	身体障害作業療法学 IV <新館 4-3教室> <小林>	身体障害作業療法実習 III <3F 治療訓練室> <野口・渡部>
金		身体障害作業療法学 III <新館 4-3教室> <小林>	老年期障害作業療法実習 <3F 治療訓練室> <林・十河・野口・渡部>	
評価実習<各実習施設><林・十河・渡部>				

令和4年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 令和4年度後期 1年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	職業人の倫理と道德論 ＜新館 2-3教室＞ ＜浅利＞	解剖学実習 I ＜基礎医学実習室＞ ＜佐々木＞		
火	健康科学概論 ＜新館 2-3教室＞ ＜安田＞		生理学実習 ＜生理医学実習室＞ ＜勅使川原＞	作業療法評価学 ＜新館 2-3教室＞ ＜林＞
水	多職種連携論 ＜新館 2-3教室＞ ＜林＞	情報収集と処理 ＜本館 8F PC教室＞ ＜吉田＞		
木			内科学 ＜新館 2-3教室＞ ＜窪山＞	リハビリテーション医学 ＜新館 2-3教室＞ ＜伊勢＞
金	運動学 ＜新館 2-3教室＞ ＜安田＞		基礎作業学 ＜新館 2-3教室＞ ＜林＞	病理学 ＜新館 2-3教室＞ ＜小野＞
見学実習＜各実習施設＞＜吉田・十河＞				

岡山医療専門職大学 令和4年度後期 2年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	国際政治経済論 ＜新館 3-3教室＞ ＜三宅＞	精神医学 ＜新館 3-3教室＞ ＜川田＞		
火	老年期障害作業療法学 ＜新館 3-3教室＞ ＜二木＞	作業療法演習 I ＜新館 3-3教室＞ ＜野口＞		
水	生活環境学 ＜新館 3-3教室＞ ＜吉田＞	日常生活活動学実習 ＜新館 3-3教室＞ ＜十河・野口＞		ヒューマンサービス論 ＜新館 3-3教室＞ ＜池本＞
木		基礎作業学実習 II ＜3F 織物絵画室＞ ＜野口＞	統計分析の基礎 ＜新館 3-3教室＞ ＜勅使川原＞	
金	作業療法評価学実習 II ＜3F 治療訓練室＞ ＜十河・渡部＞	作業療法評価学実習 III ＜3F 治療訓練室＞ ＜十河・渡部＞	身体障害作業療法実習 II ＜3F 治療訓練室＞ ＜吉田・渡部＞	精神障害作業療法学 ＜新館 3-3教室＞ ＜林＞

令和4年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 令和4年度後期 3年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月		人間形成論 ＜新館 4-3教室＞ ＜田中＞	予防作業療法学 ＜新館 4-3教室＞ ＜小林＞	総合研究 I ＜研究室＞ ＜学科専任教員＞
火		地域社会論 ＜新館 4-3教室＞ ＜藤井＞	作業療法管理学概論 ＜新館 4-3教室＞ ＜小林＞	
水	作業療法演習 II ＜新館 4-3教室＞ ＜野口＞	コミュニティ形成論 ＜新館 4-3教室＞		地域包括マネジメント論 ＜大講義室＞ ＜沼田・遠藤・岸川＞
木	メディカル英語 ＜新館 4-3教室＞ ＜安田＞		地域作業療法学 ＜新館 4-3教室＞ ＜小林＞	総合演習 I ＜新館 4-3教室＞ ＜小林・安田・十河＞
金			義肢装具学 ＜新館 4-3教室＞ ＜内田＞	
総合実習 I＜各実習施設＞＜吉田・渡部＞				

岡山医療専門職大学 令和5年度前期 1年生 時間割(作業療法学科)

Table with 4 columns (1限目, 2限目, 3限目, 4限目) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金) showing class schedules for 1st year students.

岡山医療専門職大学 令和5年度前期 2年生 時間割(作業療法学科)

Table with 4 columns (1限目, 2限目, 3限目, 4限目) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金) showing class schedules for 2nd year students.

令和5年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 令和5年度前期 3年生 時間割(作業療法学科)

Table with 4 columns (1限目, 2限目, 3限目, 4限目) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金) showing class schedules for 3rd year students.

岡山医療専門職大学 令和5年度前期 4年生 時間割(作業療法学科)

Table with 4 columns (1限目, 2限目, 3限目, 4限目) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金) showing class schedules for 4th year students.

令和5年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 令和5年度後期 1年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	職業人の倫理と道徳論 <新館 2-3教室> <浅利>	解剖学実習 I <基礎医学実習室> <佐々木>		
火	健康科学概論 <新館 2-3教室> <安田>		生理学実習 <生理医学実習室> <勸使川原>	作業療法評価学 <新館 2-3教室> <林>
水	多職種連携論 <新館 2-3教室> <林>	情報収集と処理 <本館 8F PC教室> <吉田>		
木			内科学 <新館 2-3教室> <窪山>	リハビリテーション医学 <新館 2-3教室> <伊勢>
金	運動学 <新館 2-3教室> <安田>		基礎作業学 <新館 2-3教室> <林>	病理学 <新館 2-3教室> <小野>
見学実習<各実習施設><吉田・十河>				

岡山医療専門職大学 令和5年度後期 2年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	国際政治経済論 <新館 3-3教室> <三宅>	精神医学 <新館 3-3教室> <川田>		
火	老年期障害作業療法 <新館 3-3教室> <二木>	作業療法演習 I <新館 3-3教室> <野口>		
水	生活環境学 <新館 3-3教室> <吉田>	日常生活活動学実習 <新館 3-3教室> <十河・野口>		ヒューマンサービス論 <新館 3-3教室> <池本>
木		基礎作業学実習 II <3F 織物絵画室> <野口>	統計分析の基礎 <新館 3-3教室> <勸使川原>	
金	作業療法評価学実習 II <3F 治療訓練室> <十河・渡部>	作業療法評価学実習 III <3F 治療訓練室> <十河・渡部>	身体障害作業療法実習 II <3F 治療訓練室> <吉田・渡部>	精神障害作業療法 <新館 3-3教室> <林>

令和5年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 令和5年度後期 3年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月		人間形成論 <新館 4-3教室> <田中>	予防作業療法 <新館 4-3教室> <小林>	総合研究 I <研究室>
火		地域社会論 <新館 4-3教室> <藤井>	作業療法管理学概論 <新館 4-3教室> <小林>	
水	作業療法演習 II <新館 4-3教室> <野口>	コミュニティ形成論 <新館 4-3教室>		地域包括マネジメント論 <大講義室> <浜田・遠藤・岸川>
木	メディカル英語 <新館 4-3教室> <安田>		地域作業療法 <新館 4-3教室> <小林>	総合演習 I <新館 4-3教室> <小林・安田・十河>
金			義肢装具学 <新館 4-3教室> <内田>	
総合実習 I<各実習施設><吉田・渡部>				

岡山医療専門職大学 令和5年度後期 4年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月				
火				作業療法セミナー II <新館 4-3教室> <二木>
水				
木				
金				
卒業論文<研究室>				

平成32年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 平成32年度前期 1年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月			人間発達学 ＜新館 2-3教室＞ ＜窪山＞	
火	コミュニケーション英語 ＜新館 2-3教室＞ ＜植月＞	哲学概論 ＜新館 2-3教室＞ ＜高橋＞	解剖学 ＜新館 2-3教室＞ ＜佐々木＞	作業療法概論 ＜新館 2-3教室＞ ＜二本＞
水	日本の歴史と文化 ＜新館 2-3教室＞ ＜植月＞			
木	基礎生物 ＜新館 2-3教室＞ ＜勅使川原＞	心理学 ＜新館 2-3教室＞ ＜堀内＞	リハビリテーション概論 ＜新館 2-3教室＞ ＜吉田＞	
金	基礎物理 ＜新館 2-3教室＞ ＜秋山＞	臨床医学概論 ＜新館 2-3教室＞ ＜浅利＞	生理学 ＜新館 2-3教室＞ ＜勅使川原＞	

岡山医療専門職大学 平成32年度後期 1年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	職業人の倫理と道徳論 ＜新館 2-3教室＞ ＜浅利＞	解剖学実習 I ＜基礎医学実習室＞ ＜佐々木＞		
火	健康科学概論 ＜新館 2-3教室＞ ＜安田＞		生理学実習 ＜生理医学実習室＞ ＜勅使川原＞	作業療法評価学 ＜新館 2-3教室＞ ＜林＞
水	多職種連携論 ＜新館 2-3教室＞ ＜林＞	情報収集と処理 ＜本館 8F PC教室＞ ＜吉田＞		
木			内科学 ＜新館 2-3教室＞ ＜窪山＞	リハビリテーション医学 ＜新館 2-3教室＞ ＜伊勢＞
金	運動学 ＜新館 2-3教室＞ ＜安田＞		基礎作業学 ＜新館 2-3教室＞ ＜林＞	病理学 ＜新館 2-3教室＞ ＜小野＞

見学実習＜各実習施設＞＜吉田・十河＞

平成32年度 岡山医療技術専門学校 OT

岡山医療技術専門学校 平成32年度前期 2年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	精神医学2 7-1教室＜今井＞	小児科学 7-1教室＜井上＞	内科学1 7-1教室＜植田＞	整形外科1 7-1教室＜横山＞
火	作業療法治療学9(精神障害) 7-2教室＜森＞	作業療法治療学7(内部障害) 7-2教室＜渡部＞	作業療法評価法実習2 3F治療室＜林＞	作業療法治療学6(老年期障害) 7-2教室＜林＞
水	作業療法評価法2 7-2教室/3F治療訓練室＜徳地＞			生活環境論 7-2教室＜原＞
木	地域作業療法 7-2教室＜徳地＞	日常生活活動学1 7-2教室/3F治療訓練室＜渡部＞	臨床実習セミナー1 7-2教室＜徳地・野口＞	作業療法治療学2(神経系疾患) 7-2教室＜徳地・林＞
金	住環境支援学2 7-2教室＜十河＞	作業療法治療学4(整形外科疾患) 7-2教室＜徳地＞	基礎作業学実習1 3F織物・絵画教室,金工・木工・陶工室＜野口＞	

岡山医療技術専門学校 平成32年度後期 2年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	脳のアンチエイジングと作業療法2 7-2教室＜林・十河＞		神経内科学 7-2教室＜山下＞	
火	日常生活活動学2 7-2教室/3F治療訓練室＜林＞	作業療法評価法3 5F機能訓練室＜渡部＞	義肢装具学 7-2教室＜杉山・内田＞	整形外科2 7-1教室＜横山＞
水	臨床実習セミナー2 7-2教室＜徳地・野口＞	臨床実習セミナー3 7-2教室＜徳地・野口＞	内科学2 7-1教室＜植田＞	作業療法治療学5(発達障害) 7-2教室＜野口＞
木	作業療法治療学3B(神経系疾患) 7-2教室＜十河＞	地域マネジメント学 7-2教室＜十河＞	脳のアンチエイジングと作業療法1 7-2教室＜徳地＞	
金	作業療法治療学3A(神経系疾患) 7-2教室＜林＞		基礎作業学実習2 3F織物・絵画教室,金工・木工・陶工室＜野口＞	

平成32年度 岡山医療技術専門学校 OT

岡山医療技術専門学校 平成32年度前期 3年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
火	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
水	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
木	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
金	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			

岡山医療技術専門学校 平成32年度後期 3年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>
火	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>
水	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>
木	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>
金	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>

平成33年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 平成33年度前期 1年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月			人間発達学 <新館 2-3教室> <窪山>	
火	コミュニケーション英語 <新館 2-3教室> <植月>	哲学概論 <新館 2-3教室> <高橋>	解剖学 <新館 2-3教室> <佐々木>	作業療法概論 <新館 2-3教室> <二本>
水	日本の歴史と文化 <新館 2-3教室> <植月>			
木	基礎生物 <新館 2-3教室> <勅使川原>	心理学 <新館 2-3教室> <堀内>	リハビリテーション概論 <新館 2-3教室> <吉田>	
金	基礎物理 <新館 2-3教室> <秋山>	臨床医学概論 <新館 2-3教室> <浅利>	生理学 <新館 2-3教室> <勅使川原>	

岡山医療専門職大学 平成33年度前期 2年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00～10:30)	2限目(10:40～12:10)	3限目(13:00～14:30)	4限目(14:40～16:10)
月	基盤ゼミⅠ <研究室>	神経内科学 <新館 3-3教室> <山下>		
火	解剖学実習Ⅱ <基礎医学実習室> <佐々木>	作業療法評価学実習Ⅰ <3F 治療訓練室> <十河・渡部>	身体障害作業療法Ⅱ <新館 3-3教室> <二本>	
水	基礎作業学実習Ⅰ <3F 織物絵画室> <野口>			
木	日常生活活動学 <新館 3-3教室> <林>	運動学実習 <5F 機能訓練室> <十河>	身体障害作業療法実習Ⅰ <3F 治療訓練室> <十河・野口・渡部>	
金	整形外科学 <新館 3-3教室> <千田>	小児科学 <新館 3-3教室> <窪山>		身体障害作業療法Ⅰ <新館 3-3教室> <林>

平成33年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 平成33年度後期 1年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	職業人の倫理と道徳論 <新館 2-3教室> <浅利>	解剖学実習 I <基礎医学実習室> <佐々木>		
火	健康科学概論 <新館 2-3教室> <安田>		生理学実習 <生理学実習室> <勅使川原>	作業療法評価学 <新館 2-3教室> <林>
水	多職種連携論 <新館 2-3教室> <林>	情報収集と処理 <本館 8F PC教室> <吉田>		
木			内科学 <新館 2-3教室> <窪山>	リハビリテーション医学 <新館 2-3教室> <伊勢>
金	運動学 <新館 2-3教室> <安田>		基礎作業学 <新館 2-3教室> <林>	病理学 <新館 2-3教室> <小野>
見学実習<各実習施設><吉田・十河>				

岡山医療専門職大学 平成33年度後期 2年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	国際政治経済論 <新館 3-3教室> <三宅>	精神医学 <新館 3-3教室> <川田>		
火	老年期障害作業療法学 <新館 3-3教室> <二木>	作業療法演習 I <新館 3-3教室> <野口>		
水	生活環境学 <新館 3-3教室> <吉田>	日常生活活動学実習 <新館 3-3教室> <十河・野口>		ヒューマンサービス論 <新館 3-3教室> <池本>
木		基礎作業学実習 II <3F 織物絵画室> <野口>	統計分析の基礎 <新館 3-3教室> <勅使川原>	
金	作業療法評価学実習 II <3F 治療訓練室> <十河・渡部>	作業療法評価学実習 III <3F 治療訓練室> <十河・渡部>	身体障害作業療法実習 II <3F 治療訓練室> <吉田・渡部>	精神障害作業療法学 <新館 3-3教室> <林>

岡山医療技術専門学校 平成33年度前期 3年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
火	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
水	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
木	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			
金	臨床実習 第Ⅰ期～第Ⅲ期 (実習期間中は各学科・学級において必要な講義等を実施する)			

岡山医療技術専門学校 平成33年度後期 3年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>
火	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>
水	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>
木	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>
金	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>	国家試験対策 7-2教室<作業療法学科 教員>

平成34年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 平成34年度前期 1年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月			人間発達学 ＜新館 2-3教室＞ ＜窪山＞	
火	コミュニケーション英語 ＜新館 2-3教室＞ ＜植月＞	哲学概論 ＜新館 2-3教室＞ ＜高橋＞	解剖学 ＜新館 2-3教室＞ ＜佐々木＞	作業療法概論 ＜新館 2-3教室＞ ＜二木＞
水	日本の歴史と文化 ＜新館 2-3教室＞ ＜植月＞			
木	基礎生物 ＜新館 2-3教室＞ ＜勅使川原＞	心理学 ＜新館 2-3教室＞ ＜堀内＞	リハビリテーション概論 ＜新館 2-3教室＞ ＜吉田＞	
金	基礎物理 ＜新館 2-3教室＞ ＜秋山＞	臨床医学概論 ＜新館 2-3教室＞ ＜浅利＞	生理学 ＜新館 2-3教室＞ ＜勅使川原＞	

岡山医療専門職大学 平成34年度前期 2年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	基盤ゼミⅠ ＜研究室＞	神経内科学 ＜新館 3-3教室＞ ＜山下＞		
火	解剖学実習Ⅱ ＜基礎医学実習室＞ ＜佐々木＞	作業療法評価学実習Ⅰ ＜3F 治療訓練室＞ ＜十河・渡部＞	身体障害作業療法Ⅱ ＜新館 3-3教室＞ ＜二木＞	
水	基礎作業学実習Ⅰ ＜3F 織物絵画室＞ ＜野口＞			
木	日常生活活動学 ＜新館 3-3教室＞ ＜林＞	運動学実習 ＜5F 機能訓練室＞ ＜十河＞	身体障害作業療法実習Ⅰ ＜3F 治療訓練室＞ ＜十河・野口・渡部＞	
金	整形外科学 ＜新館 3-3教室＞ ＜千田＞	小児科学 ＜新館 3-3教室＞ ＜窪山＞		身体障害作業療法Ⅰ ＜新館 3-3教室＞ ＜林＞

平成34年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 平成34年度前期 3年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月		基盤ゼミⅡ ＜研究室＞	コミュニケーション論 ＜新館 4-3教室＞ ＜佐伯＞	研究デザイン ＜新館 4-3教室＞ ＜学科専任教員＞
火	基礎作業療法治療学実習Ⅱ ＜3F 治療訓練室＞ ＜十河・野口＞	基礎作業療法治療学 ＜新館 4-3教室＞ ＜小林/初年度 吉田＞	家族関係論 ＜新館 4-3教室＞ ＜小林＞	テーマ設定と研究方法 ＜新館 4-3教室＞ ＜勅使川原＞
水	作業療法評価学実習Ⅲ ＜3F 治療訓練室＞ ＜十河・渡部＞			
木	基礎作業療法治療学実習Ⅰ ＜3F 治療訓練室＞ ＜野口・渡部＞	人間関係論 ＜新館 4-3教室＞ ＜兵頭＞	身体障害作業療法Ⅳ ＜新館 4-3教室＞ ＜小林＞	身体障害作業療法実習Ⅲ ＜3F 治療訓練室＞ ＜野口・渡部＞
金		身体障害作業療法Ⅲ ＜新館 4-3教室＞ ＜小林＞	老年期障害作業療法実習 ＜3F 治療訓練室＞ ＜林・十河・野口・渡部＞	

評価実習＜各実習施設＞＜林・十河・渡部＞

平成34年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 平成34年度後期 1年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	職業人の倫理と道徳論 ＜新館 2-3教室＞ ＜浅利＞	解剖学実習 I ＜基礎医学実習室＞ ＜佐々木＞		
火	健康科学概論 ＜新館 2-3教室＞ ＜安田＞		生理学実習 ＜生理医学実習室＞ ＜勅使川原＞	作業療法評価学 ＜新館 2-3教室＞ ＜林＞
水	多職種連携論 ＜新館 2-3教室＞ ＜林＞	情報収集と処理 ＜本館 8F PC教室＞ ＜吉田＞		
木			内科学 ＜新館 2-3教室＞ ＜窪山＞	リハビリテーション医学 ＜新館 2-3教室＞ ＜伊勢＞
金	運動学 ＜新館 2-3教室＞ ＜安田＞		基礎作業学 ＜新館 2-3教室＞ ＜林＞	病理学 ＜新館 2-3教室＞ ＜小野＞
見学実習＜各実習施設＞＜吉田・十河＞				

岡山医療専門職大学 平成34年度後期 2年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	国際政治経済論 ＜新館 3-3教室＞ ＜三宅＞	精神医学 ＜新館 3-3教室＞ ＜川田＞		
火	老年期障害作業療法学 ＜新館 3-3教室＞ ＜二木＞	作業療法演習 I ＜新館 3-3教室＞ ＜野口＞		
水	生活環境学 ＜新館 3-3教室＞ ＜吉田＞	日常生活活動学実習 ＜新館 3-3教室＞ ＜十河・野口＞		ヒューマンサービス論 ＜新館 3-3教室＞ ＜池本＞
木		基礎作業学実習 II ＜3F 織物絵画室＞ ＜野口＞	統計分析の基礎 ＜新館 3-3教室＞ ＜勅使川原＞	
金	作業療法評価学実習 II ＜3F 治療訓練室＞ ＜十河・渡部＞	作業療法評価学実習 III ＜3F 治療訓練室＞ ＜十河・渡部＞	身体障害作業療法実習 II ＜3F 治療訓練室＞ ＜吉田・渡部＞	精神障害作業療法学 ＜新館 3-3教室＞ ＜林＞

平成35年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 平成34年度後期 3年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月		人間形成論 ＜新館 4-3教室＞ ＜田中＞	予防作業療法学 ＜新館 4-3教室＞ ＜小林＞	総合研究 I ＜研究室＞ ＜学科専任教員＞
火		地域社会論 ＜新館 4-3教室＞ ＜藤井＞	作業療法管理学概論 ＜新館 4-3教室＞ ＜小林＞	地域包括マネジメント論 ＜新館 4-3教室＞ ＜十河＞
水	作業療法演習 II ＜新館 4-3教室＞ ＜野口＞	コミュニティ形成論 ＜新館 4-3教室＞		
木	メディカル英語 ＜新館 4-3教室＞ ＜安田＞		地域作業療法学 ＜新館 4-3教室＞ ＜小林＞	総合演習 I ＜新館 4-3教室＞ ＜小林・安田・十河＞
金			義肢装具学 ＜新館 4-3教室＞ ＜内田＞	
総合実習 I＜各実習施設＞＜吉田・渡部＞				

岡山医療専門職大学 平成35年度前期 1年生 時間割(作業療法学科)

Table with 4 columns (1限目, 2限目, 3限目, 4限目) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金) showing class schedules for 1st year students.

岡山医療専門職大学 平成35年度前期 2年生 時間割(作業療法学科)

Table with 4 columns (1限目, 2限目, 3限目, 4限目) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金) showing class schedules for 2nd year students.

平成35年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 平成35年度前期 3年生 時間割(作業療法学科)

Table with 4 columns (1限目, 2限目, 3限目, 4限目) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金) showing class schedules for 3rd year students.

岡山医療専門職大学 平成35年度前期 4年生 時間割(作業療法学科)

Table with 4 columns (1限目, 2限目, 3限目, 4限目) and 5 rows (月, 火, 水, 木, 金) showing class schedules for 4th year students.

平成35年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 平成35年度後期 1年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	職業人の倫理と道徳論 <新館 2-3教室> <浅利>	解剖学実習 I <基礎医学実習室> <佐々木>		
火	健康科学概論 <新館 2-3教室> <安田>		生理学実習 <生理医学実習室> <勅使川原>	作業療法評価学 <新館 2-3教室> <林>
水	多職種連携論 <新館 2-3教室> <林>	情報収集と処理 <本館 8F PC教室> <吉田>		
木			内科学 <新館 2-3教室> <窪山>	リハビリテーション医学 <新館 2-3教室> <伊勢>
金	運動学 <新館 2-3教室> <安田>		基礎作業学 <新館 2-3教室> <林>	病理学 <新館 2-3教室> <小野>
見学実習<各実習施設><吉田・十河>				

岡山医療専門職大学 平成35年度後期 2年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月	国際政治経済論 <新館 3-3教室> <三宅>	精神医学 <新館 3-3教室> <川田>		
火	老年期障害作業療法 <新館 3-3教室> <二木>	作業療法演習 I <新館 3-3教室> <野口>		
水	生活環境学 <新館 3-3教室> <吉田>	日常生活活動学実習 <新館 3-3教室> <十河・野口>		ヒューマンサービス論 <新館 3-3教室> <池本>
木		基礎作業学実習 II <3F 織物絵画室> <野口>	統計分析の基礎 <新館 3-3教室> <勅使川原>	
金	作業療法評価学実習 II <3F 治療訓練室> <十河・渡部>	作業療法評価学実習 III <3F 治療訓練室> <十河・渡部>	身体障害作業療法実習 II <3F 治療訓練室> <吉田・渡部>	精神障害作業療法 <新館 3-3教室> <林>

平成35年度 岡山医療専門職大学 OT

岡山医療専門職大学 平成35年度後期 3年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月		人間形成論 <新館 4-3教室> <田中>	予防作業療法 <新館 4-3教室> <小林>	総合研究 I <研究室>
火		地域社会論 <新館 4-3教室> <藤井>	作業療法管理学概論 <新館 4-3教室> <小林>	地域包括マネジメント論 <新館 4-3教室> <十河>
水	作業療法演習 II <新館 4-3教室> <野口>	コミュニティ形成論 <新館 4-3教室>		
木	メディカル英語 <新館 4-3教室> <安田>		地域作業療法 <新館 4-3教室> <小林>	総合演習 I <新館 4-3教室> <小林・安田・十河>
金			義肢装具学 <新館 4-3教室> <内田>	
総合実習 I<各実習施設><吉田・渡部>				

岡山医療専門職大学 平成35年度後期 4年生 時間割(作業療法学科)

	1限目(9:00~10:30)	2限目(10:40~12:10)	3限目(13:00~14:30)	4限目(14:40~16:10)
月				
火				作業療法セミナー II <新館 4-3教室> <二木>
水				
木				
金				
卒業論文<研究室>				

別紙4 シラバス

(新)

科目名	地域包括マネジメント論	担当者	小島一範	必修/選択	必修
学科	理学療法	学年	3年	履修単位数	後期1単位
授業形態	講義	時間数	15時間		
【講義の概要および到達目標】					
概要：地域包括ケアシステムについて理解を深めるとともに現場におけるマネジメントおよび介入・支援方法について学ぶ。特に、高齢化の進展と現場におけるケアマネジメントの重要性を理解する。また、社会福祉制度（障害者施設、介護保険、介護保険、児童福祉法）におけるケアマネジメントの現状と関連性について理解を深める。					
到達目標：①地域包括ケアシステムとケアマネジメントの概念と方法について理解する。②ケアマネジメントの具体的な支援方法について理解する。③地域包括ケアにおける多職種連携とマネジメントを理解し、他者と協力する力を身につける。					
【授業の方法】					
授業は座学での講義だけでなく、ディスカッションを重視している。ディスカッションはアワーを絞ったうえで2回おこなわれる。受講生は積極的に学習したことを活用したり、調査したりして、ディスカッションに積極的に参加してほしい。					
講義計画（テーマと内容等）					
1	ガイダンス -なぜ「地域包括ケアシステム」が必要なのか-				
2	介護保険制度① -制度概要、介護保険料、要介護認定、地域包括支援センター-				
3	介護保険制度② -ケアプラン、介護サービスの種類、利用者負担と支払限度額-				
4	ディスカッション① -岡山での地域包括ケアシステムはどのような現状か調査し、議論しよう。-				
5	多職種協働の融合① -地域包括ケア実現のためになぜ多職種協働が必要なのか、それを阻むものは何か、-				
6	多職種協働の融合② -居宅看護と病院の役割、がん患者の事例-				
7	ディスカッション② -多職種協働を実現するために必須条件とは何か、議論しよう。-				
8	先進事例の研究① -介護保険サービスの充実強化、医療との連携強化に関する取り組み-				
9	先進事例の研究② -介護予防の推進に関する取り組み-				
10	総括と学習到達度の確認テスト				
成績評価の方法・基準			試験の方法		
達成度確認テスト40%、課題レポート60%			筆記試験（達成度確認テスト）課題レポート		
授業時間外学修（予習・復習等）			履修上の留意事項		
ディスカッションに積極的に参加するためには、授業時間外の事前学習が大切となる。ディスカッションアワーはシラバスに記載してあるのに、テーマについて積極的に発言できるように準備すること。			20分以上遅刻の場合は欠席とみなします。また、遅刻5回で欠席1回とみなします。なお、2/3以上の出席がない場合は、単位を取得することはできません。		
質問に関する連絡先					
<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input checked="" type="checkbox"/> その他連絡先【 】					
教科書			参考書		
地域包括ケアにおけるPT・OTの役割：文光堂			特になし		
参考文献 必要時に配布する。					

(新) 修業年限7(1)の2を踏まえて、初年次履修として通知する。

科目名	大学入門	担当者	山下裕之 他9名	必修/選択	必修
学科	理学療法	学年	1年	履修単位数	前期1単位
授業形態	演習	時間数	15時間		
【講義の概要および到達目標】					
大学で自立的に学ぶために必要な、基本的事項を系統的に配置し、高校から大学教育にスムーズに移行できるようにする。大学教育の基本と学び方の基本を修得する。到達目標は、①大学で自律的に学ぶ心構えを身につけることができる。②自分が進む専門領域の基礎を知ることができる。③必要な資料や文献などを調査することができる。④文献などの内容を要約することができる。⑤定められた形式に従ってレポートを書くことができる。⑥レポートの内容を発表し、議論して自分の考えを再構成することができる。					
【授業の方法】					
一部の講義形式を除いては、10人程度の少人数編成のゼミ形式により授業を進める。テーマ終了時には小テストあるいはレポートにより、各々のテーマの理解度を確認する。					
講義計画（テーマと内容等）					
1	大学での学び(大学と高校との違い、大学教育の基本、理学療法・作業療法とは)				
2	大学資源の有効活用 図書館の使い方と資料検索の方法				
3	文献や資料の読み方(新聞記事・雑誌記事を利用)				
4	文献や資料の要約スキル(新聞記事・雑誌記事を利用)①				
5	文献や資料の要約スキル(新聞記事・雑誌記事を利用)②				
6	レポートの書き方①				
7	レポートの作成と発表①				
8	レポートの作成と発表②				
9	ディスカッションスキルを養う①				
10	ディスカッションスキルを養う②				
成績評価の方法・基準			試験の方法		
授業内の発表 60%テーマ終了時の小テストあるいはレポート40%で判定する。			発表、レポート課題		
授業時間外学修（予習・復習等）			履修上の留意事項		
授業終了後の復習と次の授業のテーマについて予習しておく。			大学教育を円滑に進めるための知識を得る授業であることから、積極的な姿勢で授業に参加すること。		
<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【 】					
教科書			参考書		
特に指定しない			随時紹介		
参考文献 必要時に指示・配布する。					

(新)										(旧)									
科目名	リハビリテーション概論			担当者	中川 浩一			必修/選択	必修	科目名	リハビリテーション概論			担当者	辻西 謙三			必修/選択	必修
学科	理学療法	学年	1年	履修単位数	前期1単位	授業形態	講義	時間数	15時間	学科	理学療法	学年	1年	履修単位数	前期1単位	授業形態	講義	時間数	15時間
【講義の概要および到達目標】 概要：本講義では、リハビリテーションの歴史・定義・目的をはじめ、医学的・社会的・職業的・教育的リハビリテーションについて学ぶ。また、理学療法・作業療法の医学的リハビリテーションでの位置づけについても学び、チーム医療における連携について学ぶ。さらに、リハビリテーションと保健福祉、行政など社会的資源との関係性について学ぶ。 到達目標：①リハビリテーションの定義を理解できる。②医学的リハビリテーションにおける理学療法・作業療法の位置づけを理解できる。③リハビリテーションにおける外的環境について理解できる。④自立生活について理解できる。⑤ 就労支援について理解できる。										【講義の概要および到達目標】 概要：本講義では、リハビリテーションの歴史・定義・目的をはじめ、医学的・社会的・職業的・教育的リハビリテーションについて学ぶ。また、理学療法・作業療法の医学的リハビリテーションでの位置づけについても学び、チーム医療における連携について学ぶ。さらに、リハビリテーションと保健福祉、行政など社会的資源との関係性について学ぶ。 到達目標：①リハビリテーションの定義を理解できる。②医学的リハビリテーションにおける理学療法・作業療法の位置づけを理解できる。③リハビリテーションにおける外的環境について理解できる。④自立生活について理解できる。⑤ 就労支援について理解できる。									
【授業の方法】 理学療法学科1クラス40名講義										【授業の方法】 理学療法学科1クラス40名講義									
講義計画 (テーマと内容等)										講義計画 (テーマと内容等)									
1	リハビリテーションの理念と歴史									1	リハビリテーションの理念と歴史								
2	急性期リハビリテーションと雇用継続									2	急性期リハビリテーションと雇用継続								
3	回復期リハビリテーションとは									3	回復期リハビリテーションとは								
4	生活期リハビリテーションとは									4	生活期リハビリテーションとは								
5	リハビリテーション関連職種役割									5	リハビリテーション関連職種役割								
6	生涯論・障害受容と機能評価									6	生涯論・障害受容と機能評価								
7	リハビリテーションの対象者とは/職業的・社会的・医学的・教育的リハビリテーション									7	リハビリテーションの対象者とは/職業的・社会的・医学的・教育的リハビリテーション								
8	リハビリテーションと自立支援(関連する支援制度を含む)									8	リハビリテーションと自立支援(関連する支援制度を含む)								
9	リハビリテーションと自立支援(関連する支援制度を含む)									9	リハビリテーションと自立支援(関連する支援制度を含む)								
10	関連法規・地域福祉事業									10	関連法規・地域福祉事業								
成績評価の方法・基準					試験の方法					成績評価の方法・基準					試験の方法				
筆記試験の結果が総合点の60%を超えた場合に合格と判断する。					筆記試験					筆記試験の結果が総合点の60%を超えた場合に合格と判断する。					筆記試験				
授業時間外学修(予習・復習等)					履修上の留意事項					授業時間外学修(予習・復習等)					履修上の留意事項				
授業の進捗に応じて教科書を読み進めること。					特になし					授業の進捗に応じて教科書を読み進めること。					特になし				
質問に関する連絡先					参考書					質問に関する連絡先					参考書				
<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【 】					最新リハビリテーション医学 医歯薬出版株式会社					<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【 】					最新リハビリテーション医学 医歯薬出版株式会社				
教科書 PT・OT・ST・ナースを目指すためのリハビリテーション概論 彰和出版社					最新リハビリテーション医学 医歯薬出版株式会社					教科書 PT・OT・ST・ナースを目指すためのリハビリテーション概論 彰和出版社					最新リハビリテーション医学 医歯薬出版株式会社				
参考文献 授業中に紹介する。										参考文献 授業中に紹介する。									

(新)										(旧)									
科目名	基礎理学療法実習Ⅰ			担当者	増川 武利・田村 正樹			必修/選択	必修	科目名	基礎理学療法実習Ⅰ			担当者	永野 玄人・増川 武利			必修/選択	必修
学科	理学療法	学年	2年	履修単位数	後期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間	学科	理学療法	学年	2年	履修単位数	後期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間
【講義の概要および到達目標】 概要：「基礎理学療法学」の内容を基に、基本的動作訓練の内容を学ぶ。理論に沿った基本的動作訓練の立案を機能性障害者のケース・シミュレーション等から学ぶ。また、基本的動作の介助を利用した治療を学び、ImpairmentとDisabilityの目的別に使用する基本的動作を学ぶ。 到達目標：①理論に沿った基本的動作訓練を立案できる②基本的動作訓練を実施できる③基本的動作の介助を使用した治療ができる										【講義の概要および到達目標】 概要：「基礎理学療法学」の内容を基に、基本的動作訓練の内容を学ぶ。理論に沿った基本的動作訓練の立案を機能性障害者のケース・シミュレーション等から学ぶ。また、基本的動作の介助を利用した治療を学び、ImpairmentとDisabilityの目的別に使用する基本的動作を学ぶ。 到達目標：①理論に沿った基本的動作訓練を立案できる②基本的動作訓練を実施できる③基本的動作の介助を使用した治療ができる									
【授業の方法】 1クラス40人講義										【授業の方法】 1クラス40人講義									
講義計画 (テーマと内容等)										講義計画 (テーマと内容等)									
1	オリエンテーション									1	オリエンテーション								
2	基本的動作訓練と治療									2	基本的動作訓練と治療								
3	可動域制限による基本的動作障害1									3	可動域制限による基本的動作障害1								
4	可動域制限による基本的動作障害2									4	可動域制限による基本的動作障害2								
5	筋力低下による基本的動作障害1									5	筋力低下による基本的動作障害1								
6	筋力低下による基本的動作障害2									6	筋力低下による基本的動作障害2								
7	筋持久力低下による基本的動作障害1									7	筋持久力低下による基本的動作障害1								
8	筋持久力低下による基本的動作障害2									8	筋持久力低下による基本的動作障害2								
9	協調性低下による基本的動作障害1									9	協調性低下による基本的動作障害1								
10	協調性低下による基本的動作障害2									10	協調性低下による基本的動作障害2								
11	全身調整能力低下による基本的動作障害1									11	全身調整能力低下による基本的動作障害1								
12	全身調整能力低下による基本的動作障害2									12	全身調整能力低下による基本的動作障害2								
13	臨床推考1									13	臨床推考1								
14	臨床推考2									14	臨床推考2								
15	臨床推考3									15	臨床推考3								
成績評価の方法・基準					試験の方法					成績評価の方法・基準					試験の方法				
レポート(50%)および講義で提示される課題の取り組み状況と達成度(50%)					レポート 課題					レポート(50%)および講義で提示される課題の取り組み状況と達成度(50%)					レポート 課題				
授業時間外学修(予習・復習等)					履修上の留意事項					授業時間外学修(予習・復習等)					履修上の留意事項				
運動学関連の参考書を活用して事前・事後学習を進めておくこと。					・基本動作の理解を深めるとともに、その目的別に使用する基本的動作を学ぶ。 ・基本的動作の介助を利用した治療を学ぶ。 ・運動学関連の参考書を活用して事前・事後学習を進めておくこと。					運動学関連の参考書を活用して事前・事後学習を進めておくこと。					・基本動作の理解を深めるとともに、その目的別に使用する基本的動作を学ぶ。 ・基本的動作の介助を利用した治療を学ぶ。 ・運動学関連の参考書を活用して事前・事後学習を進めておくこと。				
質問に関する連絡先					参考書					質問に関する連絡先					参考書				
<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【 masukawa@motoyama-e.com 】					・運動学関連の書籍(講義内で紹介する)					<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【 masukawa@motoyama-e.com 】					・運動学関連の書籍(講義内で紹介する)				
教科書 ・基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版) ・15分リハビリズ 運動学(中山書店)					・運動学関連の書籍(講義内で紹介する)					教科書 ・基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版) ・15分リハビリズ 運動学(中山書店)					参考書 ・運動学関連の書籍(講義内で紹介する)				
参考文献 講義時に配布する資料										参考文献 講義時に配布する資料									

(新)										(旧)									
科目名	基礎理学療法実習Ⅱ			担当者	山下新之・横山 穂大・渡辺正聖			必修/選択	必修	科目名	基礎理学療法実習Ⅱ			担当者	山下新之・横山 穂大・渡辺正聖			必修/選択	必修
学科	理学療法	学年	3年	前期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間	科目名	理学療法	学年	3年	前期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間		
【講義の概要および到達目標】					【講義の概要および到達目標】					【講義の概要および到達目標】					【講義の概要および到達目標】				
概要：「基礎理学療法実習Ⅰ」の基本的概念を理解した上で、トランスファーを含む起居移乗動作の内容を学ぶ。運動学的内容を理解し、移乗動作の介助を行うことで、患者の動作スキル向上で、最小限の介助量にて最大限の効果を導く方法を学ぶ。また、移乗動作における問題解決方法の基礎的知識と技術を学ぶ。 到達目標：①起き上がり介助ができる。②立ち上り介助ができる。③床からの立ち上り介助ができる。④ベッドと車輪間のトランスファー介助ができる。⑤歩行の介助ができる。					概要：「基礎理学療法実習Ⅰ」の基本的概念を理解した上で、トランスファーを含む起居移乗動作の内容を学ぶ。運動学的内容を理解し、移乗動作の介助を行うことで、患者の動作スキル向上で、最小限の介助量にて最大限の効果を導く方法を学ぶ。また、移乗動作における問題解決方法の基礎的知識と技術を学ぶ。 到達目標：①起き上がり介助ができる。②立ち上り介助ができる。③床からの立ち上り介助ができる。④ベッドと車輪間のトランスファー介助ができる。⑤歩行の介助ができる。					概要：「基礎理学療法実習Ⅰ」の基本的概念を理解した上で、トランスファーを含む起居移乗動作の内容を学ぶ。運動学的内容を理解し、移乗動作の介助を行うことで、患者の動作スキル向上で、最小限の介助量にて最大限の効果を導く方法を学ぶ。また、移乗動作における問題解決方法の基礎的知識と技術を学ぶ。 到達目標：①起き上がり介助ができる。②立ち上り介助ができる。③床からの立ち上り介助ができる。④ベッドと車輪間のトランスファー介助ができる。⑤歩行の介助ができる。					概要：「基礎理学療法実習Ⅰ」の基本的概念を理解した上で、トランスファーを含む起居移乗動作の内容を学ぶ。運動学的内容を理解し、移乗動作の介助を行うことで、患者の動作スキル向上で、最小限の介助量にて最大限の効果を導く方法を学ぶ。また、移乗動作における問題解決方法の基礎的知識と技術を学ぶ。 到達目標：①起き上がり介助ができる。②立ち上り介助ができる。③床からの立ち上り介助ができる。④ベッドと車輪間のトランスファー介助ができる。⑤歩行の介助ができる。				
【授業の方法】 1クラス40名講義					【授業の方法】 1クラス40名講義					【授業の方法】 1クラス40名講義					【授業の方法】 1クラス40名講義				
講義計画(テーマと内容等)										講義計画(テーマと内容等)									
1	基本的動作の運動学を実技を通して学ぶ。								1	基本的動作の運動学を実技を通して学ぶ。									
2	寝返り介助法								2	寝返り介助法									
3	起き上がり介助法①								3	起き上がり介助法①									
4	起き上がり介助法②								4	起き上がり介助法②									
5	坐位(静的アライメント)の調整法①								5	坐位(静的アライメント)の調整法①									
6	坐位(動的アライメント)の調整法②								6	坐位(動的アライメント)の調整法②									
7	立ち上がり介助法①								7	立ち上がり介助法①									
8	立ち上がり介助法②								8	立ち上がり介助法②									
9	立位(静的アライメント)の調整法①								9	立位(静的アライメント)の調整法①									
10	立位(動的アライメント)の調整法②								10	立位(動的アライメント)の調整法②									
11	移乗・移動介助法①								11	移乗・移動介助法①									
12	移乗・移動介助法②								12	移乗・移動介助法②									
13	歩行介助法①								13	歩行介助法①									
14	歩行介助法②								14	歩行介助法②									
15	応用歩行介助法(階段昇降・屋外歩行)								15	応用歩行介助法(階段昇降・屋外歩行)									
成績評価の方法・基準					試験の方法					成績評価の方法・基準					試験の方法				
レポート(50%)および講義で提示される課題の取り組み状況と達成度(50%)					レポート 課題					レポート(50%)および講義で提示される課題の取り組み状況と達成度(50%)					レポート 課題				
授業時間外学修(予習・復習等)					履修上の留意事項					授業時間外学修(予習・復習等)					履修上の留意事項				
運動学関連の参考書を活用して事前・事後学習を進めておくこと。					*動きやすい服装で参加すること。*グループワークでは、個人の意見を押し、他者を黙らした発言は避け、*学生同士が積極的に意見を述べ合うこと。*授業中の課題は必ず、*事前準備を積極的に行うべきであること。					運動学関連の参考書を活用して事前・事後学習を進めておくこと。					*動きやすい服装で参加すること。*グループワークでは、個人の意見を押し、他者を黙らした発言は避け、*学生同士が積極的に意見を述べ合うこと。*授業中の課題は必ず、*事前準備を積極的に行うべきであること。				
質問に関する連絡先					質問に関する連絡先					質問に関する連絡先					質問に関する連絡先				
□ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com					□ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com					□ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com					□ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com				
□ その他連絡先【watanabe_h@motoyama-e.com/yokoyama_a@motoyama-e.com】					□ その他連絡先【watanabe_h@motoyama-e.com/yokoyama_a@motoyama-e.com】					□ その他連絡先【watanabe_h@motoyama-e.com/yokoyama_a@motoyama-e.com】					□ その他連絡先【watanabe_h@motoyama-e.com/yokoyama_a@motoyama-e.com】				
教科書					参考書					教科書					参考書				
・基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版)					・運動学関連の書籍(講義内で紹介する)					・基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版)					・運動学関連の書籍(講義内で紹介する)				
・15tチャンネルズ 運動学(中山書店)										・15tチャンネルズ 運動学(中山書店)									
参考文献					参考文献					参考文献					参考文献				
適宜配布する。					適宜配布する。					適宜配布する。					適宜配布する。				

(新)										(旧)									
科目名	運動療法			担当者	中川法一			必修/選択	必修	科目名	運動療法			担当者	蓮田喜伸			必修/選択	必修
学科	理学療法	学年	1年	前期1単位	授業形態	講義	時間数	15時間	科目名	理学療法	学年	1年	前期1単位	授業形態	講義	時間数	15時間		
【講義の概要および到達目標】					【講義の概要および到達目標】					【講義の概要および到達目標】					【講義の概要および到達目標】				
概要：解剖学・運動学・生理学・病理学などの基礎科目を基に、運動療法の基礎である可動域運動、筋力増強運動・持久性運動、協調性運動、全身調整運動について知識と最新の技術を教授する。本講義は基礎科目と運動療法のつながりを理解し、医学的根拠に基づいた運動療法の基礎を学習・習得することを目的とする。 到達目標：①運動療法の基礎を理解する。②可動域運動に必要な知識を理解する。③筋力増強運動に必要な知識を理解する。④持久力運動の理論を理解できる。⑤協調性運動の理論を理解できる。⑥全身調整運動の理論を理解できる。⑦運動学習に必要な知識を理解する。⑧治療体操・動作を利用した運動療法を理解できる。					概要：解剖学・運動学・生理学・病理学などの基礎科目を基に、運動療法の基礎である可動域運動、筋力増強運動・持久性運動、協調性運動、全身調整運動について知識と最新の技術を教授する。本講義は基礎科目と運動療法のつながりを理解し、医学的根拠に基づいた運動療法の基礎を学習・習得することを目的とする。 到達目標：①運動療法の基礎を理解する。②可動域運動に必要な知識を理解する。③筋力増強運動に必要な知識を理解する。④持久力運動の理論を理解できる。⑤協調性運動の理論を理解できる。⑥全身調整運動の理論を理解できる。⑦運動学習に必要な知識を理解する。⑧治療体操・動作を利用した運動療法を理解できる。					概要：解剖学・運動学・生理学・病理学などの基礎科目を基に、運動療法の基礎である可動域運動、筋力増強運動・持久性運動、協調性運動、全身調整運動について知識と最新の技術を教授する。本講義は基礎科目と運動療法のつながりを理解し、医学的根拠に基づいた運動療法の基礎を学習・習得することを目的とする。 到達目標：①運動療法の基礎を理解する。②可動域運動に必要な知識を理解する。③筋力増強運動に必要な知識を理解する。④持久力運動の理論を理解できる。⑤協調性運動の理論を理解できる。⑥全身調整運動の理論を理解できる。⑦運動学習に必要な知識を理解する。⑧治療体操・動作を利用した運動療法を理解できる。					概要：解剖学・運動学・生理学・病理学などの基礎科目を基に、運動療法の基礎である可動域運動、筋力増強運動・持久性運動、協調性運動、全身調整運動について知識と最新の技術を教授する。本講義は基礎科目と運動療法のつながりを理解し、医学的根拠に基づいた運動療法の基礎を学習・習得することを目的とする。 到達目標：①運動療法の基礎を理解する。②可動域運動に必要な知識を理解する。③筋力増強運動に必要な知識を理解する。④持久力運動の理論を理解できる。⑤協調性運動の理論を理解できる。⑥全身調整運動の理論を理解できる。⑦運動学習に必要な知識を理解する。⑧治療体操・動作を利用した運動療法を理解できる。				
【授業の方法】 1クラス40名講義					【授業の方法】 1クラス40名講義					【授業の方法】 1クラス40名講義					【授業の方法】 1クラス40名講義				
講義計画(テーマと内容等)										講義計画(テーマと内容等)									
1	運動療法とは(運動の必要性と効果 順序 基礎的原理)								1	運動療法とは(運動の必要性と効果 順序 基礎的原理)									
2	関節可動域運動：関節の機能と構造								2	関節可動域運動：関節の機能と構造									
3	ストレッチ：基礎理論とその効果								3	ストレッチ：基礎理論とその効果									
4	筋力増強運動：筋の構造と機能								4	筋力増強運動：筋の構造と機能									
5	筋持久力運動								5	筋持久力運動									
6	運動と呼吸・循環・エネルギー代謝								6	運動と呼吸・循環・エネルギー代謝									
7	運動学習理論								7	運動学習理論									
8	協調性運動								8	協調性運動									
9	姿勢・バランス運動								9	姿勢・バランス運動									
10	治療体操・動作障害に対する運動療法								10	治療体操・動作障害に対する運動療法									
成績評価の方法・基準					試験の方法					成績評価の方法・基準					試験の方法				
筆記試験の結果が総合得点の60%を超えた場合に合格と判断する。					筆記試験					筆記試験の結果が総合得点の60%を超えた場合に合格と判断する。					筆記試験				
授業時間外学修(予習・復習等)					履修上の留意事項					授業時間外学修(予習・復習等)					履修上の留意事項				
講義前に予習・復習すること。また、各講義後には要点をノートにまとめておくこと。					授業中に配布した資料は毎回持参すること。理由により追加配布は行わない。					講義前に予習・復習すること。また、各講義後には要点をノートにまとめておくこと。					授業中に配布した資料は毎回持参すること。理由により追加配布は行わない。				
質問に関する連絡先					質問に関する連絡先					質問に関する連絡先					質問に関する連絡先				
□ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com					□ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com					□ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com					□ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com				
□ その他連絡先【 】					□ その他連絡先【 】					□ その他連絡先【 】					□ その他連絡先【 】				
教科書					参考書					教科書					参考書				
細田多穂：運動療法学テキスト、南江堂 石川朋：15tチャンネルズ 理学療法学テキスト運動療法					市橋則明：運動療法学、文光堂					細田多穂：運動療法学テキスト、南江堂 石川朋：15tチャンネルズ 理学療法学テキスト運動療法					市橋則明：運動療法学、文光堂				
参考文献					参考文献					参考文献					参考文献				
講義担当者が配布する。					講義担当者が配布する。					講義担当者が配布する。					講義担当者が配布する。				

(新)						(旧)														
科目名	運動療法実習Ⅰ	担当者	鈴木啓子・田村正樹	必修/選択	必修	科目名	運動療法実習Ⅰ	担当者	鈴木啓子・渡辺大高	必修/選択	必修									
学科	理学療法	学年	2年	履修単位	前期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間	学科	理学療法	学年	2年	履修単位	前期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間	
【講義の概要および到達目標】 概要：「運動療法」の内容を基に、可動域運動、筋力増強運動について実際に実技を行うことで、運動療法の基礎を身につける。実習を行うことで、理論と技術を架橋する役割を果たし、実践力を身につける。 到達目標：①理論に沿った運動療法を立案し実施できる。②可動域運動を実施できる。③筋力増強運動を実施できる。						【講義の概要および到達目標】 概要：「運動療法」の内容を基に、可動域運動、筋力増強運動について実際に実技を行うことで、運動療法の基礎を身につける。実習を行うことで、理論と技術を架橋する役割を果たし、実践力を身につける。 到達目標：①理論に沿った運動療法を立案し実施できる。②可動域運動を実施できる。③筋力増強運動を実施できる。														
【授業の方法】 理学療法学科 1クラス40名						【授業の方法】 理学療法学科 1クラス40名														
講義計画(テーマと内容等)						講義計画(テーマと内容等)														
1	関節可動域運動①	上肢1				1	関節可動域運動①	上肢1				2	関節可動域運動②	上肢2						
2	関節可動域運動②	上肢2				2	関節可動域運動②	上肢2				3	関節可動域運動③	上肢3						
3	関節可動域運動③	上肢3				3	関節可動域運動③	上肢3				4	関節可動域運動④	上肢4						
4	関節可動域運動④	上肢4				4	関節可動域運動④	上肢4				5	関節可動域運動⑤	下肢1						
5	関節可動域運動⑤	下肢1				5	関節可動域運動⑤	下肢1				6	関節可動域運動⑥	下肢2						
6	関節可動域運動⑥	下肢2				6	関節可動域運動⑥	下肢2				7	関節可動域運動⑦	下肢3						
7	関節可動域運動⑦	下肢3				7	関節可動域運動⑦	下肢3				8	関節可動域運動⑧	下肢4						
8	関節可動域運動⑧	下肢4				8	関節可動域運動⑧	下肢4				9	関節可動域運動⑨	体幹1						
9	関節可動域運動⑨	体幹1				9	関節可動域運動⑨	体幹1				10	関節可動域運動⑩	体幹2						
10	関節可動域運動⑩	体幹2				10	関節可動域運動⑩	体幹2				11	筋力増強運動①	上肢1						
11	筋力増強運動①	上肢1				11	筋力増強運動①	上肢1				12	筋力増強運動②	上肢2						
12	筋力増強運動②	上肢2				12	筋力増強運動②	上肢2				13	筋力増強運動③	下肢1						
13	筋力増強運動③	下肢1				13	筋力増強運動③	下肢1				14	筋力増強運動④	下肢2						
14	筋力増強運動④	下肢2				14	筋力増強運動④	下肢2				15	筋力増強運動⑤	体幹						
15	筋力増強運動⑤	体幹				15	筋力増強運動⑤	体幹				成績評価の方法・基準				試験の方法				
レポート(50%)および講義で提示される課題の取り組み状況と達成度(50%)						レポート(50%)および講義で提示される課題の取り組み状況と達成度(50%)						レポート				課題(実技に関する内容)				
授業時間外学修(予習・復習等)						授業時間外学修(予習・復習等)						履修上の留意事項				ケースを着用すること。※授業の最初に小テストを行う。				
教科書、配布した資料を基に、自発的に学習し、講義に挑むこと。						教科書、配布した資料を基に、自発的に学習し、講義に挑むこと。						教科書、配布した資料を基に、自発的に学習し、講義に挑むこと。				教科書、配布した資料を基に、自発的に学習し、講義に挑むこと。				
質問に関する連絡先						質問に関する連絡先						本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com				本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com				
□ その他連絡先【suzuki@motoyama-e.com/watanabe_h@motoyama-e.com】						□ その他連絡先【suzuki@motoyama-e.com/watanabe_h@motoyama-e.com】						□ その他連絡先【suzuki@motoyama-e.com/watanabe_h@motoyama-e.com】				□ その他連絡先【suzuki@motoyama-e.com/watanabe_h@motoyama-e.com】				
教科書						教科書						参考書				参考書				
細田多穂:運動療法学テキスト,南江堂 石川朋:15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト運動療法						細田多穂:運動療法学テキスト,南江堂 石川朋:15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト運動療法						市橋則明:運動療法学,文光堂				市橋則明:運動療法学,文光堂				
参考文献 科目担当者が配布する。						参考文献 科目担当者が配布する。						参考文献 科目担当者が配布する。				参考文献 科目担当者が配布する。				

(新)						(旧)														
科目名	運動療法実習Ⅱ	担当者	鈴木啓子・田中理佳	必修/選択	必修	科目名	運動療法実習Ⅱ	担当者	蓮田立信・鈴木啓子	必修/選択	必修									
学科	理学療法	学年	2年	履修単位	後期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間	学科	理学療法	学年	2年	履修単位	後期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間	
【講義の概要および到達目標】 概要：「運動療法」の内容を基に、持久力運動、協調性運動、全身調整運動について実際に実技を行うことで、運動療法の基礎を身につける。実技を行うことで、理論と技術を架橋する役割を果たし、実践力を身につける。 到達目標：①理論に沿った運動療法を立案し実施できる。②筋持久力運動を実施できる。③協調性運動を実施できる。④全身調整運動を実施できる。⑤治療体操・動作を利用した運動療法を実施できる。						【講義の概要および到達目標】 概要：「運動療法」の内容を基に、持久力運動、協調性運動、全身調整運動について実際に実技を行うことで、運動療法の基礎を身につける。実技を行うことで、理論と技術を架橋する役割を果たし、実践力を身につける。 到達目標：①理論に沿った運動療法を立案し実施できる。②筋持久力運動を実施できる。③協調性運動を実施できる。④全身調整運動を実施できる。⑤治療体操・動作を利用した運動療法を実施できる。														
【授業の方法】 理学療法学科 1クラス40名						【授業の方法】 理学療法学科 1クラス40名														
講義計画(テーマと内容等)						講義計画(テーマと内容等)														
1	筋持久力運動①					1	筋持久力運動①					2	筋持久力運動②							
2	筋持久力運動②					2	筋持久力運動②					3	協調性運動①							
3	協調性運動①					3	協調性運動①					4	協調性運動②							
4	協調性運動②					4	協調性運動②					5	協調性運動③							
5	協調性運動③					5	協調性運動③					6	全身調整運動①							
6	全身調整運動①					6	全身調整運動①					7	全身調整運動②							
7	全身調整運動②					7	全身調整運動②					8	全身調整運動③							
8	全身調整運動③					8	全身調整運動③					9	治療体操①							
9	治療体操①					9	治療体操①					10	治療体操②							
10	治療体操②					10	治療体操②					11	治療体操③							
11	治療体操③					11	治療体操③					12	動作介助法①							
12	動作介助法①					12	動作介助法①					13	動作介助法②							
13	動作介助法②					13	動作介助法②					14	動作介助法③							
14	動作介助法③					14	動作介助法③					15	まとめ							
15	まとめ					15	まとめ					成績評価の方法・基準				試験の方法				
レポート(50%)および講義で提示される課題の取り組み状況と達成度(50%)						レポート(50%)および講義で提示される課題の取り組み状況と達成度(50%)						レポート				課題(実技に関する内容)				
授業時間外学修(予習・復習等)						授業時間外学修(予習・復習等)						履修上の留意事項				ケースを着用すること。※授業の最初に小テストを行う。				
教科書、配布した資料を基に、自発的に学習し、講義に挑むこと。						教科書、配布した資料を基に、自発的に学習し、講義に挑むこと。						教科書、配布した資料を基に、自発的に学習し、講義に挑むこと。				教科書、配布した資料を基に、自発的に学習し、講義に挑むこと。				
質問に関する連絡先						質問に関する連絡先						本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com				本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com				
□ その他連絡先【suzuki@motoyama-e.com】						□ その他連絡先【suzuki@motoyama-e.com】						□ その他連絡先【suzuki@motoyama-e.com】				□ その他連絡先【suzuki@motoyama-e.com】				
教科書						教科書						参考書				参考書				
細田多穂:運動療法学テキスト,南江堂 石川朋:15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト運動療法						細田多穂:運動療法学テキスト,南江堂 石川朋:15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト運動療法						市橋則明:運動療法学,文光堂				市橋則明:運動療法学,文光堂				
参考文献 科目担当者が配布する。						参考文献 科目担当者が配布する。						参考文献 科目担当者が配布する。				参考文献 科目担当者が配布する。				

(新)										(旧)									
科目名	物理療法実習			担当者	田村正樹・田中雅彦			必修/選択	必修	科目名	物理療法実習			担当者	村上善洋・小島一範			必修/選択	必修
学科	理学療法	学年	3年	履修単位	前期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間	学科	理学療法	学年	3年	履修単位	前期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間
【講義の概要および到達目標】 概要：「物理療法」の内容を基に、温熱療法・光線療法・水治療法・電気刺激療法・牽引療法・マッサージ療法（浮腫軽減）の実技を学ぶ。 到達目標：①温熱療法が使用できる。②光線療法が使用できる。③電気刺激療法が使用できる。④牽引療法が使用できる。⑤マッサージ療法が使用できる。					【講義の概要および到達目標】 概要：「物理療法」の内容を基に、温熱療法・光線療法・水治療法・電気刺激療法・牽引療法・マッサージ療法（浮腫軽減）の実技を学ぶ。 到達目標：①温熱療法が使用できる。②光線療法が使用できる。③電気刺激療法が使用できる。④牽引療法が使用できる。⑤マッサージ療法が使用できる。														
【授業の方法】 理学療法学科 1クラス40名講義					【授業の方法】 理学療法学科 1クラス40名講義														
講義計画（テーマと内容等）										講義計画（テーマと内容等）									
1	温熱療法①									1	温熱療法①								
2	温熱療法②									2	温熱療法②								
3	温熱療法③									3	温熱療法③								
4	温熱療法④									4	温熱療法④								
5	光線療法									5	光線療法								
6	寒冷療法									6	寒冷療法								
7	水治療法									7	水治療法								
8	超音波療法									8	超音波療法								
9	電気刺激療法①									9	電気刺激療法①								
10	電気刺激療法②									10	電気刺激療法②								
11	電気刺激療法③									11	電気刺激療法③								
12	電気刺激療法④									12	電気刺激療法④								
13	牽引療法									13	牽引療法								
14	マッサージ療法①									14	マッサージ療法①								
15	マッサージ療法②									15	マッサージ療法②								
成績評価の方法・基準 実技試験(80%)小テスト(20%)の結果が総合得点の60%を超えた場合に合格と判断する。					試験の方法 実技試験・小テスト					成績評価の方法・基準 実技試験(80%)小テスト(20%)の結果が総合得点の60%を超えた場合に合格と判断する。					試験の方法 実技試験・小テスト				
授業時間外学修（予習・復習等） 教科書、配布した資料を基に、自発的に学習し、講義に活かすこと。					履修上の留意事項 ケースを善用すること。※授業の最初に小テストを行います。					授業時間外学修（予習・復習等） 教科書、配布した資料を基に、自発的に学習し、講義に活かすこと。					履修上の留意事項 ケースを善用すること。※授業の最初に小テストを行います。				
質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【 】										質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【 】									
教科書 15レクチャーシリーズ 物理療法学・実習					参考書 E B M物理療法 漢部 一郎 医歯薬出版 標準理学療法学「物理療法」吉尾 雅幸 医学書院					教科書 15レクチャーシリーズ 物理療法学・実習					参考書 E B M物理療法 漢部 一郎 医歯薬出版 標準理学療法学「物理療法」吉尾 雅幸 医学書院				
参考文献 科目担当者が配布する。										参考文献 科目担当者が配布する。									

(新)										(旧)									
科目名	理学療法治療学Ⅱ			担当者	志野空人			必修/選択	必修	科目名	理学療法治療学Ⅱ			担当者	瀧田空輝			必修/選択	必修
学科	理学療法	学年	2年	履修単位	前期1単位	授業形態	講義	時間数	15時間	学科	理学療法	学年	2年	履修単位	前期1単位	授業形態	講義	時間数	15時間
【講義の概要および到達目標】 概要：神経系疾患（末梢神経障害・神経筋障害）に関わる病理学を基に、機能障害を理解する。各障害に対する評価項目、画像・検査所見を踏まえた障害像の把握をはじめ、治療・訓練内容を学ぶとともに最近のトピックスについても学ぶ。 到達目標：①神経系疾患（末梢神経障害・神経筋障害）の障害像を理解することができる。②神経系疾患（末梢神経障害・神経筋障害）の評価項目を実施することができる。③神経系疾患（末梢神経障害・神経筋障害）のケアを理解することができる。					【講義の概要および到達目標】 概要：神経系疾患（末梢神経障害・神経筋障害）に関わる病理学を基に、機能障害を理解する。各障害に対する評価項目、画像・検査所見を踏まえた障害像の把握をはじめ、治療・訓練内容を学ぶとともに最近のトピックスについても学ぶ。 到達目標：①神経系疾患（末梢神経障害・神経筋障害）の障害像を理解することができる。②神経系疾患（末梢神経障害・神経筋障害）の評価項目を実施することができる。③神経系疾患（末梢神経障害・神経筋障害）のケアを理解することができる。														
【授業の方法】 1クラス40名講義					【授業の方法】 1クラス40名講義														
講義計画（テーマと内容等）										講義計画（テーマと内容等）									
1	授業入門と脳、神経の働き									1	授業入門と脳、神経の働き								
2	パーキンソン病 臨床症状									2	パーキンソン病 臨床症状								
3	パーキンソン病 評価・理学療法アプローチ									3	パーキンソン病 評価・理学療法アプローチ								
4	脊髄小脳変性症 臨床症状									4	脊髄小脳変性症 臨床症状								
5	脊髄小脳変性症 評価・理学療法アプローチ									5	脊髄小脳変性症 評価・理学療法アプローチ								
6	筋萎縮性側索硬化症・多発性硬化症 臨床症状									6	筋萎縮性側索硬化症・多発性硬化症 臨床症状								
7	筋萎縮性側索硬化症・多発性硬化症 評価・理学療法アプローチ									7	筋萎縮性側索硬化症・多発性硬化症 評価・理学療法アプローチ								
8	ギランバレー症候群・末梢神経損傷 臨床症状									8	ギランバレー症候群・末梢神経損傷 臨床症状								
9	ギランバレー症候群・末梢神経損傷 評価・理学療法アプローチ①									9	ギランバレー症候群・末梢神経損傷 評価・理学療法アプローチ①								
10	ギランバレー症候群・末梢神経損傷 評価・理学療法アプローチ②									10	ギランバレー症候群・末梢神経損傷 評価・理学療法アプローチ②								
成績評価の方法・基準 筆記試験の結果が総合得点の60%を超えた場合に合格と判断する。					試験の方法 筆記試験					成績評価の方法・基準 筆記試験の結果が総合得点の60%を超えた場合に合格と判断する。					試験の方法 筆記試験				
授業時間外学修（予習・復習等） 教科書を熟読し予習復習をすること。					履修上の留意事項 特記事項無し					授業時間外学修（予習・復習等） 教科書を熟読し予習復習をすること。					履修上の留意事項 特記事項無し				
質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【 】										質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【 】									
教科書 リハビリテーションのための神経内科 病気がみえる⑩脳・神経					参考書 ベッドサイドの神経の診方 今日の理学療法指針					教科書 リハビリテーションのための神経内科 病気がみえる⑩脳・神経					参考書 ベッドサイドの神経の診方 今日の理学療法指針				
参考文献 必要に応じて講義担当者が配布する。										参考文献 必要に応じて講義担当者が配布する。									

(新)										(旧)									
科目名	理学療法治療学Ⅲ	担当者	中山法一			必修/選択	必修	科目名	理学療法治療学Ⅲ	担当者	辻西謙三			必修/選択	必修				
学科	理学療法	学年	2年	履修単位数	後期1単位	授業形態	講義	時間数	15時間	学科	理学療法	学年	2年	履修単位数	後期1単位	授業形態	講義	時間数	15時間
【講義の概要および到達目標】 概要：運動器疾患に関わる解剖学・運動学・生理学を基に、運動器障害理学療法を学ぶ。整形外科領域における運動器疾患を例に疾患学・障害学の病態を理解し、必要な理学療法を選択するための知識（治療プログラム立案）と実施するための技術を養う。 到達目標：①運動器疾患の障害学を理解する。②運動器疾患の評価内容を理解する。③運動器疾患の治療プログラムを作成できる。										【講義の概要および到達目標】 概要：運動器疾患に関わる解剖学・運動学・生理学を基に、運動器障害理学療法を学ぶ。整形外科領域における運動器疾患を例に疾患学・障害学の病態を理解し、必要な理学療法を選択するための知識（治療プログラム立案）と実施するための技術を養う。 到達目標：①運動器疾患の障害学を理解する。②運動器疾患の評価内容を理解する。③運動器疾患の治療プログラムを作成できる。									
【授業の方法】 1クラス40名講義										【授業の方法】 1クラス40名講義									
講義計画（テーマと内容等）										講義計画（テーマと内容等）									
1	変形性関節症（股関節・膝関節）									1	変形性関節症（股関節・膝関節）								
2	上肢骨折									2	上肢骨折								
3	下肢骨折									3	下肢骨折								
4	顔部疾患									4	顔部疾患								
5	腰部疾患									5	腰部疾患								
6	肩関節疾患									6	肩関節疾患								
7	肘手関節疾患									7	肘手関節疾患								
8	膝関節・足関節疾患									8	膝関節・足関節疾患								
9	関節リウマチ									9	関節リウマチ								
10	運動器疾患における装具療法									10	運動器疾患における装具療法								
成績評価の方法・基準					試験の方法					成績評価の方法・基準					試験の方法				
筆記試験：70% 小テスト：20% 提出物：10%					筆記試験 小テスト レポート					筆記試験：70% 小テスト：20% 提出物：10%					筆記試験 小テスト レポート				
授業時間外学修（予習・復習等）					履修上の留意事項					授業時間外学修（予習・復習等）					履修上の留意事項				
教科書を熟読し、予習復習をすること。					各講義における確認テストを実施する。実技の際には動きやすい服装を着用すること。					教科書を熟読し、予習復習をすること。					各講義における確認テストを実施する。実技の際には動きやすい服装を着用すること。				
質問に関する連絡先					質問に関する連絡先					質問に関する連絡先					質問に関する連絡先				
□ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com					□ その他連絡先【 】					□ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com					□ その他連絡先【 】				
教科書					参考書					教科書					参考書				
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法治療学Ⅰ					15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法治療学Ⅱ					15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法治療学Ⅰ					15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法治療学Ⅱ				
参考文献 講義担当者が配布する。					参考文献 講義担当者が配布する。					参考文献 講義担当者が配布する。					参考文献 講義担当者が配布する。				

(新)										(旧)									
科目名	理学療法治療学実習Ⅰ	担当者	徳田武利・田村弘典・山田 実明			必修/選択	必修	科目名	理学療法治療学実習Ⅰ	担当者	山田 実明・徳田武利・渡辺 友直			必修/選択	必修				
学科	理学療法	学年	2年	履修単位数	前期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間	学科	理学療法	学年	2年	履修単位数	前期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間
【講義の概要および到達目標】 概要：「理学療法治療学Ⅰ・Ⅱ」の内容を基に、神経系疾患の機能障害を理解する。各障害に対する評価項目、画像所見を踏まえた障害像の把握をはじめ、治療・訓練内容を学ぶとともに最近のトピックスについても学ぶ。 到達目標：①神経系疾患の障害像を理解することができる。②神経系疾患の評価項目を実施することができる。③神経系疾患の画像を理解することができる。④理学療法の実施ができる。										【講義の概要および到達目標】 概要：「理学療法治療学Ⅰ・Ⅱ」の内容を基に、神経系疾患の機能障害を理解する。各障害に対する評価項目、画像所見を踏まえた障害像の把握をはじめ、治療・訓練内容を学ぶとともに最近のトピックスについても学ぶ。 到達目標：①神経系疾患の障害像を理解することができる。②神経系疾患の評価項目を実施することができる。③神経系疾患の画像を理解することができる。④理学療法の実施ができる。									
【授業の方法】 1クラス40名講義 実習中心の内容でアクティブラーニングの手法をとる。										【授業の方法】 1クラス40名講義 実習中心の内容でアクティブラーニングの手法をとる。									
講義計画（テーマと内容等）										講義計画（テーマと内容等）									
1	脳障害（脳血管障害）患者に対する理学療法①									1	脳障害（脳血管障害）患者に対する理学療法①								
2	脳障害（脳血管障害）患者に対する理学療法②									2	脳障害（脳血管障害）患者に対する理学療法②								
3	脳障害（パーキンソン氏病）患者に対する理学療法①									3	脳障害（パーキンソン氏病）患者に対する理学療法①								
4	脳障害（パーキンソン氏病）患者に対する理学療法②									4	脳障害（パーキンソン氏病）患者に対する理学療法②								
5	脳障害（脳性麻痺児）に対する理学療法①									5	脳障害（脳性麻痺児）に対する理学療法①								
6	脳障害（脳性麻痺児）に対する理学療法②									6	脳障害（脳性麻痺児）に対する理学療法②								
7	脊髄障害患者に対する理学療法①									7	脊髄障害患者に対する理学療法①								
8	脊髄障害患者に対する理学療法②									8	脊髄障害患者に対する理学療法②								
9	脊髄障害患者に対する理学療法③									9	脊髄障害患者に対する理学療法③								
10	失調症（脊髄小脳変性症）患者に対する理学療法①									10	失調症（脊髄小脳変性症）患者に対する理学療法①								
11	失調症（脊髄小脳変性症）患者に対する理学療法②									11	失調症（脊髄小脳変性症）患者に対する理学療法②								
12	筋萎縮性側索硬化症患者に対する理学療法									12	筋萎縮性側索硬化症患者に対する理学療法								
13	多発性硬化症患者に対する理学療法									13	多発性硬化症患者に対する理学療法								
14	ギランバレー症候群患者に対する理学療法									14	ギランバレー症候群患者に対する理学療法								
15	末梢神経損傷患者に対する理学療法									15	末梢神経損傷患者に対する理学療法								
成績評価の方法・基準					試験の方法					成績評価の方法・基準					試験の方法				
筆記試験の結果が総合得点の60%を超えた場合に合格と判断する。					筆記試験（各疾患に対する理学療法の内容）					筆記試験の結果が総合得点の60%を超えた場合に合格と判断する。					筆記試験（各疾患に対する理学療法の内容）				
授業時間外学修（予習・復習等）					履修上の留意事項					授業時間外学修（予習・復習等）					履修上の留意事項				
教科書を熟読し、実技の予習復習をすること。					・KC着用 小テストは毎時間実施する。					教科書を熟読し、実技の予習復習をすること。					・KC着用 小テストは毎時間実施する。				
質問に関する連絡先					質問に関する連絡先					質問に関する連絡先					質問に関する連絡先				
□ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com					□ その他連絡先【yamadaei11@motoyama-e.com/watanabe_h@motoyama-e.com】					□ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com					□ その他連絡先【yamadaei11@motoyama-e.com/watanabe_h@motoyama-e.com】				
教科書					参考書					教科書					参考書				
神経障害 理学療法Ⅰ、石川朝、中山書店					絵でみる脳と神経、馬場元哉、医学書院 神経診療クローズアップ、鈴木則宏、JF「健康」社					神経障害 理学療法Ⅰ、石川朝、中山書店					絵でみる脳と神経、馬場元哉、医学書院 神経診療クローズアップ、鈴木則宏、JF「健康」社				
参考文献 必要に応じて講義担当者が配布する。					参考文献 必要に応じて講義担当者が配布する。					参考文献 必要に応じて講義担当者が配布する。					参考文献 必要に応じて講義担当者が配布する。				

(甲)							(乙)												
科目名	理学療法治療学実習Ⅱ	担当者	山下裕之・田中雅也	必修/選択	必修		科目名	理学療法治療学実習Ⅱ	担当者	村西善洋・山下裕之	必修/選択	必修							
学科	理学療法	学年	2年	履修単位数	後期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間	学科	理学療法	学年	2年	履修単位数	後期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間
【講義の概要および到達目標】 概要：「理学療法治療学Ⅲ」の内容を基に、主に運動器障害理学療法の実践を学ぶ。整形外科領域における骨格と変形性関節症を例に疾患学・障害学の病態を理解し、必要な理学療法を選択し実施するための技術を養う。 到達目標：①運動器疾患における理学療法が実施できる。②変形性関節症の障害学を理解する。③変形性関節症の病態の内容を理解する。④変形性関節症の治療のプログラムを作成できる。⑤変形性関節症の治療プログラムが実施できる。							【講義の概要および到達目標】 概要：「理学療法治療学Ⅲ」の内容を基に、主に運動器障害理学療法の実践を学ぶ。整形外科領域における骨格と変形性関節症を例に疾患学・障害学の病態を理解し、必要な理学療法を選択し実施するための技術を養う。 到達目標：①運動器疾患における理学療法が実施できる。②変形性関節症の障害学を理解する。③変形性関節症の病態の内容を理解する。④変形性関節症の治療のプログラムを作成できる。⑤変形性関節症の治療プログラムが実施できる。												
【授業の方法】 1クラス40名講義							【授業の方法】 1クラス40名講義												
講義計画(テーマと内容等)							講義計画(テーマと内容等)												
1	上肢骨折に対する理学療法						1	上肢骨折に対する理学療法											
2	下肢骨折に対する理学療法						2	下肢骨折に対する理学療法											
3	頸部疾患に対する理学療法						3	頸部疾患に対する理学療法											
4	腰部疾患に対する理学療法						4	腰部疾患に対する理学療法											
5	肩関節疾患に対する理学療法						5	肩関節疾患に対する理学療法											
6	肘・手関節疾患に対する理学療法						6	肘・手関節疾患に対する理学療法											
7	股関節疾患に対する理学療法						7	股関節疾患に対する理学療法											
8	膝・足関節疾患に対する理学療法						8	膝・足関節疾患に対する理学療法											
9	慢性関節リウマチに対する理学療法						9	慢性関節リウマチに対する理学療法											
10	変形性股関節症① 評価・治療(プログラム立案)						10	変形性股関節症① 評価・治療(プログラム立案)											
11	変形性股関節症② 理学療法プログラム実施1						11	変形性股関節症② 理学療法プログラム実施1											
12	変形性股関節症③ 理学療法プログラム実施2						12	変形性股関節症③ 理学療法プログラム実施2											
13	変形性膝関節症① 評価・治療(プログラム立案)						13	変形性膝関節症① 評価・治療(プログラム立案)											
14	変形性膝関節症② 理学療法プログラム実施1						14	変形性膝関節症② 理学療法プログラム実施1											
15	変形性膝関節症③ 理学療法プログラム実施2						15	変形性膝関節症③ 理学療法プログラム実施2											
成績評価の方法・基準 筆記試験(80%)小テスト(20%)の結果が総合点の60%を超えた場合に合格と判断する。				試験の方法 筆記試験(理学療法プログラムの内容も含む)小テスト			成績評価の方法・基準 筆記試験(80%)小テスト(20%)の結果が総合点の60%を超えた場合に合格と判断する。				試験の方法 筆記試験(理学療法プログラムの内容も含む)小テスト								
授業時間外学修(予習・復習等) 教科書を熟読し予習復習をすること。				履修上の留意事項 小テストは授業終了時に行う。			授業時間外学修(予習・復習等) 教科書を熟読し予習復習をすること。				履修上の留意事項 小テストは授業終了時に行う。								
質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【 】							質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【 】												
教科書 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法治療学Ⅰ				参考書 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法治療学Ⅱ			教科書 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法治療学Ⅱ				参考書 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法治療学Ⅱ								
参考文献 講義担当者が配布する。							参考文献 講義担当者が配布する。												

(甲)							(乙)												
科目名	老年期障害理学療法学	担当者	小島一範	必修/選択	必修		科目名	老年期障害理学療法学	担当者	運田克何	必修/選択	必修							
学科	理学療法	学年	3年	履修単位数	前期1単位	授業形態	演習	時間数	15時間	学科	理学療法	学年	3年	履修単位数	前期1単位	授業形態	演習	時間数	15時間
【講義の概要および到達目標】 概要：実習・教職での対象者が高齢者となる可能性が高いため、複数の病気を有する高齢者や虚弱な高齢者など、老年期における理学療法の理解を深める。また、高齢者に対するレクリエーションセラピーについて学ぶ。 到達目標：①レクリエーションセラピーの理論を理解できる。②加齢による身体変化を理解できる。③高齢者に多い問題を理解できる。④在宅におけるリハビリテーションを理解できる。⑤リハビリテーションにおけるリスク管理が理解できる。							【講義の概要および到達目標】 概要：実習・教職での対象者が高齢者となる可能性が高いため、複数の病気を有する高齢者や虚弱な高齢者など、老年期における理学療法の理解を深める。また、高齢者に対するレクリエーションセラピーについて学ぶ。 到達目標：①レクリエーションセラピーの理論を理解できる。②加齢による身体変化を理解できる。③高齢者に多い問題を理解できる。④在宅におけるリハビリテーションを理解できる。⑤リハビリテーションにおけるリスク管理が理解できる。												
【授業の方法】 1クラス40名講義							【授業の方法】 1クラス40名講義												
講義計画(テーマと内容等)							講義計画(テーマと内容等)												
1	オリエンテーション(加齢と疾患・老人の尊厳とその接し方)						1	オリエンテーション(加齢と疾患・老人の尊厳とその接し方)											
2	レクリエーションセラピー						2	レクリエーションセラピー											
3	加齢による身体変化①(廃用・誤用・通用症候群)						3	加齢による身体変化①(廃用・誤用・通用症候群)											
4	加齢による身体変化②(高次脳機能障害・認知症)						4	加齢による身体変化②(高次脳機能障害・認知症)											
5	高齢者に多い問題への対応(尿路感染・嚥下障害等)						5	高齢者に多い問題への対応(尿路感染・嚥下障害等)											
6	脳血管障害のリハビリテーション						6	脳血管障害のリハビリテーション											
7	高齢者の運動器疾患に対するリハビリテーション						7	高齢者の運動器疾患に対するリハビリテーション											
8	リハビリテーションに伴うリスク管理						8	リハビリテーションに伴うリスク管理											
9	高齢者総合機能評価						9	高齢者総合機能評価											
10	症例基礎学習						10	症例基礎学習											
成績評価の方法・基準 筆記試験の結果が総合点の60%を超えた場合に合格と判断する。				試験の方法 筆記試験			成績評価の方法・基準 筆記試験の結果が総合点の60%を超えた場合に合格と判断する。				試験の方法 筆記試験								
授業時間外学修(予習・復習等) 教科書を熟読し、予習復習をすること。				履修上の留意事項 特になし			授業時間外学修(予習・復習等) 教科書を熟読し、予習復習をすること。				履修上の留意事項 特になし								
質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【 】							質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【 】												
教科書 高齢者リハビリテーション実践マニュアル				参考書 ・レクリエーション社会参加を促す治療的レクリエーション ・老人のリハビリテーション ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野老年学第4版			教科書 高齢者リハビリテーション実践マニュアル				参考書 ・レクリエーション社会参加を促す治療的レクリエーション ・老人のリハビリテーション ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野老年学第4版								
参考文献 講義担当者が配布する。							参考文献 講義担当者が配布する。												

(新)							(旧)												
科目名	理学療法演習Ⅱ			担当者	増川武利・田中雅也	必修/選択	選択	科目名	理学療法演習Ⅱ			担当者	村西善洋・増川武利	必修/選択	選択				
学科	理学療法	学年	3年	履修単位	後期2単位	授業形態	演習	時間数	30時間	学科	理学療法	学年	3年	履修単位	後期2単位	授業形態	演習	時間数	30時間
【講義の概要および到達目標】 概要：臨床場面で遭遇する多様な対象者に対して、環境と社会的背景の両方に向けて、理学療法士として支援を行うための知識・技術の統合を図る。演習を通じ事例やバーベインシメントを活用し、施設指導の方法から地域社会へのはたらきかけまでの基本的な思考能力を鍛える。								【講義の概要および到達目標】 概要：臨床場面で遭遇する多様な対象者に対して、環境と社会的背景の両方に向けて、理学療法士として支援を行うための知識・技術の統合を図る。演習を通じ事例やバーベインシメントを活用し、施設指導の方法から地域社会へのはたらきかけまでの基本的な思考能力を鍛える。											
【授業の方法】 1クラス40名講義								【授業の方法】 1クラス40名講義											
講義計画(テーマと内容等)								講義計画(テーマと内容等)											
1	臨床推考1)環境と社会的背景から支援方法を探る 社会的背景の推論							1	臨床推考1)環境と社会的背景から支援方法を探る 社会的背景の推論										
2	症例① 1)社会的背景(行政サービス・介護保険等)			レポート作成				2	症例① 1)社会的背景(行政サービス・介護保険等)			レポート作成							
3	2)各評価結果からアセスメント・問題点抽出			レポート作成				3	2)各評価結果からアセスメント・問題点抽出			レポート作成							
4	3)統合解釈			レポート作成				4	3)統合解釈			レポート作成							
5	4)社会的背景を考慮したゴール設定を立案する			レポート作成				5	4)社会的背景を考慮したゴール設定を立案する			レポート作成							
6	5)介入方法戦略(地域社会への働きかけ)			レポート作成				6	5)介入方法戦略(地域社会への働きかけ)			レポート作成							
7	6)再評価			レポート作成				7	6)再評価			レポート作成							
8	臨床推考2)環境と社会的背景から支援方法を探る 社会的背景の推論							8	臨床推考2)環境と社会的背景から支援方法を探る 社会的背景の推論										
9	症例② 1)社会的背景(行政サービス・介護保険等)			レポート作成				9	症例② 1)社会的背景(行政サービス・介護保険等)			レポート作成							
10	2)各評価結果からアセスメント・問題点抽出			レポート作成				10	2)各評価結果からアセスメント・問題点抽出			レポート作成							
11	3)統合解釈			レポート作成				11	3)統合解釈			レポート作成							
12	4)社会的背景を考慮したゴール設定を立案する			レポート作成				12	4)社会的背景を考慮したゴール設定を立案する			レポート作成							
13	5)介入方法戦略(地域社会への働きかけ)			レポート作成				13	5)介入方法戦略(地域社会への働きかけ)			レポート作成							
14	6)再評価			レポート作成				14	6)再評価			レポート作成							
15	まとめ							15	まとめ										
成績評価の方法・基準				試験の方法				成績評価の方法・基準				試験の方法							
レポート課題(50%)および講義で提示される課題の取り組み状況と達成度(50%)				レポート 課題				レポート課題(50%)および講義で提示される課題の取り組み状況と達成度(50%)				レポート 課題							
授業時間外学修(予習・復習等)				履修上の留意事項				授業時間外学修(予習・復習等)				履修上の留意事項							
講義前に予習・復習すること。また、各講義後には要点をノートにまとめておくこと。				授業中に配布した資料は毎回持参すること。理由により追加配布は行わない。				講義前に予習・復習すること。また、各講義後には要点をノートにまとめておくこと。				授業中に配布した資料は毎回持参すること。理由により追加配布は行わない。							
質問に関する連絡先				質問に関する連絡先				質問に関する連絡先				質問に関する連絡先							
<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com				<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com				<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com				<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com							
<input type="checkbox"/> その他連絡先【masukawa@motoyama-e.com】				<input type="checkbox"/> その他連絡先【masukawa@motoyama-e.com】				<input type="checkbox"/> その他連絡先【masukawa@motoyama-e.com】				<input type="checkbox"/> その他連絡先【masukawa@motoyama-e.com】							
教科書				参考書				教科書				参考書							
症例に関わる教科書全て				その都度提示する。				症例に関わる教科書全て				その都度提示する。							
参考文献				必要に応じて講義担当者が配布する。				参考文献				必要に応じて講義担当者が配布する。							

(新)							(旧)												
科目名	予防理学療法学			担当者	小島一範	必修/選択	選択	科目名	予防理学療法学			担当者	蓮田克臣	必修/選択	選択				
学科	理学療法	学年	3年	履修単位	後期1単位	授業形態	講義	時間数	15時間	学科	理学療法	学年	3年	履修単位	後期1単位	授業形態	講義	時間数	15時間
【講義の概要および到達目標】 概要：現在、本邦の高齢化が問題となっており、高齢者の介護予防や健康増進は、社会的関心事である。近年、運動習慣により生活習慣病をはじめ多くの疾患の発症リスクを減少することが示され、理学療法士による適切な介入が期待されている。予防理学療法学では、日本理学療法士協会が推奨している介護予防を中心に学び理学療法士として予防医学に寄与する方法を学ぶことを目的とする。 到達目標：①本邦の公衆衛生の状況を理解できる。②地域包括ケアシステムを理解できる。③高齢者に対する予防理学療法を理解できる。④健康増進に関わる予防理学療法を理解できる。								【講義の概要および到達目標】 概要：現在、本邦の高齢化が問題となっており、高齢者の介護予防や健康増進は、社会的関心事である。近年、運動習慣により生活習慣病をはじめ多くの疾患の発症リスクを減少することが示され、理学療法士による適切な介入が期待されている。予防理学療法学では、日本理学療法士協会が推奨している介護予防を中心に学び理学療法士として予防医学に寄与する方法を学ぶことを目的とする。 到達目標：①本邦の公衆衛生の状況を理解できる。②地域包括ケアシステムを理解できる。③高齢者に対する予防理学療法を理解できる。④健康増進に関わる予防理学療法を理解できる。											
【授業の方法】 1クラス40名講義								【授業の方法】 1クラス40名講義											
講義計画(テーマと内容等)								講義計画(テーマと内容等)											
1	オリエンテーション(公衆衛生の動向)							1	オリエンテーション(公衆衛生の動向)										
2	介護予防(地域包括ケアシステム)							2	介護予防(地域包括ケアシステム)										
3	加齢による身体構造の変化							3	加齢による身体構造の変化										
4	認知症の発生子防と進行予防							4	認知症の発生子防と進行予防										
5	高齢者に対する転倒予防							5	高齢者に対する転倒予防										
6	栄養学からみた予防理学療法学							6	栄養学からみた予防理学療法学										
7	健康増進・ヘルスプロモーション・スポーツや就労を通じた健康づくりや傷害予防							7	健康増進・ヘルスプロモーション・スポーツや就労を通じた健康づくりや傷害予防										
8	再発予防に資する運動習慣、行動変容							8	再発予防に資する運動習慣、行動変容										
9	予防の社会的支援・制度設計に資する科学的検証							9	予防の社会的支援・制度設計に資する科学的検証										
10	地域における健康増進活動(シルバーハビリ体操など)							10	地域における健康増進活動(シルバーハビリ体操など)										
成績評価の方法・基準				試験の方法				成績評価の方法・基準				試験の方法							
小テスト：20% レポート：20% 期末試験：60%				小テスト レポート 筆記試験				小テスト：20% レポート：20% 期末試験：60%				小テスト レポート 筆記試験							
授業時間外学修(予習・復習等)				履修上の留意事項				授業時間外学修(予習・復習等)				履修上の留意事項							
教科書 配布資料を熟読し予習・復習すること				小テストは講義前10分程度で行う。				教科書 配布資料を熟読し予習・復習すること				小テストは講義前10分程度で行う。							
質問に関する連絡先				質問に関する連絡先				質問に関する連絡先				質問に関する連絡先							
<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com				<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com				<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com				<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com							
<input type="checkbox"/> その他連絡先【】				<input type="checkbox"/> その他連絡先【】				<input type="checkbox"/> その他連絡先【】				<input type="checkbox"/> その他連絡先【】							
教科書				参考書				教科書				参考書							
予防理学療法学要論 医歯薬出版				高齢者理学療法学 医歯薬出版				予防理学療法学要論 医歯薬出版				高齢者理学療法学 医歯薬出版							
参考文献				講義担当者が配布する。				参考文献				講義担当者が配布する。							

(新)							(旧)												
科目名	見学実習		担当者	増川武科・片岡弘明・田中雄也	必修/選択	必修	科目名	見学実習		担当者	村上善正・増川武科・片岡弘明	必修/選択	必修						
学科	理学療法	学年	1年	履修単位数	通年1単位	授業形態	実習	時間数	45時間	学科	理学療法	学年	1年	履修単位数	通年1単位	授業形態	実習	時間数	45時間
【講義の概要および到達目標】 概要：実習指導者のもとで、実際の理学療法場面を見学し倫理の重要性を学ぶとともに、実習指導者の他職種とのコミュニケーション場面を見学し、チーム医療の実際を体験する。また、対象者が抱える苦悩や悔みに気づき、専門職人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスの重要性を認識し、基盤的姿勢を養成する。 到達目標：①倫理の重要性と理学療法業務の概要を理解する。②対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立った誠意ある態度を学ぶ。③臨床現場で対象者や理学療法の現状を知り専門職人としての意識を高め、自身の課題を発見する。④関連職種と関わりを理解する。							【講義の概要および到達目標】 概要：実習指導者のもとで、実際の理学療法場面を見学し倫理の重要性を学ぶとともに、実習指導者の他職種とのコミュニケーション場面を見学し、チーム医療の実際を体験する。また、対象者が抱える苦悩や悔みに気づき、専門職人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスの重要性を認識し、基盤的姿勢を養成する。 到達目標：①倫理の重要性と理学療法業務の概要を理解する。②対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立った誠意ある態度を学ぶ。③臨床現場で対象者や理学療法の現状を知り専門職人としての意識を高め、自身の課題を発見する。④関連職種と関わりを理解する。												
【授業の方法】 理学療法学科40名 実習 プレゼンテーション レポート 1施設1名～2名程度							【授業の方法】 理学療法学科40名 実習 プレゼンテーション レポート 1施設1名～2名程度												
講義計画 (テーマと内容等)																			
【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：医療現場で求められる接遇の内容 【第1日～第6日】 実習オリエンテーション 見学計画の立案 臨床場面の見学 【実習後】 実習実施報告会での発表 レポート ※実習時間は1日8時間とする。							【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：医療現場で求められる接遇の内容 【第1日～第6日】 実習オリエンテーション 見学計画の立案 臨床場面の見学 【実習後】 実習実施報告会 見学実習課題 (レポート) ※実習時間は1日8時間とする。												
成績評価の方法・基準 実習実施報告会での発表 (50%)、レポート (50%) を総合して判定する。							成績評価の方法・基準 実習実施報告会 (50%) 見学実習課題 (50%) で判断する。												
授業時間外学修 (予習・復習等) 実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。							授業時間外学修 (予習・復習等) 実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。												
質問に関する連絡先 <input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先 【masukawa@motoyama-e.com】							質問に関する連絡先 <input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先 【masukawa@motoyama-e.com】												
教科書 実習で必要とするすべての専門書							教科書 実習で必要とするすべての専門書												
参考文献 オリエンテーション時に配布する。							参考文献 オリエンテーション時に配布する。												

(新)							(旧)												
科目名	評価実習		担当者	横山純大・那須宣宏・渡辺大直	必修/選択	必修	科目名	評価実習		担当者	横山純大・那須宣宏・渡辺大直	必修/選択	必修						
学科	理学療法	学年	3年	履修単位数	前期3単位	授業形態	実習	時間数	135時間	学科	理学療法	学年	3年	履修単位数	前期3単位	授業形態	実習	時間数	135時間
【講義の概要および到達目標】 概要：基幹科目で学んだ専門知識・技術をもち、実習指導者の指導により情報収集、評価 (検査・測定) を実践することで評価の重要性を理解する。また評価結果の解釈までの理学療法評価過程を臨床場面で実践し、解釈・統合する思考力を涵養し、多職種との連携について理解を深める。対象者が抱える苦悩や悔みに気づき、専門職人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスを基盤として、展開科目で学んだ他分野の視点を生かし、問題意識を育み、対象者の課題や地域の課題への「気づき」を得る。 到達目標：①対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立った誠意ある態度を育み、対象者の課題や地域の課題への「気づき」を得る。②臨床現場で対象者に適した情報収集・評価 (検査・測定) 方法の選択方法を修得する。③対象者へ実施可能な評価 (検査・測定) 技術を修得する。④実施した評価結果を総合的に解釈し、対象者を分析する思考力を修得する。⑤チーム医療における理学療法士の役割を理解する。⑥対象者を支える態度および積極的な態度を向け、その影響・変化・課題に気づく。							【講義の概要および到達目標】 概要：基幹科目で学んだ専門知識・技術をもち、実習指導者の指導により情報収集、評価 (検査・測定) を実践することで評価の重要性を理解する。また評価結果の解釈までの理学療法評価過程を臨床場面で実践し、解釈・統合する思考力を涵養し、多職種との連携について理解を深める。対象者が抱える苦悩や悔みに気づき、専門職人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスを基盤として、展開科目で学んだ他分野の視点を生かし、問題意識を育み、対象者の課題や地域の課題への「気づき」を得る。 到達目標：①対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立った誠意ある態度を育み、対象者の課題や地域の課題への「気づき」を得る。②臨床現場で対象者に適した情報収集・評価 (検査・測定) 方法の選択方法を修得する。③対象者へ実施可能な評価 (検査・測定) 技術を修得する。④実施した評価結果を総合的に解釈し、対象者を分析する思考力を修得する。⑤チーム医療における理学療法士の役割を理解する。⑥対象者を支える態度および積極的な態度を向け、その影響・変化・課題に気づく。												
【授業の方法】 理学療法学科40名 実習 プレゼンテーション 1施設1～2名程度							【授業の方法】 理学療法学科40名 実習 プレゼンテーション 1施設1～2名程度												
講義計画 (テーマと内容等)																			
【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：理学療法評価 (検査・測定) が正確に実施可能かを試験する。 医療面接/バイタルチェック/形態測定/ROM/MMT/DIR s/BRST/感覚検査等							【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：理学療法評価 (検査・測定) が正確に実施可能かを試験する。 医療面接/バイタルチェック/形態測定/ROM/MMT/DIR s/BRST/感覚検査等												
【第1週】 実習オリエンテーション 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施							【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施												
【第2週～第3週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の解釈							【第2週～第3週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の解釈												
【第4週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の統合・解釈・まとめ							【第4週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の統合・解釈・まとめ												
【実習後】 実習実施報告会での発表 ※実習時間は1日8時間とする。							【実習後】 実技試験 内容：理学療法評価 (検査・測定) が正確に実施可能かを試験する。 評価実習課題 (レポート) 実習実施報告会 ※実習時間は1日8時間とする。												
成績評価の方法・基準 実習時間 (実習の規定時間を満たすこと)、実習課題の完成状況、実習実施報告会での発表内容、実習に投入した労力、実習実施報告会での発表内容、実習時間外学修 (予習・復習等) を総合的に判定する。							成績評価の方法・基準 実技試験 (70%) 実習実施報告会 (30%) で総合的に判定する。 実習後実技試験 (内容は医療面接/バイタルチェック/理学療法評価 (形態測定/ROM/MMT/DIR s/BRST/感覚検査等) とする。 実習実施報告会												
授業時間外学修 (予習・復習等) 実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。							授業時間外学修 (予習・復習等) 実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。												
質問に関する連絡先 <input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先 【yokoyama@motoyama-e.com/sasaf@motoyama-e.com/watanabe@motoyama-e.com】							質問に関する連絡先 <input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先 【yokoyama@motoyama-e.com/sasaf@motoyama-e.com/watanabe@motoyama-e.com】												
教科書 実習で必要とするすべての専門書							教科書 実習で必要とするすべての専門書												
参考文献 オリエンテーション時に配布する。							参考文献 オリエンテーション時に配布する。												

(新)						(旧)													
科目名	総合実習Ⅰ			担当者	水野真人・山下新之・那須直宏	必修/選択	必修	科目名	総合実習Ⅰ			担当者	水野真人・山下新之・那須直宏	必修/選択	必修				
学科	理学療法	学年	3年	履修単位	後期8単位	授業形態	実習	時間数	360時間	学科	理学療法	学年	3年	履修単位	後期8単位	授業形態	実習	時間数	360時間
【講義の概要および到達目標】 概要：基礎科目で学んだ専門知識・技術と評価実習の成果を基礎とし、実習指導者の指導のもとで、評価・治療計画の立案・実施、考察という理学療法士の全体的な関与と連携を体験し、理学療法士に必要な臨床能力と実践力を身につける。また、関連する他分野から学んだ知識を活用し、評価実習における問題意識を深め、対象者の抱える課題や地域の課題について「気づき」を育み、問題を特定化していく。 到達目標：①基本的な理学療法評価技術を習得する。②理学療法評価結果を分析し、対象者の全体像を把握する力を修得する。③対象者に必要な治療計画の立案方法を修得する。④評価・治療計画立案・実施・考察という理学療法士の全過程を修得する。⑤関連職種と連携が図れるコミュニケーション能力を修得する。⑥対象者を取り巻く環境および制度等を理解し、その影響・変化・課題に気づき、まとめる力を修得する。								【講義の概要および到達目標】 概要：基礎科目で学んだ専門知識・技術と評価実習の成果を基礎とし、実習指導者の指導のもとで、評価・治療計画の立案・実施、考察という理学療法士の全体的な関与と連携を体験し、理学療法士に必要な臨床能力と実践力を身につける。また、関連する他分野から学んだ知識を活用し、評価実習における問題意識を深め、対象者の抱える課題や地域の課題について「気づき」を育み、問題を特定化していく。 到達目標：①基本的な理学療法評価技術を習得する。②理学療法評価結果を分析し、対象者の全体像を把握する力を修得する。③対象者に必要な治療計画の立案方法を修得する。④評価・治療計画立案・実施・考察という理学療法士の全過程を修得する。⑤関連職種と連携が図れるコミュニケーション能力を修得する。⑥対象者を取り巻く環境および制度等を理解し、その影響・変化・課題に気づき、まとめる力を修得する。											
【授業の方法】 理学療法学科40名 実習 プレゼンテーション 1施設1～2名程度								【授業の方法】 理学療法学科40名 実習 プレゼンテーション 1施設1～2名程度											
講義計画(テーマと内容等)												講義計画(テーマと内容等)							
【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：①理学療法評価(検査・測定)が正確に実施可能な試験する。 ②理学療法治療・訓練(RoMex)筋力増強ex/基本動作訓練(等)が安全に実施可能な試験する。								【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：①理学療法評価(検査・測定)が正確に実施可能な試験する。 ②理学療法治療・訓練(RoMex)筋力増強ex/基本動作訓練(等)が安全に実施可能な試験する。											
【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施								【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施											
【第2週】 臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施								【第2週】 臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施											
【第3週～第8週】 臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療・関連職種との連携を実施								【第3週～第8週】 臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療・関連職種との連携を実施											
【第9週】 臨床場面の見学・模倣・実施 治療・関連職種との連携を実施 実施した評価・治療・関連職種との連携についてまとめ								【第9週】 臨床場面の見学・模倣・実施 治療・関連職種との連携を実施 実施した評価・治療・関連職種との連携についてまとめ											
【実習後】 実習実施報告会 ※実習時間11日8時間とする。								【実習後】 実習実施報告会 ※実習時間11日8時間とする。											
成績評価の方法・基準				試験の方法				成績評価の方法・基準				試験の方法							
実習時間(実習の規定時間を満たすこと)、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容、実習に取り組む姿勢、そのほか各科目担当者が指定した実習の協賛企業実習認定会議で総合的に判定する。				実習時間(各実習の指定時間を満たすこと)、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容				実習時間(70%)、実習実施報告会(30%)で総合的に判定する。				実習後実技試験、内容は理学療法評価・訓練(RoMex/筋力増強ex/基本動作訓練(等))とする。実習実施報告会							
授業時間外学修(予習・復習等)				履修上の留意事項				授業時間外学修(予習・復習等)				履修上の留意事項							
実習に係る事前準備				OSCEの合格者 ※総合実習Ⅰ・総合実習Ⅱにおいて訪問リハビリテーション及び通所リハビリテーションに関する実習を45時間(1単位)行うこととする。				実習に係る事前準備				実習に関しては実習前に行う実技試験の合格者のみが参加できるものとする。 ※総合実習Ⅰ・総合実習Ⅱにおいて訪問リハビリテーション及び通所リハビリテーションに関する実習を45時間(1単位)行うこととする。							
質問に関する連絡先				<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先 【mas@motoyama-e.com】				質問に関する連絡先				<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先 【mas@motoyama-e.com】							
教科書				参考書				教科書				参考書							
実習で必要とするすべての専門書				指定なし				実習で必要とするすべての専門書				指定なし							
参考文献				オリエンテーション時に配布する。				参考文献				オリエンテーション時に配布する。							

(新)						(旧)													
科目名	総合実習Ⅱ			担当者	増川武利・鈴木啓子・小島一範	必修/選択	必修	科目名	総合実習Ⅱ			担当者	増川武利・鈴木啓子・小島一範	必修/選択	必修				
学科	理学療法	学年	4年	履修単位	前期8単位	授業形態	実習	時間数	360時間	学科	理学療法	学年	4年	履修単位	前期8単位	授業形態	実習	時間数	360時間
【講義の概要および到達目標】 概要：実習指導者の指導のもとで、評価・治療計画の立案・実施・考察という理学療法士の全過程を体験し、多職種連携の実践を体験し、理学療法士に必要な臨床能力と実践力を身につける。また、専門性強化プログラムと協働して臨床現場に組み込まれて連携することにより、職能発揮を促すことと実践力を高めることを目的とする。専門性強化プログラムは、連携実践プログラム、連携実践プログラム、連携実践プログラムを修得する。また、実践力を高めることにより、対象者の抱える課題や各種問題に対する思考力を醸成し、コミュニケーション能力を育む。また、実践力を高めることにより、対象者の抱える課題や各種問題に対する思考力を醸成し、コミュニケーション能力を育む。また、実践力を高めることにより、対象者の抱える課題や各種問題に対する思考力を醸成し、コミュニケーション能力を育む。								【講義の概要および到達目標】 概要：実習指導者の指導のもとで、評価・治療計画の立案・実施・考察という理学療法士の全過程を体験し、多職種連携の実践を体験し、理学療法士に必要な臨床能力と実践力を身につける。また、専門性強化プログラムと協働して臨床現場に組み込まれて連携することにより、職能発揮を促すことと実践力を高めることを目的とする。専門性強化プログラムは、連携実践プログラム、連携実践プログラム、連携実践プログラムを修得する。また、実践力を高めることにより、対象者の抱える課題や各種問題に対する思考力を醸成し、コミュニケーション能力を育む。また、実践力を高めることにより、対象者の抱える課題や各種問題に対する思考力を醸成し、コミュニケーション能力を育む。											
【授業の方法】 理学療法学科40名 実習 プレゼンテーション 1施設1～2名程度								【授業の方法】 理学療法学科40名 実習 プレゼンテーション 1施設1～2名程度											
講義計画(テーマと内容等)												講義計画(テーマと内容等)							
【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：理学療法評価・訓練(RoMex)筋力増強ex/基本動作訓練(等)が安全に実施可能な試験する。								【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：理学療法評価・訓練(RoMex)筋力増強ex/基本動作訓練(等)が安全に実施可能な試験する。											
【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施								【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施											
【第2週】 臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施								【第2週】 臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施											
【第3週～第8週】 臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療・関連職種との連携を実施								【第3週～第8週】 臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療・関連職種との連携を実施											
【第9週】 臨床場面の見学・模倣・実施 治療・関連職種との連携を実施 実施した評価・治療・関連職種との連携についてまとめ								【第9週】 臨床場面の見学・模倣・実施 治療・関連職種との連携を実施 実施した評価・治療・関連職種との連携についてまとめ											
【実習後】 実習実施報告会 ※実習時間11日8時間とする。								【実習後】 実習実施報告会 ※実習時間11日8時間とする。											
成績評価の方法・基準				試験の方法				成績評価の方法・基準				試験の方法							
実習時間(実習の規定時間を満たすこと)、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容、実習に取り組む姿勢、そのほか各科目担当者が指定した実習の協賛企業実習認定会議で総合的に判定する。				実習時間(各実習の指定時間を満たすこと)、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容				実習時間(70%)、実習実施報告会(30%)で総合的に判定する。				実習後実技試験、内容は理学療法評価・訓練(RoMex/筋力増強ex/基本動作訓練(等))とする。実習実施報告会							
授業時間外学修(予習・復習等)				履修上の留意事項				授業時間外学修(予習・復習等)				履修上の留意事項							
実習に係る事前準備				OSCEの合格者 ※総合実習Ⅰ・総合実習Ⅱにおいて訪問リハビリテーション及び通所リハビリテーションに関する実習を45時間(1単位)行うこととする。				実習に係る事前準備				実習に関しては実習前に行う実技試験の合格者のみが参加できるものとする。 ※総合実習Ⅰ・総合実習Ⅱにおいて訪問リハビリテーション及び通所リハビリテーションに関する実習を45時間(1単位)行うこととする。							
質問に関する連絡先				<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先 【masukawa@motoyama-e.com/suzuki@motoyama-e.com】				質問に関する連絡先				<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先 【masukawa@motoyama-e.com/suzuki@motoyama-e.com】							
教科書				参考書				教科書				参考書							
実習で必要とするすべての専門書				指定なし				実習で必要とするすべての専門書				指定なし							
参考文献				オリエンテーション時に配布する				参考文献				オリエンテーション時に配布する							

(新)										(旧)									
科目名	総合演習Ⅰ			担当者	水野真人・増川武利・遠藤正雄・山田常司	必修/選択	選択	科目名	総合演習Ⅰ			担当者	水野真人・山田常司・増川武利・遠藤正雄	必修/選択	選択				
学科	理学療法	学年	3年	履修単位数	前期1単位	授業形態	演習	時間数	15時間	学科	理学療法	学年	3年	履修単位数	前期1単位	授業形態	演習	時間数	15時間
【講義の概要および到達目標】 概要：これまでの様々な経験を振り返りながら、学修成果を統合的に活用し、職業現場や地域生活が抱える課題やニーズとは何かについて、「気づき」を育て問題を特定化するために必要な感性を養い、「総合演習Ⅰ」での「気づき」を「アイデア」へと具体化する演習へと繋げていく。 到達目標：疑問や問題点を列挙し整理できる。										【講義の概要および到達目標】 概要：これまでの様々な経験を振り返りながら、学修成果を統合的に活用し、職業現場や地域生活が抱える課題やニーズとは何かについて、「気づき」を育て問題を特定化するために必要な感性を養い、「総合演習Ⅱ」での「気づき」を「アイデア」へと具体化する演習へと繋げていく。 到達目標：疑問や問題点を列挙し整理できる。									
【授業の方法】 1クラス40名										【授業の方法】 1クラス40名									
講義計画（テーマと内容等）										講義計画（テーマと内容等）									
1	オリエンテーション									1	オリエンテーション 「気づき」を育て問題を特定化するアプローチ								
2	職業現場における現状とニーズに関する情報収集Ⅰ									2	課題や問題点に関する感性を磨く① 一現場での「気づき」の蓄積を得るための視点Ⅰ								
3	地域社会における現状とニーズに関する情報収集Ⅱ									3	課題や問題点に関する感性を磨く② 一現場での「気づき」の蓄積を得るための視点Ⅱ								
4	対象者に関する情報収集Ⅲ									4	課題や問題点に関する感性を磨く③ 一現場での「気づき」の蓄積を得るための視点Ⅲ								
5	情報収集（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）に基づいた職業別、地域別、対象者別における分類									5	課題や問題点に関する感性を磨く④ 一現場での「気づき」を得るための視点Ⅳ								
6	職業現場における課題の抽出Ⅰ									6	課題や問題点に関する感性を磨く⑤ 「気づき」を特定するための視点Ⅰ								
7	地域社会における課題の抽出Ⅱ									7	課題や問題点に関する感性を磨く⑥ 「気づき」を特定するための視点Ⅱ								
8	対象者における課題の抽出Ⅲ									8	課題や問題点に関する感性を磨く⑦ 「気づき」の特定化Ⅰ								
9	課題の抽出（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）に基づいた職業現場や地域社会における現状と課題の整理									9	課題や問題点に関する感性を磨く⑧ 「気づき」の特定化Ⅱ								
10	授業の総括									10	授業の総括								
成績評価の方法・基準					試験の方法					成績評価の方法・基準					試験の方法				
レポート課題（100%）で判定する。					レポート課題					レポート課題（100%）で判定する。					レポート課題				
授業時間外学修（予習・復習等）					履修上の留意事項					授業時間外学修（予習・復習等）					履修上の留意事項				
自発的に担当者と相談し事前準備を行うこと。					ディスカッションを自主的に行う。 進捗状況についてゼミ内での発表を課すことあり。準備を怠らないこと。					自発的に担当者と相談し事前準備を行うこと。					ディスカッションを自主的に行う。 進捗状況についてゼミ内での発表を課すことあり。準備を怠らないこと。				
質問に関する連絡先					参考書					質問に関する連絡先					参考書				
□ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【masikawa@motoyama-e.com/yamada@motoyama-e.com/yatanabe_1@motoyama-e.com】					随時紹介					□ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【masikawa@motoyama-e.com/yamada@motoyama-e.com/yatanabe_1@motoyama-e.com】					随時紹介				
教科書					参考書					教科書					参考書				
特に指定しない					随時紹介					特に指定しない					随時紹介				
参考文献 必要時に配布する。										参考文献 必要時に配布する。									

(新)										(旧)									
科目名	総合演習Ⅱ			担当者	山下新之・増川武利・遠藤正雄	必修/選択	選択	科目名	総合演習Ⅱ			担当者	山下新之・増川武利・遠藤正雄	必修/選択	選択				
学科	理学療法	学年	4年	履修単位数	前期1単位	授業形態	演習	時間数	15時間	学科	理学療法	学年	4年	履修単位数	前期1単位	授業形態	演習	時間数	15時間
【講義の概要および到達目標】 概要：「総合演習Ⅰ」の発展形として、これまでの学修成果を統合的に活用し、職業現場や地域生活が抱える課題やニーズを新しい視点で捉えるために、「気づき」(テーマの獲得)を「アイデア」へと具体化するアプローチ(法則性を見出す)を段階的に学んでいく。 到達目標：課題設定能力を身に付け、課題の解決に向けた活動を計画することができる。 注「総合演習Ⅰ」を受講していない場合でも受講できるが、「総合演習Ⅰ」の受講が望ましい。										【講義の概要および到達目標】 概要：「総合演習Ⅰ」の発展形として、これまでの学修成果を統合的に活用し、職業現場や地域生活が抱える課題やニーズを新しい視点で捉えるために、「気づき」(テーマの獲得)を「アイデア」へと具体化するアプローチ(法則性を見出す)を段階的に学んでいく。 到達目標：課題設定能力を身に付け、課題の解決に向けた活動を計画することができる。 注「総合演習Ⅰ」を受講していない場合でも受講できるが、「総合演習Ⅰ」の受講が望ましい。									
【授業の方法】 1クラス40名講義										【授業の方法】 1クラス40名講義									
講義計画（テーマと内容等）										講義計画（テーマと内容等）									
1	オリエンテーション									1	オリエンテーション 「気づき」を「アイデア」へと具体化するアプローチ								
2	職業現場や地域生活が抱える現状と課題									2	課題や問題点に関する「気づき」を育てる① 「アイデア」の洗練Ⅰ								
3	職業現場別（病院等の施設別）に分類した課題分析Ⅰ									3	課題や問題点に関する「気づき」を育てる② 「アイデア」の洗練Ⅱ								
4	地域別（県及び市町村別）に分類した課題分析Ⅱ									4	課題や問題点に関する「気づき」を育てる③ 「アイデア」の洗練Ⅲ								
5	対象者別（小児、成人、高齢者等）に分類した課題分析Ⅲ									5	課題や問題点に関する「気づき」を育てる④ 「アイデア」の発展Ⅰ								
6	課題分析（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）を踏まえた課題解決のための情報収集									6	課題や問題点に関する「気づき」を育てる⑤ 「アイデア」の発展Ⅱ								
7	課題分析（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）を踏まえた課題解決のための斬新的アイデアの考案									7	課題や問題点に関する「気づき」を育てる⑥ 「アイデア」の発展Ⅲ								
8	課題解決のための斬新的アイデアの導入についての検討									8	課題や問題点に関する「気づき」を育てる⑦ 「アイデア」の具体化Ⅰ								
9	職業現場や対象者の地域生活における課題解決のための包括的提案									9	課題や問題点に関する「気づき」を育てる⑧ 「アイデア」の具体化Ⅱ								
10	授業の総括									10	授業の総括								
成績評価の方法・基準					試験の方法					成績評価の方法・基準					試験の方法				
レポート課題（100%）で判定する。					レポート課題					レポート課題（100%）で判定する。					レポート課題				
授業時間外学修（予習・復習等）					履修上の留意事項					授業時間外学修（予習・復習等）					履修上の留意事項				
自発的に担当者と相談し事前準備を行うこと。					ディスカッションを自主的に行う。 進捗状況についてゼミ内での発表を課すことあり。準備を怠らないこと。					自発的に担当者と相談し事前準備を行うこと。					ディスカッションを自主的に行う。 進捗状況についてゼミ内での発表を課すことあり。準備を怠らないこと。				
質問に関する連絡先					参考書					質問に関する連絡先					参考書				
□ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【masikawa@motoyama-e.com/yamada@motoyama-e.com/yatanabe_1@motoyama-e.com】					随時紹介					□ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【masikawa@motoyama-e.com/yamada@motoyama-e.com/yatanabe_1@motoyama-e.com】					随時紹介				
教科書					参考書					教科書					参考書				
特に指定しない					随時紹介					特に指定しない					随時紹介				
参考文献 必要時に配布する。										参考文献 必要時に配布する。									

【実験・実習又は実技による授業科目】

(甲)										(乙)									
科目名	基礎理学療法実習Ⅰ			担当者	増川武利・田村正樹		必修/選択	必修		科目名	基礎理学療法実習Ⅰ			担当者	永野立人・増川武利		必修/選択	必修	
学科	理学療法	学年	2年	履修単位	後期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間	学科	理学療法	学年	2年	履修単位	後期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間
【講義の概要および到達目標】 概要：「基礎理学療法Ⅰ」の内容を基に、基本的動作訓練の内容を学ぶ。理論に沿った基本的動作訓練の立案を機能障害等のケースカンファレンス等から学ぶ。また、基本的動作の介助を利用した治療を学び、ImpairmentとDisabilityの目的別に使用する基本的動作を学ぶ。 到達目標：①理論に沿った基本的動作訓練を立案できる②基本的動作訓練を実施できる③基本的動作の介助を使用した治療ができる										【講義の概要および到達目標】 概要：「基礎理学療法Ⅰ」の内容を基に、基本的動作訓練の内容を学ぶ。理論に沿った基本的動作訓練の立案を機能障害等のケースカンファレンス等から学ぶ。また、基本的動作の介助を利用した治療を学び、ImpairmentとDisabilityの目的別に使用する基本的動作を学ぶ。 到達目標：①理論に沿った基本的動作訓練を立案できる②基本的動作訓練を実施できる③基本的動作の介助を使用した治療ができる									
【授業の方法】 1クラス40人講義										【授業の方法】 1クラス40人講義									
講義計画(テーマと内容等)										講義計画(テーマと内容等)									
1	オリエンテーション									1	オリエンテーション								
2	基本的動作訓練と治療									2	基本的動作訓練と治療								
3	可動域制限による基本的動作障害1									3	可動域制限による基本的動作障害1								
4	可動域制限による基本的動作障害2									4	可動域制限による基本的動作障害2								
5	筋力低下による基本的動作障害1									5	筋力低下による基本的動作障害1								
6	筋力低下による基本的動作障害2									6	筋力低下による基本的動作障害2								
7	筋持久力低下による基本的動作障害1									7	筋持久力低下による基本的動作障害1								
8	筋持久力低下による基本的動作障害2									8	筋持久力低下による基本的動作障害2								
9	協調性低下による基本的動作障害1									9	協調性低下による基本的動作障害1								
10	協調性低下による基本的動作障害2									10	協調性低下による基本的動作障害2								
11	全身調整能力低下による基本的動作障害1									11	全身調整能力低下による基本的動作障害1								
12	全身調整能力低下による基本的動作障害2									12	全身調整能力低下による基本的動作障害2								
13	臨床推考1									13	臨床推考1								
14	臨床推考2									14	臨床推考2								
15	臨床推考3									15	臨床推考3								
成績評価の方法・基準					試験の方法					成績評価の方法・基準					試験の方法				
レポート(50%)および講義で提示される課題の取り組み状況と達成度(50%)					レポート 課題					レポート(50%)および講義で提示される課題の取り組み状況と達成度(50%)					レポート 課題				
授業時間外学修(予習・復習等)					履修上の留意事項					授業時間外学修(予習・復習等)					履修上の留意事項				
運動学関連の参考書を活用して事前・事後学習を進めておくこと。					・動きやすい服装で参加すること。メジャーテープでは、履きの調整を待たず、履き替は履き替えること。学生から主体的に考え解決しようとする姿勢で議論に参加すること。また、講義を積極的に活用する授業態度に努めること。					運動学関連の参考書を活用して事前・事後学習を進めておくこと。					・動きやすい服装で参加すること。メジャーテープでは、履きの調整を待たず、履き替は履き替えること。学生から主体的に考え解決しようとする姿勢で議論に参加すること。また、講義を積極的に活用する授業態度に努めること。				
質問に関する連絡先					履修上の留意事項					質問に関する連絡先					履修上の留意事項				
<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【 masukawa@motoyama-e.com 】										<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【 masukawa@motoyama-e.com 】									
教科書					参考書					教科書					参考書				
・基礎運動学 第6版補訂(医書堂出版) ・15分ナレッジズ 運動学(中山書店)					・運動学関連の書籍(講義内で紹介する)					・基礎運動学 第6版補訂(医書堂出版) ・15分ナレッジズ 運動学(中山書店)					・運動学関連の書籍(講義内で紹介する)				
参考文献					参考文献					参考文献					参考文献				
講義時に配布する資料					講義時に配布する資料					講義時に配布する資料					講義時に配布する資料				
(甲)										(乙)									
科目名	基礎理学療法実習Ⅱ			担当者	山下裕之・横山 桃大・武田志保		必修/選択	必修		科目名	基礎理学療法実習Ⅱ			担当者	山下裕之・横山 桃大・武田志保		必修/選択	必修	
学科	理学療法	学年	3年	履修単位	前期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間	学科	理学療法	学年	3年	履修単位	前期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間
【講義の概要および到達目標】 概要：「基礎理学療法実習Ⅰ」の基本的概念を理解した上で、トランスファーを含む起居移乗動作の内容を学ぶ。運動学的内容を理解し、移乗動作の介助を行うことで、患者の動作スキル向上や、最小限の介助量にて最大限の効果を伴う方法を学ぶ。また、移乗動作における問題解決方法の基礎的知識と技術を学ぶ。 到達目標：①起き上がり介助ができる。②立ち上がり介助ができる。③床からの立ち上りの介助ができる。④ベッドと車椅子間のトランスファー介助ができる。⑤歩行の介助ができる。										【講義の概要および到達目標】 概要：「基礎理学療法実習Ⅰ」の基本的概念を理解した上で、トランスファーを含む起居移乗動作の内容を学ぶ。運動学的内容を理解し、移乗動作の介助を行うことで、患者の動作スキル向上や、最小限の介助量にて最大限の効果を伴う方法を学ぶ。また、移乗動作における問題解決方法の基礎的知識と技術を学ぶ。 到達目標：①起き上がり介助ができる。②立ち上がり介助ができる。③床からの立ち上りの介助ができる。④ベッドと車椅子間のトランスファー介助ができる。⑤歩行の介助ができる。									
【授業の方法】 1クラス40名講義										【授業の方法】 1クラス40名講義									
講義計画(テーマと内容等)										講義計画(テーマと内容等)									
1	基本的動作の運動学を実技を通して学ぶ。									1	基本的動作の運動学を実技を通して学ぶ。								
2	寝返り介助法									2	寝返り介助法								
3	起き上がり介助法①									3	起き上がり介助法①								
4	起き上がり介助法②									4	起き上がり介助法②								
5	坐位(静的アライメント)の調整法①									5	坐位(静的アライメント)の調整法①								
6	坐位(動的アライメント)の調整法②									6	坐位(動的アライメント)の調整法②								
7	立ち上がり介助法①									7	立ち上がり介助法①								
8	立ち上がり介助法②									8	立ち上がり介助法②								
9	立位(静的アライメント)の調整法①									9	立位(静的アライメント)の調整法①								
10	立位(動的アライメント)の調整法②									10	立位(動的アライメント)の調整法②								
11	移乗・移動介助法①									11	移乗・移動介助法①								
12	移乗・移動介助法②									12	移乗・移動介助法②								
13	歩行介助法①									13	歩行介助法①								
14	歩行介助法②									14	歩行介助法②								
15	応用歩行介助法(階段昇降・屋外歩行)									15	応用歩行介助法(階段昇降・屋外歩行)								
成績評価の方法・基準					試験の方法					成績評価の方法・基準					試験の方法				
レポート(50%)および講義で提示される課題の取り組み状況と達成度(50%)					レポート 課題					レポート(50%)および講義で提示される課題の取り組み状況と達成度(50%)					レポート 課題				
授業時間外学修(予習・復習等)					履修上の留意事項					授業時間外学修(予習・復習等)					履修上の留意事項				
運動学関連の参考書を活用して事前・事後学習を進めておくこと。					・動きやすい服装で参加すること。メジャーテープでは、履きの調整を待たず、履き替は履き替えること。学生から主体的に考え解決しようとする姿勢で議論に参加すること。また、講義を積極的に活用する授業態度に努めること。					運動学関連の参考書を活用して事前・事後学習を進めておくこと。					・動きやすい服装で参加すること。メジャーテープでは、履きの調整を待たず、履き替は履き替えること。学生から主体的に考え解決しようとする姿勢で議論に参加すること。また、講義を積極的に活用する授業態度に努めること。				
質問に関する連絡先					履修上の留意事項					質問に関する連絡先					履修上の留意事項				
<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【 watanabe_h@motoyama-e.com/yokoyama_a@motoyama-e.com 】										<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【 watanabe_h@motoyama-e.com/yokoyama_a@motoyama-e.com 】									
教科書					参考書					教科書					参考書				
・基礎運動学 第6版補訂(医書堂出版) ・15分ナレッジズ 運動学(中山書店)					・運動学関連の書籍(講義内で紹介する)					・基礎運動学 第6版補訂(医書堂出版) ・15分ナレッジズ 運動学(中山書店)					・運動学関連の書籍(講義内で紹介する)				
参考文献					参考文献					参考文献					参考文献				
適宜配布する。					適宜配布する。					適宜配布する。					適宜配布する。				

(新)							(旧)													
科目名	運動療法実習Ⅰ	担当者	鈴木啓子・田村正樹	必修/選択	必修	科目名	運動療法実習Ⅰ	担当者	鈴木啓子・渡辺大直	必修/選択	必修									
学科	理学療法	学年	2年	履修単位	前期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間	学科	理学療法	学年	2年	履修単位	前期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間	
【講義の概要および到達目標】 概要：「運動療法」の内容を基に、可動域運動、筋力増強運動について実際に実技を行うことで、運動療法の基礎を身につける。実習を行うことで、理論と技術を駆使する役割を果たし、実践力を身につける。 到達目標：①理論に沿った運動療法を立案し実施できる。②可動域運動を実施できる。③筋力増強運動を実施できる。							【講義の概要および到達目標】 概要：「運動療法」の内容を基に、可動域運動、筋力増強運動について実際に実技を行うことで、運動療法の基礎を身につける。実習を行うことで、理論と技術を駆使する役割を果たし、実践力を身につける。 到達目標：①理論に沿った運動療法を立案し実施できる。②可動域運動を実施できる。③筋力増強運動を実施できる。													
【授業の方法】 理学療法学科 1クラス40名							【授業の方法】 理学療法学科 1クラス40名													
講義計画(テーマと内容等)							講義計画(テーマと内容等)													
1	関節可動域運動①	上肢1				1	関節可動域運動①	上肢1				2	関節可動域運動②	上肢2						
2	関節可動域運動②	上肢2				3	関節可動域運動③	上肢3				4	関節可動域運動④	上肢4						
3	関節可動域運動③	上肢3				5	関節可動域運動⑤	下肢1				6	関節可動域運動⑥	下肢2						
4	関節可動域運動④	上肢4				7	関節可動域運動⑦	下肢3				8	関節可動域運動⑧	下肢4						
5	関節可動域運動⑤	下肢1				9	関節可動域運動⑨	体幹1				10	関節可動域運動⑩	体幹2						
6	関節可動域運動⑥	下肢2				11	筋力増強運動①	上肢1				12	筋力増強運動②	上肢2						
7	関節可動域運動⑦	下肢3				13	筋力増強運動③	下肢1				14	筋力増強運動④	下肢2						
8	関節可動域運動⑧	下肢4				15	筋力増強運動⑤	体幹												
成績評価の方法・基準							成績評価の方法・基準													
レポート(50%)および講義で提示される課題の取り組み状況と達成度(50%)							レポート(50%)および講義で提示される課題の取り組み状況と達成度(50%)													
試験の方法							試験の方法													
レポート 課題(実技に関する内容)							レポート 課題(実技に関する内容)													
授業時間外学修(予習・復習等)							授業時間外学修(予習・復習等)													
教科書、配布した資料を基に、自発的に学習し、講義に挑むこと。							教科書、配布した資料を基に、自発的に学習し、講義に挑むこと。													
履修上の留意事項							履修上の留意事項													
ケースを着用すること。※授業の最初に小テストを行う。							ケースを着用すること。※授業の最初に小テストを行う。													
質問に関する連絡先							質問に関する連絡先													
<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【suzuki@motoyama-e.com/watanabe_h@motoyama-e.com】							<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【suzuki@motoyama-e.com/watanabe_h@motoyama-e.com】													
教科書							教科書													
細田多穂:運動療法テキスト,南江堂 石川朋:15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト運動療法							細田多穂:運動療法テキスト,南江堂 石川朋:15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト運動療法													
参考書							参考書													
市橋則明:運動療法学,文光堂							市橋則明:運動療法学,文光堂													
参考文献 科目担当者が配布する。							参考文献 科目担当者が配布する。													

(新)							(旧)												
科目名	運動療法実習Ⅱ	担当者	鈴木啓子・田中理佳	必修/選択	必修	科目名	運動療法実習Ⅱ	担当者	蓮田信信・鈴木啓子	必修/選択	必修								
学科	理学療法	学年	2年	履修単位	後期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間	学科	理学療法	学年	2年	履修単位	後期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間
【講義の概要および到達目標】 概要：「運動療法」の内容を基に、持久力運動、協調性運動、全身調整運動について実際に実技を行うことで、運動療法の基礎を身につける。実技を行うことで、理論と技術を駆使する役割を果たし、実践力を身につける。 到達目標：①理論に沿った運動療法を立案し実施できる。②持久力運動を実施できる。③協調性運動を実施できる。④全身調整運動を実施できる。⑤治療体操・動作を利用した運動療法を実施できる。							【講義の概要および到達目標】 概要：「運動療法」の内容を基に、持久力運動、協調性運動、全身調整運動について実際に実技を行うことで、運動療法の基礎を身につける。実技を行うことで、理論と技術を駆使する役割を果たし、実践力を身につける。 到達目標：①理論に沿った運動療法を立案し実施できる。②持久力運動を実施できる。③協調性運動を実施できる。④全身調整運動を実施できる。⑤治療体操・動作を利用した運動療法を実施できる。												
【授業の方法】 理学療法学科 1クラス40名							【授業の方法】 理学療法学科 1クラス40名												
講義計画(テーマと内容等)							講義計画(テーマと内容等)												
1	筋持久力運動①					1	筋持久力運動①					2	筋持久力運動②						
2	筋持久力運動②					3	協調性運動①					4	協調性運動②						
3	協調性運動①					5	協調性運動③					6	全身調整運動①						
4	協調性運動②					7	全身調整運動②					8	全身調整運動③						
5	協調性運動③					9	治療体操①					10	治療体操②						
6	全身調整運動①					11	治療体操③					12	動作介助法①						
7	全身調整運動②					13	動作介助法②					14	動作介助法③						
8	全身調整運動③					15	まとめ												
成績評価の方法・基準							成績評価の方法・基準												
レポート(50%)および講義で提示される課題の取り組み状況と達成度(50%)							レポート(50%)および講義で提示される課題の取り組み状況と達成度(50%)												
試験の方法							試験の方法												
レポート 課題(実技に関する内容)							レポート 課題(実技に関する内容)												
授業時間外学修(予習・復習等)							授業時間外学修(予習・復習等)												
教科書、配布した資料を基に、自発的に学習し、講義に挑むこと。							教科書、配布した資料を基に、自発的に学習し、講義に挑むこと。												
履修上の留意事項							履修上の留意事項												
ケースを着用すること。※授業の最初に小テストを行う。							ケースを着用すること。※授業の最初に小テストを行う。												
質問に関する連絡先							質問に関する連絡先												
<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【suzuki@motoyama-e.com】							<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【suzuki@motoyama-e.com】												
教科書							教科書												
細田多穂:運動療法テキスト,南江堂 石川朋:15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト運動療法							細田多穂:運動療法テキスト,南江堂 石川朋:15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト運動療法												
参考書							参考書												
市橋則明:運動療法学,文光堂							市橋則明:運動療法学,文光堂												
参考文献 科目担当者が配布する。							参考文献 科目担当者が配布する。												

(Ⅷ)							(Ⅸ)												
科目名	物理療法実習		担当者	田村正樹・田中雅彦		必修/選択	必修	科目名	物理療法実習		担当者	村上善洋・小島一篤		必修/選択	必修				
学科	理学療法	学年	3年	履修単位数	前期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間	学科	理学療法	学年	3年	履修単位数	前期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間
【講義の概要および到達目標】 概要：「物理療法」の内容を基に、温熱療法・光線療法・水治療法・電気刺激療法・牽引療法・マッサージ療法（浮腫軽減）の実技を学ぶ。 到達目標：①温熱療法が使用できる。②光線療法が使用できる。③電気刺激療法が使用できる。④牽引療法ができる。⑤マッサージ療法ができる。							【講義の概要および到達目標】 概要：「物理療法」の内容を基に、温熱療法・光線療法・水治療法・電気刺激療法・牽引療法・マッサージ療法（浮腫軽減）の実技を学ぶ。 到達目標：①温熱療法が使用できる。②光線療法が使用できる。③電気刺激療法が使用できる。④牽引療法ができる。⑤マッサージ療法ができる。												
【授業の方法】 理学療法学科 1クラス40名講義							【授業の方法】 理学療法学科 1クラス40名講義												
講義計画（テーマと内容等）							講義計画（テーマと内容等）												
1	温熱療法①						1	温熱療法①											
2	温熱療法②						2	温熱療法②											
3	温熱療法③						3	温熱療法③											
4	温熱療法④						4	温熱療法④											
5	光線療法						5	光線療法											
6	寒冷療法						6	寒冷療法											
7	水治療法						7	水治療法											
8	超音波療法						8	超音波療法											
9	電気刺激療法①						9	電気刺激療法①											
10	電気刺激療法②						10	電気刺激療法②											
11	電気刺激療法③						11	電気刺激療法③											
12	電気刺激療法④						12	電気刺激療法④											
13	牽引療法						13	牽引療法											
14	マッサージ療法①						14	マッサージ療法①											
15	マッサージ療法②						15	マッサージ療法②											
成績評価の方法・基準				試験の方法			成績評価の方法・基準				試験の方法								
実技試験(80%)小テスト(20%)の結果が総合得点の60%を超えた場合に合格と判断する。				実技試験・小テスト			実技試験(80%)小テスト(20%)の結果が総合得点の60%を超えた場合に合格と判断する。				実技試験・小テスト								
授業時間外学修（予習・復習等） 教科書、配布した資料を基に、自発的に学習し、講義に 関わること。				履修上の留意事項 ケーシーを善用すること。※授業の最初に小テスト を行います。			授業時間外学修（予習・復習等） 教科書、配布した資料を基に、自発的に学習し、講義に 関わること。				履修上の留意事項 ケーシーを善用すること。※授業の最初に小テスト を行います。								
質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【 】							質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【 】												
教科書 15レクチャーシリーズ 物理療法学・実習				参考書 E・M物理療法 後部 一部 医歯薬出版 標準理学療法学「物理療法」吉尾 雅幸 医学書院			教科書 15レクチャーシリーズ 物理療法学・実習				参考書 E・M物理療法 後部 一部 医歯薬出版 標準理学療法学「物理療法」吉尾 雅幸 医学書院								
参考文献 科目担当者が配布する。							参考文献 必要に応じて講義担当者が配布する。												

(Ⅷ)							(Ⅸ)												
科目名	理学療法治療学実習Ⅰ		担当者	徳田政和・田村正樹・山田 英司		必修/選択	必修	科目名	理学療法治療学実習Ⅰ		担当者	山田 英司・徳田政和・渡辺圭美		必修/選択	必修				
学科	理学療法	学年	2年	履修単位数	前期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間	学科	理学療法	学年	2年	履修単位数	前期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間
【講義の概要および到達目標】 概要：「理学療法治療学Ⅰ・Ⅱ」の内容を基に、神経系疾患の機能障害を理解する。各障害に対する評価項目、画像所見を踏まえた障害像の把握をはじめ、治療・訓練内容を学ぶとともに最近のトピックスについても学ぶ。 到達目標：①神経系疾患の障害像を理解することができる。②神経系疾患の評価項目を実施することができる。③神経系疾患の画像を理解することができる。④理学療法の実施ができる。							【講義の概要および到達目標】 概要：「理学療法治療学Ⅰ・Ⅱ」の内容を基に、神経系疾患の機能障害を理解する。各障害に対する評価項目、画像所見を踏まえた障害像の把握をはじめ、治療・訓練内容を学ぶとともに最近のトピックスについても学ぶ。 到達目標：①神経系疾患の障害像を理解することができる。②神経系疾患の評価項目を実施することができる。③神経系疾患の画像を理解することができる。④理学療法の実施ができる。												
【授業の方法】 1クラス40名講義 実習中心の内容でアクティブラーニングの手法をとる。							【授業の方法】 1クラス40名講義 実習中心の内容でアクティブラーニングの手法をとる。												
講義計画（テーマと内容等）							講義計画（テーマと内容等）												
1	脳障害（脳血管障害）患者に対する理学療法①						1	脳障害（脳血管障害）患者に対する理学療法①											
2	脳障害（脳血管障害）患者に対する理学療法②						2	脳障害（脳血管障害）患者に対する理学療法②											
3	脳障害（パーキンソン氏病）患者に対する理学療法①						3	脳障害（パーキンソン氏病）患者に対する理学療法①											
4	脳障害（パーキンソン氏病）患者に対する理学療法②						4	脳障害（パーキンソン氏病）患者に対する理学療法②											
5	脳障害（脳性麻痺）に対する理学療法①						5	脳障害（脳性麻痺）に対する理学療法①											
6	脳障害（脳性麻痺）に対する理学療法②						6	脳障害（脳性麻痺）に対する理学療法②											
7	脊髄障害患者に対する理学療法①						7	脊髄障害患者に対する理学療法①											
8	脊髄障害患者に対する理学療法②						8	脊髄障害患者に対する理学療法②											
9	脊髄障害患者に対する理学療法③						9	脊髄障害患者に対する理学療法③											
10	失調症（脊髄小脳変性症）患者に対する理学療法①						10	失調症（脊髄小脳変性症）患者に対する理学療法①											
11	失調症（脊髄小脳変性症）患者に対する理学療法②						11	失調症（脊髄小脳変性症）患者に対する理学療法②											
12	筋萎縮性側索硬化症患者に対する理学療法						12	筋萎縮性側索硬化症患者に対する理学療法											
13	多発性硬化症患者に対する理学療法						13	多発性硬化症患者に対する理学療法											
14	ギランバレー症候群患者に対する理学療法						14	ギランバレー症候群患者に対する理学療法											
15	末梢神経損傷患者に対する理学療法						15	末梢神経損傷患者に対する理学療法											
成績評価の方法・基準				試験の方法			成績評価の方法・基準				試験の方法								
筆記試験の結果が総合得点の60%を超えた場合に合格と判断する。				筆記試験（各疾患に対する理学療法の内容）			筆記試験の結果が総合得点の60%を超えた場合に合格と判断する。				筆記試験（各疾患に対する理学療法の内容）								
授業時間外学修（予習・復習等） 教科書を熟読し、実技の予習復習をすること。				履修上の留意事項 ・KC着用 小テストは毎時間実施する。			授業時間外学修（予習・復習等） 教科書を熟読し、実技の予習復習をすること。				履修上の留意事項 ・KC着用 小テストは毎時間実施する。								
質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【yamadaeiji@motoyama-e.com/watanabe_h@motoyama-e.com】							質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【yamadaeiji@motoyama-e.com/watanabe_h@motoyama-e.com】												
教科書 神経障害 理学療法Ⅰ、石川明、中山書店				参考書 絵でみる脳と神経、馬場元毅、医学書院 神経診療クローズアップ、鈴木明宏、JF「ほけん」社			教科書 神経障害 理学療法Ⅰ、石川明、中山書店				参考書 絵でみる脳と神経、馬場元毅、医学書院 神経診療クローズアップ、鈴木明宏、JF「ほけん」社								
参考文献 必要に応じて講義担当者が配布する。							参考文献 必要に応じて講義担当者が配布する。												

(甲)						(乙)													
科目名	理学療法治療学実習Ⅱ	担当者	山下裕之・田中雅也	必修/選択	必修	科目名	理学療法治療学実習Ⅱ	担当者	村西善洋・山下裕之	必修/選択	必修								
学科	理学療法	学年	2年	履修単位数	後期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間	学科	理学療法	学年	2年	履修単位数	後期1単位	授業形態	実習	時間数	30時間
【講義の概要および到達目標】 概要：「理学療法治療学Ⅲ」の内容を基に、主に運動器障害理学療法の実践を学ぶ。整形外科領域における骨格と変形性関節症の例に疾患学・障害学の病態を理解し、必要な理学療法を選択し実施するための技術を養う。 到達目標：①運動器疾患における理学療法が実施できる。②変形性関節症の障害学を理解する。③変形性関節症の治療内容を理解する。④変形性関節症の治療のプログラムを作成できる。⑤変形性関節症の治療プログラムが実施できる。						【講義の概要および到達目標】 概要：「理学療法治療学Ⅲ」の内容を基に、主に運動器障害理学療法の実践を学ぶ。整形外科領域における骨格と変形性関節症の例に疾患学・障害学の病態を理解し、必要な理学療法を選択し実施するための技術を養う。 到達目標：①運動器疾患における理学療法が実施できる。②変形性関節症の障害学を理解する。③変形性関節症の治療内容を理解する。④変形性関節症の治療のプログラムを作成できる。⑤変形性関節症の治療プログラムが実施できる。													
【授業の方法】 1クラス40名講義 講義計画(テーマと内容等)						【授業の方法】 1クラス40名講義 講義計画(テーマと内容等)													
1	上肢骨折に対する理学療法					1	上肢骨折に対する理学療法												
2	下肢骨折に対する理学療法					2	下肢骨折に対する理学療法												
3	頸部疾患に対する理学療法					3	頸部疾患に対する理学療法												
4	腰部疾患に対する理学療法					4	腰部疾患に対する理学療法												
5	肩関節疾患に対する理学療法					5	肩関節疾患に対する理学療法												
6	肘・手関節疾患に対する理学療法					6	肘・手関節疾患に対する理学療法												
7	股関節疾患に対する理学療法					7	股関節疾患に対する理学療法												
8	膝・足関節疾患に対する理学療法					8	膝・足関節疾患に対する理学療法												
9	慢性関節リウマチに対する理学療法					9	慢性関節リウマチに対する理学療法												
10	変形性股関節症① 評価・治療(プログラム立案)					10	変形性股関節症① 評価・治療(プログラム立案)												
11	変形性股関節症② 理学療法プログラム実施1					11	変形性股関節症② 理学療法プログラム実施1												
12	変形性股関節症③ 理学療法プログラム実施2					12	変形性股関節症③ 理学療法プログラム実施2												
13	変形性膝関節症① 評価・治療(プログラム立案)					13	変形性膝関節症① 評価・治療(プログラム立案)												
14	変形性膝関節症② 理学療法プログラム実施1					14	変形性膝関節症② 理学療法プログラム実施1												
15	変形性膝関節症③ 理学療法プログラム実施2					15	変形性膝関節症③ 理学療法プログラム実施2												
成績評価の方法・基準			筆記試験(80%)小テスト(20%)の結果が総合点の60%を超えた場合に合格と判断する。			試験の方法			筆記試験(理学療法プログラムの内容も含む)小テスト										
授業時間外学修(予習・復習等)			教科書を熟読し予習復習をすること。			履修上の留意事項			小テストは授業終了時に行う。										
質問に関する連絡先			□ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【 】			質問に関する連絡先			□ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【 】										
教科書			15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法治療学Ⅰ			参考書			15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法治療学Ⅱ										
参考文献			講義担当者が配布する。			教科書			15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法治療学Ⅰ										
参考文献			講義担当者が配布する。			参考書			15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法治療学Ⅱ										

(甲)						(乙)													
科目名	見学実習	担当者	増川武利・片岡弘明・田中雅也	必修/選択	必修	科目名	見学実習	担当者	村西善洋・増川武利・片岡弘明	必修/選択	必修								
学科	理学療法	学年	1年	履修単位数	後期1単位	授業形態	実習	時間数	45時間	学科	理学療法	学年	1年	履修単位数	後期1単位	授業形態	実習	時間数	45時間
【講義の概要および到達目標】 概要：実習指導者のもとで、実際の理学療法場面を見学し倫理の重要性を学ぶとともに、実習指導者の他職種とのコミュニケーション場面を見学し、チーム医療の実践を体験する。また、対象者が抱える苦悩や痛みに気づき、専門職人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスの重要性を認識し、基礎的資質を涵養する。 到達目標：①倫理の重要性と理学療法業務の概要を理解する。②対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立った注意ある態度を学ぶ。③臨床現場で対象者や理学療法士の現状を知り専門職人としての意識を高め、自身の課題を発見する。④関連職種と関わりを理解する。						【講義の概要および到達目標】 概要：実習指導者のもとで、実際の理学療法場面を見学し倫理の重要性を学ぶとともに、実習指導者の他職種とのコミュニケーション場面を見学し、チーム医療の実践を体験する。また、対象者が抱える苦悩や痛みに気づき、専門職人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスの重要性を認識し、基礎的資質を涵養する。 到達目標：①倫理の重要性と理学療法業務の概要を理解する。②対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立った注意ある態度を学ぶ。③臨床現場で対象者や理学療法士の現状を知り専門職人としての意識を高め、自身の課題を発見する。④関連職種と関わりを理解する。													
【授業の方法】 理学療法学科40名 実習 プレゼンテーション レポート 1施設1名～2名程度 講義計画(テーマと内容等)						【授業の方法】 理学療法学科40名 実習 プレゼンテーション レポート 1施設1名～2名程度 講義計画(テーマと内容等)													
【実習前】			オリエンテーション 実技試験 内容：医療現場で求められる接遇の内容			【実習前】			オリエンテーション 実技試験 内容：医療現場で求められる接遇の内容										
【第1日～第6日】			実習オリエンテーション 見学計画の立案 臨床場面の見学			【第1日～第6日】			実習オリエンテーション 見学計画の立案 臨床場面の見学										
【実習後】			実習実施報告会での発表 レポート			【実習後】			実習実施報告会 見学実習課題(レポート)										
※実習時間は1日8時間とする。						※実習時間は1日8時間とする。													
成績評価の方法・基準			実習実施報告会での発表(50%)、レポート(50%)を総合して判断する。			試験の方法			実習実施報告会・見学実習課題										
授業時間外学修(予習・復習等)			実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。			履修上の留意事項			実習に関しては実習前に行う実技試験の合格者のみが参加できるものとする。										
質問に関する連絡先			□ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【masukawa@motoyama-e.com】			質問に関する連絡先			□ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【masukawa@motoyama-e.com】										
教科書			実習で必要とするすべての専門書			参考書			指定なし										
参考文献			オリエンテーション時に配布する。			教科書			実習で必要とするすべての専門書										
参考文献			オリエンテーション時に配布する。			参考書			指定なし										
参考文献			オリエンテーション時に配布する。			参考文献			オリエンテーション時に配布する。										

(新)						(旧)													
科目名	総合実習1			担当者	水野克人・山下裕之・那須宣宏	必修/選択	必修	科目名	総合実習1			担当者	水野克人・那須宣宏・渡辺大基	必修/選択	必修				
学科	理学療法	学年	3年	履修単位数	後期3単位	授業形態	実習	時間数	135時間	学科	理学療法	学年	3年	履修単位数	後期3単位	授業形態	実習	時間数	135時間
【講義の概要および到達目標】 概要：基礎科目で学んだ専門知識・技術をもち、実習指導者の指導により情報収集、評価（検査・測定）を実施することで評価の意義を理解する。また評価結果を解釈するための理学療法評価過程を臨床場面で実践し、解釈・設定する思考力を磨き、多職種との連携について理解を深める。対象者が抱える苦悩や痛みと共に、専門職人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスを基盤として、臨床科で学んだ他分野の視点を生かし、問題意識を育み、対象者の課題や地域の課題への「気づき」を得る。 到達目標：①対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立つ誠意ある対応を専門職人として責任ある姿勢を修得する。②臨床現場で対象者に適した情報収集・評価（検査・測定）方法の選択方法を修得する。③対象者へ実施可能な評価（検査・測定）技術を修得する。④実施した評価結果を総合的に、対象者を分析する思考力を修得する。⑤チーム医療における理学療法士の役割を理解する。⑥対象者を取り巻く環境および制度等へ意識を向け、その影響・変化・課題に気づく。						【講義の概要および到達目標】 概要：基礎科目で学んだ専門知識・技術をもち、実習指導者の指導により情報収集、評価（検査・測定）を実施することで評価の意義を理解する。また評価結果を解釈するための理学療法評価過程を臨床場面で実践し、解釈・設定する思考力を磨き、多職種との連携について理解を深める。対象者が抱える苦悩や痛みと共に、専門職人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスを基盤として、臨床科で学んだ他分野の視点を生かし、問題意識を育み、対象者の課題や地域の課題への「気づき」を得る。 到達目標：①対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立つ誠意ある対応を専門職人として責任ある姿勢を修得する。②臨床現場で対象者に適した情報収集・評価（検査・測定）方法の選択方法を修得する。③対象者へ実施可能な評価（検査・測定）技術を修得する。④実施した評価結果を総合的に、対象者を分析する思考力を修得する。⑤チーム医療における理学療法士の役割を理解する。⑥対象者を取り巻く環境および制度等へ意識を向け、その影響・変化・課題に気づく。													
【授業の方法】 理学療法学科40名 実習 プレゼンテーション 1施設1～2名程度						【授業の方法】 理学療法学科40名 実習 プレゼンテーション 1施設1～2名程度													
講義計画（テーマと内容等）						講義計画（テーマと内容等）													
【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：理学療法評価（検査・測定）が正確に実施可能かを試験する。 医療面接/バイタルチェック/形態測定/BGM/MT/DTR/s/BST/感覚検査等						【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：理学療法評価（検査・測定）が正確に実施可能かを試験する。 医療面接/バイタルチェック/形態測定/BGM/MT/DTR/s/BST/感覚検査等													
【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施						【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施													
【第2週～第3週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の解釈						【第2週～第3週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の解釈													
【第4週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の統合・解釈・まとめ						【第4週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の統合・解釈・まとめ													
【実習後】 実習実施報告会での発表 ※実習時間は1日8時間とする。						【実習後】 実技試験 内容：理学療法評価（検査・測定）が正確に実施可能かを試験する。 医療面接/バイタルチェック/形態測定/BGM/MT/DTR/s/BST/感覚検査等 評価実習課題（レポート） 実習実施報告会 ※実習時間は1日8時間とする。													
成績評価の方法・基準 実習時間（実習の規定時間を満たすこと）、実習課題の完成状況、実習実施報告会での発表内容、実習に関する姿勢、これらを担当者が評価し、本実習の臨床実習実習規定で総合的に判定する。						成績評価の方法・基準 実習時間（各実習の規定時間を満たすこと）、実習課題の完成状況、実習実施報告会での発表内容、実習に関する姿勢、これらを担当者が評価し、本実習の臨床実習実習規定で総合的に判定する。													
授業時間外学修（予習・復習等） 実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。						授業時間外学修（予習・復習等） 履修上の留意事項 OSCEの合格を履修条件とする。													
質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先 【 yokoyama_@motoyama-e.com/izumi@motoyama-e.com/teranishi_@motoyama-e.com 】						質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先 【 yokoyama_@motoyama-e.com/izumi@motoyama-e.com/teranishi_@motoyama-e.com 】													
教科書 実習で必要とするすべての専門書						教科書 実習で必要とするすべての専門書													
参考文献 オリエンテーション時に配布する。						参考文献 オリエンテーション時に配布する。													

(新)						(旧)													
科目名	総合実習1			担当者	水野克人・山下裕之・那須宣宏	必修/選択	必修	科目名	総合実習1			担当者	水野克人・山下裕之・那須宣宏	必修/選択	必修				
学科	理学療法	学年	3年	履修単位数	後期3単位	授業形態	実習	時間数	360時間	学科	理学療法	学年	3年	履修単位数	後期3単位	授業形態	実習	時間数	360時間
【講義の概要および到達目標】 概要：基礎科目で学んだ専門知識と技術と評価実習の成果を基盤とし、実習指導者の指導のもとで、評価・治療計画の立案・実施・考査という理学療法の全過程（関連職種との連携を体験し、理学療法士に必要な問題解決能力と実践力を身につける。また、関連する他分野から学ぶ知識を習得し、評価実習における問題意識を深め、対象者の健全な健康や地域の課題について「気づき」を得て、問題を特定化していく。②理学療法評価結果を分析し、対象者の全体的な把握を行うことができる。③対象者に必要な治療計画の立案方法を修得する。④評価・治療計画立案・実施・考査という理学療法の全過程を修得する。⑤関連職種と情報交換ができるコミュニケーション能力を修得する。⑥対象者を取り巻く環境および制度等を理解し、その影響・変化・課題に気づく。まためろ力を修得する。						【講義の概要および到達目標】 概要：基礎科目で学んだ専門知識と技術と評価実習の成果を基盤とし、実習指導者の指導のもとで、評価・治療計画の立案・実施・考査という理学療法の全過程（関連職種との連携を体験し、理学療法士に必要な問題解決能力と実践力を身につける。また、関連する他分野から学ぶ知識を習得し、評価実習における問題意識を深め、対象者の健全な健康や地域の課題について「気づき」を得て、問題を特定化していく。②理学療法評価結果を分析し、対象者の全体的な把握を行うことができる。③対象者に必要な治療計画の立案方法を修得する。④評価・治療計画立案・実施・考査という理学療法の全過程を修得する。⑤関連職種と情報交換ができるコミュニケーション能力を修得する。⑥対象者を取り巻く環境および制度等を理解し、その影響・変化・課題に気づく。まためろ力を修得する。													
【授業の方法】 理学療法学科40名 実習 プレゼンテーション 1施設1～2名程度						【授業の方法】 理学療法学科40名 実習 プレゼンテーション 1施設1～2名程度													
講義計画（テーマと内容等）						講義計画（テーマと内容等）													
【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：①理学療法評価（検査・測定）が正確に実施可能かを試験する。 ②理学療法評価・訓練（ROM/筋力増強/基本的動作訓練等）が安全に実施可能かを試験する。						【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：①理学療法評価（検査・測定）が正確に実施可能かを試験する。 ②理学療法評価・訓練（ROM/筋力増強/基本的動作訓練等）が安全に実施可能かを試験する。													
【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施						【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施													
【第2週】 臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施						【第2週】 臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施													
【第3週～第4週】 臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療・関連職種との連携の実施						【第3週～第4週】 臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療・関連職種との連携の実施													
【第5週】 臨床場面の見学・模倣・実施 治療・関連職種との連携を実施 実施した評価・治療・関連職種との連携についてまとめ						【第5週】 臨床場面の見学・模倣・実施 治療・関連職種との連携を実施 実施した評価・治療・関連職種との連携についてまとめ													
【実習後】 実習実施報告会での発表 ※実習時間は1日8時間とする。						【実習後】 実技試験 内容：理学療法評価（検査・測定）が正確に実施可能かを試験する。 実習実施報告会 ※実習時間は1日8時間とする。													
成績評価の方法・基準 実習時間（実習の規定時間を満たすこと）、実習課題の完成状況、実習実施報告会での発表内容、実習に関する姿勢、これらを担当者が評価し、本実習の臨床実習実習規定で総合的に判定する。						成績評価の方法・基準 実習時間（各実習の規定時間を満たすこと）、実習課題の完成状況、実習実施報告会での発表内容、実習に関する姿勢、これらを担当者が評価し、本実習の臨床実習実習規定で総合的に判定する。													
授業時間外学修（予習・復習等） 実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。						授業時間外学修（予習・復習等） 履修上の留意事項 OSCEの合格を履修条件とする。総合実習1・総合実習2において動機リハビリテーション及び通所リハビリテーションに関する実習を45時間（1単位）行うこととする。													
質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先 【 asahi@motoyama-e.com 】						質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先 【 asahi@motoyama-e.com 】													
教科書 実習で必要とするすべての専門書						教科書 実習で必要とするすべての専門書													
参考文献 オリエンテーション時に配布する。						参考文献 オリエンテーション時に配布する。													

(甲)						(乙)													
科目名	総合実習Ⅱ		担当者	増川武利・鈴木雪子・小島一範		必修/選択	必修	科目名	総合実習Ⅱ		担当者	増川武利・鈴木雪子・小島一範		必修/選択	必修				
学科	理学療法	学年	4年	履修単位数	前期8単位	授業形態	実習	時間数	360時間	学科	理学療法	学年	4年	履修単位数	前期8単位	授業形態	実習	時間数	360時間
【講義の概要および到達目標】						【講義の概要および到達目標】													
<p>概要：実習指導者の指導のもとで、評価・治療計画の立案・実施・考査という理学療法の全過程を実践し、多職種連携の実践を体験し、理学療法士に必要な問題解決能力と実践力を高める。また、専門技術習得プログラムと実践力育成プログラムを有機的に組み合わせることで、高い職業性を持つことができる高い実践力と豊かな創造力を養うことを目的とする。専門技術習得プログラムは、理論に基づいた深い応用力を培うことができる問題解決型学習を特徴とする。実践力育成プログラムは、実践力育成プログラムのテーマ革新モデルである地域活性化モデルで学んだ他分野の視点と知識を活用して、対象者の生活と課題解決につながる課題解決に向けて、「気づき」を促す。アイデアを創出し、テーマ革新と新たなサービス創出につなげていく豊かな創造力を養う。</p> <p>到達目標：①目標の理学療法評価法を習得する。②対象者の身体を把握する。③対象者に必要な治療計画の立案方法を習得する。④評価・治療計画立案・実施・考査という理学療法の全過程を体験し実践する。⑤対象者に必要な理学療法治療技術・指導・支援方法と応用力を習得する。⑥チーム医療における理学療法士の役割を認識し、積極的役割を担うコミュニケーション能力を習得する。⑦対象者の生活と課題解決に向けた課題等の課題について、「気づき」を促し、解決策の提案につなげていくことできる。</p>						<p>概要：実習指導者の指導のもとで、評価・治療計画の立案・実施・考査という理学療法の全過程を実践し、多職種連携の実践を体験し、理学療法士に必要な問題解決能力と実践力を高める。また、専門技術習得プログラムと実践力育成プログラムを有機的に組み合わせることで、高い職業性を持つことができる高い実践力と豊かな創造力を養うことを目的とする。専門技術習得プログラムは、理論に基づいた深い応用力を培うことができる問題解決型学習を特徴とする。実践力育成プログラムは、実践力育成プログラムのテーマ革新モデルである地域活性化モデルで学んだ他分野の視点と知識を活用して、対象者の生活と課題解決につながる課題解決に向けて、「気づき」を促す。アイデアを創出し、テーマ革新と新たなサービス創出につなげていく豊かな創造力を養う。</p> <p>到達目標：①目標の理学療法評価法を習得する。②対象者の身体を把握する。③対象者に必要な治療計画の立案方法を習得する。④評価・治療計画立案・実施・考査という理学療法の全過程を体験し実践する。⑤対象者に必要な理学療法治療技術・指導・支援方法と応用力を習得する。⑥チーム医療における理学療法士の役割を認識し、積極的役割を担うコミュニケーション能力を習得する。⑦対象者の生活と課題解決に向けた課題等の課題について、「気づき」を促し、解決策の提案につなげていくことできる。</p>													
【授業の方法】						【授業の方法】													
理学療法学科40名 実習 プレゼンテーション 1施設1～2名程度						理学療法学科40名 実習 プレゼンテーション 1施設1～2名程度													
講義計画（テーマと内容等）																			
【実習前】						【実習前】													
オリエンテーション 実技試験 内容：理学療法治療・訓練 (ROM+筋力増強+基本的動作訓練 等) が安全に実施可能な試験する。						オリエンテーション 実技試験 内容：理学療法治療・訓練 (ROM+筋力増強+基本的動作訓練 等) が安全に実施可能な試験する。													
【第1週】						【第1週】													
実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 考査への評価実施						実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 考査への評価実施													
【第2週】						【第2週】													
臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施						臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施													
【第3週～第8週】						【第3週～第8週】													
臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療、関連職種との連携を実施						臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療、関連職種との連携を実施													
【第9週】						【第9週】													
臨床場面の見学・模倣・実施 治療、関連職種との連携を実施 実施した評価、治療、関連職種との連携についてまとめ						臨床場面の見学・模倣・実施 治療、関連職種との連携を実施 実施した評価、治療、関連職種との連携についてまとめ													
【実習後】						【実習後】													
実習実施報告会の発表 ※実習時間は1日8時間とする。						実習実施報告会の発表 ※実習時間は1日8時間とする。													
成績評価の方法・基準						成績評価の方法・基準													
実習時間（実習の指定時間を満たすこと） 実習課題の達成状況、実習実施報告会での発表内容、実習に関する資料の作成、これらを科目担当者が評価し、各実習の臨床実習実施報告会での発表内容、実習実施報告会での発表内容						実習時間（各実習の指定時間を満たすこと） 実習課題の達成状況、実習実施報告会での発表内容						実習時間（実習の指定時間を満たすこと） 実習課題の達成状況、実習実施報告会（30%）で総合的に評価する。							
授業時間外学修（予習・復習等）						授業時間外学修（予習・復習等）													
実習に係る事前準備 実習に係る事前準備 実習に係る資料の作成に係る準備を自主的に行う。						履修上の留意事項 OSCEの合格を履修条件とする。※総合実習Ⅰ・総合実習Ⅱにおいて訪問リハビリテーション及び通所リハビリテーションに関する実習を45時間（1単位）行うこととする。						実習に係る事前準備 実習に係る資料の作成に係る準備を自主的に行う。 実習に関する実習を45時間（1単位）行うこととする。							
質問に関する連絡先						質問に関する連絡先													
□ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【masukawa@motoyama-e.com/suzuki@motoyama-e.com】						□ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【masukawa@motoyama-e.com/suzuki@motoyama-e.com】													
教科書						教科書													
実習で必要とするすべての専門書 指定なし						実習で必要とするすべての専門書 指定なし													
参考文献						参考文献													
オリエンテーション時に配布する						オリエンテーション時に配布する													

新旧対照表 作業療法学科

(新) 作業療法(1)(2)を廃棄して、初年次教育として追加する。						(旧)					
科目名	大学入門		担当者	勸使川原匡 他3名		必修/選択	必修				
学科	作業療法	学年	1年	履修単位数	前期1単位	授業形態	演習	時間数	15時間		
【講義の概要および到達目標】											
大学で自立的に学ぶために必要な、基本的事項を系統的に配属し、高校から大学教育にスムーズに移行できるようにする。大学教育の基本と学校方の基本を修得する。到達目標は、①大学で自立的に学ぶ力を身につけることができる。②自分が進む専門領域の基礎を知ることができる。③必要な資料や文献などを調査することができる。④文献などの内容を要約することができる。⑤定められた形式に従ってレポートを書くことができる。⑥レポートの内容を発表し、議論して自分の考えを再構成することができる。											
【授業の方法】											
一部の講義形式を除いては、10人程度の少人数編成のゼミ形式により授業を進める。テーマ終了時には小テストあるいはレポートにより、各々のテーマの理解度を確認する。											
講義計画(テーマと内容等)											
1	大学での学びとは(大学と高校との違い、大学教育の基本、理学療法・作業療法とは)										
2	大学資源の有効活用 図書館の使い方と資料検索の方法										
3	文献や資料の読み方(新聞記事・雑誌記事を利用)										
4	文献や資料の要約スキル(新聞記事・雑誌記事を利用)①										
5	文献や資料の要約スキル(新聞記事・雑誌記事を利用)②										
6	レポートの書き方①										
7	レポートの作成と発表①										
8	レポートの作成と発表②										
9	ディスカッションスキルを養う①										
10	ディスカッションスキルを養う②										
成績評価の方法・基準				試験の方法							
授業内の発表 60%テーマ終了時の小テストあるいはレポート40%で判定する。				発表、レポート課題							
授業時間外学修(予習・復習等)				履修上の留意事項							
授業終了後の復習と次の授業のテーマについて予習しておく。				大学教育を円滑に進めるための知識を得る授業であることから、積極的な姿勢で授業に参加すること。							
本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com											
□ その他連絡先【 】											
教科書				参考書							
特に指定しない				随時紹介							
参考文献 必要時に指示・配布する。											

(新) 基礎生物						(旧) 基礎生物					
科目名	基礎生物		担当者	勸使川原匡		必修/選択	必修				
学科	作業療法	学年	1年	履修単位数	前期1単位	授業形態	講義	時間数	15時間		
【講義の概要および到達目標】											
概要: 生命の基本が細胞レベルで完結し、遺伝、発生、育ち、死といった生命現象が細胞の基本機能の上に成り立つ仕組みを理解する。核酸やタンパク質、脂質、炭水化物の構造といった基礎項目をはじめ、細胞内情報伝達、細胞質代謝、神経生理、内分泌、免疫、疾患などの生物学や医学を学ぶために必要な基本事項を伝達し取り扱う。						【講義の概要および到達目標】					
到達目標: ①細胞の構成成分が遺伝子について学ぶべからず、その働きを理解する。②遺伝子情報の転写翻訳を理解する。③細胞分裂の仕組みを理解する。④物質とエネルギーの違いを理解する。⑤神経生理、内分泌、免疫の働きについて理解する。						到達目標: ①細胞の構成成分が遺伝子について学ぶべからず、その働きを理解する。②遺伝子情報の転写翻訳を理解する。③細胞分裂の仕組みを理解する。④物質とエネルギーの違いを理解する。⑤神経生理、内分泌、免疫の働きについて理解する。					
【授業の方法】											
1クラス40名講義 主に座学											
講義計画(テーマと内容等)											
1	オリエンテーション～生物学とは～ 細胞の構造と生命誕生										
2	生命体を構成する物質・遺伝子の構造と機能										
3	生体とエネルギー・光合成と窒素同化										
4	細胞の分裂・情報伝達・がん化										
5	生命体の受精と成長										
6	多細胞生物の自己維持機構										
7	遺伝のしくみと遺伝病										
8	生物と環境がつくる生態系										
9	生物の進化と多様性										
10	生命科学技術と社会										
成績評価の方法・基準				試験の方法							
筆記試験の結果が総合得点の60%を超えた場合に合格と判断する。				筆記試験							
授業時間外学修(予習・復習等)				履修上の留意事項							
予習課題を授業中に配布する。				課題を欠かさず取り組むこと。							
質問に関する連絡先											
□ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com											
□ その他連絡先【 】											
教科書				参考書							
やさしい基礎生物学 第2版 羊土社				授業中に生物学関連の資料を紹介する。							
参考文献 授業中に指示する。											

(新)										(旧)											
科目名	メディカル英語			担当者	安田 俊生			必修/選択	必修		科目名	メディカル英語			担当者	安田 俊生			必修/選択	選択	
学科	作業療法	学年	3年	履修単位数	後期2単位	授業形態	講義	時間数	30時間	学科	作業療法	学年	3年	履修単位数	後期2単位	授業形態	講義	時間数	30時間		
【講義の概要および到達目標】 概要：医療分野で職能に活用される専門用語や表現の習得を基礎に置き、基本的な英会話から英語論文（症例報告や研究論文等）における読解能力の向上を図る。特に、英会話及び英文読解に必要な基本的な英単語及び文法項目の復習を行い、医療分野に関連したトピックスの内容理解に努める。この授業での学びを通じて、4年次の卒業研究や医療現場での実践に活かしていく。 到達目標：①医療現場で活用される専門用語や表現が理解できる。②リハビリの臨床現場で英語による基本的なコミュニケーションをとることができる。③基礎的な読解力を身に付けて外国人患者を受け入れることができる。										【講義の概要および到達目標】 概要：医療分野で職能に活用される専門用語や表現の習得を基礎に置き、基本的な英会話から英語論文（症例報告や研究論文等）における読解能力の向上を図る。特に、英会話及び英文読解に必要な基本的な英単語及び文法項目の復習を行い、医療分野に関連したトピックスの内容理解に努める。この授業での学びを通じて、4年次の卒業研究や医療現場での実践に活かしていく。 到達目標：①医療現場で活用される専門用語や表現が理解できる。②リハビリの臨床現場で英語による基本的なコミュニケーションをとることができる。③基礎的な読解力を身に付けて外国人患者を受け入れることができる。											
【授業の方法】 ＊日本語と英語による講義。 ＊グループワーク、ケーススタディ、ロールプレイなどの実践を中心としたアクティブラーニング。 ＊詳細持ち込み可能。（スマホ・タブレット・PC・電子辞書可。）										【授業の方法】 ＊日本語と英語による講義。 ＊グループワーク、ケーススタディ、ロールプレイなどの実践を中心としたアクティブラーニング。 ＊詳細持ち込み可能。（スマホ・タブレット・PC・電子辞書可。）											
講義計画（テーマと内容等）										講義計画（テーマと内容等）											
1	講義概要の説明と学習目標の確認									1	講義概要の説明と学習目標の確認										
2	人体の各部名称：上肢・下肢・体幹・頭頸部の各部名称									2	人体の各部名称：上肢・下肢・体幹・頭頸部の各部名称										
3	初診時の基本的対応：患者背景の聴取における英語コミュニケーション技法									3	初診時の基本的対応：患者背景の聴取における英語コミュニケーション技法										
4	初診時の基本的対応：現病歴・経過・既往歴の聴取におけるコミュニケーション技法									4	初診時の基本的対応：現病歴・経過・既往歴の聴取におけるコミュニケーション技法										
5	初診時の基本的対応：症状・ニーズ・デマンズ・主訴の聴取におけるコミュニケーション技法									5	初診時の基本的対応：症状・ニーズ・デマンズ・主訴の聴取におけるコミュニケーション技法										
6	初診時の基本的対応：ロールプレイ（第2講～第4講までのコミュニケーション場面を実践する）									6	初診時の基本的対応：ロールプレイ（第2講～第4講までのコミュニケーション場面を実践する）										
7	評価時の基本的対応：評価におけるコミュニケーション技法1									7	評価時の基本的対応：評価におけるコミュニケーション技法1										
8	評価時の基本的対応：評価におけるコミュニケーション技法2									8	評価時の基本的対応：評価におけるコミュニケーション技法2										
9	治療・訓練時の基本的対応：治療・訓練におけるコミュニケーション技法1									9	治療・訓練時の基本的対応：治療・訓練におけるコミュニケーション技法1										
10	治療・訓練時の基本的対応：治療・訓練におけるコミュニケーション技法2									10	治療・訓練時の基本的対応：治療・訓練におけるコミュニケーション技法2										
11	治療・訓練時の基本的対応：治療・訓練におけるコミュニケーション技法3									11	治療・訓練時の基本的対応：治療・訓練におけるコミュニケーション技法3										
12	評価・治療・訓練時の基本的対応：ロールプレイ（第7講～第11講までのコミュニケーション場面を実践する）									12	評価・治療・訓練時の基本的対応：ロールプレイ（第7講～第11講までのコミュニケーション場面を実践する）										
13	メディカルスタッフとのコミュニケーション技法を学ぶ（基礎編）									13	メディカルスタッフとのコミュニケーション技法を学ぶ（基礎編）										
14	メディカルスタッフとのコミュニケーション技法を学ぶ（応用編）									14	メディカルスタッフとのコミュニケーション技法を学ぶ（応用編）										
15	本講座で学んだことを総動員したロールプレイ									15	本講座で学んだことを総動員したロールプレイ										
成績評価の方法・基準					試験の方法					成績評価の方法・基準					試験の方法						
レポート及び提出物：20%					筆記試験					レポート及び提出物：20%					筆記試験						
筆記試験：80%										筆記試験：80%											
授業時間外学修（予習・復習等）					履修上の留意事項					授業時間外学修（予習・復習等）					履修上の留意事項						
＊各授業についての予習をして臨むこと。テーマによっては準備を指示する場合あり。					特になし					＊各授業についての予習をして臨むこと。テーマによっては準備を指示する場合あり。					特になし						
質問に関する連絡先										質問に関する連絡先											
<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【yasuda@motoyama-e.com】										<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【yasuda@motoyama-e.com】											
教科書					参考書					教科書					参考書						
PT・OTが書いたリハビリテーション英会話 medical view					英語で診療 内科系 英語で診療 外科系 実践！メディカル英語					PT・OTが書いたリハビリテーション英会話 medical view					英語で診療 内科系 英語で診療 外科系 実践！メディカル英語						
参考文献 授業中に指示する。										参考文献 授業中に指示する。											

(新)										(旧)											
科目名	見学実習			担当者	吉田直樹・十河正樹・渡部悠司			必修/選択	必修		科目名	見学実習			担当者	吉田直樹・十河正樹・渡部悠司			必修/選択	必修	
学科	作業療法	学年	1年	履修単位数	通年1単位	授業形態	実習	時間数	45時間	学科	作業療法	学年	1年	履修単位数	通年1単位	授業形態	実習	時間数	45時間		
【講義の概要および到達目標】 概要：実習指導者のもとで、実際の作業療法現場を見学し倫理の重要性を学ぶとともに、実習指導者の他職種とのコミュニケーション場面を見学し、チーム医療の実態を把握する。また、対象者が抱える苦悩や悔みなどに気づき、専門職業人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスの重要性を認識し、基盤的資質を涵養する。 到達目標：①倫理の重要性と作業療法業務の概要を理解する。②対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立った誠意ある態度を学ぶ。③臨床現場で対象者や作業療法士の現状を知り専門職業人としての意識を高め、自身の課題を発見する。④関連職種と関わりを理解する。										【講義の概要および到達目標】 概要：実習指導者のもとで、実際の作業療法現場を見学し倫理の重要性を学ぶとともに、実習指導者の他職種とのコミュニケーション場面を見学し、チーム医療の実態を把握する。また、対象者が抱える苦悩や悔みなどに気づき、専門職業人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスの重要性を認識し、基盤的資質を涵養する。 到達目標：①倫理の重要性と作業療法業務の概要を理解する。②対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立った誠意ある態度を学ぶ。③臨床現場で対象者や作業療法士の現状を知り専門職業人としての意識を高め、自身の課題を発見する。④関連職種と関わりを理解する。											
【授業の方法】 作業療法学科40名 実習 プレゼンテーション										【授業の方法】 作業療法学科40名 実習 プレゼンテーション											
講義計画（テーマと内容等）										講義計画（テーマと内容等）											
【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：医療現場で求められる接遇の内容 【第1日～第6日】 実習オリエンテーション 見学計画の立案 臨床場面の見学 【実習後】 実習実施報告会での発表 レポート ※実習時間は1日8時間とする。										【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：医療現場で求められる接遇の内容 【第1日～第6日】 実習オリエンテーション 見学計画の立案 臨床場面の見学 【実習後】 実習実施報告会 見学実習課題（レポート） ※実習時間は1日8時間とする。											
成績評価の方法・基準					試験の方法					成績評価の方法・基準					試験の方法						
実習実施報告会での発表（50%）					レポート（50%）を添削して判定する。					実習実施報告会での発表、レポート提出					実習実施報告会・見学実習課題						
授業時間外学修（予習・復習等）					履修上の留意事項					授業時間外学修（予習・復習等）					履修上の留意事項						
実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。					実習に関しては実習前に行う実技試験の合格者のみが参加できるものとする。					実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。					実習に関しては実習前に行う実技試験の合格者のみが参加できるものとする。						
質問に関する連絡先										質問に関する連絡先											
<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【sogo@motoyama-e.com/watanabe@motoyama-e.com】										<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【sogo@motoyama-e.com/watanabe@motoyama-e.com】											
教科書					参考書					教科書					参考書						
実習で必要とするすべての専門書					指定なし					実習で必要とするすべての専門書					指定なし						
参考文献 オリエンテーション時に配布する										参考文献 オリエンテーション時に配布する											

(新)						(旧)													
科目名	評価実習	担当者	十河正樹・渡部悠司・林聡	必修/選択	必修	科目名	評価実習	担当者	十河正樹・渡部悠司・林聡	必修/選択	必修								
学科	作業療法	学年	3年	履修単位数	前期3単位	授業形態	実習	時間数	135時間	学科	作業療法	学年	3年	履修単位数	前期3単位	授業形態	実習	時間数	135時間
【講義の概要および到達目標】 概要：基礎科目で学んだ専門知識・技術をもとに、実習指導者の指導により情報収集、評価（検査・測定）を実践することで評価の重要性を理解する。また評価結果の解釈までの作業療法評価過程を臨床現場で実践し、解釈・統合する思考力を高め、多職種との連携について理解を深める。対象者の抱える苦悩や悩みに応じ、専門職人としての責任ある役割を担うことに関する態度・コミュニケーションスキルを基盤として、履修科目で学んだ他分野の視点を生かし、問題意識を育み、対象者の課題や地域の課題への「気づき」を得る。到達目標：①対象者の苦悩や悩みに応じ、責任ある役割を担うことに関する態度を育成する。②臨床現場で対象者に適した情報収集・評価（検査・測定）方法の選択方法を修得する。③対象者へ実施可能な評価（検査・測定）技術を修得する。④実施した評価結果を統合解釈し、対象者を分析する思考力を修得する。⑤チーム医療における作業療法の役割を理解する。⑥対象者を取り巻く環境および制度等一連を向け、その影響・変化・課題に気づく。						【講義の概要および到達目標】 概要：基礎科目で学んだ専門知識・技術をもとに、実習指導者の指導により情報収集、評価（検査・測定）を実践することで評価の重要性を理解する。また評価結果の解釈までの作業療法評価過程を臨床現場で実践し、解釈・統合する思考力を高め、多職種との連携について理解を深める。対象者の抱える苦悩や悩みに応じ、専門職人としての責任ある役割を担うことに関する態度・コミュニケーションスキルを基盤として、履修科目で学んだ他分野の視点を生かし、問題意識を育み、対象者の課題や地域の課題への「気づき」を得る。到達目標：①対象者の苦悩や悩みに応じ、責任ある役割を担うことに関する態度を育成する。②臨床現場で対象者に適した情報収集・評価（検査・測定）方法の選択方法を修得する。③対象者へ実施可能な評価（検査・測定）技術を修得する。④実施した評価結果を統合解釈し、対象者を分析する思考力を修得する。⑤チーム医療における作業療法の役割を理解する。⑥対象者を取り巻く環境および制度等一連を向け、その影響・変化・課題に気づく。													
【授業の方法】 作業療法学科40名 実習 プレゼンテーション						【授業の方法】 作業療法学科40名 実習 プレゼンテーション													
講義計画（テーマと内容等）						講義計画（テーマと内容等）													
【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：作業療法評価（検査・測定）が正確に実施可能な試験する。 医療面接/バイタルチェック/ROM/BSST/感覚検査/認知機能検査 等						【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：作業療法評価（検査・測定）が正確に実施可能な試験する。 医療面接/バイタルチェック/ROM/BSST/感覚検査/認知機能検査 等													
【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案 対象者への評価実施 事例への評価実施						【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案 対象者への評価実施 事例への評価実施													
【第2週～第3週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の解釈						【第2週～第3週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の解釈													
【第4週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の統合・解釈、まとめ						【第4週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の統合・解釈、まとめ													
【実習後】 実技試験 内容：作業療法評価（検査・測定）が正確に実施可能な試験する。 医療面接/バイタルチェック/ROM/BSST/感覚検査/認知機能検査 等 実習実施報告会の発表						【実習後】 実技試験 内容：作業療法評価（検査・測定）が正確に実施可能な試験する。 医療面接/バイタルチェック/ROM/BSST/感覚検査/認知機能検査 等 実習実施報告会の発表													
※実習時間は118時間とする。						※実習時間は118時間とする。													
成績評価の方法・基準						成績評価の方法・基準													
実習時間（実習の指定時間を満たすこと）、実習課題の完成状況、実習実施報告会での発表内容、実習（取組）の姿勢、これらを科目担当者が評価し、各実習の臨床実習実施報告会等で総合的に評価する。						実習時間（実習の指定時間を満たすこと）、実習課題の完成状況、実習実施報告会での発表内容、実習（取組）の姿勢、これらを科目担当者が評価し、各実習の臨床実習実施報告会等で総合的に評価する。													
試験の方法						試験の方法													
実習後実技試験：内容は作業療法評価（検査・測定）医療面接/バイタルチェック/ROM/BSST/感覚検査/認知機能検査 等とする。 実習実施報告会での発表						実習後実技試験（70%）実習実施報告会（30%）で総合的に評価する。 実習実施報告会													
授業時間外学修（予習・復習等）						授業時間外学修（予習・復習等）													
実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。						実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。													
履修上の留意事項 OSCEの合格者						履修上の留意事項 OSCEの合格者													
質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【 sogo@motoyama-e.com/watanabe@motoyama-e.com/hayashi@motoyama-e.com 】						質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【 sogo@motoyama-e.com/watanabe@motoyama-e.com/hayashi@motoyama-e.com 】													
教科書 実習で必要とするすべての専門書						教科書 実習で必要とするすべての専門書													
参考書 特に指定なし						参考書 特に指定なし													
参考文献 オリエンテーション時に配布する。						参考文献 オリエンテーション時に配布する。													

(新)						(旧)													
科目名	総合実習Ⅰ	担当者	渡部悠司・吉田直樹	必修/選択	必修	科目名	総合実習Ⅰ	担当者	渡部悠司・吉田直樹	必修/選択	必修								
学科	作業療法	学年	3年	履修単位数	後期9単位	授業形態	実習	時間数	405時間	学科	作業療法	学年	3年	履修単位数	後期9単位	授業形態	実習	時間数	405時間
【講義の概要および到達目標】 概要：基礎科目で学んだ専門知識・技術と評価実習の成果を基盤として、実習指導者の指導のもとで、評価・治療計画の立案・実施、考案という作業療法の全過程と連携を体験し、作業療法に必要な問題解決能力・実践力を身につける。また、関連する他分野から学んだ知識を活用し、評価実習における問題意識を深め、対象者の抱える課題や地域の課題について「気づき」を育む。到達目標：①基本的な作業療法評価技術を修得する。②作業療法評価結果を分析し、対象者の全体像を把握する力を修得する。③対象者に必要な治療計画の立案方法を修得する。④評価・治療計画立案・実施・考案という作業療法の全過程を修得する。⑤関連職種と連携が可能なコミュニケーション能力を修得する。⑥対象者を取り巻く環境および制度等を理解し、その影響・変化・課題に気づき、まとめる力を修得する。						【講義の概要および到達目標】 概要：基礎科目で学んだ専門知識・技術と評価実習の成果を基盤として、実習指導者の指導のもとで、評価・治療計画の立案・実施、考案という作業療法の全過程と連携を体験し、作業療法に必要な問題解決能力・実践力を身につける。また、関連する他分野から学んだ知識を活用し、評価実習における問題意識を深め、対象者の抱える課題や地域の課題について「気づき」を育む。到達目標：①基本的な作業療法評価技術を修得する。②作業療法評価結果を分析し、対象者の全体像を把握する力を修得する。③対象者に必要な治療計画の立案方法を修得する。④評価・治療計画立案・実施・考案という作業療法の全過程を修得する。⑤関連職種と連携が可能なコミュニケーション能力を修得する。⑥対象者を取り巻く環境および制度等を理解し、その影響・変化・課題に気づき、まとめる力を修得する。													
【授業の方法】 作業療法学科40名 実習 プレゼンテーション						【授業の方法】 作業療法学科40名 実習 プレゼンテーション													
講義計画（テーマと内容等）						講義計画（テーマと内容等）													
【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：①作業療法評価（検査・測定）が正確に実施可能な試験する。②作業療法評価・訓練（ROM/作業活動/応用的動作訓練 等）が安全に実施可能な試験する。						【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：①作業療法評価（検査・測定）が正確に実施可能な試験する。②作業療法評価・訓練（ROM/作業活動/応用的動作訓練 等）が安全に実施可能な試験する。													
【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施						【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施													
【第2週】 臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施						【第2週】 臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施													
【第3週～第8週】 臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療、関連職種との連携の実施						【第3週～第8週】 臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療、関連職種との連携の実施													
【第9週】 臨床場面の見学・模倣・実施 治療、関連職種との連携を実施 実施した評価・治療、関連職種との連携についてまとめ						【第9週】 臨床場面の見学・模倣・実施 治療、関連職種との連携を実施 実施した評価・治療、関連職種との連携についてまとめ													
【実習後】 実技試験 内容：①作業療法評価（検査・測定）が正確に実施可能な試験する。②作業療法評価・訓練（ROM/作業活動/応用的動作訓練 等）が安全に実施可能な試験する。 実習実施報告会の発表						【実習後】 実技試験 内容：①作業療法評価（検査・測定）が正確に実施可能な試験する。②作業療法評価・訓練（ROM/作業活動/応用的動作訓練 等）が安全に実施可能な試験する。 実習実施報告会の発表													
※実習時間は118時間とする。						※実習時間は118時間とする。													
成績評価の方法・基準						成績評価の方法・基準													
実習時間（実習の指定時間を満たすこと）、実習課題の完成状況、実習実施報告会での発表内容、実習（取組）の姿勢、これらを科目担当者が評価し、各実習の臨床実習実施報告会等で総合的に評価する。						実習時間（実習の指定時間を満たすこと）、実習課題の完成状況、実習実施報告会での発表内容、実習（取組）の姿勢、これらを科目担当者が評価し、各実習の臨床実習実施報告会等で総合的に評価する。													
試験の方法						試験の方法													
実習後実技試験：内容は作業療法評価（検査・測定）作業療法評価・訓練（ROM/作業活動/応用的動作訓練 等）とする。 実習実施報告会での発表						実習後実技試験（70%）実習実施報告会（30%）で総合的に評価する。 実習実施報告会													
授業時間外学修（予習・復習等）						授業時間外学修（予習・復習等）													
実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。						実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。													
履修上の留意事項 OSCEの合格者						履修上の留意事項 OSCEの合格者													
質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【 watanabe@motoyama-e.com 】						質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【 watanabe@motoyama-e.com 】													
教科書 実習で必要とするすべての専門書						教科書 実習で必要とするすべての専門書													
参考書 特に指定なし						参考書 特に指定なし													
参考文献 オリエンテーション時に配布する。						参考文献 オリエンテーション時に配布する。													

(新)										(旧)									
科目名	総合実習Ⅱ	担当者	十河正樹・野口泰子	必修/選択	必修	科目名	総合実習Ⅱ	担当者	十河正樹・野口泰子	必修/選択	必修								
学科	作業療法	学年	4年	履修単位	前期9単位	授業形態	実習	時間数	405時間	学科	作業療法	学年	4年	履修単位	前期9単位	授業形態	実習	時間数	405時間
【講義の概要および到達目標】 概要：実習指導者の指導のもと、評価・治療計画の立案・実施・考査という作業療法のプロセスを実践し、多職種連携の実態を体験し、作業療法士に必要な問題解決能力と実践力に磨きをかける。また、専門技術習得プログラムと関係力育成プログラムを有機的に組み合わせて実施することにより、職業現場を目標とする高い実践力と豊かな創造力を養うことを目的とする。専門技術習得プログラムは、理論に裏付けられた高い応用力を修得できる応用治療技術実習と総合実習Ⅱを連動させることにより、対象者の疾病への理解や各種治療に至る思考過程を練磨し、一貫した実践力を身につける。また、関係力育成プログラムのサービス革新モデルあるいは関係力育成モデルで学ぶ「アイデア」を創出し、サービス革新と新たなサービス創出につなげていく豊かな創造力を養う。 到達目標：①目標の作業療法評価結果を報告する。②作業療法評価結果を分析し、対象者の全体像を把握できる。③対象者に必要な作業療法の立案方法を修得する。④評価・治療計画立案・実施・考査という作業療法のプロセスを体験し実践する。⑤対象者に必要な作業療法治療技術・指導・支援方法と応用力を修得する。⑥チーム医療における作業療法士の役割を認識し、情報交換ができるコミュニケーション能力を修得する。⑦対象者を取り巻く環境および制度等の課題について、「気づき」を高め、解決策の提案につなげていくことができる。										【講義の概要および到達目標】 概要：実習指導者の指導のもと、評価・治療計画の立案・実施・考査という作業療法のプロセスを実践し、多職種連携の実態を体験し、作業療法士に必要な問題解決能力と実践力に磨きをかける。また、専門技術習得プログラムと関係力育成プログラムを有機的に組み合わせて実施することにより、職業現場を目標とする高い実践力と豊かな創造力を養うことを目的とする。専門技術習得プログラムは、理論に裏付けられた高い応用力を修得できる応用治療技術実習と総合実習Ⅱを連動させることにより、対象者の疾病への理解や各種治療に至る思考過程を練磨し、一貫した実践力を身につける。また、関係力育成プログラムのサービス革新モデルあるいは関係力育成モデルで学ぶ「アイデア」を創出し、サービス革新と新たなサービス創出につなげていく豊かな創造力を養う。 到達目標：①目標の作業療法評価結果を報告する。②作業療法評価結果を分析し、対象者の全体像を把握できる。③対象者に必要な作業療法の立案方法を修得する。④評価・治療計画立案・実施・考査という作業療法のプロセスを体験し実践する。⑤対象者に必要な作業療法治療技術・指導・支援方法と応用力を修得する。⑥チーム医療における作業療法士の役割を認識し、情報交換ができるコミュニケーション能力を修得する。⑦対象者を取り巻く環境および制度等の課題について、「気づき」を高め、解決策の提案につなげていくことができる。									
【授業の方法】 作業療法学科40名 実習 プレゼンテーション										【授業の方法】 作業療法学科40名 実習 プレゼンテーション									
講義計画(テーマと内容等) 【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：作業療法治療・訓練 (ROMex/作業活動/応用的動作訓練 等) が安全に実施可能な試験する。 【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施 【第2週】 臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施 【第3週～第8週】 臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療、関連職種との連携の実施 【第9週】 臨床場面の見学・模倣・実施 治療、関連職種との連携の実施 実施した評価・治療、関連職種との連携についてまとめ 【実習後】 実技試験 内容：作業療法治療・訓練 (ROMex/作業活動/応用的動作訓練 等) が安全に効果的に実施可能な試験する。 実習実施報告会での発表 ※実習時間11日8時間とする。										講義計画(テーマと内容等) 【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：作業療法治療・訓練 (ROMex/作業活動/応用的動作訓練 等) が安全に実施可能な試験する。 【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施 【第2週】 臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施 【第3週～第8週】 臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療、関連職種との連携の実施 【第9週】 臨床場面の見学・模倣・実施 治療、関連職種との連携の実施 実施した評価・治療、関連職種との連携についてまとめ 【実習後】 実技試験 内容：作業療法治療・訓練 (ROMex/作業活動/応用的動作訓練 等) が安全に効果的に実施可能な試験する。 実習実施報告会 ※実習時間11日8時間とする。									
成績評価の方法・基準 実習時間(実習の指定時間を満たすこと)。実習課題の実施状況。実習実施報告会での発表内容。実習に取組む姿勢。そのほか科目担当者の評価。各実習の臨床実習実習委員会等で総合的に判定する。					試験の方法 実習後実技試験。内容は作業療法治療・訓練 (ROMex/作業活動/応用的動作訓練 等) とする。 実習実施報告会での発表					成績評価の方法・基準 実習時間(実習の指定時間を満たすこと)。実習課題の実施状況。実習実施報告会(50%)で総合的に判定する。 実習実施報告会					試験の方法 実習後実技試験。内容は作業療法治療・訓練 (ROMex/作業活動/応用的動作訓練 等) とする。 実習実施報告会				
授業時間外学修(予習・復習等) 実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。					履修上の留意事項 65%の合格者 ※総合実習Ⅰ・総合実習Ⅱにおいて訪問リハビリテーション及び通所リハビリテーションに関する実習を45時間(1単位)行うこととする					授業時間外学修(予習・復習等) 履修上の留意事項 実習に関しては実習前に行う実技試験の合格者のみが参加できるものとする。※総合実習Ⅰ・総合実習Ⅱにおいて訪問リハビリテーション及び通所リハビリテーションに関する実習を45時間(1単位)行うこととする。									
質問に関する連絡先 <input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先 【sogo@motoyama-e.com/noguchi@motoyama-e.com】										質問に関する連絡先 <input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先 【sogo@motoyama-e.com/noguchi@motoyama-e.com】									
教科書 実習で必要とするすべての専門書					参考書 特指定なし					教科書 実習で必要とするすべての専門書					参考書 特指定なし				
参考文献 オリエンテーション時に配布する。										参考文献 オリエンテーション時に配布する。									

(新)										(旧)									
科目名	総合演習Ⅰ	担当者	安田延生・小林隆司・十河正樹	必修/選択	選択	科目名	総合演習Ⅰ	担当者	安田延生・小林隆司・十河正樹	必修/選択	選択								
学科	作業療法	学年	3年	履修単位	後期1単位	授業形態	演習	時間数	15時間	学科	作業療法	学年	3年	履修単位	後期1単位	授業形態	演習	時間数	15時間
【講義の概要および到達目標】 概要：これまでの様々な経験を取り返りながら、学修成果を統合的に活用し、職業現場や地域生活が抱える課題やニーズとは何かについて、「気づき」を育て問題を特定化するために必要な感性を養い、「総合演習Ⅱ」での「気づき」を「アイデア」へと具体化する演習へと繋げていく。 到達目標：疑問や問題点を列挙し整理できる。										【講義の概要および到達目標】 概要：これまでの様々な経験を取り返りながら、学修成果を統合的に活用し、職業現場や地域生活が抱える課題やニーズとは何かについて、「気づき」を育て問題を特定化するために必要な感性を養い、「総合演習Ⅱ」での「気づき」を「アイデア」へと具体化する演習へと繋げていく。 到達目標：疑問や問題点を列挙し整理できる。									
【授業の方法】 1クラス40名										【授業の方法】 1クラス40名									
講義計画(テーマと内容等) 1 オリエンテーション 2 職業現場における現状とニーズに関する情報収集Ⅰ 3 地域社会における現状とニーズに関する情報収集Ⅱ 4 対象者に関する情報収集Ⅲ 5 情報収集(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)に基づいた職業別・地域別・対象者別における分析 6 職業現場における課題の抽出Ⅰ 7 地域社会における課題の抽出Ⅱ 8 対象者における課題の抽出Ⅲ 9 課題の抽出(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)に基づいた職業現場や地域社会における現状と課題の整理 10 授業の総括										講義計画(テーマと内容等) 1 オリエンテーション、「気づき」を育て問題を特定化するアプローチ 2 課題や問題点に関する感性を磨く①ー現場での「気づき」の蓄積を得るための視点Ⅰ 3 課題や問題点に関する感性を磨く②ー現場での「気づき」の蓄積を得るための視点Ⅱ 4 課題や問題点に関する感性を磨く③ー現場での「気づき」の蓄積を得るための視点Ⅲ 5 課題や問題点に関する感性を磨く④ー現場での「気づき」を磨くための視点Ⅰ 6 課題や問題点に関する感性を磨く⑤ー「気づき」を磨くための視点Ⅱ 7 課題や問題点に関する感性を磨く⑥ー「気づき」を磨くための視点Ⅲ 8 課題や問題点に関する感性を磨く⑦ー「気づき」の特定化Ⅰ 9 課題や問題点に関する感性を磨く⑧ー「気づき」の特定化Ⅱ 10 授業の総括									
成績評価の方法・基準 レポート課題(100%)で判定する。					試験の方法 レポート課題					成績評価の方法・基準 レポート課題(100%)で判定する。					試験の方法 レポート課題				
授業時間外学修(予習・復習等) 自発的に担当者と相談し事前準備を行うこと。					履修上の留意事項 ディスカッションを自主的に行う。 進捗状況についてゼミ内での発表を課すことあり。準備を怠らないこと。					授業時間外学修(予習・復習等) 自発的に担当者と相談し事前準備を行うこと。					履修上の留意事項 ディスカッションを自主的に行う。 進捗状況についてゼミ内での発表を課すことあり。準備を怠らないこと。				
質問に関する連絡先 <input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先 【yasuda@motoyama-e.com/sogo@motoyama-e.com】										質問に関する連絡先 <input type="checkbox"/> 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先 【yasuda@motoyama-e.com/sogo@motoyama-e.com】									
教科書 特指定しない					参考書 随時紹介					教科書 特指定しない					参考書 随時紹介				
参考文献 必要時に配布する。										参考文献 必要時に配布する。									

(新)						(旧)					
科目名	総合演習Ⅱ	担当者	安田 徳生・小林 隆司			科目名	総合演習Ⅱ	担当者	安田 徳生・小林 隆司		
学科	作業療法	学年	4年	履修単位	前期1単位	学科	作業療法	学年	4年	履修単位	前期1単位
				授業形態	演習					授業形態	演習
					時間数						時間数
					15時間						15時間
【講義の概要および到達目標】 概要：「総合演習Ⅱ」の発展形として、これまでの学修成果を統合的に活用し、職業現場や地域生活が抱える課題やニーズを新しいサービスの形にいくために、「気づき」（データの獲得）を「アイディア」へと具体化するアプローチ（法的性を見出す）を段階的に学んでいく。 到達目標：課題設定能力を身に付け、課題の解決に向けた活動を計画することができる。 ※「総合演習Ⅱ」を受講していない場合でも受講できるが、「総合演習Ⅱ」の受講が望ましい						【講義の概要および到達目標】 概要：「総合演習Ⅱ」の発展形として、これまでの学修成果を統合的に活用し、職業現場や地域生活が抱える課題やニーズを新しいサービスの形にいくために、「気づき」（データの獲得）を「アイディア」へと具体化するアプローチ（法的性を見出す）を段階的に学んでいく。 到達目標：課題設定能力を身に付け、課題の解決に向けた活動を計画することができる。 ※「総合演習Ⅱ」を受講していない場合でも受講できるが、「総合演習Ⅱ」の受講が望ましい					
【授業の方法】 1クラス40名講義						【授業の方法】 1クラス40名講義					
講義計画（テーマと内容等）						講義計画（テーマと内容等）					
1	オリエンテーション					1	オリエンテーション、「気づき」を「アイディア」へと具体化するアプローチ				
2	職業現場や地域生活が抱える現状と課題					2	課題や問題点に関する「気づき」を育てる① → 「アイディア」の洗練				
3	職業現場別（病院等の施設別）に分類した課題分析Ⅰ					3	課題や問題点に関する「気づき」を育てる② → 「アイディア」の洗練				
4	地域別（県及び市町村別）に分類した課題分析Ⅱ					4	課題や問題点に関する「気づき」を育てる③ → 「アイディア」の洗練				
5	対象者別（小児、成人、高齢者等）に分類した課題分析Ⅲ					5	課題や問題点に関する「気づき」を育てる④ → 「アイディア」の発展				
6	課題分析（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）を踏まえた課題解決のための情報収集					6	課題や問題点に関する「気づき」を育てる⑤ → 「アイディア」の発展				
7	課題分析（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）を踏まえた課題解決のための斬新的アイデアの考案					7	課題や問題点に関する「気づき」を育てる⑥ → 「アイディア」の発展				
8	課題解決のための斬新的アイデアの導入についての検討					8	課題や問題点に関する「気づき」を育てる⑦ → 「アイディア」の具体化				
9	職業現場や対象者の地域生活における課題解決のための包括的提案					9	課題や問題点に関する「気づき」を育てる⑧ → 「アイディア」の具体化				
10	授業の総括					10	授業の総括				
成績評価の方法・基準			試験の方法			成績評価の方法・基準			試験の方法		
レポート課題（100%）で判定する。			レポート課題			レポート課題（100%）で判定する。			レポート課題		
授業時間外学修（予習・復習等）			履修上の留意事項			授業時間外学修（予習・復習等）			履修上の留意事項		
自発的に担当者と相談し事前準備を行うこと。			ディスカッションを自主的に行う。 進捗状況について授業内での発表を課すことあり。準備を怠らないこと。			自発的に担当者と相談し事前準備を行うこと。			ディスカッションを自主的に行う。 進捗状況について授業内での発表を課すことあり。準備を怠らないこと。		
質問に関する連絡先			質問に関する連絡先			質問に関する連絡先			質問に関する連絡先		
<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【yasuda@motoyama-e.com/noguchi@motoyama-e.com】			<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【yasuda@motoyama-e.com/noguchi@motoyama-e.com】			<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【yasuda@motoyama-e.com/noguchi@motoyama-e.com】			<input type="checkbox"/> 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com <input type="checkbox"/> その他連絡先【yasuda@motoyama-e.com/noguchi@motoyama-e.com】		
教科書			参考書			教科書			参考書		
特に指定しない			随時紹介			特に指定しない			随時紹介		
参考文献			参考文献			参考文献			参考文献		
必要時に配布する			必要時に配布する			必要時に配布する			必要時に配布する		

【実験・実習又は実技による授業科目】

(新)					(旧)														
科目名	見学実習	担当者	吉田直樹・十河正樹・渡部悠司	必修/選択	必修	科目名	見学実習	担当者	吉田直樹・十河正樹・渡部悠司	必修/選択	必修								
学科	作業療法	学年	1年	履修期間 前年度	前年1単位	授業形態	実習	時間数	45時間	学科	作業療法	学年	1年	履修期間 前年度	前年1単位	授業形態	実習	時間数	45時間
【講義の概要および到達目標】					【講義の概要および到達目標】														
概要：実習指導者のもとで、実際の作業療法場面を見学し倫理の重要性を学ぶとともに、実習指導者の他職種とのコミュニケーション場面を見学し、チーム医療の実際を観察する。また、対象者が抱える苦悩や痛みに気づき、専門職人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスの重要性を認識し、基礎的資質を調養する。 到達目標：①倫理の重要性と作業療法業務の概要を理解する。②対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立った誠意ある態度を学ぶ。③臨床現場で対象者や作業療法の現状を知り専門職人としての意識を高め、自身の課題を発見する。④関連職種と関わりを理解する。					概要：実習指導者のもとで、実際の作業療法場面を見学し倫理の重要性を学ぶとともに、実習指導者の他職種とのコミュニケーション場面を見学し、チーム医療の実際を観察する。また、対象者が抱える苦悩や痛みに気づき、専門職人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスの重要性を認識し、基礎的資質を調養する。 到達目標：①倫理の重要性と作業療法業務の概要を理解する。②対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立った誠意ある態度を学ぶ。③臨床現場で対象者や作業療法の現状を知り専門職人としての意識を高め、自身の課題を発見する。④関連職種と関わりを理解する。														
【授業の方法】 作業療法学科40名 実習 プレゼンテーション					【授業の方法】 作業療法学科40名 実習 プレゼンテーション														
講義計画 (テーマと内容等)					講義計画 (テーマと内容等)														
【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：医療現場で求められる接遇の内容					【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：医療現場で求められる接遇の内容														
【第1日～第6日】実習オリエンテーション 見学計画の立案 臨床場面の見学					【第1日～第6日】実習オリエンテーション 見学計画の立案 臨床場面の見学														
【実習後】 実習実施報告会での発表 見学実習課題 (レポート)					【実習後】 実習実施報告会 見学実習課題 (レポート)														
※実習時間は1日8時間とする。					※実習時間は1日8時間とする。														
成績評価の方法・基準 実習実施報告会での発表 (50%)、見学実習課題 (50%) で総合評価する。					成績評価の方法・基準 実習実施報告会 (50%) 見学実習課題 (50%) で判断する。														
試験の方法 実習実施報告会での発表、見学実習課題					試験の方法 実習実施報告会・見学実習課題														
授業時間外学修 (予習・復習等) 実習に係る事前準備 実習に関しては実習前に行う実技試験の合格者のみが参加できるものとする。					授業時間外学修 (予習・復習等) 実習に係る事前準備 実習に関しては実習前に行う実技試験の合格者のみが参加できるものとする。														
履修上の留意事項 履修上に関する連絡先 □ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先 【 sogomotoyama-e.com/watanabe@motoyama-e.com 】					履修上の留意事項 履修上に関する連絡先 □ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先 【 sogomotoyama-e.com/watanabe@motoyama-e.com 】														
教料書 実習で必要とするすべての専門書					教料書 実習で必要とするすべての専門書														
参考文獻 オリエンテーション時に配布する。					参考文獻 オリエンテーション時に配布する。														

(新)					(旧)														
科目名	評価実習	担当者	十河正樹・渡部悠司・林聡	必修/選択	必修	科目名	評価実習	担当者	十河正樹・渡部悠司・林聡	必修/選択	必修								
学科	作業療法	学年	3年	履修期間 前年度	前年3単位	授業形態	実習	時間数	135時間	学科	作業療法	学年	3年	履修期間 前年度	前年3単位	授業形態	実習	時間数	135時間
【講義の概要および到達目標】					【講義の概要および到達目標】														
概要：基礎科目で学んだ専門知識・技術をもとに、実習指導者の指導により情報収集、評価 (検査・測定) を実践することで評価の重要性を理解する。また評価結果の解釈までの作業療法評価過程を臨床場面で実践し、解釈・統合する思考力を高め、多職種との連携について理解を深める。対象者の目線に立った誠意ある態度と専門職人としての責任ある態度を修得する。②臨床現場で対象者に適した情報収集、評価 (検査・測定) 方法の選択方法を修得する。③対象者へ実施可能な評価 (検査・測定) 技術を得る。④実施した評価結果を統合解釈し、対象者を分析する思考力を修得する。⑤チーム医療における作業療法士の役割を理解する。⑥対象者を振り返り振り返り評価の一環として、その影響・変化・課題に気づく。					概要：基礎科目で学んだ専門知識・技術をもとに、実習指導者の指導により情報収集、評価 (検査・測定) を実践することで評価の重要性を理解する。また評価結果の解釈までの作業療法評価過程を臨床場面で実践し、解釈・統合する思考力を高め、多職種との連携について理解を深める。対象者が抱える苦悩や痛みに気づき、専門職人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスを基盤として、専門科目で学んだ他分野の視点を生かし、問題意識を育み、対象者の課題や地域課題への「気づき」を得る。到達目標：①対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立った誠意ある態度と専門職人としての責任ある態度を修得する。②臨床現場で対象者に適した情報収集、評価 (検査・測定) 方法の選択方法を修得する。③対象者へ実施可能な評価 (検査・測定) 技術を得る。④実施した評価結果を統合解釈し、対象者を分析する思考力を修得する。⑤チーム医療における作業療法士の役割を理解する。⑥対象者を振り返り振り返り評価の一環として、その影響・変化・課題に気づく。														
【授業の方法】 作業療法学科40名 実習 プレゼンテーション					【授業の方法】 作業療法学科40名 実習 プレゼンテーション														
講義計画 (テーマと内容等)					講義計画 (テーマと内容等)														
【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：作業療法評価 (検査・測定) が正確に実施可能かを試験する。 医療面接/バイタルチェック/RMT/BSST/感覚検査/認知機能検査 等					【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：作業療法評価 (検査・測定) が正確に実施可能かを試験する。 医療面接/バイタルチェック/RMT/BSST/感覚検査/認知機能検査 等														
【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施					【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施														
【第2週～第3週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の統合・解釈					【第2週～第3週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の統合・解釈														
【第4週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の統合・解釈、まとめ					【第4週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の統合・解釈、まとめ														
【実習後】 実技試験 内容：作業療法評価 (検査・測定) が正確に実施可能かを試験する。 医療面接/バイタルチェック/RMT/BSST/感覚検査/認知機能検査 等 実習実施報告会での発表					【実習後】 実技試験 内容：作業療法評価 (検査・測定) が正確に実施可能かを試験する。 医療面接/バイタルチェック/RMT/BSST/感覚検査/認知機能検査 等 実習実施報告会での発表														
※実習時間は1日8時間とする。					※実習時間は1日8時間とする。														
成績評価の方法・基準 実習後実技試験、内容は作業療法評価 (検査・測定) 医療面接/バイタルチェック/RMT/BSST/感覚検査/認知機能検査 等と総合的に判断する。					成績評価の方法・基準 実習後実技試験、内容は作業療法評価 (検査・測定) 医療面接/バイタルチェック/RMT/BSST/感覚検査/認知機能検査 等と総合的に判断する。														
試験の方法 実習後実技試験、内容は作業療法評価 (検査・測定) 医療面接/バイタルチェック/RMT/BSST/感覚検査/認知機能検査 等とする。					試験の方法 実習後実技試験、内容は作業療法評価 (検査・測定) 医療面接/バイタルチェック/RMT/BSST/感覚検査/認知機能検査 等とする。														
授業時間外学修 (予習・復習等) 実習に係る事前準備 実習に関しては実習前に行う実技試験の合格者のみが参加できるものとする。					授業時間外学修 (予習・復習等) 実習に係る事前準備 実習に関しては実習前に行う実技試験の合格者のみが参加できるものとする。														
履修上の留意事項 履修上に関する連絡先 □ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先 【 sogomotoyama-e.com/watanabe@motoyama-e.com/hayashi@motoyama-e.com 】					履修上の留意事項 履修上に関する連絡先 □ 本校代表アドレス: okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先 【 sogomotoyama-e.com/watanabe@motoyama-e.com/hayashi@motoyama-e.com 】														
教料書 実習で必要とするすべての専門書					教料書 実習で必要とするすべての専門書														
参考文獻 オリエンテーション時に配布する。					参考文獻 オリエンテーション時に配布する。														

(新)							(旧)												
科目名	総合実習Ⅰ	担当者	渡部悠司・吉田直樹	必修/選択	必修		科目名	総合実習Ⅰ	担当者	渡部悠司・吉田直樹	必修/選択	必修							
学科	作業療法	学年	3年	履修単位	後期9単位	授業形態	実習	時間数	405時間	学科	作業療法	学年	3年	履修単位	後期9単位	授業形態	実習	時間数	405時間
【講義の概要および到達目標】 概要：基幹科目で学んだ専門知識と技術と評価実習の成果を基礎とし、実習指導者の指導のもと、評価・治療計画の立案・実施・考査という作業療法のプロセスと関連職種との連携を体験し、作業療法士に必要な問題解決能力と実践力を身につける。また、関連する他分野から学ぶ知識を活用し、評価実習における問題意識を深め、対象者の抱える課題や地域の課題について「気づき」を育み、課題を特定化していく。 到達目標：①基本的な作業療法評価技術を修得する。②作業療法評価結果を分析し、対象者の全体像を把握する力を修得する。③対象者に必要な治療計画の立案方法を修得する。④評価・治療計画立案・実施・考査という作業療法のプロセスを体験し、問題意識と情報交換ができるコミュニケーション能力を修得する。⑤対象者を取り巻く環境および制度等を理解し、その影響・変化・課題に気づき、まとめる力を修得する。							【講義の概要および到達目標】 概要：基幹科目で学んだ専門知識と技術と評価実習の成果を基礎とし、実習指導者の指導のもと、評価・治療計画の立案・実施・考査という作業療法のプロセスと関連職種との連携を体験し、作業療法士に必要な問題解決能力と実践力を身につける。また、関連する他分野から学ぶ知識を活用し、評価実習における問題意識を深め、対象者の抱える課題や地域の課題について「気づき」を育み、課題を特定化していく。 到達目標：①基本的な作業療法評価技術を修得する。②作業療法評価結果を分析し、対象者の全体像を把握する力を修得する。③対象者に必要な治療計画の立案方法を修得する。④評価・治療計画立案・実施・考査という作業療法のプロセスを体験し、問題意識と情報交換ができるコミュニケーション能力を修得する。⑤対象者を取り巻く環境および制度等を理解し、その影響・変化・課題に気づき、まとめる力を修得する。												
【授業の方法】 作業療法学科40名 実習 プレゼンテーション							【授業の方法】 作業療法学科40名 実習 プレゼンテーション												
講義計画（テーマと内容等）							講義計画（テーマと内容等）												
【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：①作業療法評価（検査・測定）が正確に実施可能な試験する。 ②作業療法治療・訓練（ROMex/作業活動/応用的動作訓練等）が安全に実施可能な試験する。							【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：①作業療法評価（検査・測定）が正確に実施可能な試験する。 ②作業療法治療・訓練（ROMex/作業活動/応用的動作訓練等）が安全に実施可能な試験する。												
【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施							【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施												
【第2週】 臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施							【第2週】 臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施												
【第3週～第8週】 臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療、関連職種との連携の実施							【第3週～第8週】 臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療、関連職種との連携の実施												
【第9週】 臨床場面の見学・模倣・実施 治療、関連職種との連携の実施 実施した評価、治療、関連職種との連携についてまとめ							【第9週】 臨床場面の見学・模倣・実施 治療、関連職種との連携の実施 実施した評価、治療、関連職種との連携についてまとめ												
【実習後】 実技試験 内容：①作業療法評価（検査・測定）が正確に実施可能な試験する。 ②作業療法治療・訓練（ROMex/作業活動/応用的動作訓練等）が安全に実施可能な試験する。 実習実施報告会の発表 ※実習時間11日8時間とする。							【実習後】 実技試験 内容：①作業療法評価（検査・測定）が正確に実施可能な試験する。 ②作業療法治療・訓練（ROMex/作業活動/応用的動作訓練等）が安全に実施可能な試験する。 実習実施報告会 ※実習時間11日8時間とする。												
成績評価の方法・基準 実技試験（70%）実習実施報告会での発表（30%）を総合して判定する。							成績評価の方法・基準 実技試験（70%）実習実施報告会（30%）で総合的に判定する。												
実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。							実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。												
質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【watanabe@motoyama-e.com】							質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【watanabe@motoyama-e.com】												
教科書 実習で必要とするすべての専門書							教科書 実習で必要とするすべての専門書												
参考文献 オリエンテーション時に配布する。							参考文献 オリエンテーション時に配布する。												

(新)							(旧)												
科目名	総合実習Ⅱ	担当者	十河正樹・野口泰子	必修/選択	必修		科目名	総合実習Ⅱ	担当者	十河正樹・野口泰子	必修/選択	必修							
学科	作業療法	学年	4年	履修単位	前期9単位	授業形態	実習	時間数	405時間	学科	作業療法	学年	4年	履修単位	前期9単位	授業形態	実習	時間数	405時間
【講義の概要および到達目標】 概要：実習指導者の指導のもと、評価・治療計画の立案・実施・考査という作業療法のプロセスを体験し、多職種連携の実践を体験し、作業療法士に必要な問題解決能力と実践力を身につける。また、専門技術養成プログラムと協働育成プログラムを有機的に組み合わせることで、臨床現場で実践できる実践力と専門知識を身につける。専門技術養成プログラムは、理論に裏付けられた高い応用力を修得できる応用治療技術実習と総合実習Ⅱを連動させることにより、対象者の疾病への理解や価値観に関する思考を促進し、高い実践力を身につける。また、協働育成プログラムのテーマを専攻領域から選定し、地域活性化モデルで学んだ他分野の視点と知識を活用して、対象者の生活上の課題や地域生活における課題の解決に向けて、「気づき」を促す。また、プレゼンテーション、レポート制作と新たなテーマを抽出し、課題を特定化していく。①対象者に必要な作業計画の立案方法を修得する。②評価・治療計画立案・実施・考査という作業療法のプロセスを体験し、問題意識と情報交換ができるコミュニケーション能力を修得する。③対象者を取り巻く環境および制度等の課題について、「気づき」を促し、解決案の提案につなげていくことができる。							【講義の概要および到達目標】 概要：実習指導者の指導のもと、評価・治療計画の立案・実施・考査という作業療法のプロセスを体験し、多職種連携の実践を体験し、作業療法士に必要な問題解決能力と実践力を身につける。また、専門技術養成プログラムと協働育成プログラムを有機的に組み合わせることで、臨床現場で実践できる実践力と専門知識を身につける。専門技術養成プログラムは、理論に裏付けられた高い応用力を修得できる応用治療技術実習と総合実習Ⅱを連動させることにより、対象者の疾病への理解や価値観に関する思考を促進し、高い実践力を身につける。また、協働育成プログラムのテーマを専攻領域から選定し、地域活性化モデルで学んだ他分野の視点と知識を活用して、対象者の生活上の課題や地域生活における課題の解決に向けて、「気づき」を促す。また、プレゼンテーション、レポート制作と新たなテーマを抽出し、課題を特定化していく。①対象者に必要な作業計画の立案方法を修得する。②評価・治療計画立案・実施・考査という作業療法のプロセスを体験し、問題意識と情報交換ができるコミュニケーション能力を修得する。③対象者を取り巻く環境および制度等の課題について、「気づき」を促し、解決案の提案につなげていくことができる。												
【授業の方法】 作業療法学科40名 実習 プレゼンテーション							【授業の方法】 作業療法学科40名 実習 プレゼンテーション												
講義計画（テーマと内容等）							講義計画（テーマと内容等）												
【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：作業療法治療・訓練（ROMex/作業活動/応用的動作訓練等）が安全に実施可能な試験する。							【実習前】 オリエンテーション 実技試験 内容：作業療法治療・訓練（ROMex/作業活動/応用的動作訓練等）が安全に実施可能な試験する。												
【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施							【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施												
【第2週】 臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施							【第2週】 臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施												
【第3週～第8週】 臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療、関連職種との連携の実施							【第3週～第8週】 臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療、関連職種との連携の実施												
【第9週】 臨床場面の見学・模倣・実施 治療、関連職種との連携の実施 実施した評価、治療、関連職種との連携についてまとめ							【第9週】 臨床場面の見学・模倣・実施 治療、関連職種との連携の実施 実施した評価、治療、関連職種との連携についてまとめ												
【実習後】 実技試験 内容：作業療法治療・訓練（ROMex/作業活動/応用的動作訓練等）が安全に効果的に実施可能な試験する。 実習実施報告会の発表 ※実習時間11日8時間とする。							【実習後】 実技試験 内容：作業療法治療・訓練（ROMex/作業活動/応用的動作訓練等）が安全に効果的に実施可能な試験する。 実習実施報告会 ※実習時間11日8時間とする。												
成績評価の方法・基準 実技試験（70%）実習実施報告会での発表（30%）を総合して判定する。							成績評価の方法・基準 実技試験（70%）実習実施報告会（30%）で総合的に判定する。												
実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。							実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。												
質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【sogo@motoyama-e.com/noguchi@motoyama-e.com】							質問に関する連絡先 □ 本校代表アドレス：okayamaisen@motoyama-e.com □ その他連絡先【sogo@motoyama-e.com/noguchi@motoyama-e.com】												
教科書 実習で必要とするすべての専門書							教科書 実習で必要とするすべての専門書												
参考文献 オリエンテーション時に配布する。							参考文献 オリエンテーション時に配布する。												

教育課程等の概要										専門職大学規定単位数	新指定規則単位数	新指定規則追加事項				
(健康科学部理学療法学科)																
科目区分	新指定区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			履修方法及び卒業要件						
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習							
基礎科目	基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	大学入門	1前	1					○		基礎科目 必修18単位を含め22単位以上	22	20単位以上	14	
			基盤ゼミ I	2前	1					○						
			基盤ゼミ II	3前	1					○						
			職業人の倫理と道徳論	1後	2				○							
			心理学	1前		2			○							
			哲学概論	1前		2			○							
			健康科学概論	1後	1				○							
			コミュニケーション英語	1前	2				○							
			日本の歴史と文化	1前	2				○							
			国際政治経済論	2後	1				○							
			基礎生物	1前		1			○							
			基礎物理	1前		1			○							
			情報収集と処理	1後	1				○							
			統計分析の基礎	2後	1				○							
			人間関係論	3前		2			○							
			コミュニケーション論	3前	1				○							
			テーマ設定と研究方法	3前	1				○							
			研究デザイン	3前	1					○						
		小計(18科目)	-	16	6	0	-	-	-							
専門基礎科目	専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	メディカル英語	3後	2							専門基礎分野 必修科目32単位以上	32		12	
			解剖学	1前	2					○						
			解剖学実習 I	1後	1					○						
			解剖学実習 II	2前	1					○						
			生理学	1前	2				○							
			生理学実習	1後	1					○						
			運動学	1後	2				○							
			運動学実習	2前	1					○						
			人間発達学	1前	2					○						
		疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	臨床医学概論	1前	2					○						
			病理学	1後	2					○						
			精神医学	2後	2					○						
		保健医療福祉と リハビリテーションの理 念	整形外科	2前	2					○						
			内科学	1後	2					○						
			神経内科学	2前	2					○						
			小児科学	2前	2					○						
			リハビリテーション医学	1後	1					○						
			リハビリテーション概論	1前	1					○						
基礎理学療法学	理学療法概論	1前	2					○								
	基礎理学療法学	2前	2					○								
	基礎理学療法実習 I	2後	1					○								
	基礎理学療法実習 II	3前	1					○								
	理学療法セミナー I	4前		1				○								
	理学療法セミナー II	4後		1				○								
	理学療法管理学	理学療法管理学概論	3前	2					○							
		理学療法評価学 I	1後	2					○							
		理学療法評価学 II	2前	1					○							
理学療法評価学	理学療法評価学実習 I	2後	1					○								
	理学療法評価学実習 II	2後	1					○								
	理学療法評価学実習 III	3前	1					○								
理学療法治療学	運動療法	1後	1					○								
	運動療法実習 I	2前	1					○								
	運動療法実習 II	2後	1					○								
	物理療法	2後	1					○								
	物理療法実習	3前	1					○								
	理学療法治療学 I	2前	2					○								
	理学療法治療学 II	2前	1					○								
	理学療法治療学 III	2後	1					○								
	理学療法治療学 IV	2後	1					○								
	理学療法治療学実習 I	2前	1					○								
	理学療法治療学実習 II	2後	1					○								
	理学療法治療学実習 III	3前	1					○								
	老年期障害理学療法学	3前	1					○								
	理学療法演習 I	2後		2				○								
	理学療法演習 II	3後		2				○								
職業専門科目	専門分野	日常生活活動学	2前	1				○								
		日常生活活動学実習	2後	1					○							
		生涯スポーツ実習	3前	1					○							
		スポーツ理学療法特論	2後	1					○							
		義肢装具学	3後		1				○							
		応用治療技術実習 I (徒手療法)	4前	1					○							
		応用治療技術実習 II (リハビリ工学)	4前		1				○							
		応用治療技術実習 III (セルフコンディショニング)	4前	1					○							

(資料13) 教育課程と新指定規則等との対比表

日

教育課程等の概要										専門職大学規定単位数	新指定規則単位数	新指定規則追加事項
科目区分	新指定区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習				
(健康科学部理学療法学科)												
基礎科目	基礎分野	基礎ゼミⅠ	2前	1				○		基礎科目 必修15単位を含め20単位以上	20	14
		基礎ゼミⅡ	3前	1				○				
		職業人の倫理と道徳論	1後	2				○				
		心理学	1前		2			○				
		哲学概論	1前		2			○				
		健康科学概論	1後	1				○				
		コミュニケーション英語	1前		2			○				
		日本の歴史と文化	1前	2				○				
		国際政治経済論	2後	1				○				
		基礎生物	1前		1			○				
		基礎物理	1前		1			○				
		情報収集と処理	1後	1				○				
		統計分析の基礎	2後	1				○				
人間関係論	3前		2			○		人間関係論 コミュニケーション論				
コミュニケーション論	3前	1				○						
テーマ設定と研究方法	3前	1				○						
研究デザイン	3前	1				○						
小計(17科目)			—	15	8	0	—	—				
専門基礎分野	専門基礎分野	メディカル英語	3後		2			○		専門基礎分野 必修科目30単位以上	30	12
		解剖学	1前	2				○				
		解剖学実習Ⅰ	1後	1					○			
		解剖学実習Ⅱ	2前	1					○			
		生理学	1前	2				○				
		生理学実習	1後	1					○			
		運動学	1後	2				○				
		運動学実習	2前	1					○			
		人間発達学	1前	2				○				
		臨床医学概論	1前	2				○				
		病理学	1後	2				○				
		精神医学	2後	2				○				
		整形外科	2前	2				○				
内科学	1後	2				○						
神経内科学	2前	2				○						
小児科学	2前	2				○						
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	1後	1				○	リハビリテーションの理念 地域包括ケアシステム 多職種連携の理解				
リハビリテーション概論	1前	1				○						
地域包括マネジメント論	3後	1					○					
多職種連携論	1後	1					○					
職業専門科目	基礎理学療法	理学療法概論	1前	2				○	基礎理学療法	6		
		基礎理学療法	2前	2				○				
		基礎理学療法実習Ⅰ	2後	1								○
		基礎理学療法実習Ⅱ	3前	1								○
		理学療法セミナーⅠ	4前		1							○
		理学療法セミナーⅡ	4後		1							○
	理学療法管理学	理学療法管理学概論	3前	2					○	2	理学療法倫理・職場管理	
		理学療法評価学Ⅰ	1後	2					○	6	画像	
		理学療法評価学Ⅱ	2前	1					○			
	理学療法評価学実習Ⅰ	2後	1					○				
	理学療法評価学	理学療法評価学実習Ⅱ	2後	1					○	60単位以上	画像	
		理学療法評価学実習Ⅲ	3前	1					○			
		運動療法	1後	1					○			
理学療法治療学	運動療法実習Ⅰ	2前	1					○	専門分野必修57単位以上 (臨床実務実習20単位以上を含む)	37	20	
	運動療法実習Ⅱ	2後	1					○				
	物理療法	2後	1					○				
	物理療法実習	3前	1					○				
	理学療法治療学Ⅰ	2前	2					○				
	理学療法治療学Ⅱ	2前	1					○				
	理学療法治療学Ⅲ	2後	1					○				
	理学療法治療学Ⅳ	2後	1					○				
	理学療法治療学実習Ⅰ	2前	1					○				
	理学療法治療学実習Ⅱ	2後	1					○				
	理学療法治療学実習Ⅲ	3前	1					○				
	老年期障害理学療法	3前	1					○				喀痰等の吸引
	理学療法演習Ⅰ	2後		2				○				
理学療法演習Ⅱ	3後		2				○					
日常生活活動学	2前	1					○					
日常生活活動学実習	2後	1					○					
生涯スポーツ実習	3前	1					○					
スポーツ理学療法特論	2後	1					○					
義肢装具学	3後		1				○					
応用治療技術実習Ⅰ(徒手療法)	4前	1					○					
応用治療技術実習Ⅱ(リハビリ工学)	4前		1				○					
応用治療技術実習Ⅲ(セルフコンディショニング)	4前	1					○					

(資料13) 教育課程と新指定規則等との対比表

新

教育課程等の概要											履修方法 要件及び	専門職 大学規定 単位数	新指定 規則単 位数	新指定 規則 追加事 項				
科目 区分	新指定 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			卒業 要件 及び								
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習									
(健康科学部作業療法学科)																		
基礎 科目	基礎 分野	大学入門	1前	1					○		基礎科目 必修18単位を含め22単位以上	22	20単位以上	14				
		基礎ゼミ I	2前	1						○								
		基礎ゼミ II	3前	1						○								
		職業人の倫理と道徳論	1後	2						○								
		心理学	1前		2					○								
		哲学概論	1前		2					○								
		健康科学概論	1後	1						○								
		コミュニケーション英語	1前	2						○								
		日本の歴史と文化	1前	2						○								
		国際政治経済論	2後	1						○								
		基礎生物	1前		1					○								
		基礎物理	1前		1					○								
		情報収集と処理	1後	1						○								
		統計分析の基礎	2後	1						○								
		人間関係論	3前		2					○							人間関係論 コミュニケーション論	
コミュニケーション論	3前	1						○										
テーマ設定と研究方法	3前	1						○										
研究デザイン	3前	1						○										
小計(18科目)			—	18	6	0	—	—	—									
専門 基礎 科目	専門 基礎 分野	メディカル英語	3後	2					○		専門基礎科目 必修32単位以上	32		12				
		解剖学	1前	2						○								
		解剖学実習 I	1後	1						○								
		解剖学実習 II	2前	1						○								
		生理学	1前	2						○								
		生理学実習	1後	1						○								
		運動学	1後	2						○								
		運動学実習	2前	1						○								
		人間発達学	1前	2						○								
		臨床医学概論	1前	2						○								
		病理学	1後	2						○								
		精神医学	2後	2						○								
		整形外科	2前	2						○								
		内科学	1後	2						○								
		神経内科学	2前	2						○								
小児科学	2前	2						○										
保健医療福祉と リハビリテーションの理 念	リハビリテーション医学	1後	1					○		リハビリテーションの理 念 地域包括ケアシステム 多職種連携の理解								
リハビリテーション概論	1前	1						○										
地域包括マネジメント論 多職種連携論	3後 1後	1 1						○ ○										
職業 専門 科目	専門 分野	作業療法概論	1前	2					○		専門分野必修57単位以上 (臨床実務実習22単位以上を含む)	35	60単位以上	5				
		基礎作業学	1後	1						○								
		基礎作業学実習 I	2前	1						○								
		基礎作業学実習 II	2後	1						○								
		作業療法セミナー I	4前		1					○								
		作業療法セミナー II	4後		1					○								
		作業療法管理学	作業療法管理学概論	3後	2					○							2	作業療法倫理・職場管理 画像
		作業療法評価学	作業療法評価学	1後	2					○								
		作業療法評価学実習 I	2前	1						○								
		作業療法評価学実習 II	2後	1						○								
		作業療法評価学実習 III	2後	1						○								
		基礎作業療法治療学	基礎作業療法治療学	3前	1					○								
		基礎作業療法治療学実習 I	3前	1						○								
		基礎作業療法治療学実習 II	3前	1						○								
		身体障害作業療法 I	2前	2						○								
身体障害作業療法 II	2前	2						○										
身体障害作業療法 III	3前	1						○										
身体障害作業療法 IV	3前	1						○										
身体障害作業療法実習 I	2前	1						○										
身体障害作業療法実習 II	2後	1						○										
身体障害作業療法実習 III	3前	1						○										
老年期障害作業療法	老年期障害作業療法	2後	1					○		19								
老年期障害作業療法実習	老年期障害作業療法実習	3前	1					○										
精神障害作業療法	精神障害作業療法	2後	1					○										
作業療法演習 I	作業療法演習 I	2後		2				○										
作業療法演習 II	作業療法演習 II	3後		2				○										
日常生活活動学	日常生活活動学	2前	1					○										
日常生活活動学実習	日常生活活動学実習	2後	1					○										
義肢装具学	義肢装具学	3後		1				○										
応用治療技術実習 I (徒手療法)	応用治療技術実習 I (徒手療法)	4前	1					○										
応用治療技術実習 II (リハビリ工学)	応用治療技術実習 II (リハビリ工学)	4前	1					○										
応用治療技術実習 III (セルフコンディショニング)	応用治療技術実習 III (セルフコンディショニング)	4前	1					○										

教育課程等の概要										専門職 大学 規定 単 位 数	新 指 定 規 則 単 位 数	新 指 定 規 則 追 加 事 項	
(健康科学部作業療法学科)													
科目 区分	新 指 定 区 分	授業科目の名称	配 当 年 次	単 位 数			授 業 形 態			び 履 修 方 法 要 件 及			
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習				
基礎 科 目	基礎 分 野	基礎ゼミⅠ	2前	1									
		基礎ゼミⅡ	3前	1									
		職業人の倫理と道徳論	1後	2									
		心理学	1前	2									
		哲学概論	1前	2									
		健康科学概論	1後	1									
		コミュニケーション英語	1前	2									
		日本の歴史と文化	1前	2									
		国際政治経済論	2後	1									
		基礎生物	1前	1									
		基礎物理	1前	1									
		情報収集と処理	1後	1									
		統計分析の基礎	2後	1									
		人間関係論	3前	2									人間関係論 コミュニケーション論
		コミュニケーション論	3前	1									
		テーマ設定と研究方法	3前	1									
		研究デザイン	3前	1									
		小計(17科目)		15	8	0							
専 門 基 礎 分 野	専 門 基 礎 分 野	メディカル英語	3後	2									
		解剖学	1前	2									
		解剖学実習Ⅰ	1後	1									
		解剖学実習Ⅱ	2前	1									
		生理学	1前	2									
		生理学実習	1後	1									
		運動学	1後	2									
		運動学実習	2前	1									
		人間発達学	1前	2									
		臨床医学概論	1前	2									
		病理学	1後	2									
		精神医学	2後	2									
		整形外科学	2前	2									
		内科学	1後	2									
		神経内科学	2前	2									
小児科学	2前	2											
専 門 基 礎 分 野	専 門 基 礎 分 野	リハビリテーション医学	1後	1									
		リハビリテーション概論	1前	1									
		地域包括マネジメント論	3後	1									
		多職種連携論	1後	1									
職 業 専 門 科 目	専 門 分 野	作業療法概論	1前	2									
		基礎作業学	1後	1									
		基礎作業学実習Ⅰ	2前	1									
		基礎作業学実習Ⅱ	2後	1									
		作業療法セミナーⅠ	4前	1									
		作業療法セミナーⅡ	4後	1									
		作業療法管理学	3後	2									作業療法倫理・職場管理 画像
		作業療法評価学	1後	2									
		作業療法評価学実習Ⅰ	2前	1									
		作業療法評価学実習Ⅱ	2後	1									
		作業療法評価学実習Ⅲ	2後	1									
職 業 専 門 科 目	専 門 分 野	基礎作業療法治療学	3前	1									
		基礎作業療法治療学実習Ⅰ	3前	1									
		基礎作業療法治療学実習Ⅱ	3前	1									
		身体障害作業療法Ⅰ	2前	2									
		身体障害作業療法Ⅱ	2前	2									
		身体障害作業療法Ⅲ	3前	1									
		身体障害作業療法Ⅳ	3前	1									
		身体障害作業療法実習Ⅰ	2前	1									
		身体障害作業療法実習Ⅱ	2後	1									
		身体障害作業療法実習Ⅲ	3前	1									
		老年期障害作業療法	2後	1									
		老年期障害作業療法実習	3前	1									
		精神障害作業療法	2後	1									
		作業療法演習Ⅰ	2後	2									
		作業療法演習Ⅱ	3後	2									
日常生活活動学	2前	1											
日常生活活動学実習	2後	1											
義肢装具学	3後	1											
応用治療技術実習Ⅰ(徒手療法)	4前	1											
応用治療技術実習Ⅱ(リハビリ工学)	4前	1											
応用治療技術実習Ⅲ(セルフコンディショニング)	4前	1											

